



# 男女共同参画に関する市民意識調査

## 結果報告書

平成29年2月

茨城県 神栖市



# もくじ

1	この調査について.....	1
(1)	調査実施の概要.....	1
(2)	属性別の回収数.....	2
(3)	前回、県、全国との比較について.....	3
2	設問別調査結果.....	4
	回答者の属性.....	4
問1	男女共同参画に関する認知度について.....	18
	【前回との比較】.....	19
(1)	男女共同参画社会.....	20
(2)	育児・介護休業法.....	21
(3)	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）.....	22
(4)	DV（配偶者等からの暴力）.....	23
(5)	神栖市男女共同参画推進条例.....	24
(6)	神栖市男女共同参画計画「かみすハートフルプラン」.....	25
(7)	神栖市男女共同参画情報誌「ハートフルかみす」.....	26
(8)	かみす市民フォーラム.....	27
(9)	ポジティブ・アクション.....	28
(10)	次世代育成支援対策推進法.....	29
(11)	女性活躍推進法.....	30
問2	男女の地位の平等に関する意識について.....	31
	【前回、県との比較】.....	32
(1)	家庭生活(家事・育児・介護等).....	33
(2)	職場(採用・処遇・労働環境等).....	34
(3)	学校(児童・生徒への教育).....	35
(4)	行政区などの地域活動の場.....	36
(5)	社会通念・慣習・しきたり等.....	37
(6)	法律や制度.....	38
(7)	政治や行政(政策方針の決定).....	39
(8)	社会全体.....	40
問3	男女が参画しやすい社会にするために重要なこと.....	41
	【前回との比較】.....	41
問4	「男は仕事、女は家庭」という考え方について.....	44
	【前回、県、全国との比較】.....	44
問5	男女の生き方や家庭生活などに関する考え方について.....	46
	【前回、県との比較】.....	47
(1)	「男だから」「女だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう... 48	48
(2)	「男は～あるべき」「女は～あるべき」という固定的な社会通念や慣習などによって、 仕事や生き方について多様な選択ができていない.....	49
(3)	男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである.....	50
(4)	男性も家事・育児・介護に積極的に参加すべきである.....	51
(5)	女性が仕事を持つのはよいが、家事や育児もきちんとすべきである.....	52
(6)	女性(妻)が仕事を持ち、男性(夫)が家事や育児、介護等に専念する選択肢があってもよい... 53	53
問6	「DV」の認知、経験について.....	54
	【前回、県との比較】.....	54
問7	暴力を受けたときの相談の有無.....	57
	【前回、県との比較】.....	57

問 8	相談先	59
	【前回、県との比較】	59
問 9	相談しなかった（しない）理由	61
	【前回、県との比較】	61
問 10	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況について	63
	【前回、県との比較】	64
問 11	途中で仕事を辞めた経験	68
	【前回、県との比較】	68
問 12	仕事を辞めた主な理由について	70
	【前回、県との比較】	70
問 13	地区活動やボランティア活動、生涯学習活動について	72
	【前回、県との比較】	73
	①現在、活動しているもの	74
	②今後（も）、活動したいもの	75
問 14	現在の地区活動の参加状況で感じること	76
	【前回との比較】	76
問 15	参加したいのに参加できない理由	78
	【前回との比較】	78
問 16	災害復興時あるいは日頃の防災の取り組みなどで必要なこと	80
問 17	女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと	82
	【全国との比較】	82
問 18	女性がリーダーとして活躍する際にさまたげとなるもの	85
	【全国との比較】	85
問 19	女性が活躍するために必要な情報	87
	【全国との比較】	87
問 20	男性が女性とともに家事、育児、介護、地区活動に参加していくために必要なこと	90
	【前回、県との比較】	90
問 21	理想の子ども数と実際に持つ予定の子ども数について	93
	【前回との比較】	93
問 22	理想の子ども数より少ない理由	95
	【前回との比較】	95
問 23	男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと	97
	【前回との比較】	98
	【県との比較】	99
問 24	「ハートフルかみす」に希望する内容	102
問 25	男女平等や男女共同参画(社会)に関する意見、要望	104
	1. 男女平等、男女共同参画全般について	104
	2. 社会通念や地域の慣習、世代間ギャップについて	108
	3. 地域における男女共同参画について	109
	4. 家庭における男女共同参画について	110
	5. 家庭と仕事の両立について	111
	6. 女性の就業について	112
	7. 教育(学校)における男女共同参画について	117
	8. 介護における男女共同参画について	117
	9. DVについて	118
	10. 男女共同参画に関する取り組みについて	118
	11. その他	121
<b>3</b>	<b>調査票</b>	<b>124</b>

# 1 この調査について

## (1) 調査実施の概要

### ○調査の目的

このアンケートは、男女共同参画計画の後期計画策定の基礎資料とするために、男女共同参画社会づくりに関するこれまでの取り組みへの評価や意見や考えを、広く市民のみなさまから頂くために実施したものです。

### ○調査の実施方法

実施時期	平成 28 年 8 月
実施地域	神栖市全域
対象・配布数	神栖市に住む満 20 歳以上の方から 3,000 人の方々を、年代ごとに無作為抽出
調査方法	郵送にて配布，回収（回答は無記名）

### ○配布・回収状況

配布数：3,000 通

回収数：1,288 通（回収率 42.9%）

### ○集計・表記方法

- ・集計は各属性で行っていますが、本報告書では、「全体」と「性別」「年齢別」のほか、特徴のある属性のみコメントしています。全体に関するコメントは文頭に○，属性別での比較に関するコメントは●で示しています。また，比較して差が目立つ場合に「高くなっています」「低くなっています」というコメントを記載しています。
- ・集計結果は，小数点第 2 位を四捨五入し，小数点第 1 位までを百分率(%)で表示しています。そのため，選択肢から 1 つだけ選び回答する設問では，構成比の和が 100.0%にならないことがあります。
- ・円グラフおよび横帯グラフは，選択肢を 1 つだけ選ぶ設問です。横棒グラフは複数選ぶことができる設問で，「あてはまるものすべて選択」「3 つまで選択」など，各グラフに示しています。
- ・グラフの中に [ ] で示している数は，回答者の数です。性別，年齢別など属性ごとの回答者数は，それぞれの属性が「無回答」だった方の人数を除いて示しているため，合計が全体数（1,288 人）にはなりません。
- ・本文やグラフ中の選択肢は，調査票の言葉を短縮しているものがあります。
- ・自由記述回答については，回答者の実際の記述事項を整理・要約して掲載しています。
- ・年代については，20～29 歳を「20 歳代」というように，変更して表記しています。

### ○調査の実施機関

企画・編集：神栖市 市民協働課

集計・分析：株式会社 日本コンサルタントグループ

(2) 属性別の回収数

(単位：通)

(ア) 性別	男性	506
	女性	752
	無回答	30
(イ) 年齢 [H28.4.1 現在]	20歳代	158
	30歳代	167
	40歳代	200
	50歳代	225
	60歳代	265
	70歳以上	263
	無回答	10
(ウ) 未婚, 既婚	既婚 (配偶者あり)	884
	既婚 (現在, 配偶者はいない)	150
	未婚	197
	無回答	57
(エ) 子育て, 介護の状況	現在子育て中 (小学生以下)	203
	現在介護中	71
(オ) 職業	農林水産業	67
	工業・建設業	215
	商業・金融・サービス業	267
	公務員・教育・団体職員等	79
	専業主婦 (夫), 家事手伝い	210
	学生	12
	無職	265
	その他	142
	無回答	31
(カ) 市内での 居住年数	5年未満	100
	5年以上 10年未満	81
	10年以上 20年未満	138
	20年以上	917
	無回答	52

(力) 居住地区	神栖一中学区 (横瀬, 日川, 萩原, 芝崎, 石神, 高浜, 溝口, 奥野谷, 知手, 柳堀, 一貫野, 田畑)	177
	神栖二中学区 (居切, 深芝, 平泉, 下幡木, 鱈川, 筒井, 賀, 立野, 神栖, 泉町)	236
	神栖三中学区 (奥野谷浜, 知手浜, 日川浜, 知手浜東団地, 南浜, 知手中央仲町, 知手中央東町, 横瀬団地)	136
	神栖四中学区 (息栖, 息栖原, 大野原, 浜松, 新港, 亀の甲団地, 木崎)	187
	波崎一中学区 (東町, 仲町, 西町, 東仲島東, 東仲島西, 西仲島, 東明神町, 東明神前, 明神前, 浜新田, 本新町, 海老台, 本郷, 高野, 別所, 荒波, 石津, 仲舍利, 内出, 芝, 松本, 舍利浜)	162
	波崎二中学区 (東海, 西前宿, 上中, 川尻, 仲新田, 清水, 土合東, 土合中央, 土合南, 土合西1・2丁目)	94
	波崎三中学区 (東須田, 仲須田, 西須田, 須田浜, 日和山, 須田団地, 相生, 高砂, 二本松, 若ノ松, 柳川団地, 北若松, 東押揚, 西押揚, 東宝山, 西宝山, 太田新町)	191
	波崎四中学区 (土合本町, 土合北, 土合西3・4丁目, 十町歩, 東松下, 西松下, 押植)	75
	無回答	30

### (3) 前回, 県, 全国との比較について

可能な設問について, 神栖市で前回実施した同様の調査結果, および茨城県や全国で実施した同様の調査結果と比較しています。

前回の調査, および茨城県や全国の調査概要については, 次のとおりです。

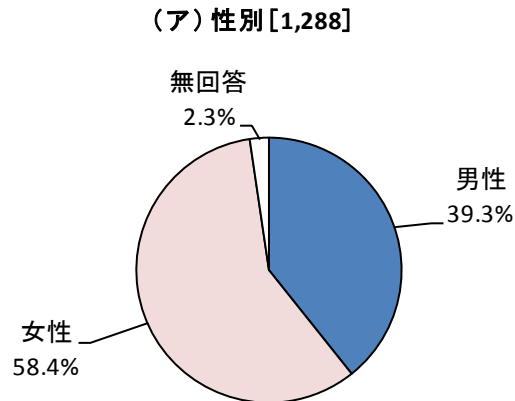
区分	調査名	実施日	対象者と調査方法	回収数 (有効票数)
前回	「男女共同参画に関する市民意識調査」	平成23年 10月	神栖市に居住する 満20歳以上の男女2,000人 郵送による配布・回収	751人
県	「茨城県男女共同参画社会県民意識調査」	平成27年 2月	県内に居住する 満20歳以上の男女4,000人 郵送による配布・回収	1,111人
全国	「女性の活躍推進に関する世論調査」	平成26年 8～9月	全国20歳以上の日本国籍を有する者5,000人 調査員による個別面接聴取	3,037人

## 2 設問別調査結果

### 回答者の属性

#### (ア) 性別

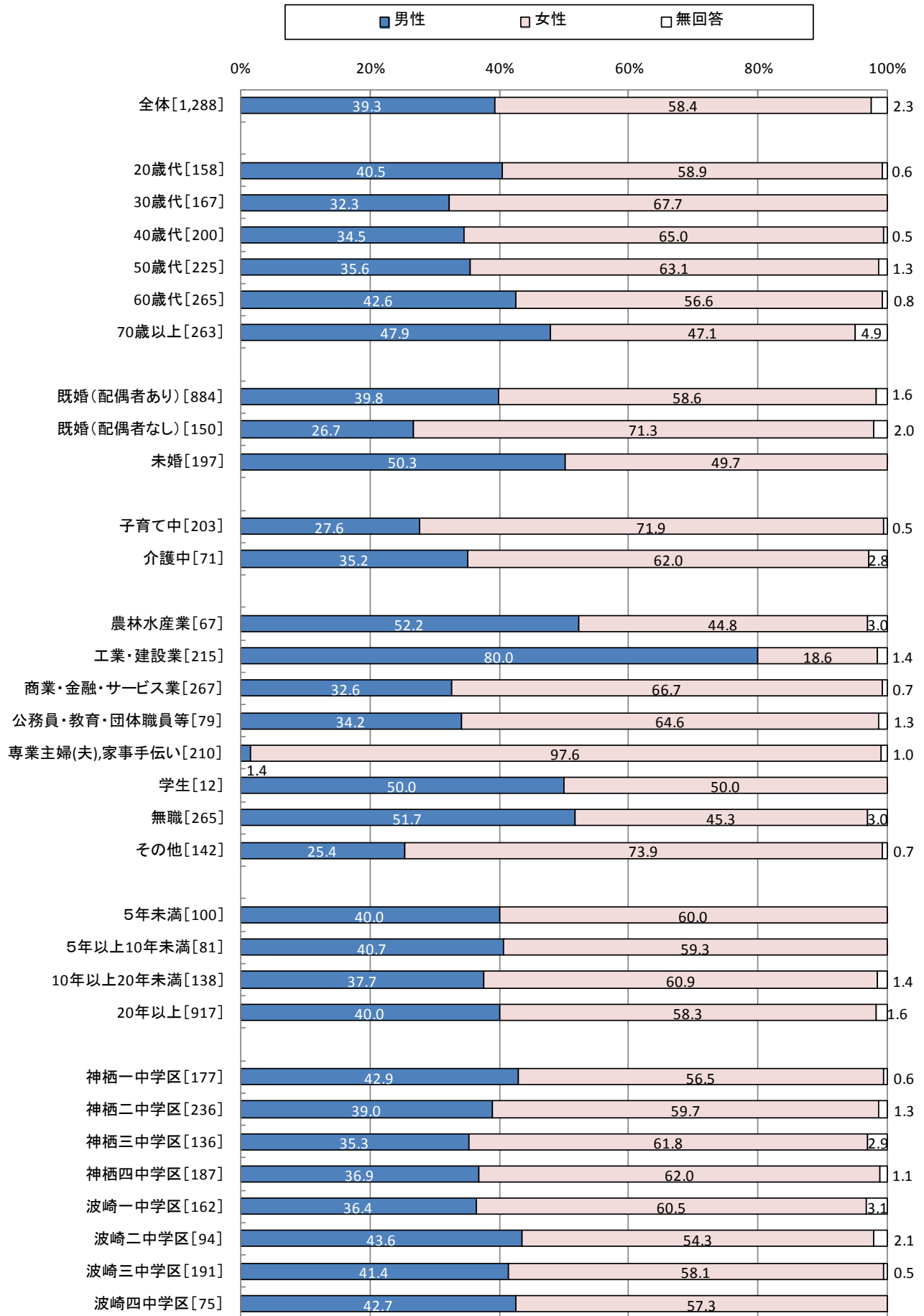
○「男性」が39.3%、「女性」が58.4%で、女性が6割を占めています。



- 年齢別で見ると、「男性」は30歳代で最も低く、年齢が高くなるにつれて割合が高まり、70歳以上は「男性」と「女性」がほぼ同率になります。反対に、「女性」は30歳以上で最も高く、年齢が高くなるにつれて割合が低くなります。
- 未婚、既婚別で見ると、「女性」は既婚（配偶者なし）が約7割を占め、高くなっています。未婚では「男性」と「女性」がほぼ同率です。
- 職業別で見ると、「男性」は農林水産業、工業・建設業、無職で過半数を占め、中でも工業・建設業では8割を占め特に高くなっています。学生は「男性」と「女性」が同率です。

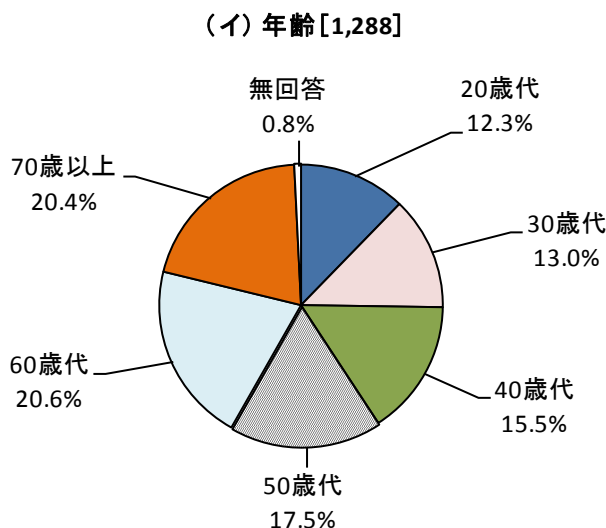


(ア) 性別(属性別)



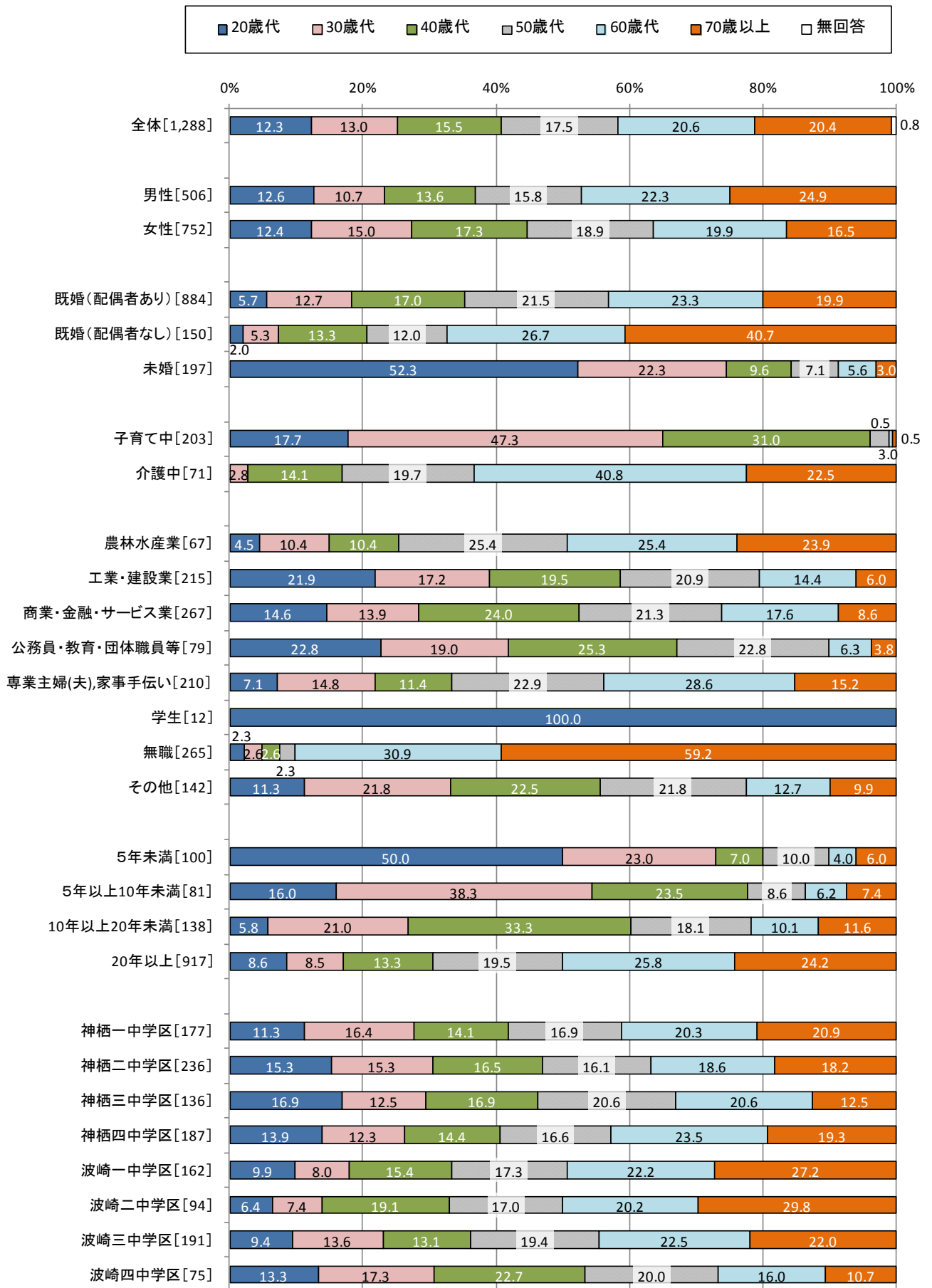
## (イ) 年齢

- 「60 歳代」(20.6%) が最も高く、「70 歳以上」(20.4%) が僅差で続きます。以下、「50 歳代」(17.5)、「40 歳代」(15.5%)、「30 歳代」(13.0%) と続きます。最も割合が低いのは「20 歳代」(12.3%) です。



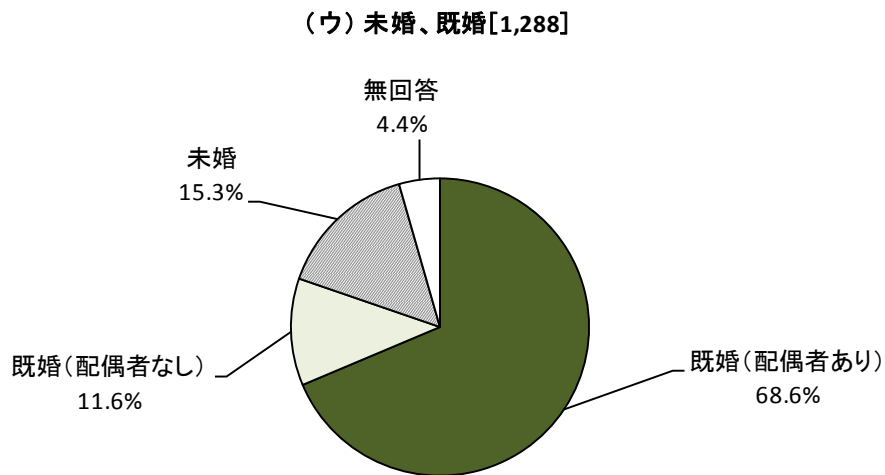
- 性別でみると、男性は「60 歳代」と「70 歳以上」の合計が 47.2%と約半数を占め、女性よりも高くなっています。一方、女性は「30 歳代」から「50 歳代」の合計が 51.2%と過半数を占め、男性よりも高くなっています。
- 未婚、既婚別でみると、「20 歳代」は未婚で約半数を占めています。「70 歳以上」は既婚（配偶者なし）で約 4 割を占めています。
- 子育て、介護の状況別でみると、子育て中は、約半数を占める「30 歳代」を中心に「20 歳代」から「40 歳代」までの年齢でほぼ占めています。介護中は、「60 歳代」と「70 歳以上」で 6 割以上を占めています。
- 居住年数別でみると、「20 歳代」は 5 年未満で半数を占めています。また、「20 歳代」と「30 歳代」の合計は、5 年未満では 7 割以上、5 年以上 10 年未満でも過半数を占め、他に比べて割合が高くなっています。
- 居住地別でみると、「70 歳以上」は波崎一中学区と波崎二中学区で 3 割近くを占め、「60 歳代」と「70 歳以上」の合計は、波崎一中学区が 49.4%、波崎二中学区が 50.0%となり、60 歳代以上の回答者が半数または半数近くを占めています。

(イ) 年齢(属性別)



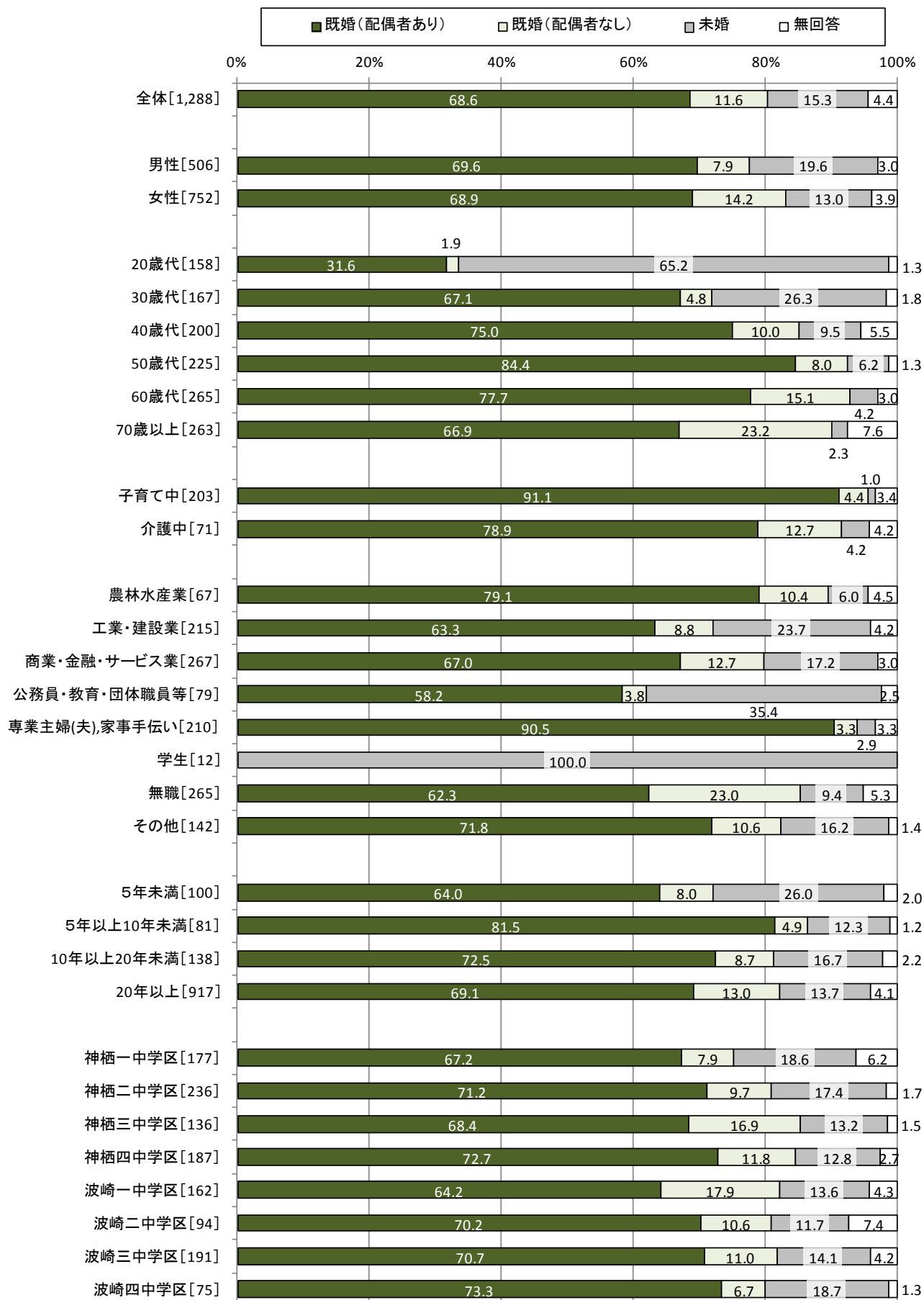
(ウ) 未婚, 既婚

- 「既婚 (配偶者あり)」が 68.6%と最も高く, 「未婚」(15.3%), 「既婚 (配偶者なし)」(11.6%) と続きます。



- 性別でみると, 男女とも「既婚 (配偶者あり)」の割合は約7割ですが, 男性は「未婚」, 女性は「既婚 (配偶者なし)」がそれぞれ高くなっています。
- 年齢別でみると, 「未婚」は 20 歳代で6割以上を占めています。また, 「既婚 (配偶者なし)」は70歳以上で2割をこえます。
- 子育て, 介護の状況別でみると, 「既婚 (配偶者あり)」は, 子育て中の約9割, 介護中の約8割を占めています。
- 居住年数別でみると, 「未婚」は, 5年未満で約4分の1を占めています。

(ウ) 未婚、既婚(属性別)



(エ) 子育て、介護の状況

[全体の回答者の中での分析] ※次のページのグラフを参照

- 現在「子育て中」の回答者は 15.8%、「介護中」の回答者は 5.5%です。合計すると 21.3%で、「子育て中」もしくは「介護中」の回答者は約 2 割です。
- 性別でみると、「子育て中」は、男性は約 1 割、女性は約 2 割です。
- 年齢別でみると、「子育て中」の割合が最も高いのは 30 歳代で 57.5%です。「介護中」の割合が最も高いのは 60 歳代で 10.9%です。
- 居住年数別でみると、「子育て中」の割合が最も高いのは 5 年以上 10 年未満で 51.9%です。

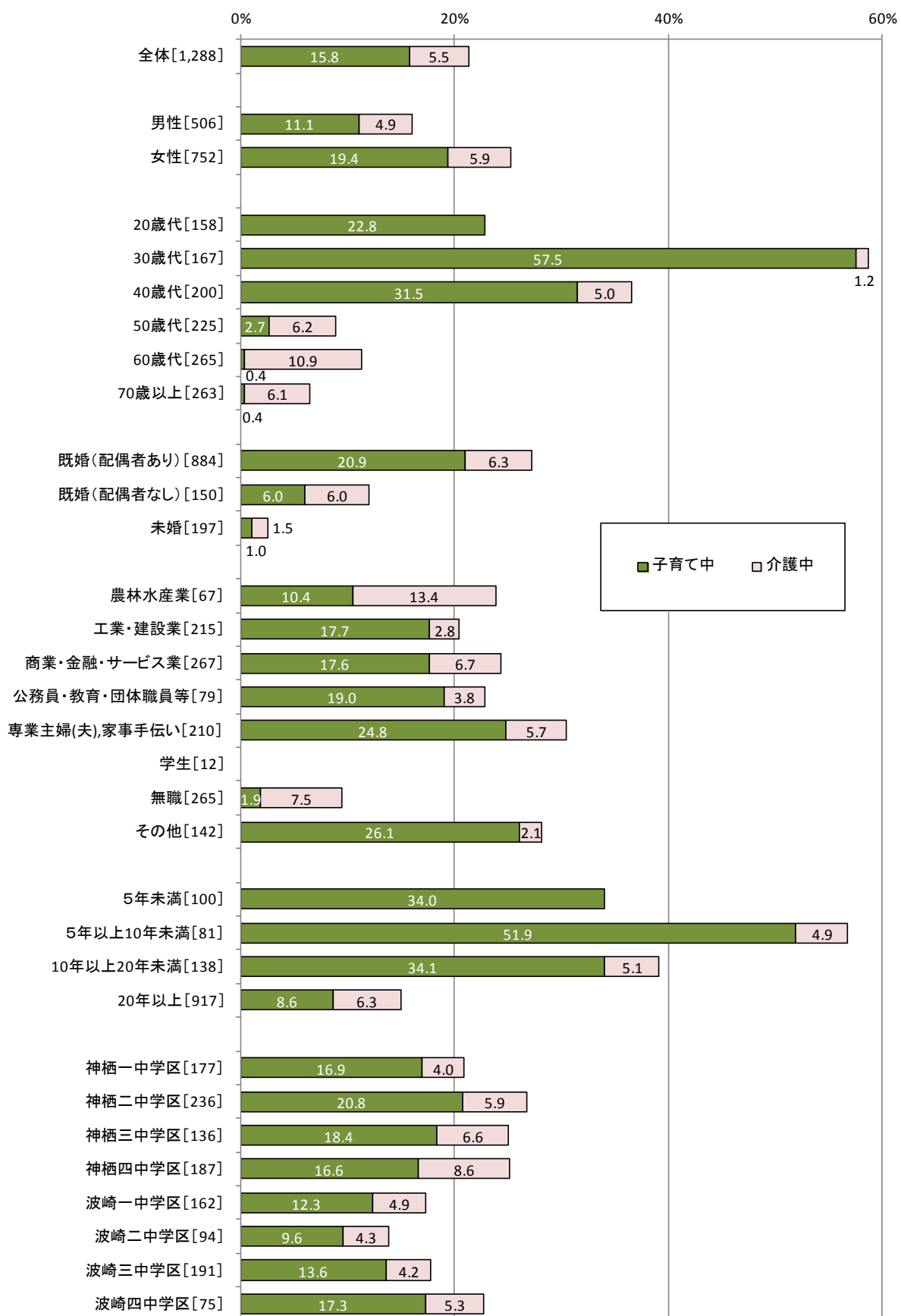
[「子育て中」「介護中」の回答者のみの分析] ※下の表を参照

- 「子育て中」の回答者は、30 歳代が約半数、40 歳代が 3 割を占めています。また、居住年数別でみると、20 年以上が約 4 割を占めています。
- 「介護中」の回答者は、60 歳代が約 4 割を占めています。また、居住年数別でみると、20 年以上が約 8 割を占めています。

※ [ ] は回答者数、表中の数字は回答率 (%)。

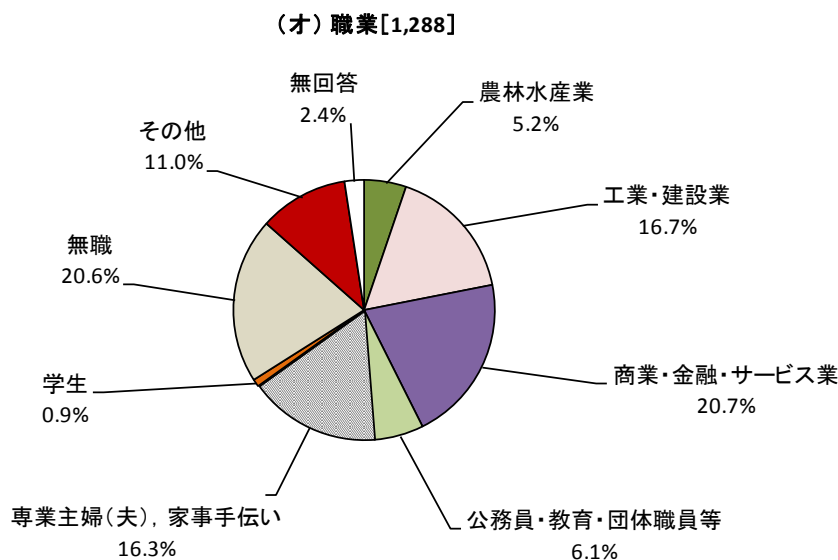
属性		子育て中[203]	介護中[71]
性別	男性	27.6	35.2
	女性	71.9	62.0
年齢	20 歳代	17.7	0.0
	30 歳代	47.3	2.8
	40 歳代	31.0	14.1
	50 歳代	3.0	19.7
	60 歳代	0.5	40.8
	70 歳以上	0.5	22.5
未婚, 既婚	既婚(配偶者あり)	91.1	78.9
	既婚(配偶者なし)	4.4	12.7
	未婚	1.0	4.2
職業	農林水産業	3.4	12.7
	工業・建設業	18.7	8.5
	商業・金融・サービス業	23.2	25.4
	公務員・教育・団体職員等	7.4	4.2
	専業主婦(夫), 家事手伝い	25.6	16.9
	学生	0.0	0.0
	無職	2.5	28.2
	その他	18.2	4.2
居住年数	5 年未満	16.7	0.0
	5 年以上 10 年未満	20.7	5.6
	10 年以上 20 年未満	23.2	9.9
	20 年以上	38.9	81.7
居住地	神栖一中学区	14.8	9.9
	神栖二中学区	24.1	19.7
	神栖三中学区	12.3	12.7
	神栖四中学区	15.3	22.5
	波崎一中学区	9.9	11.3
	波崎二中学区	4.4	5.6
	波崎三中学区	12.8	11.3
	波崎四中学区	6.4	5.6

(エ) 子育て、介護の状況(属性別)



## (オ) 職業

- 「商業・金融・サービス業」(20.7%)が最も高く、「無職」(20.6%)がほぼ同率で続き、「工業・建設業」(16.7%)、「専業主婦(夫), 家事手伝い」(16.3%)、「その他」(11.0%)と続きます。



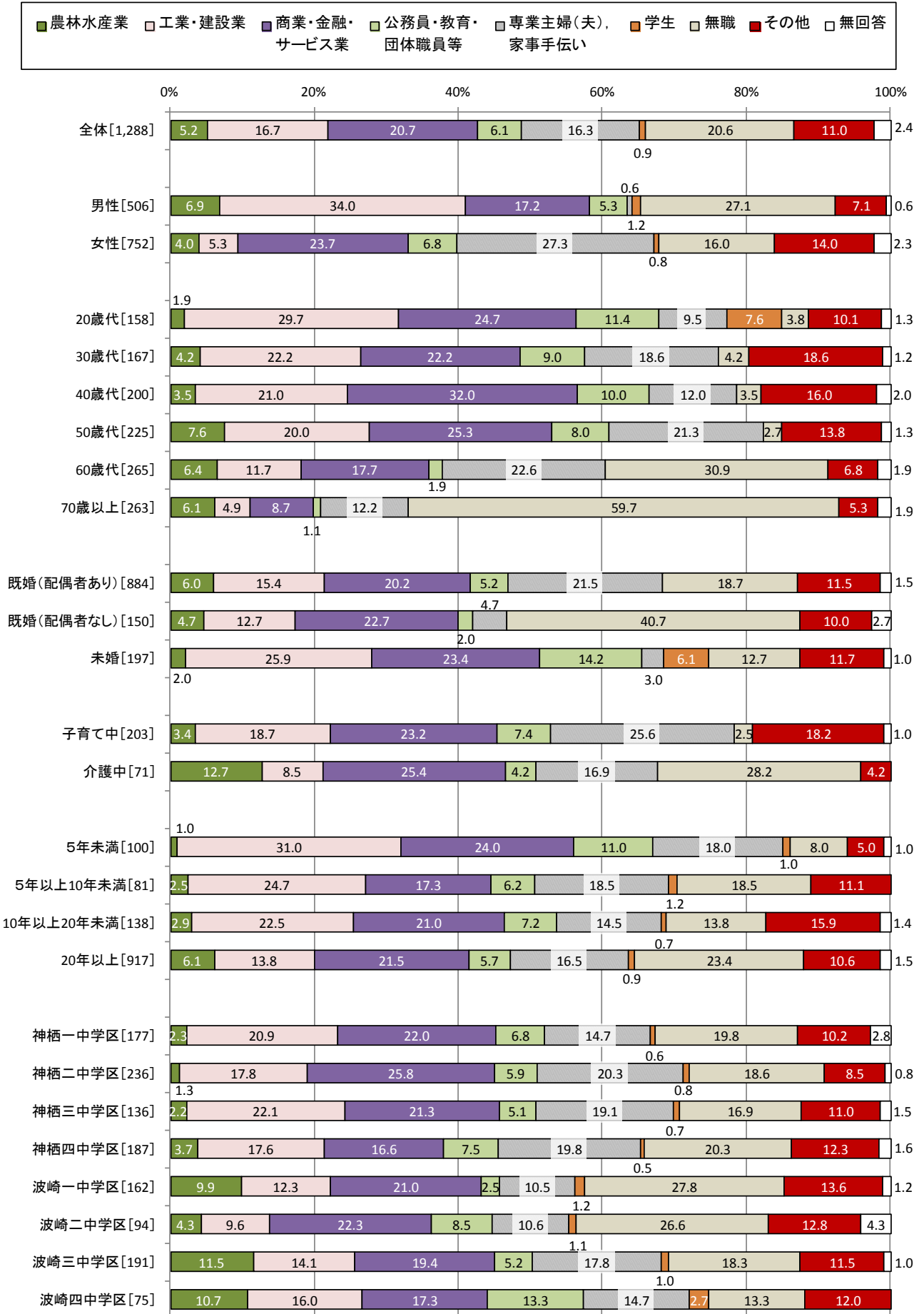
### <「その他」の内容>

- ・パートタイマー(44) ・会社員(24) ・事務(8) ・アルバイト(7) ・自営(3) ・派遣(3)
- ・会社役員, 法人役員(3) ・専従者, 専門職(2) ・委託 ・営業 ・サラリーマン ・施設職員
- ・フリーター ・病気にて治療中

- 性別でみると、「工業・建設業」や「無職」は男性、「商業・金融・サービス業」や「専業主婦, 家事手伝い」は女性で、それぞれ高くなっています。
- 年齢別でみると、「工業・建設業」は20歳代、「商業・金融・サービス業」は40歳代、「専業主婦, 家事手伝い」は60歳代、「無職」は70歳以上で最も高くなっています。
- 子育て, 介護の状況別でみると、「専業主婦, 家事手伝い」は子育て中で約4分の1を占めています。「無職」は介護中で約3割を占めています。
- 居住年数別でみると、「工業・建設業」は5年未満で約3割を占め、他よりも高くなっています。

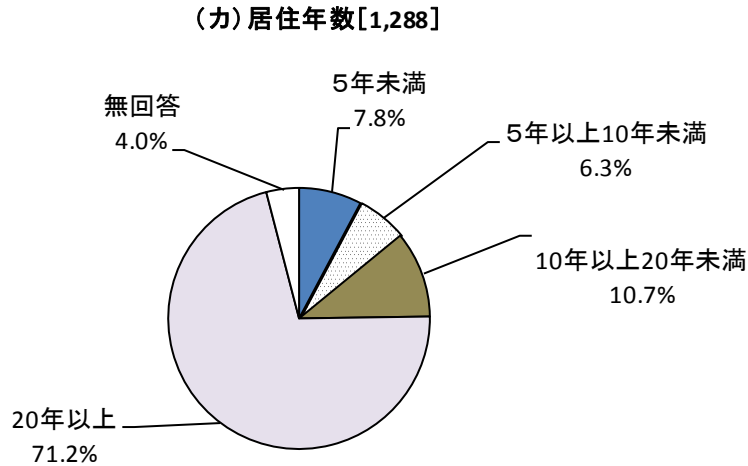


(オ) 職業(属性別)



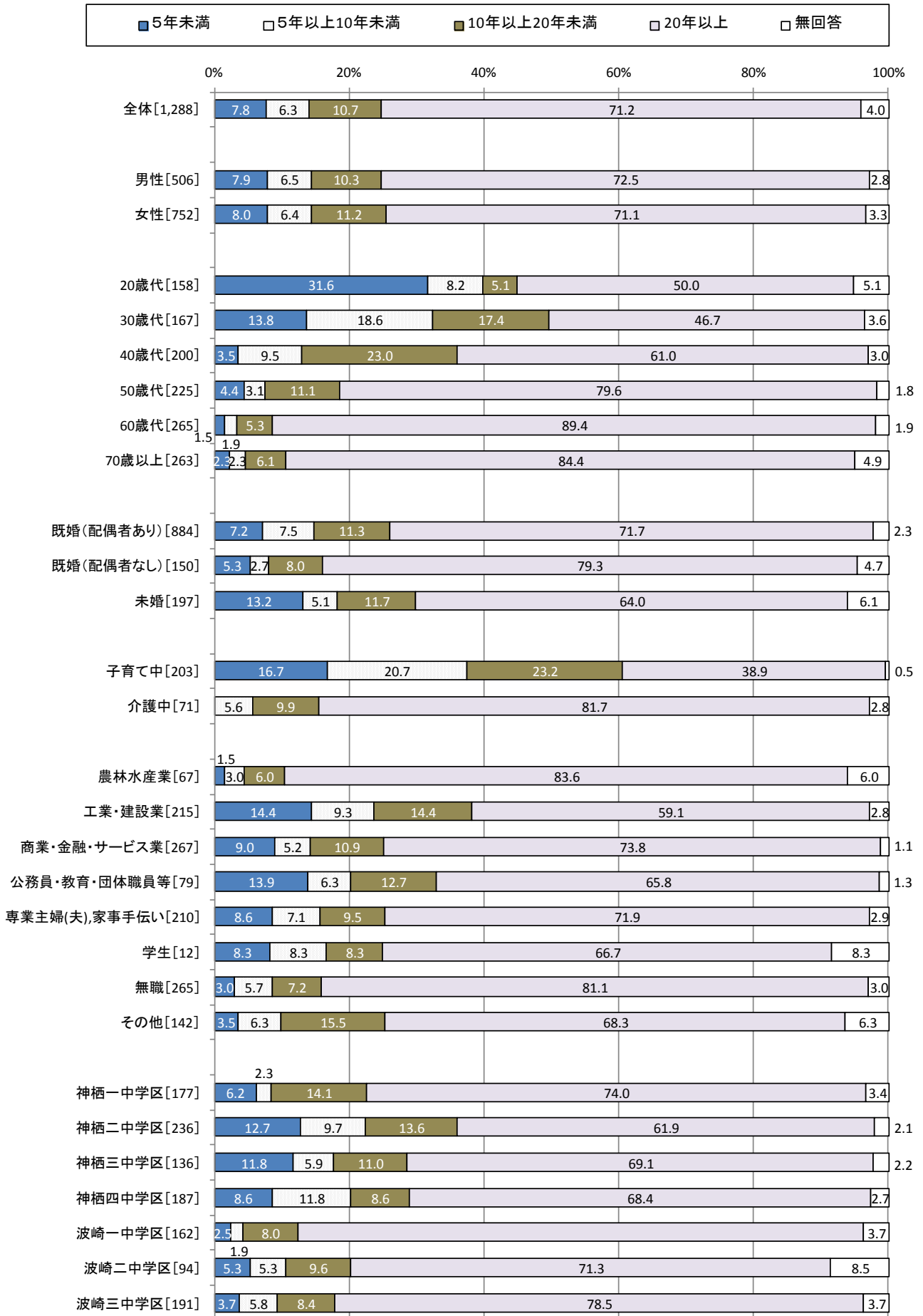
### (カ) 居住年数

- 「20年以上」が71.2%と最も高く約7割を占めています。以下、「10年以上20年未満」(10.7%)、「5年未満」(7.8%)、「5年以上10年未満」(6.3%)と続きます。



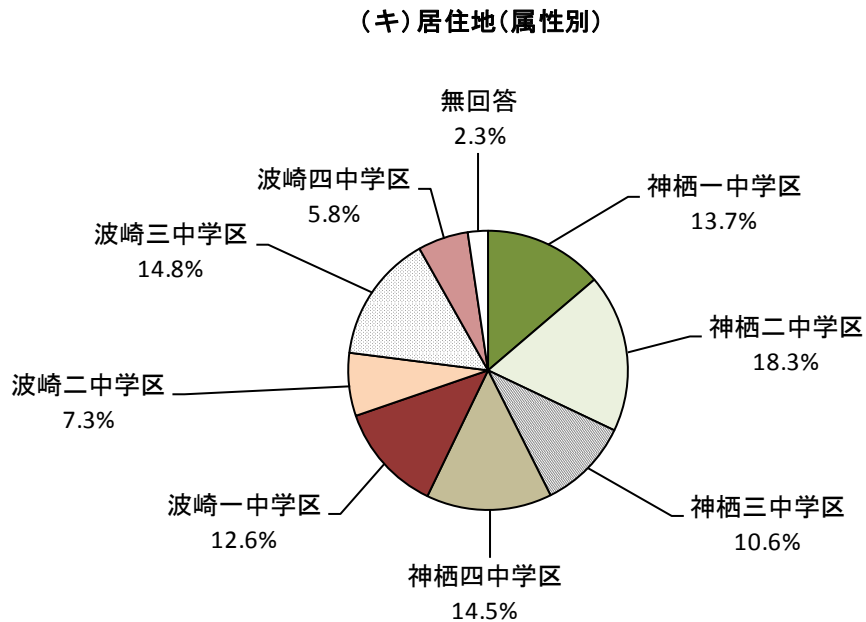
- 年齢別でみると、「5年未満」は20歳代で約3割を占めています。また、「5年以上10年未満」は30歳代で、「10年以上20年未満」は40歳代でそれぞれ2割前後を占め、他の年齢に比べて高くなっています。「20年以上」は50歳代で約8割、60歳代と70歳以上では8割以上を占めています。
- 子育て、介護の状況別でみると、「5年未満」や「5年以上10年未満」といった比較的短い年数の回答は子育て中に多く、この2つの回答の合計が4割弱を占めています。
- 居住地別でみると、「5年未満」は神栖二中学区と神栖三中学区で1割以上を占め、他に比べて高くなっています。

(カ)居住年数(属性別)



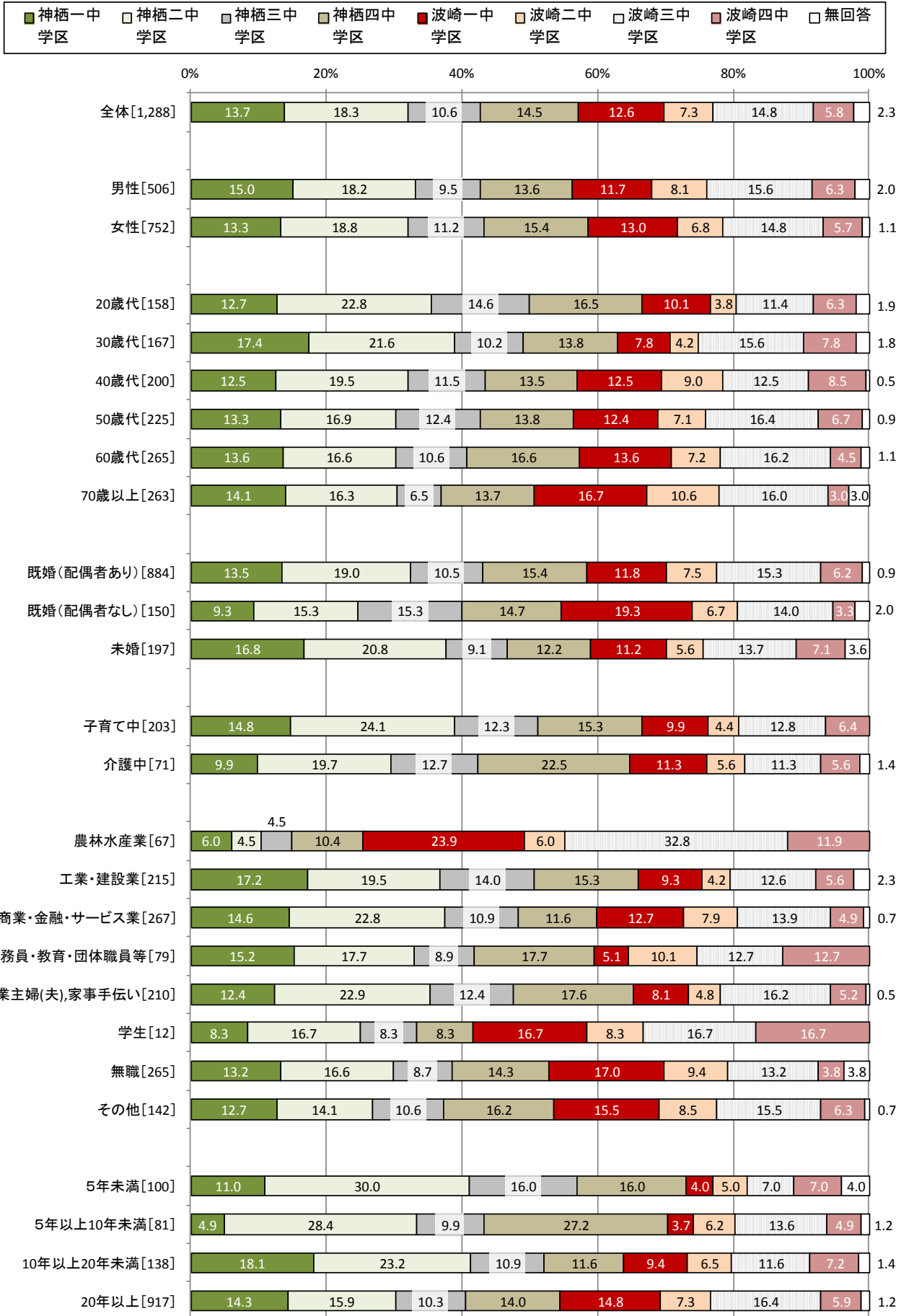
(キ) 居住地

○「神栖二中学区」が 18.3%と最も高く、「波崎三中学区」(14.8%)、「神栖四中学区」(14.5%)、「神栖一中学区」(13.7%)と続きます。



- 年齢別で見ると、「神栖二中学区」20歳代と30歳代で2割以上を占め、他の年齢に比べて高くなっています。
- 子育て、介護の状況別で見ると、「神栖二中学区」は子育て中、「神栖四中学区」は介護中で、それぞれ高くなっています。
- 職業別で見ると、「波崎一中学区」や「波崎三中学区」は農林水産業で高くなっています。
- 居住年数別で見ると、「神栖四中学区」は5年以上10年未満で約3割を占め、他に比べて高くなっています。

(キ)居住地(属性別)

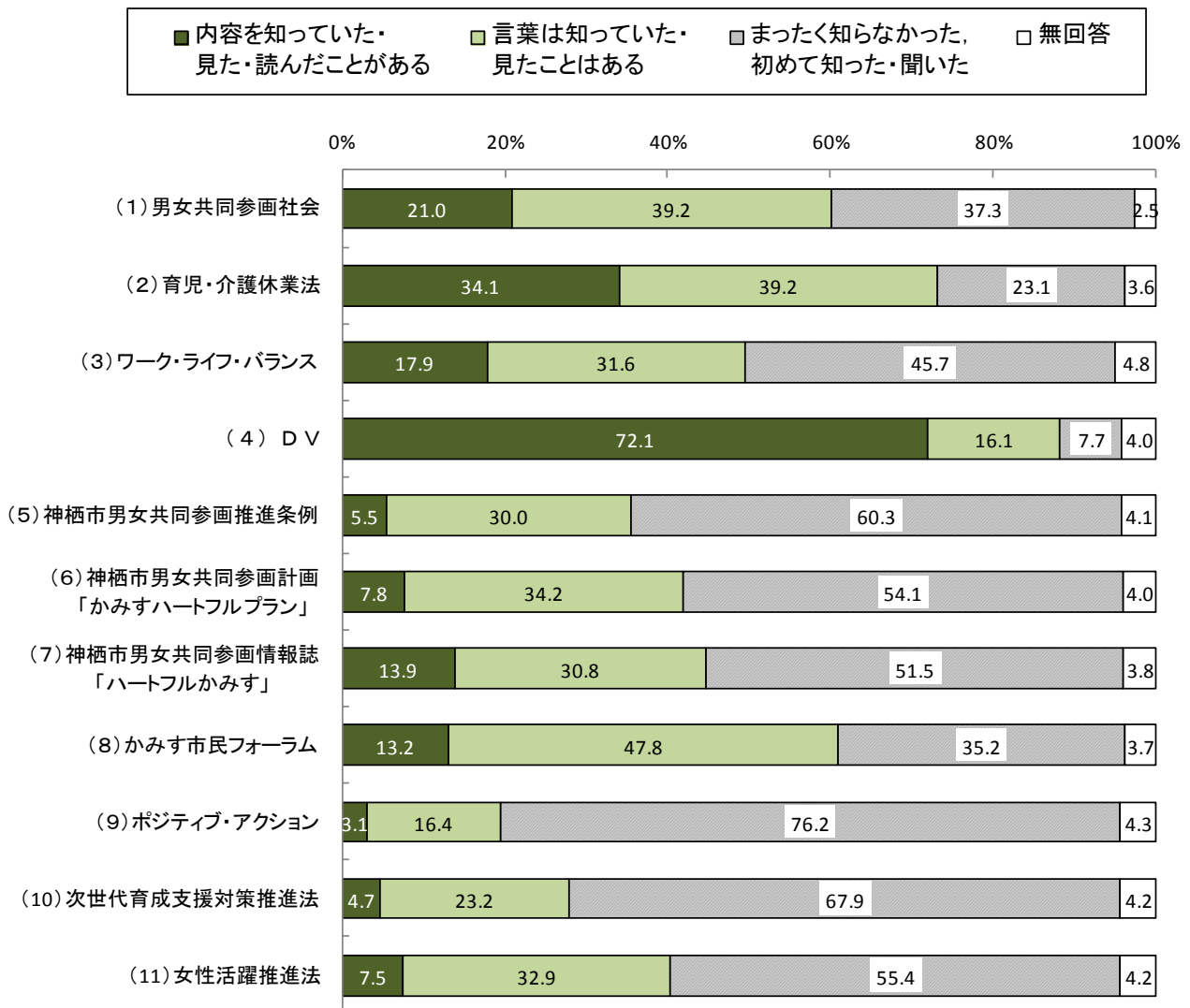


## 問1 男女共同参画に関する認知度について

問1 あなたは、(1)～(11)について、知っていましたか。(それぞれ1つだけ選び、番号に○を)

- 「内容を知っていた・見た・読んだことがある」が最も高いのは「(4)DV」で、約7割を占めています。次に「(2)育児・介護休業法」で、約3分の1を占めています。
- 「言葉は知っていた・見たことはある」が最も高いのは「(8)かみす市民フォーラム」で約半数を占めています。
- 一方、「(5)神栖市男女共同参画推進条例」「(6)神栖市男女共同参画計画『かみすハートフルプラン』」「(7)神栖市男女共同参画情報誌『ハートフルかみす』」「(9)ポジティブ・アクション」「(10)次世代育成対策推進法」「(11)女性活躍推進法」の6つは、「まったく知らなかった・初めて知った・聞いた」が過半数を占めています。

【問1】男女共同参画に関する認知度[1,288]

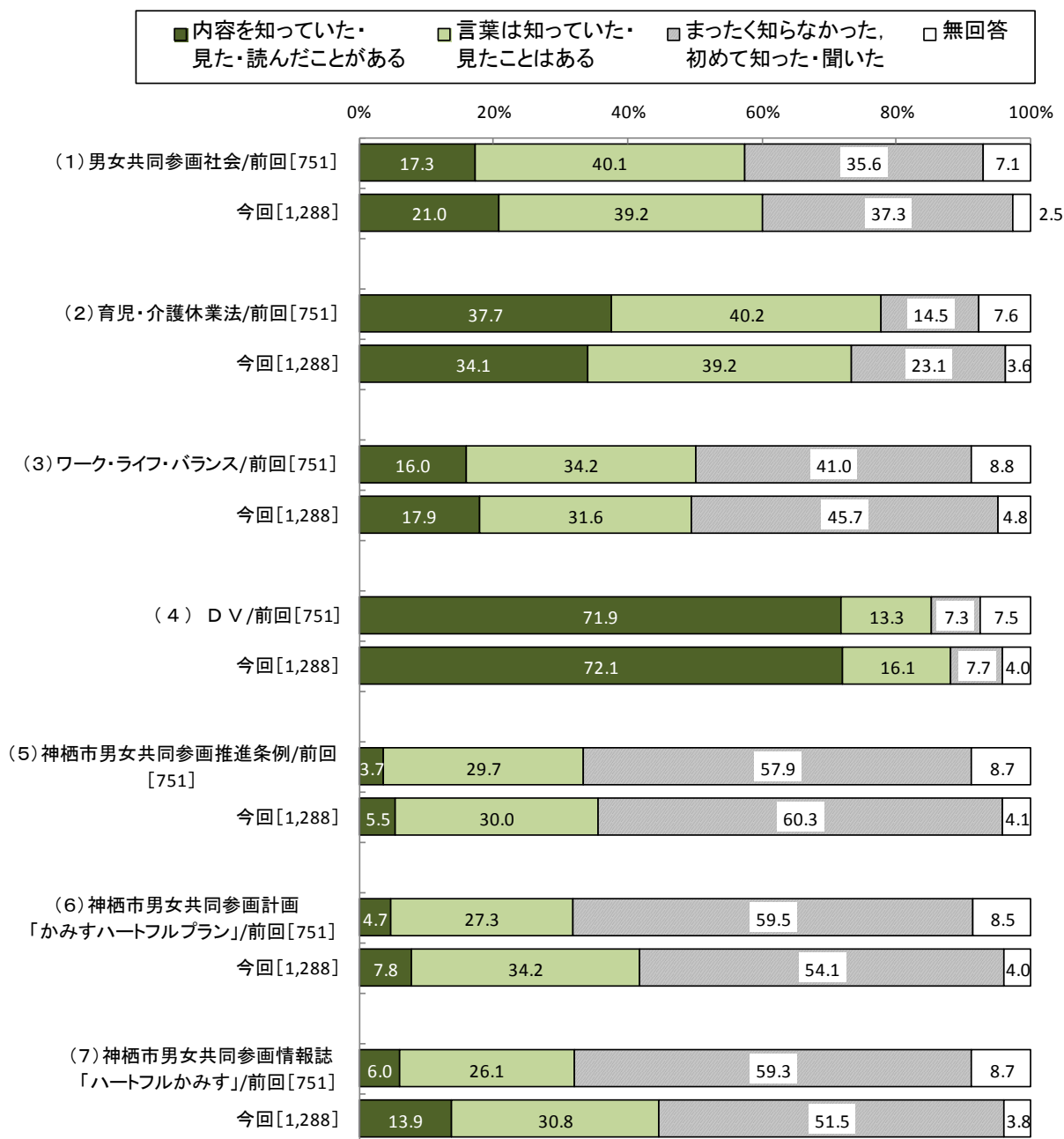


【前回との比較】

※比較可能な(1)から(7)までを比較しました。

○「(2)育児・介護休業法」以外は、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」の割合が高くなっています。全体的に少しずつの増加ですが、「(6)かみすハートフルプラン」と「(7)ハートフルかみす」は、「言葉は知っていた・見たことはある」の回答率も合わせた数値で比較すると、前回よりも10ポイント前後高くなっています。

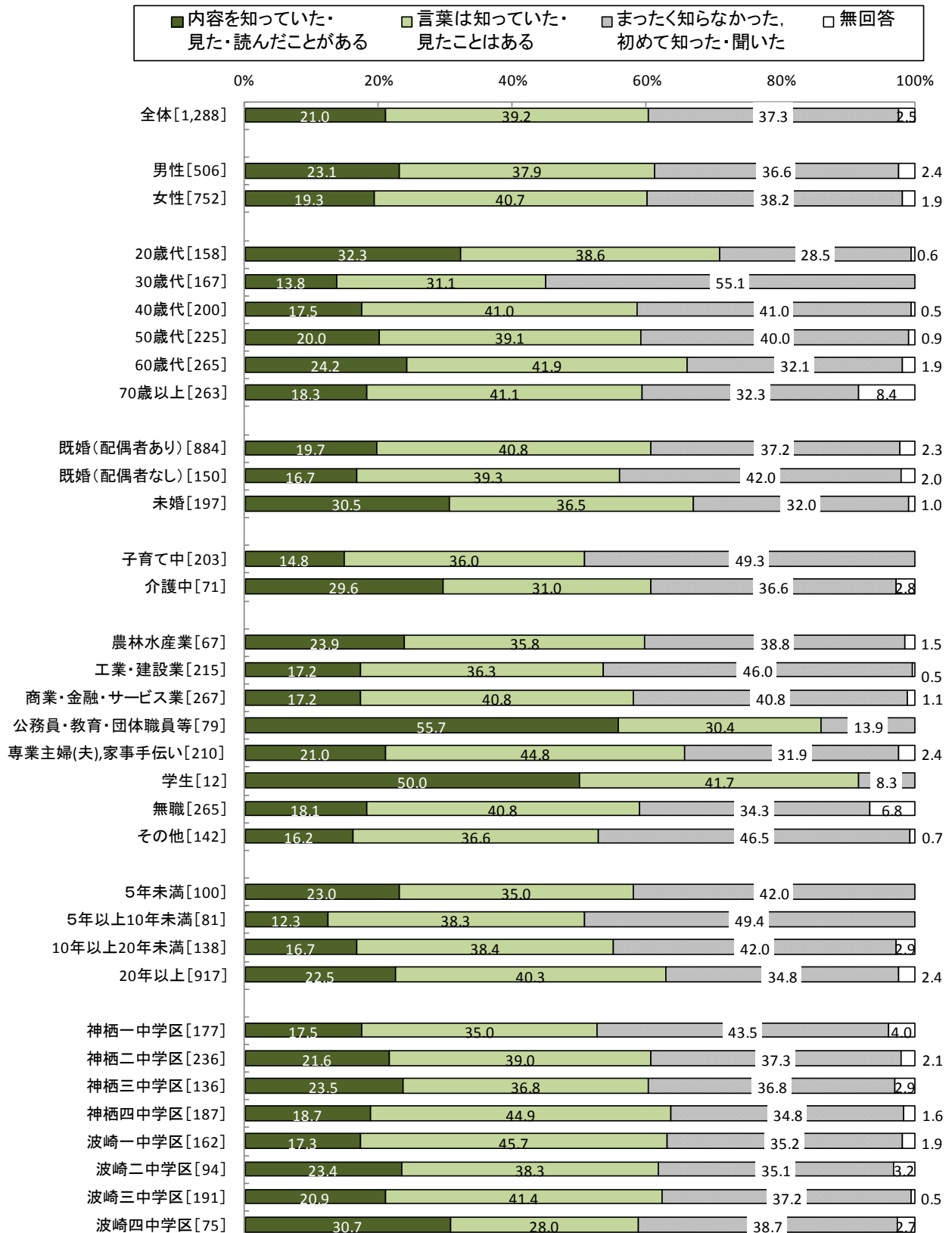
【問1】男女共同参画に関する認知度(前回との比較)



## (1) 男女共同参画社会

- 年齢別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」が最も高いのは20歳代です。
- 職業別でみると、公務員・教育・団体職員等は「内容を知っていた・見た・読んだことがある」が過半数を占め、学生は半数を占めています。

【問1】(1)男女共同参画社会(属性別)

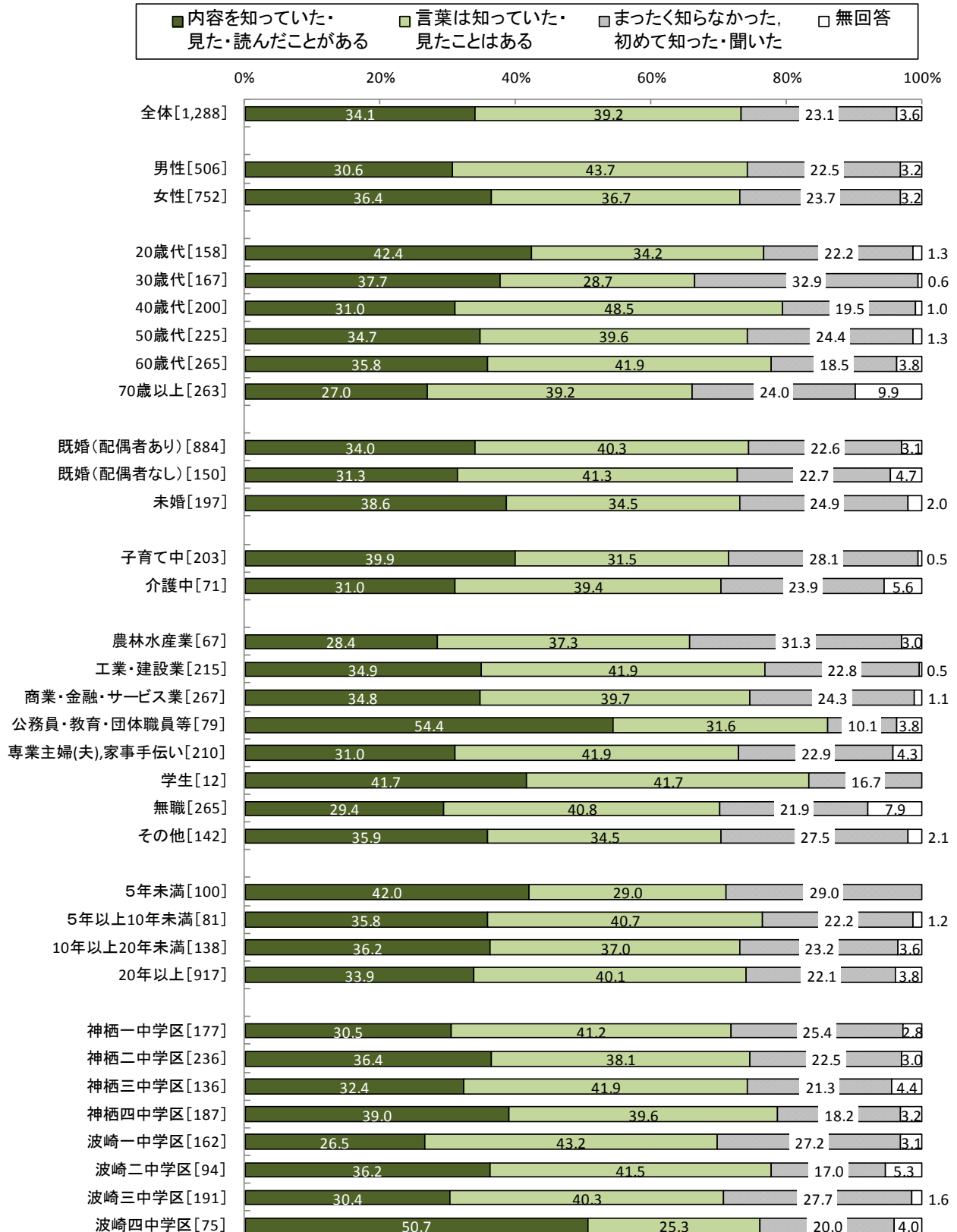




## (2) 育児・介護休業法

- 性別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」は女性の方がやや高くなっています。
- 年齢別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」は20歳代で4割以上を占め最も高くなっています。
- 職業別でみると、「内容について知っている」は公務員・教育・団体職員等で過半数を占めています。

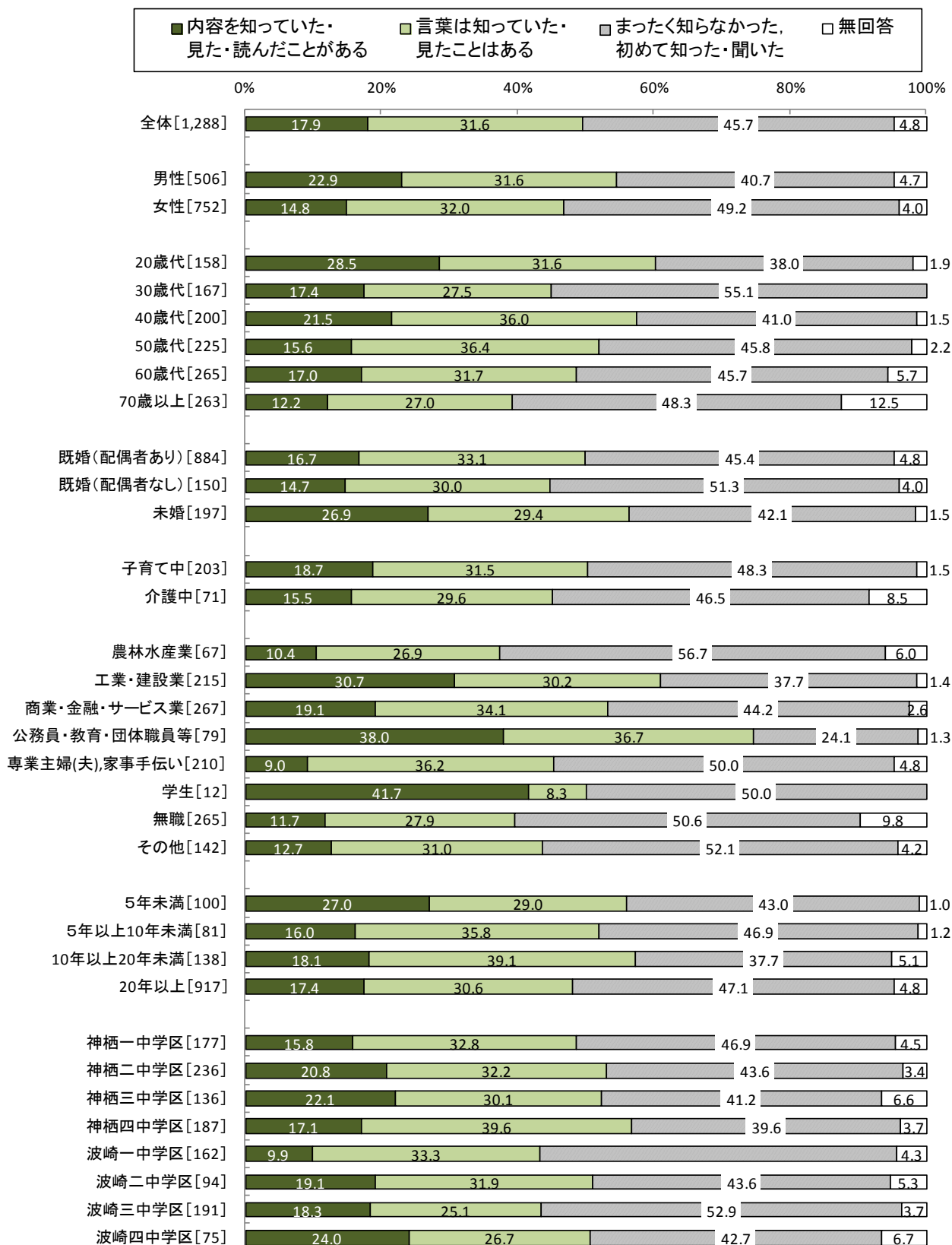
【問1】(2)育児・介護休業法(属性別)



### (3) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

- 性別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」は男性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」と「言葉は知っていた・見たことはある」の合計は、30歳代を除くと年齢が低いほど高くなっています。
- 職業別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」が最も高いのは学生です。

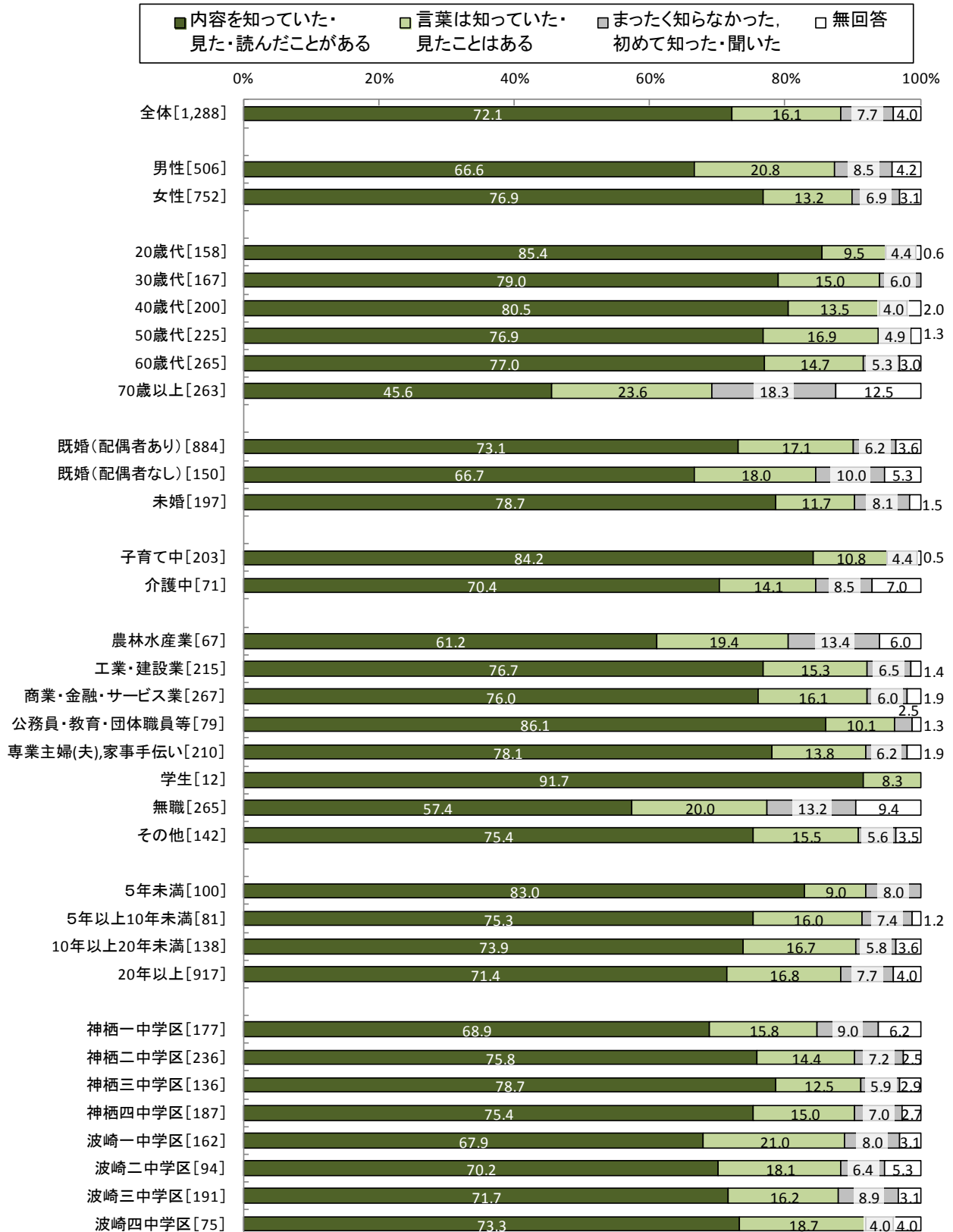
【問1】(3)ワーク・ライフ・バランス(属性別)



(4) DV (配偶者等からの暴力)

- 性別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」は女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」が最も高いのは20歳代です。一方、70歳以上は半数以下にとどまっています。
- 職業別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」が最も高いのは学生で9割以上を占めています。

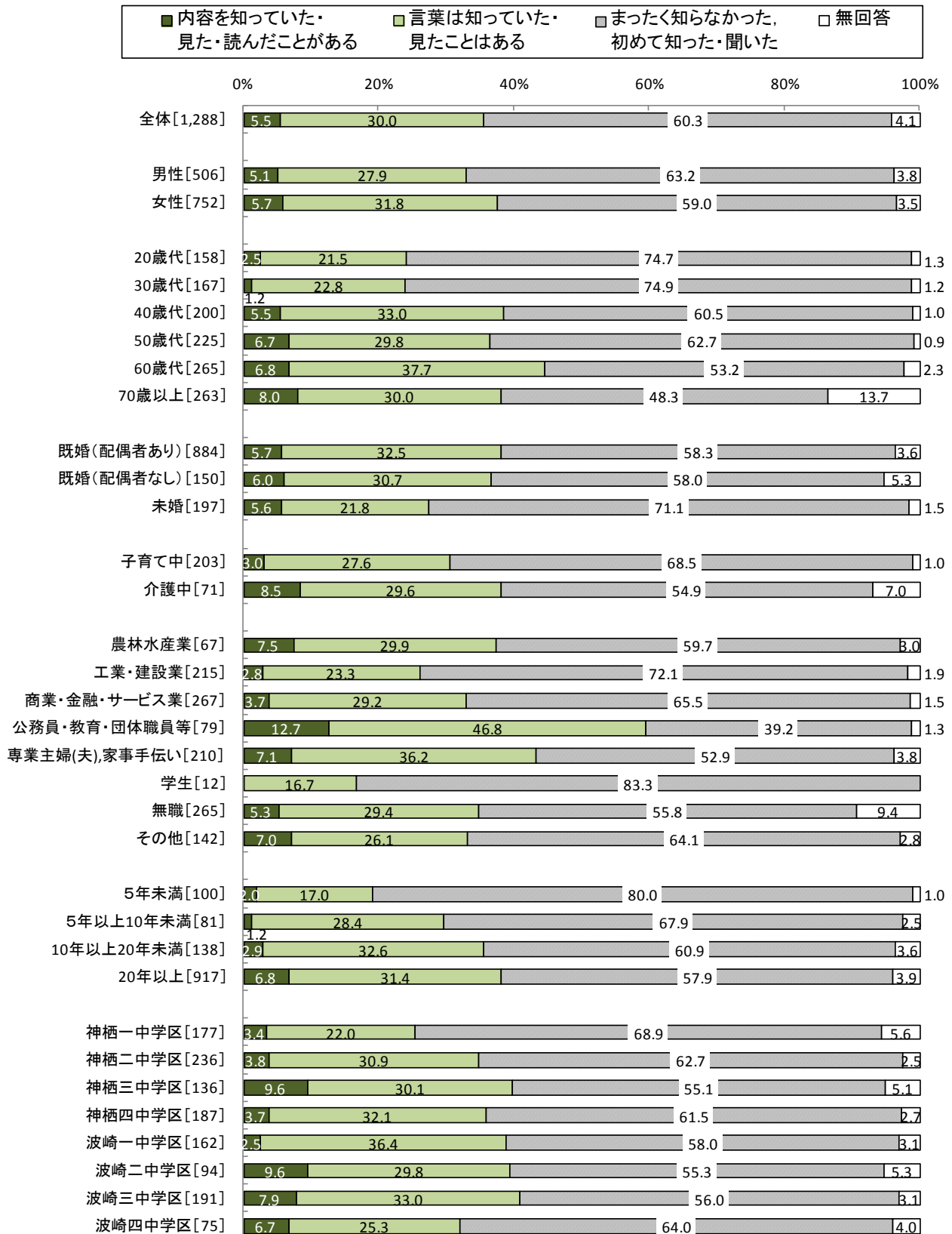
【問1】(4)DV (属性別)



(5) 神栖市男女共同参画推進条例

- 性別でみると、「言葉は知っていた・見たことはある」は女性の方がやや高くなっています。
- 年齢別でみると、「言葉は知っていた・見たことはある」は、20～30 歳代では2割程度にとどまっています。

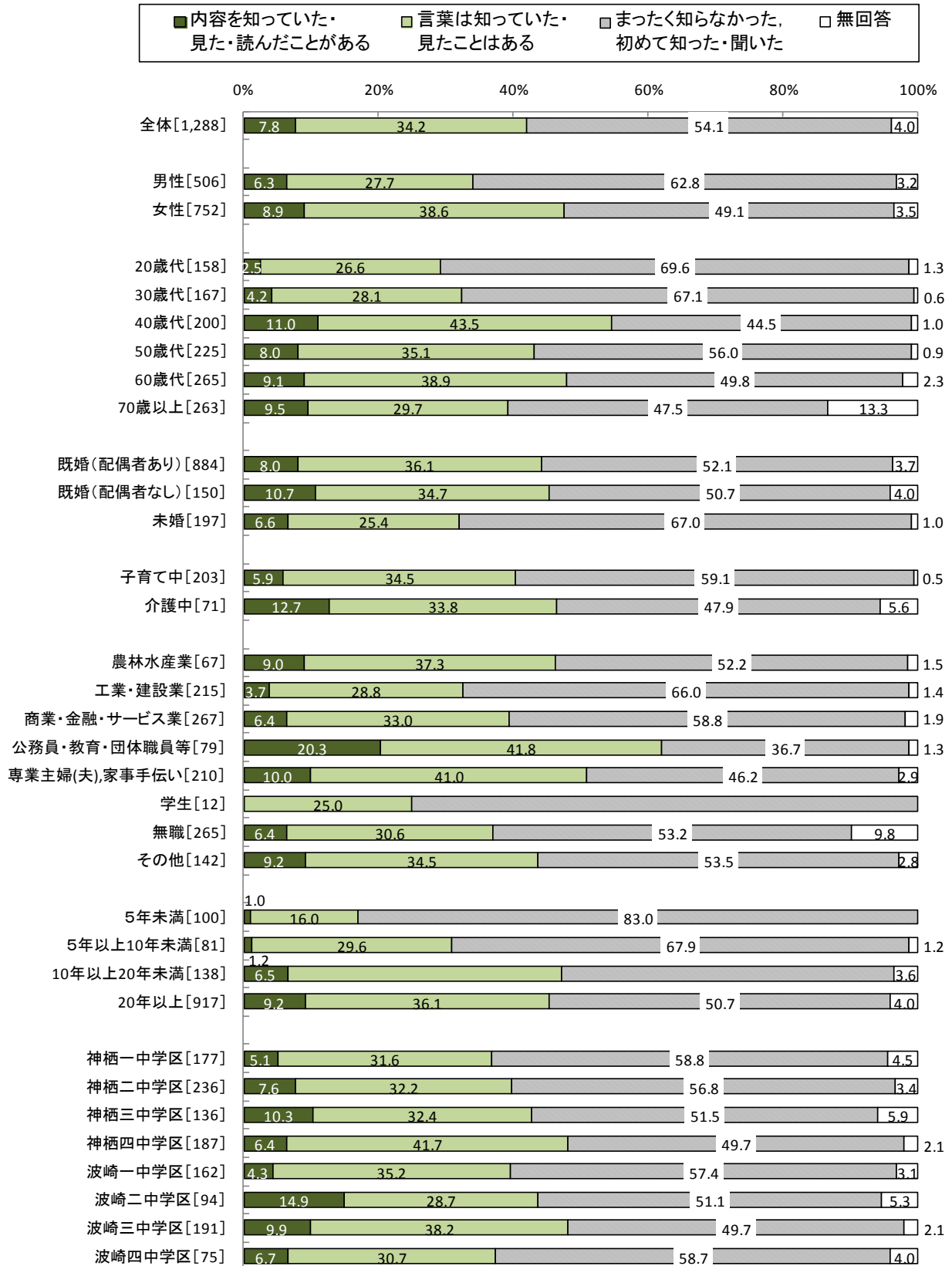
【問1】(5)神栖市男女共同参画推進条例(属性別)



(6) 神栖市男女共同参画計画「かみすハートフルプラン」

- 性別でみると、「言葉は知っていた・見たことはある」は女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」「言葉は知っていた・見たことはある」ともに40歳代は最も高くなっています。

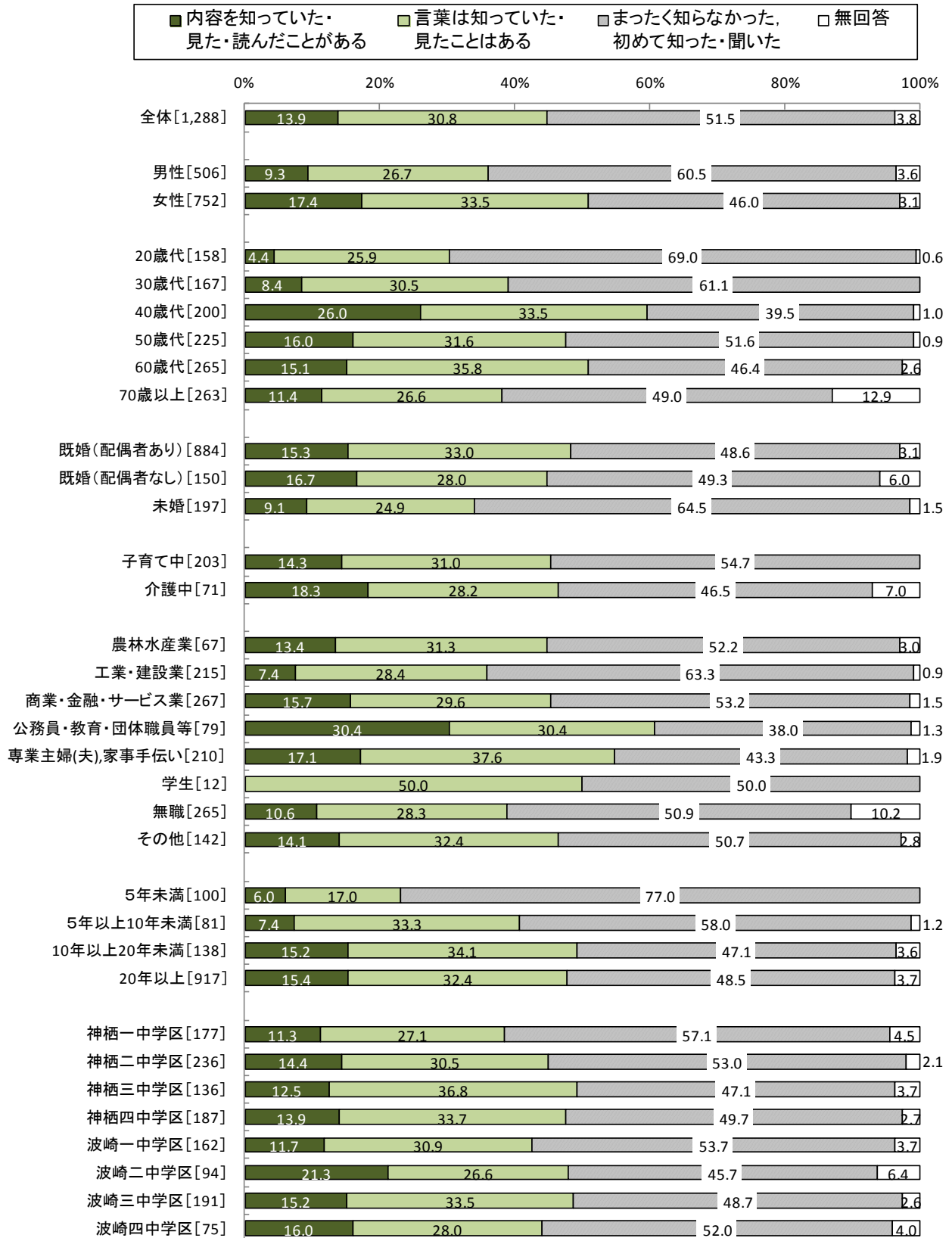
【問1】(6)かみすハートフルプラン(属性別)



(7) 神栖市男女共同参画情報誌「ハートフルかみす」

- 性別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」「言葉は知っていた・見たことはある」ともに女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」「言葉は知っていた・見たことはある」ともに40歳代が最も高くなっています。

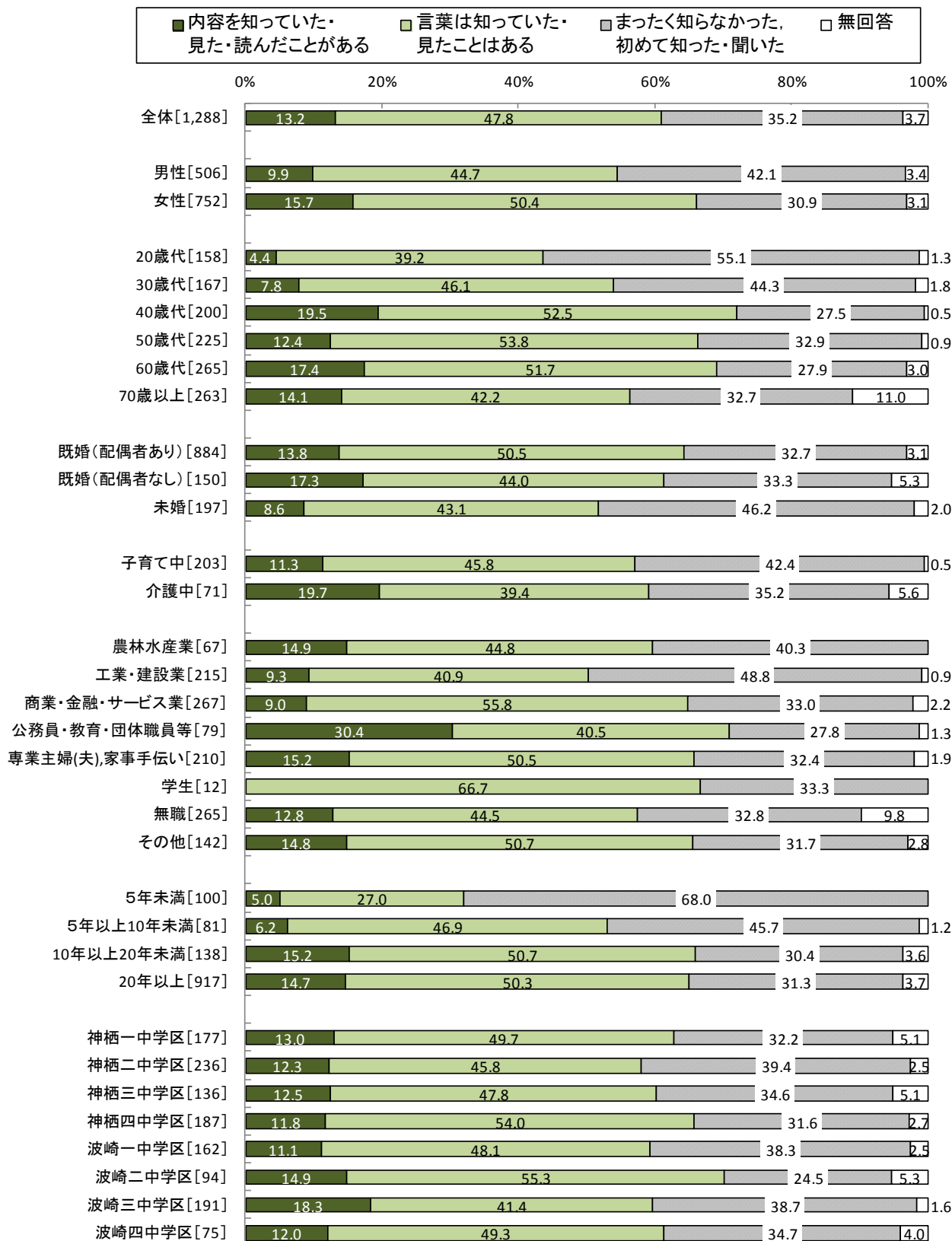
【問1】(7)「ハートフルかみす」(属性別)



## (8) かみす市民フォーラム

- 性別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」「言葉は知っていた・見たことはある」ともに女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「言葉は知っていた・見たことはある」は40～60歳代で過半数を占めています。一方、20歳代は「まったく知らなかった、初めて知った・聞いた」が過半数を占めています。

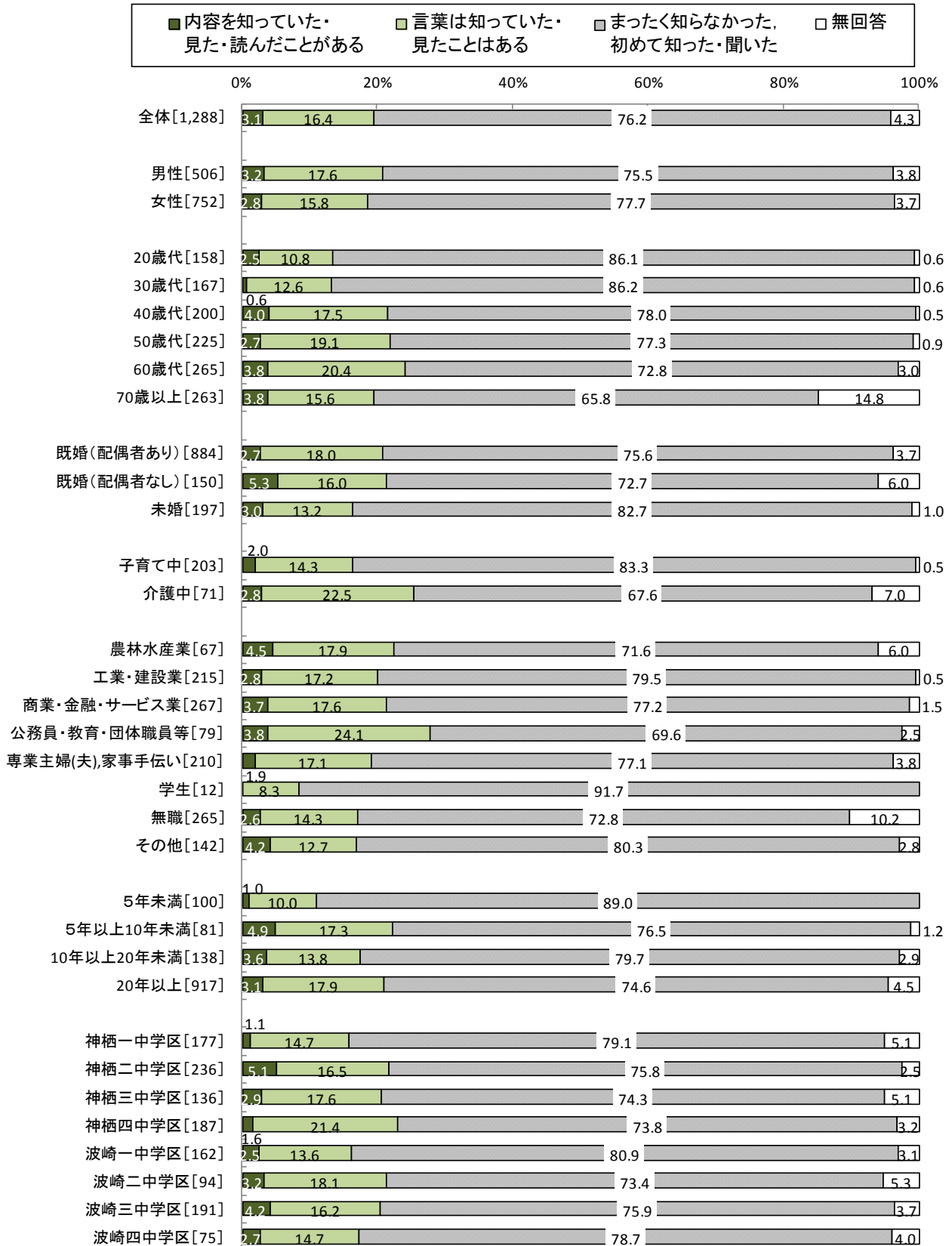
【問1】(8)かみす市民フォーラム(属性別)



## (9) ポジティブ・アクション

- 年齢別でみると、「言葉は知っていた・見たことはある」は50～60歳代で2割前後を占めています。一方、20～30歳代は「まったく知らなかった、初めて知った・聞いた」が8割以上を占めています。

【問1】(9)ポジティブ・アクション(属性別)

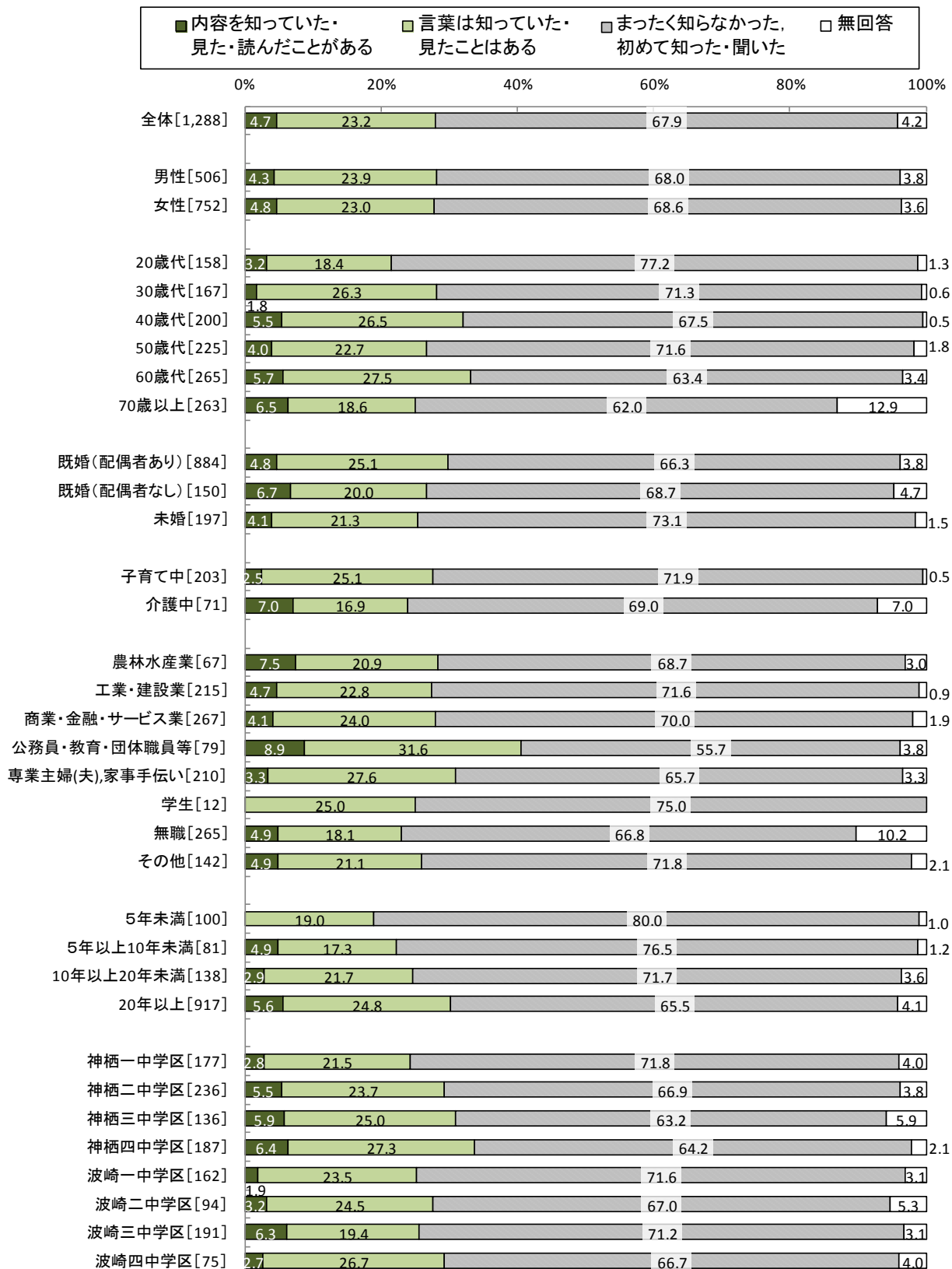




## (10) 次世代育成支援対策推進法

- 職業別でみると、「言葉は知っていた・見たことはある」は公務員・教育・団体職員等で約3割を占め、他に比べて高くなっていますが、全体的に目立った属性別の回答傾向はみられません。

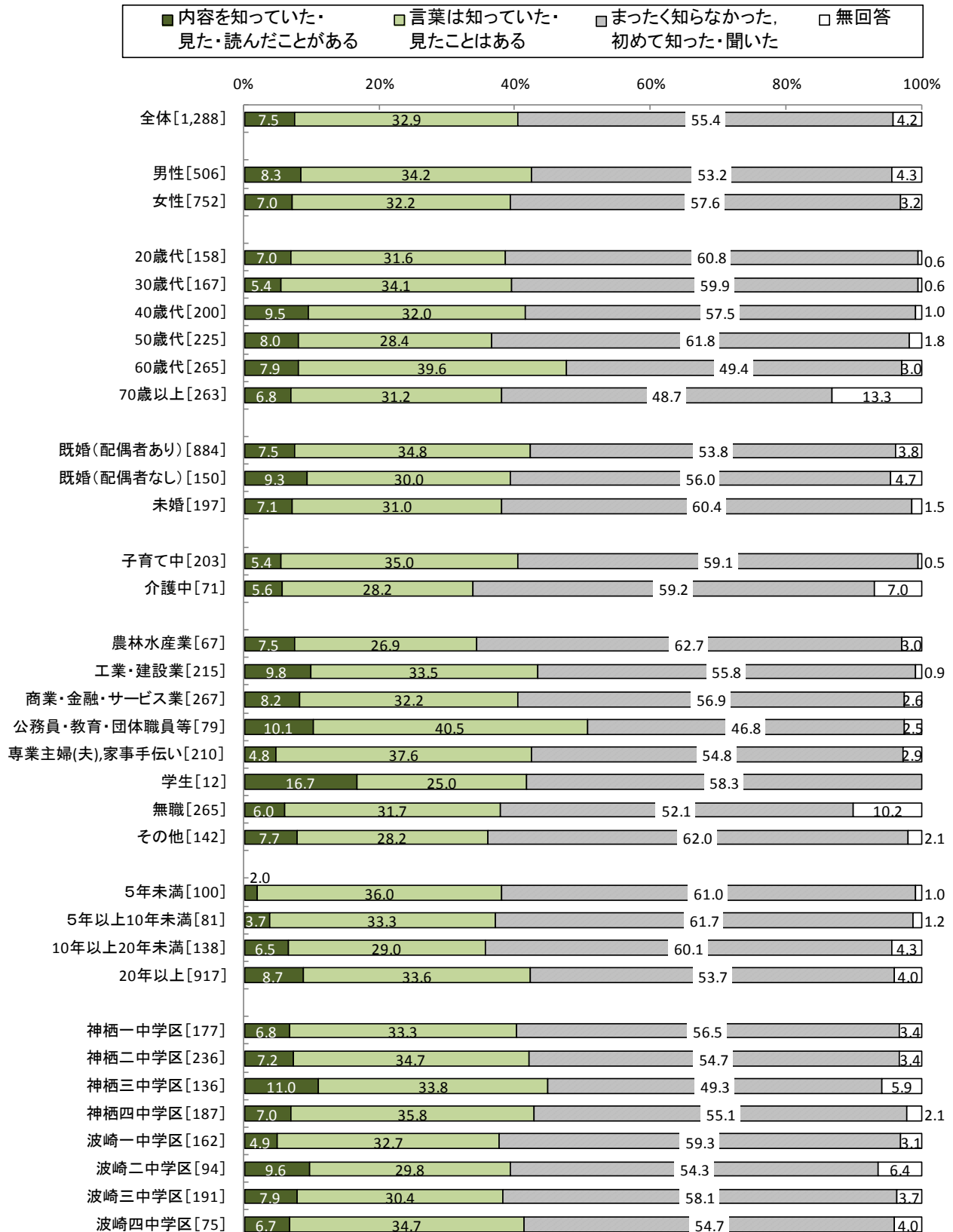
【問1】(10)次世代育成支援対策推進法(属性別)



(11) 女性活躍推進法

- 年齢別でみると、「言葉は知っていた・見たことはある」は60歳代で約4割を占めています。
- 職業別でみると、「内容を知っていた・見た・読んだことがある」が最も高いのは学生です。

【問1】(11)女性活躍推進法(属性別)

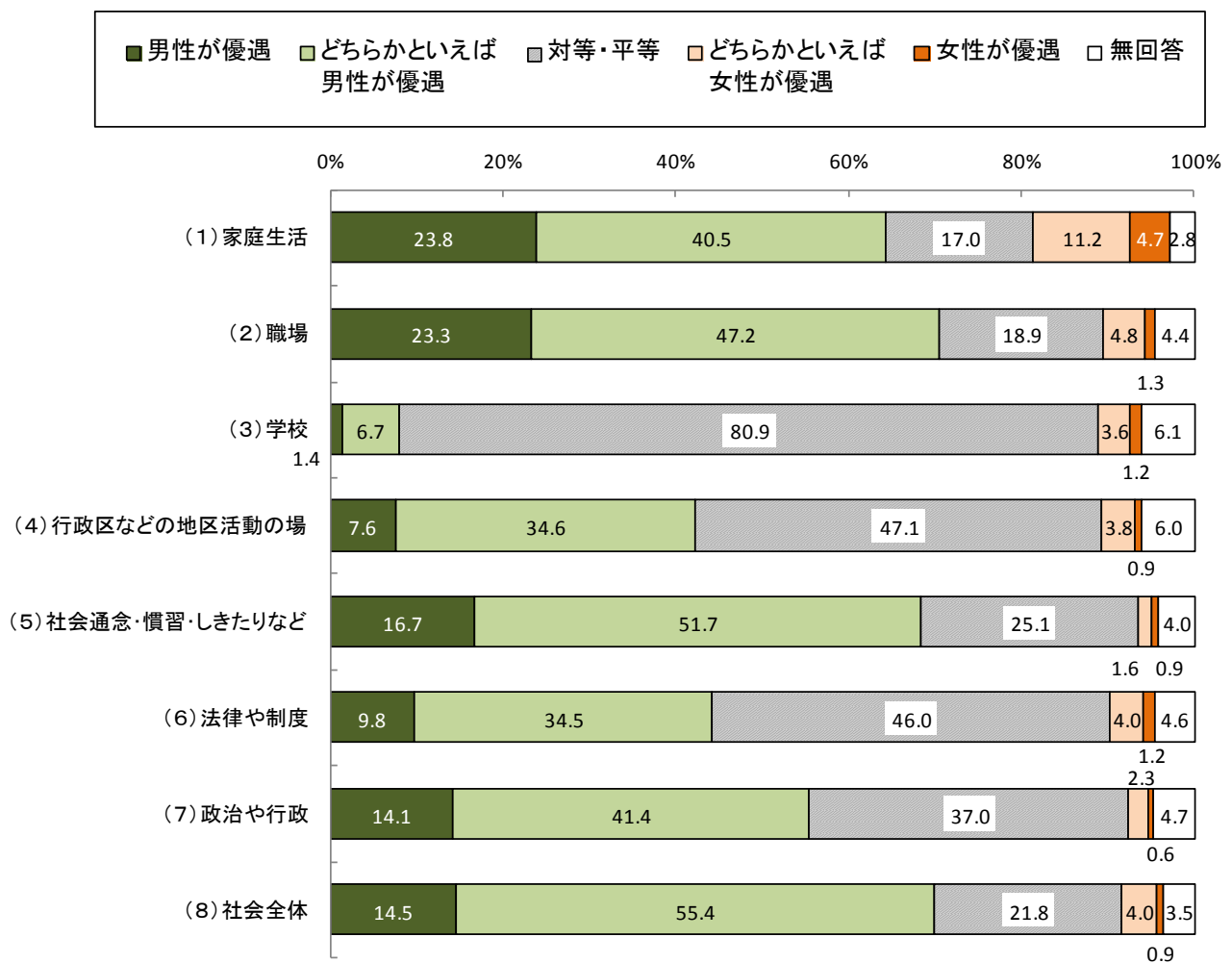


## 問2 男女の地位の平等に関する意識について

問2 あなたは、(1)～(8)について、男女が対等になっていると思いますか。  
(それぞれ1つだけ選び、番号に○を)

- 「(1) 家庭生活(家事・育児・介護など)」「(2) 職場(採用・処遇・労働環境など)」「(5) 社会通念・慣習・しきたりなど」「(7) 政治や行政(政策方針の決定)」「(8) 社会全体」は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、「男性が優遇されている」との合計(“男性優遇”の割合)が過半数を占めています。
- 「(3) 学校(児童・生徒への教育)」「(4) 行政区などの地域活動の場」「(6) 法律や制度」は「対等・平等である」が最も高くなっています。

【問2】男女の地位の平等について[1,288]

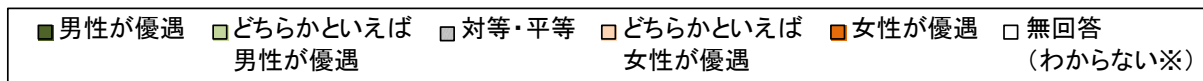


## 【前回、県との比較】

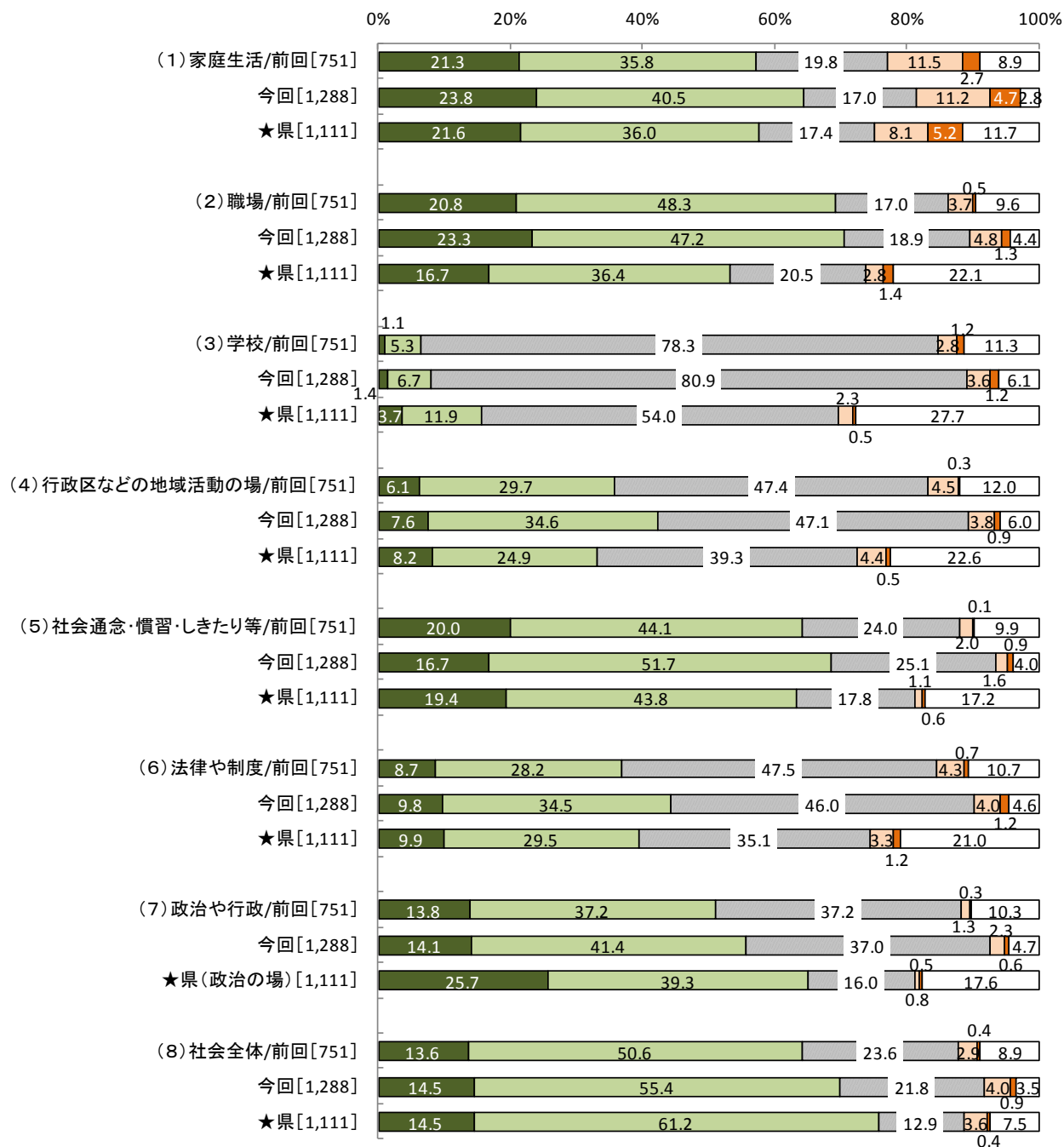
○前回と比較すると、全体的に「無回答」が減った分，“男性優遇”の割合が高くなっています。

○県と比較すると、「(3) 学校」「(7) 政治や行政」「(8) 社会全体」以外の項目で、県よりも“男性優遇”の割合が高くなっています。

### 【問2】男女の地位の平等について(前回、県との比較)



※県は「わからない」も「無回答」に合算。

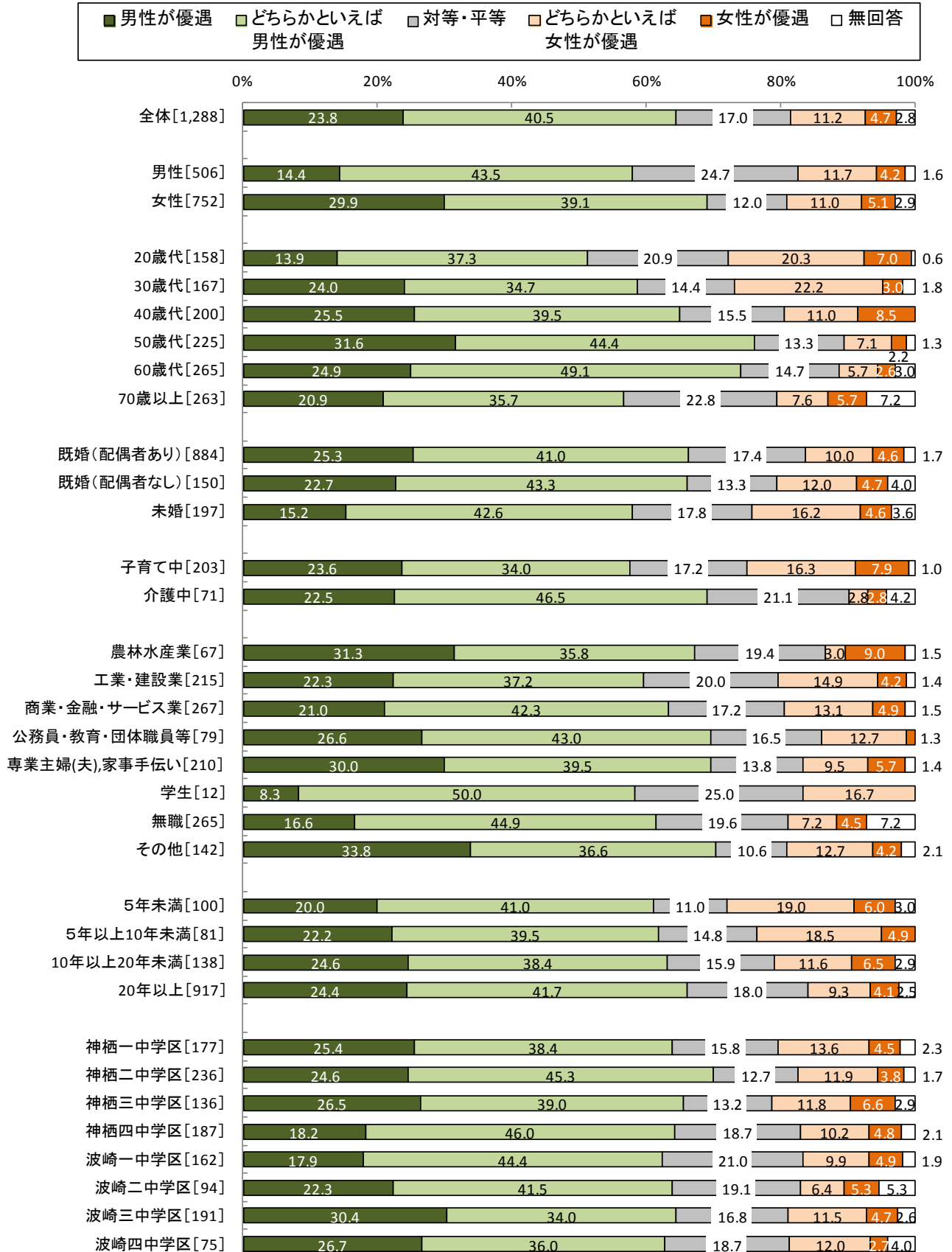


※県は「男性が優遇」「女性が優遇」の選択肢に「非常に」が入っているほか、「わからない」という選択肢が設定されています。また、項目の名称は、「家庭生活(家事・育児など)」「職場」「学校教育の場」「地域活動」「社会通念、慣習、しきたりなど」「法律や制度」「政治の場」「社会全体」です。

(1) 家庭生活(家事・育児・介護等)

- 性別でみると、「男性の方が優遇」は女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「男性の方が優遇」は50歳代で約3割を占めています。一方、「どちらかといえば女性」は20～30歳代で約2割を占めています。

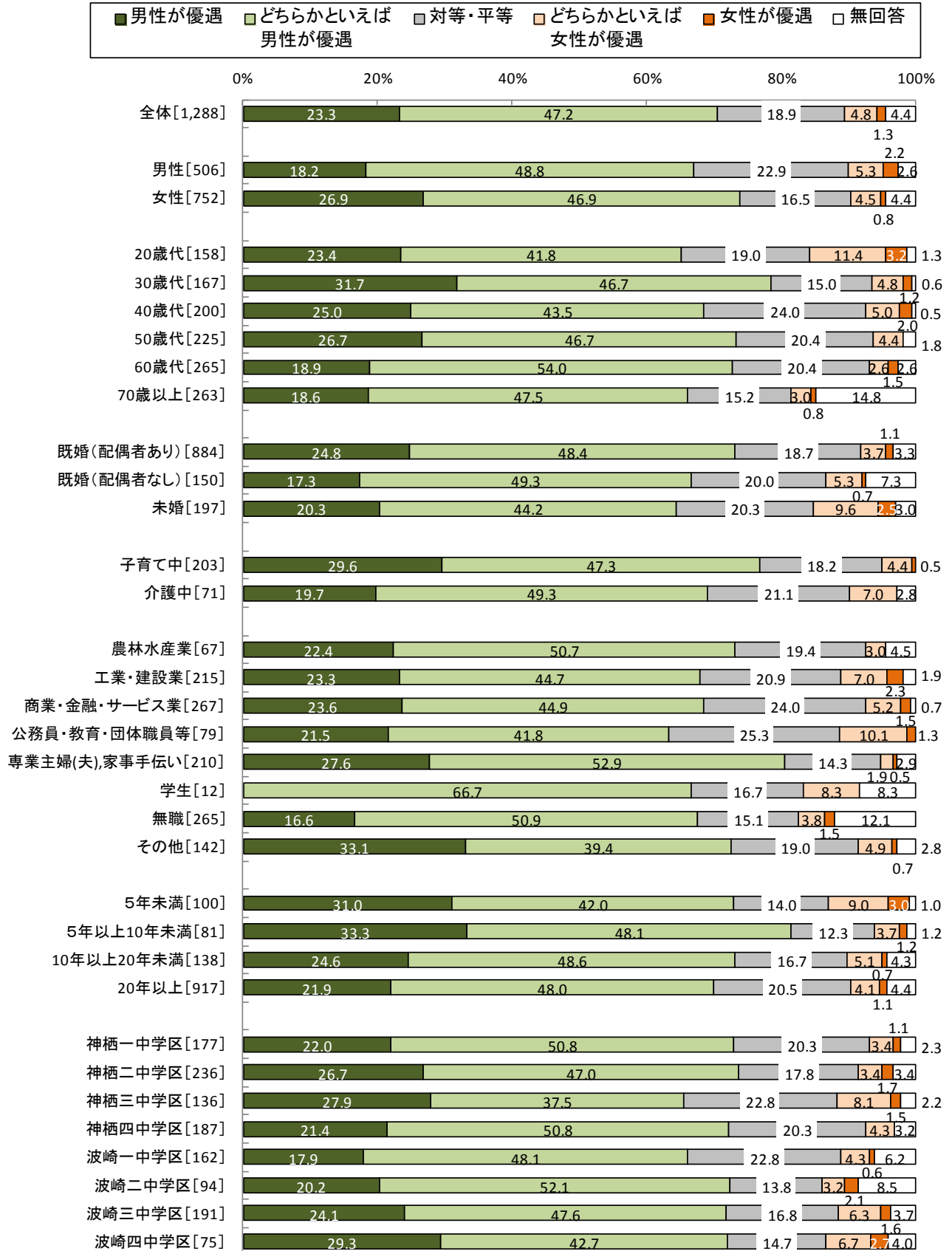
【問2】(1) 家庭生活(属性別)



(2) 職場(採用・処遇・労働環境等)

- 性別でみると、「男性の方が優遇」は女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「男性の方が優遇」は30歳代で約3割を占めています。一方、「どちらかといえば女性が優遇」は20歳代で約1割を占めています。

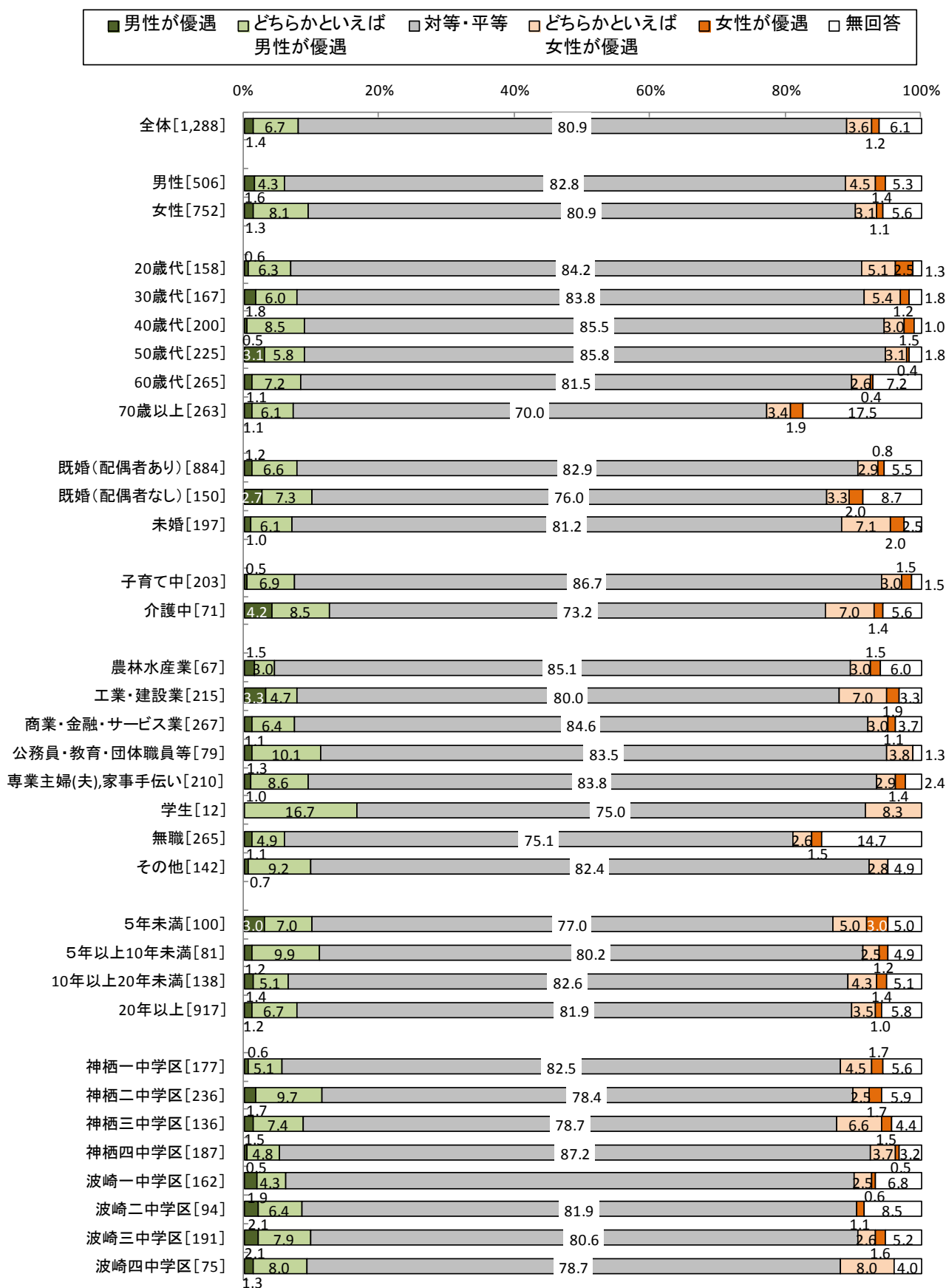
【問2】(2) 職場(属性別)



(3) 学校（児童・生徒への教育）

●性別でみると、「どちらかといえば男性が優遇」は女性の方がやや高くなっています。

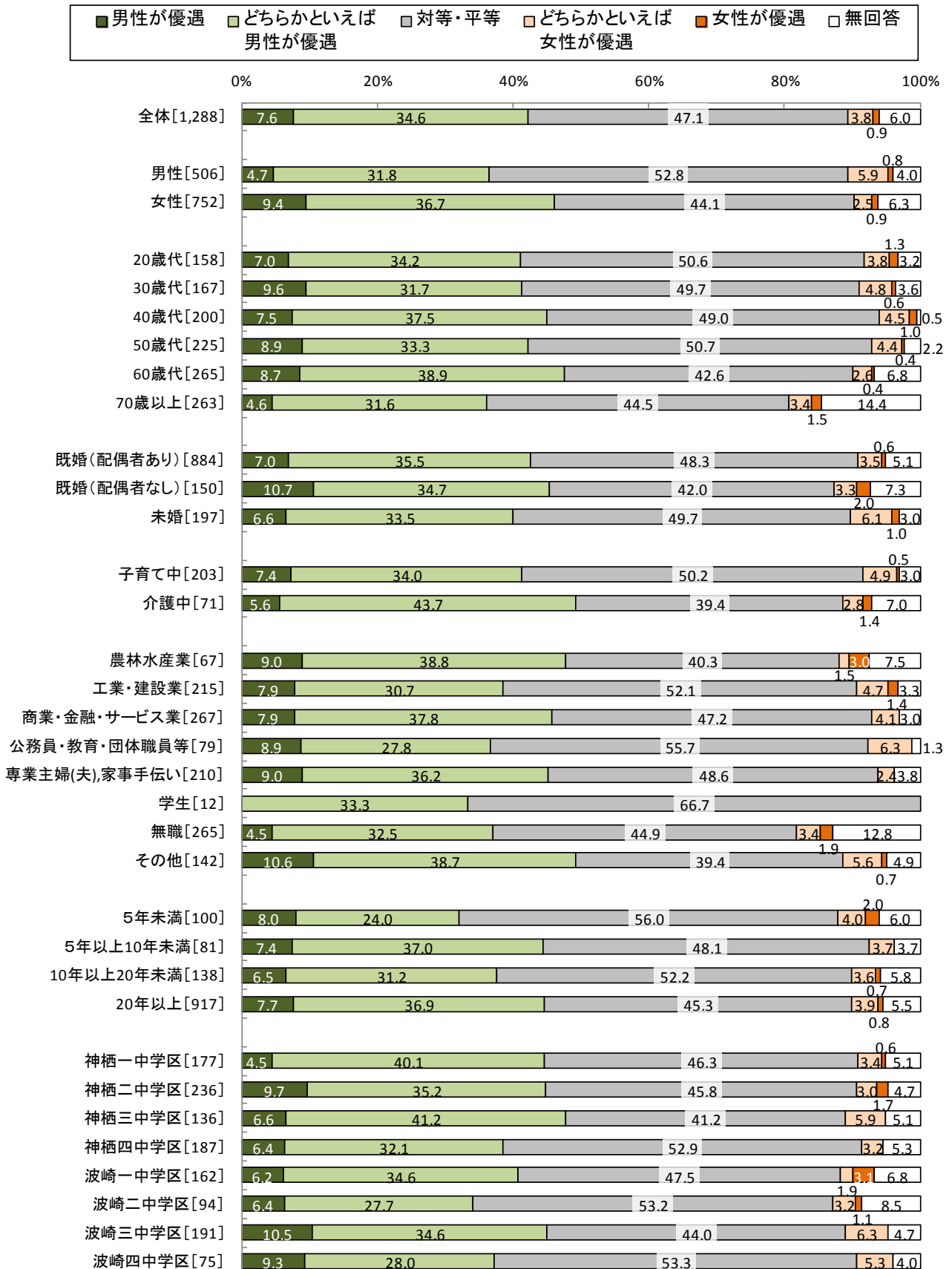
【問2】(3) 学校(属性別)



(4) 行政区などの地域活動の場

●性別でみると、「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」はともに女性の方が高くなっています。

【問2】(4) 行政区などの地区活動の場(属性別)

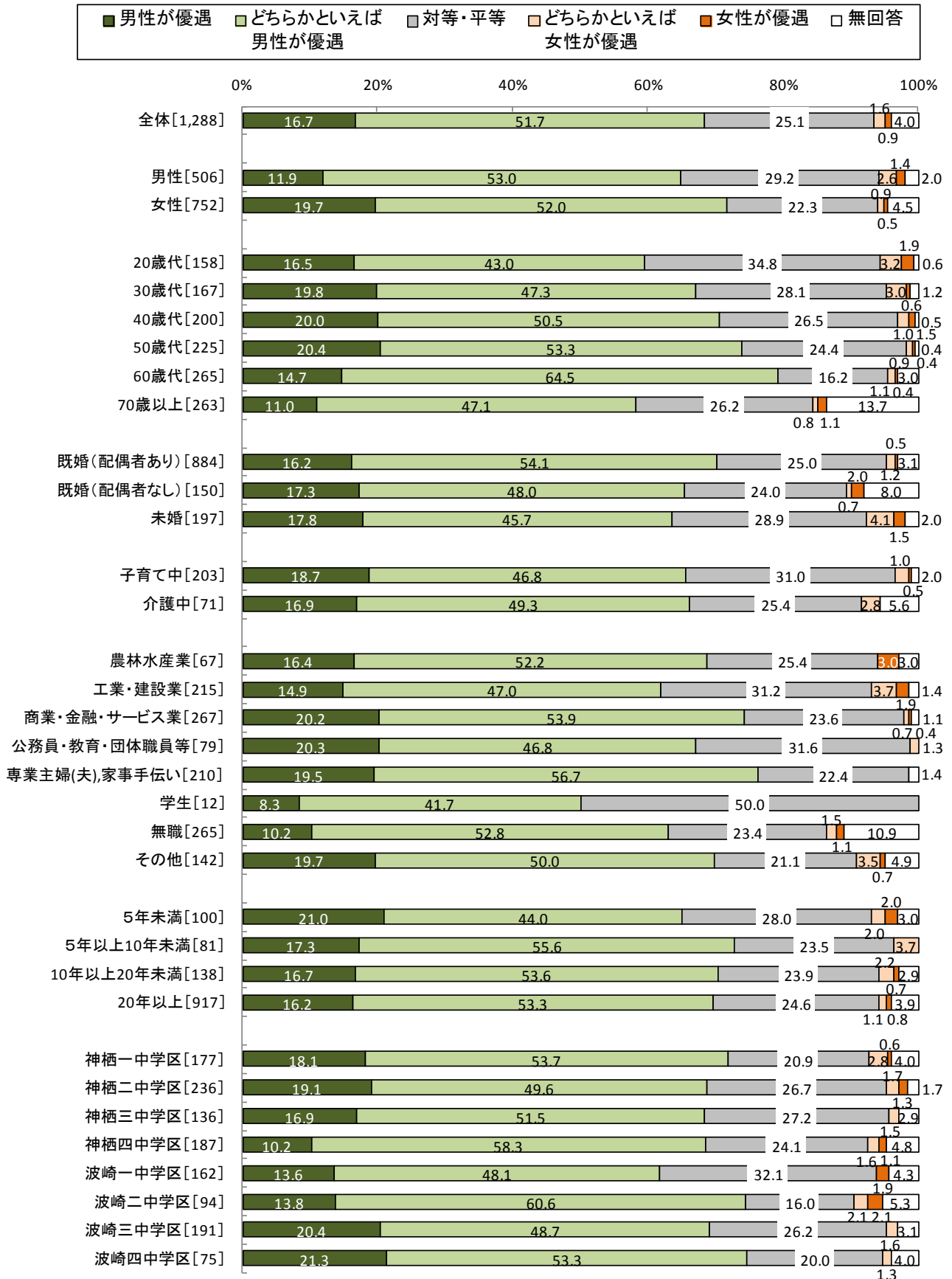




(5) 社会通念・慣習・しきたり等

- 性別でみると、「男性の方が優遇」は女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、70歳以上を除くと、「どちらかといえば男性の方が優遇」は年齢が高いほど高く、「対等・平等」は年齢が低いほど高くなっています。

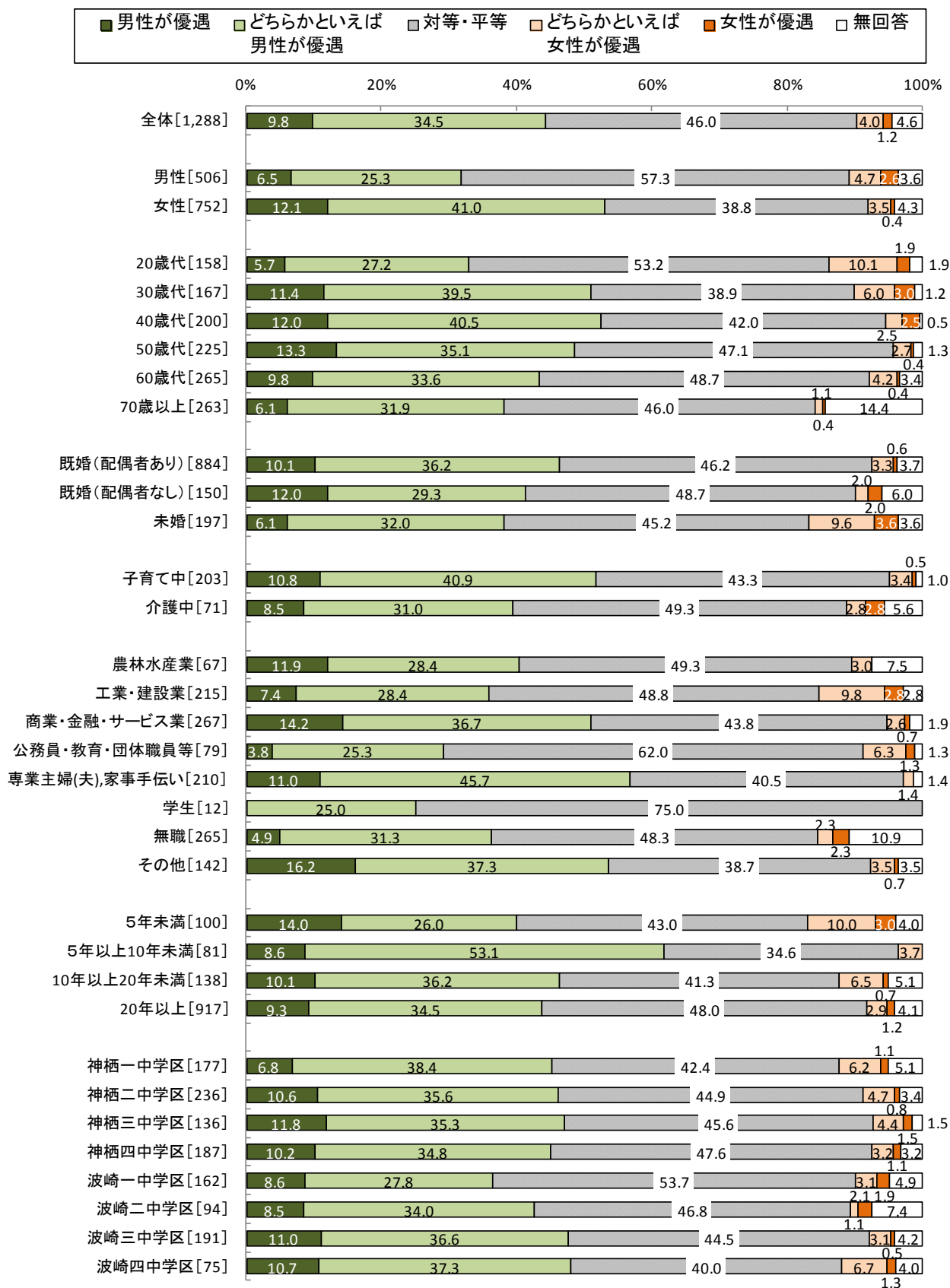
【問2】(5) 社会通念・慣習・しきたりなど(属性別)



## (6) 法律や制度

- 性別でみると、「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」は、ともに女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「男性の方が優遇」は30～50歳代で1割以上を占めています。一方、20歳代は「対等・平等」が過半数、「どちらかといえば女性」が約1割を占めています。

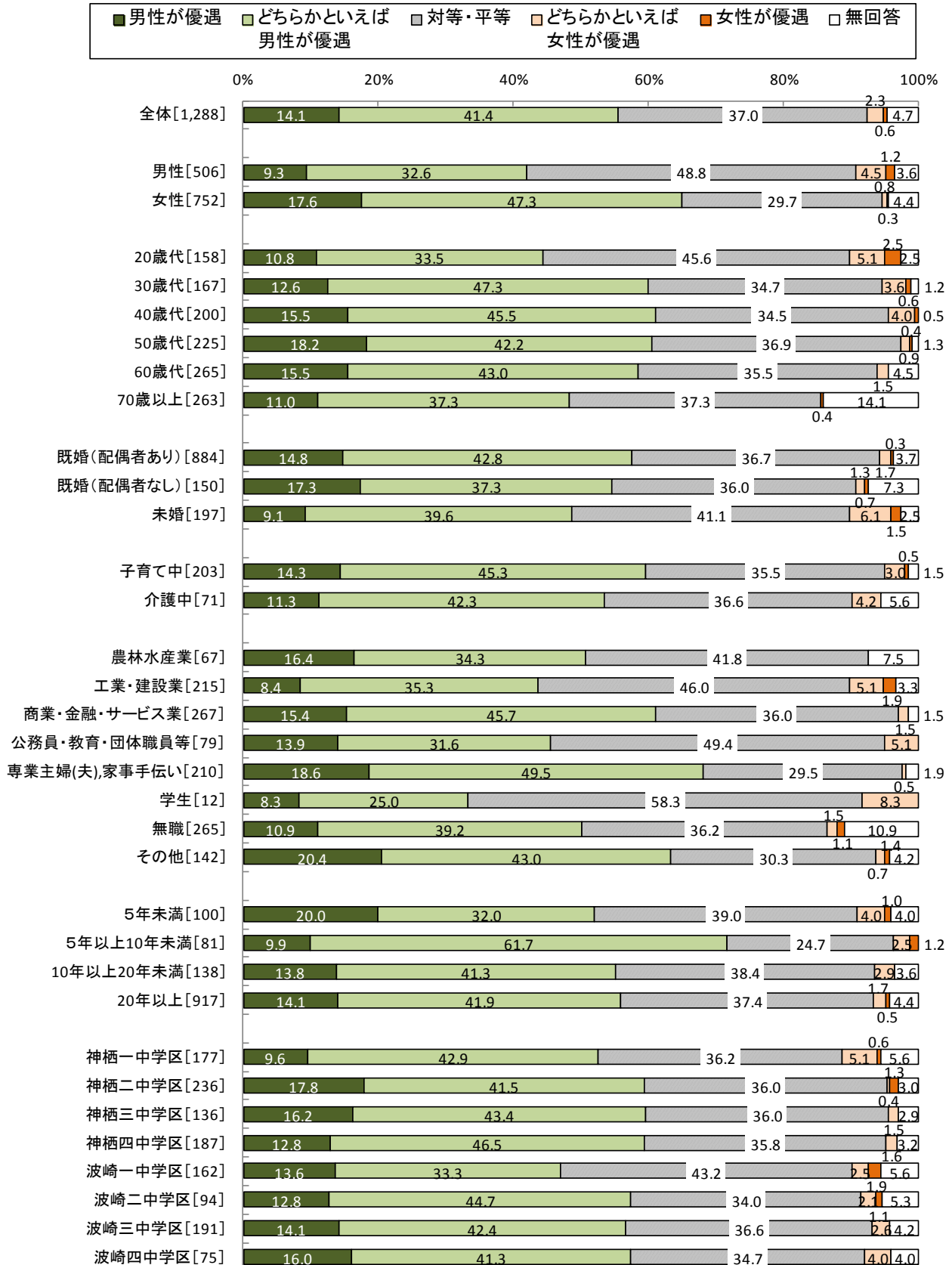
【問2】(6) 法律や制度(属性別)



(7) 政治や行政(政策方針の決定)

- 性別でみると、「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」は、ともに女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「男性の方が優遇」が最も高いのは50歳代です。一方、「対等・平等である」が最も高いのは20歳代で4割以上を占めています。

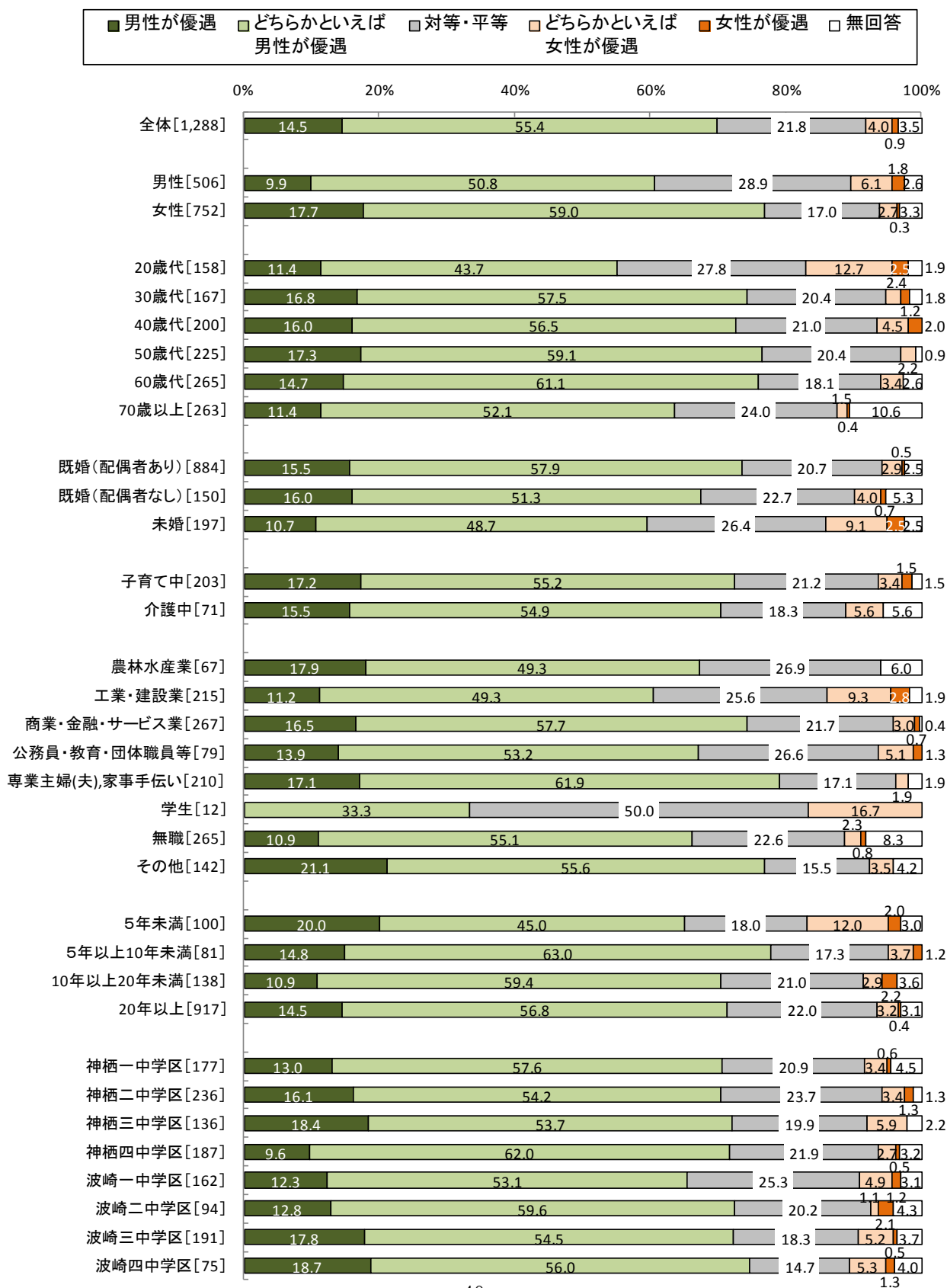
【問2】(7)政治や行政(属性別)



## (8) 社会全体

- 性別でみると、「男性の方が優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」は、ともに女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇」は、30歳代以上で過半数を占めていますが、20歳代は4割程度にとどまり、「どちらかといえば女性が優遇されている」が1割以上を占めています。

【問2】(8) 社会全体(属性別)

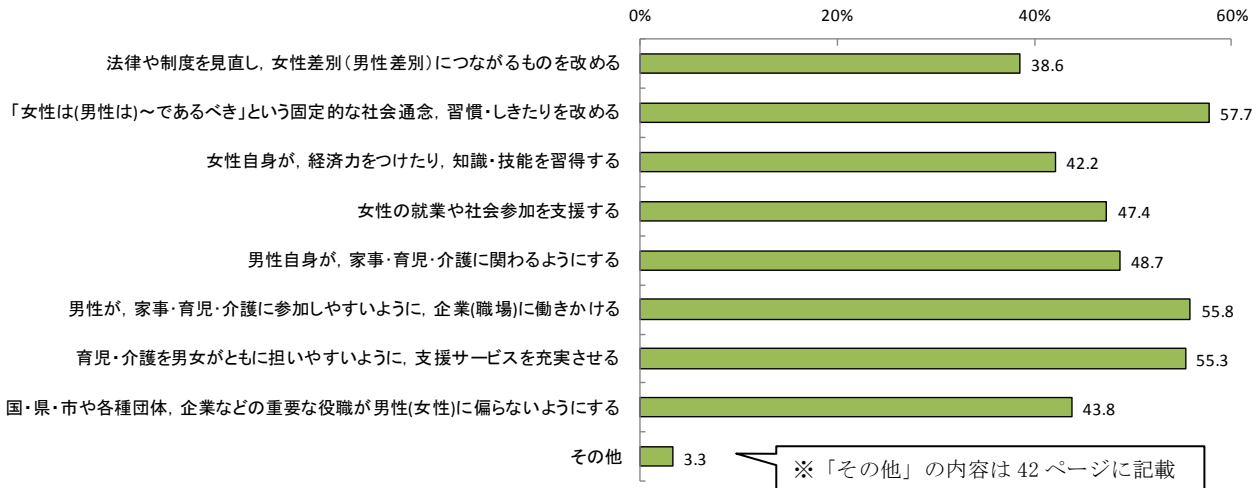


### 問3 男女が参画しやすい社会にするために重要なこと

問3 あなたは、男女が、あらゆる分野に参画しやすい社会にするには何が重要だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 『女性は(男性は)～であるべき』という固定的な社会通念、習慣・しきたりを改める」(57.7%)が最も高いですが、「男性が、家事・育児・介護に参加しやすいように、企業(職場)に働きかける」(55.8%),「育児・介護を男女がともに担いやすいように、支援サービスを充実させる」(55.3%)が僅差で続いています。

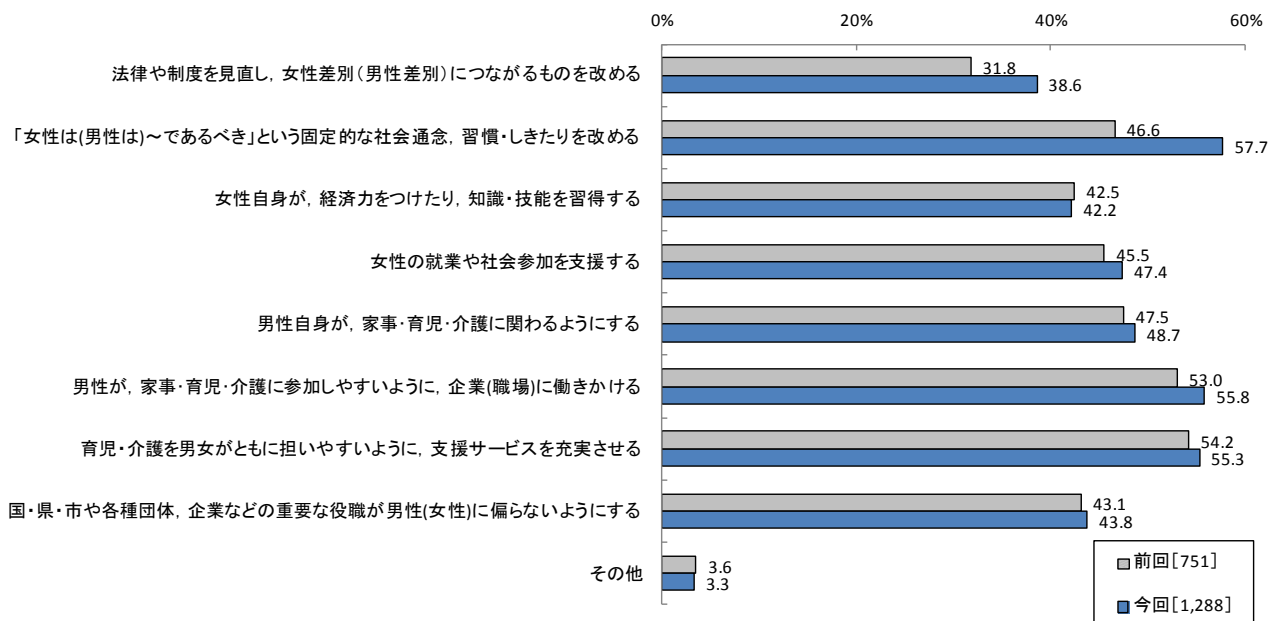
【問3】男女が参画しやすい社会にするために重要なこと[1,288]



### 【前回との比較】

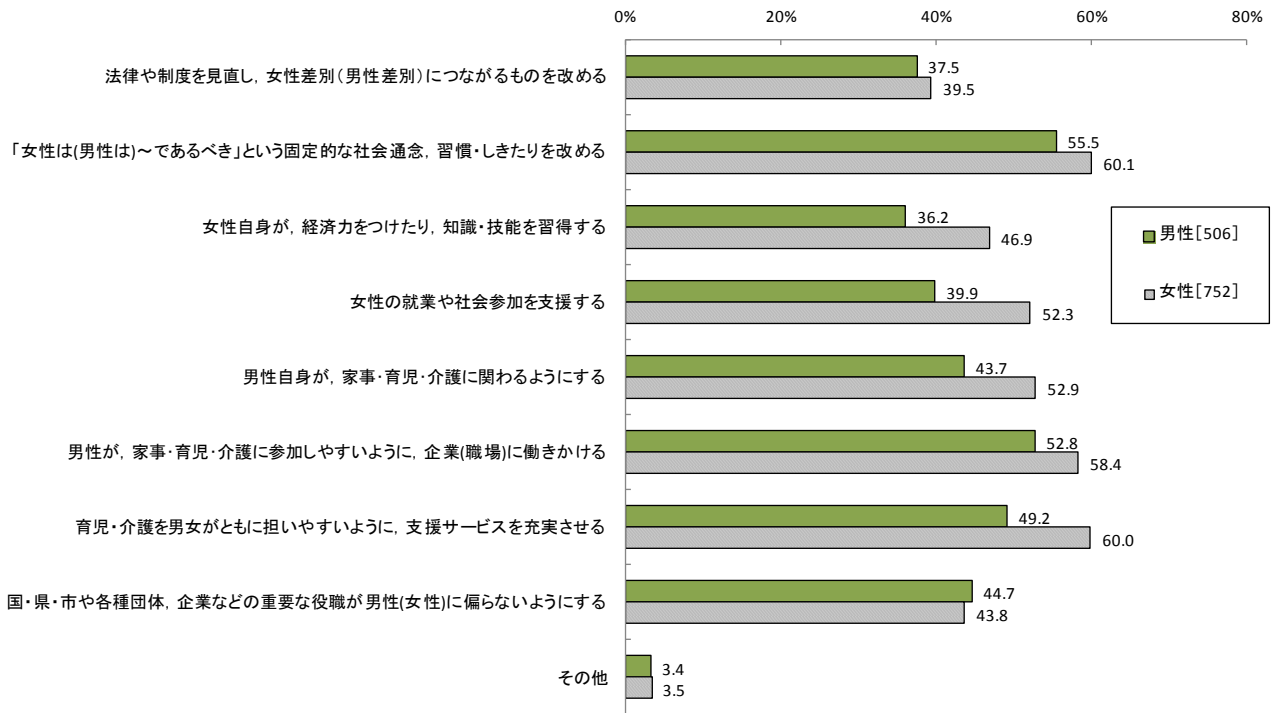
- 「法律や制度を見直し、女性差別(男性差別)につながるものを改める」や『女性は(男性は)～であるべき』という固定的な社会通念、習慣・しきたりを改める」は、今回の方が高く、前回との差が目立ちます。

【問3】男女が参画しやすい社会にするために重要なこと(前回との比較)



- 性別でみると、男女とも第1位は同じです。「国・県・市や各種団体、企業などの重要な役職が男性(女性)に偏らないようにする」以外は女性の方が高く、「女性自身が、経済力をつけたり、知識・技能を習得する」「女性の就業や社会参加を支援する」「男性自身が、家事・育児・介護に関わるようにする」「育児・介護を男女がともに担いやすいように、支援サービスを充実させる」は特に男女の差が目立ちます。

【問3】男女が参画しやすい社会にするために重要なこと(あてはまるものすべて選択/性別)

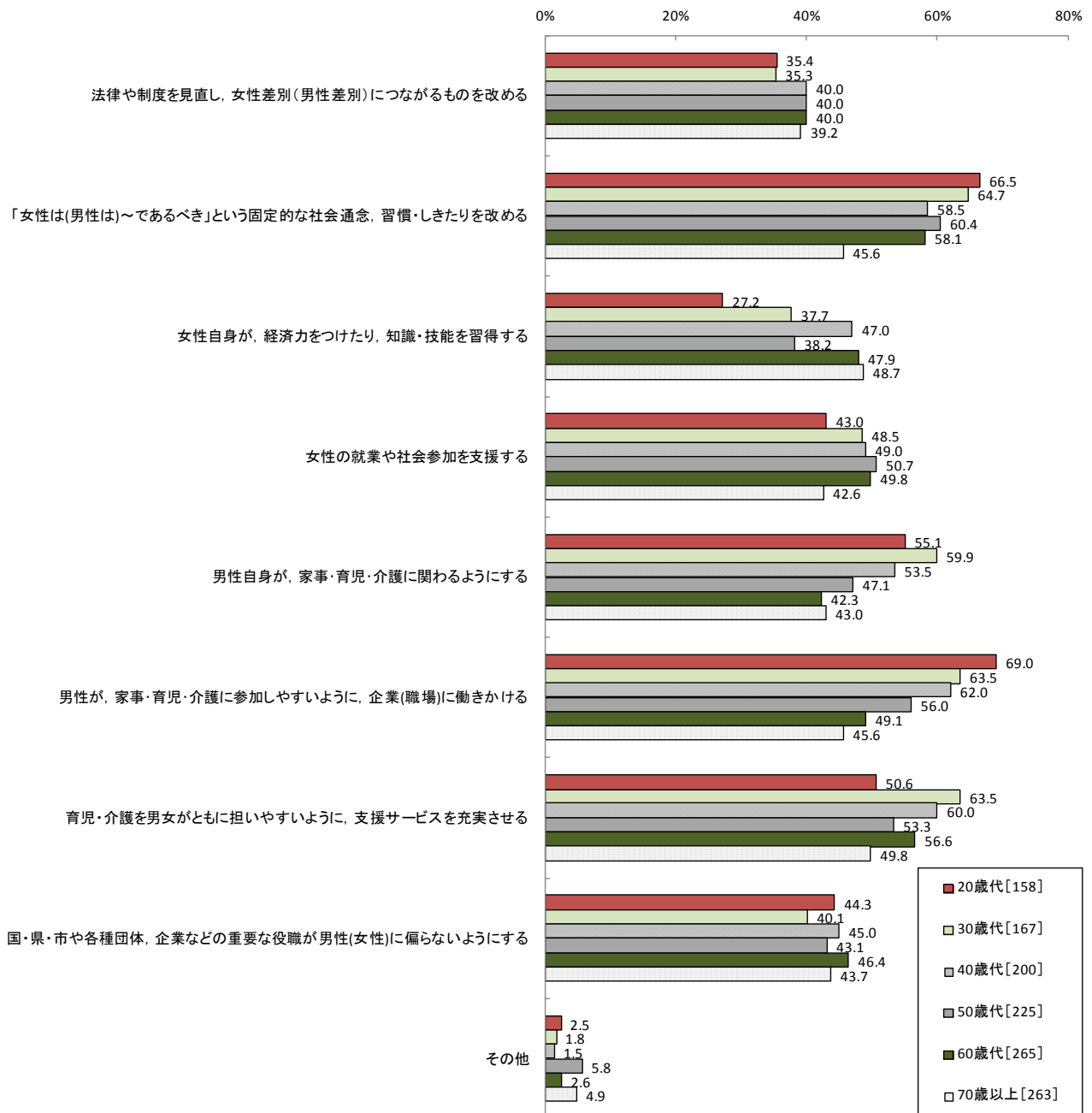


<「その他」の内容>

- ・それぞれの意識、お互いが尊重し合う、認め合う(5)
- ・個々の自由に(2)
- ・男女問わず適材適所に、能力のある人を重要な役職にする。(2)
- ・男女を問わず、各々が“個の確立”に努力向上する。法や制度に頼らない。
- ・身体的差以外は差別をなくす。
- ・男女の身心の特性は認知したうえで、制度設計するべき。
- ・女性が“社会進出したい”ともっとすすんで意思をもてるような教育
- ・教育現場小さい時よりの勉強
- ・幼少期からの教育、生活の中で体験できる機会を多様につくる。
- ・もっと広報に力を入れ、市民に徹底すること。
- ・詳細な情報が必要。
- ・職場の規模に応じて、保育所、託児所の設置、保育士への給与補助。
- ・職場に子どもを預けられるスペースを作れば良いと思う!
- ・女性の賃金改善。賃金が低いために周囲に劣等感を感じ、社会進出しようとする活力がなくなっていると思う。
- ・パート、非正規の実態を把握するべき
- ・仕事先での育児、介護の福利を充実させる。病児保育の充実。
- ・社会全体が男女共同参画の土壌をつくる。
- ・女性の社会参加の偏見を無くしてほしい。
- ・女性の社会に再復帰できるような制度の設置
- ・年齢の高い政治家にはまだまだ女性を見下している人が多いと思います。政治家の若返り、若い人が未来を見据えた社会を作っていく必要があると思います。
- ・労働時間の短縮
- ・家庭内でも夫が妻に協力し、炊事、洗濯、掃除に関わる。
- ・女性の就業があたり前になっていますが、専業主婦にも目をむけてほしいです。

- 年齢別でみると，20歳代と40歳代は「男性自身が，家事・育児・介護に関わるようにする」，30歳代，50～60歳代は「『女性は(男性は)～であるべき』という固定的な社会通念，習慣・しきたりを改める」，70歳以上は「育児・介護を男女がともに担いやすいように，支援サービスを充実させる」が第1位です。
- 「男性が，家事・育児・介護に参加しやすいように，企業(職場)に働きかける」は，年齢が低いほど高くなっています。「『女性は(男性は)～であるべき』という固定的な社会通念，習慣・しきたりを改める」も同じ傾向がみられます。

【問3】男女が参画しやすい社会にするために重要なこと(あてはまるものすべて選択/年齢別)

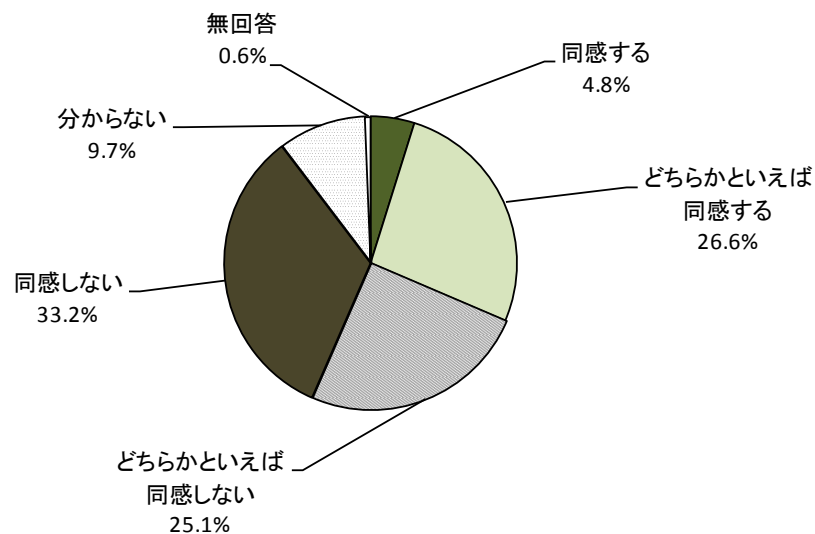


問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(1つだけ選び、番号に○を)

- 「同感しない」(33.2%) が最も高く、「どちらかといえば同感する」(26.6%), 「どちらかといえば同感しない」(25.1%) と続きます。
- 「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合計した“肯定”の回答は 31.4%, 「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」を合計した“否定”の回答は 58.3%で, “否定”の回答が過半数を占めています。

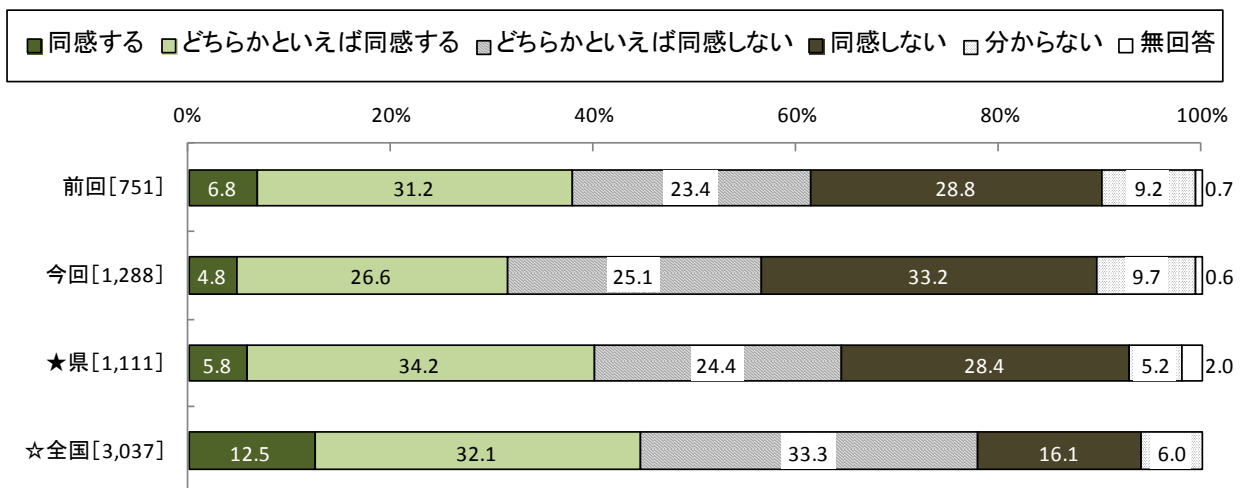
【問4】「男は仕事、女は家庭」という考え方について[1,288]



【前回、県、全国との比較】

- 前回と比較すると、「同感する」「どちらかといえば同感する」が低くなり、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」が高くなっています。
- 県や全国と比較すると, “肯定”の割合は低く, “否定”の割合は高くなっています。

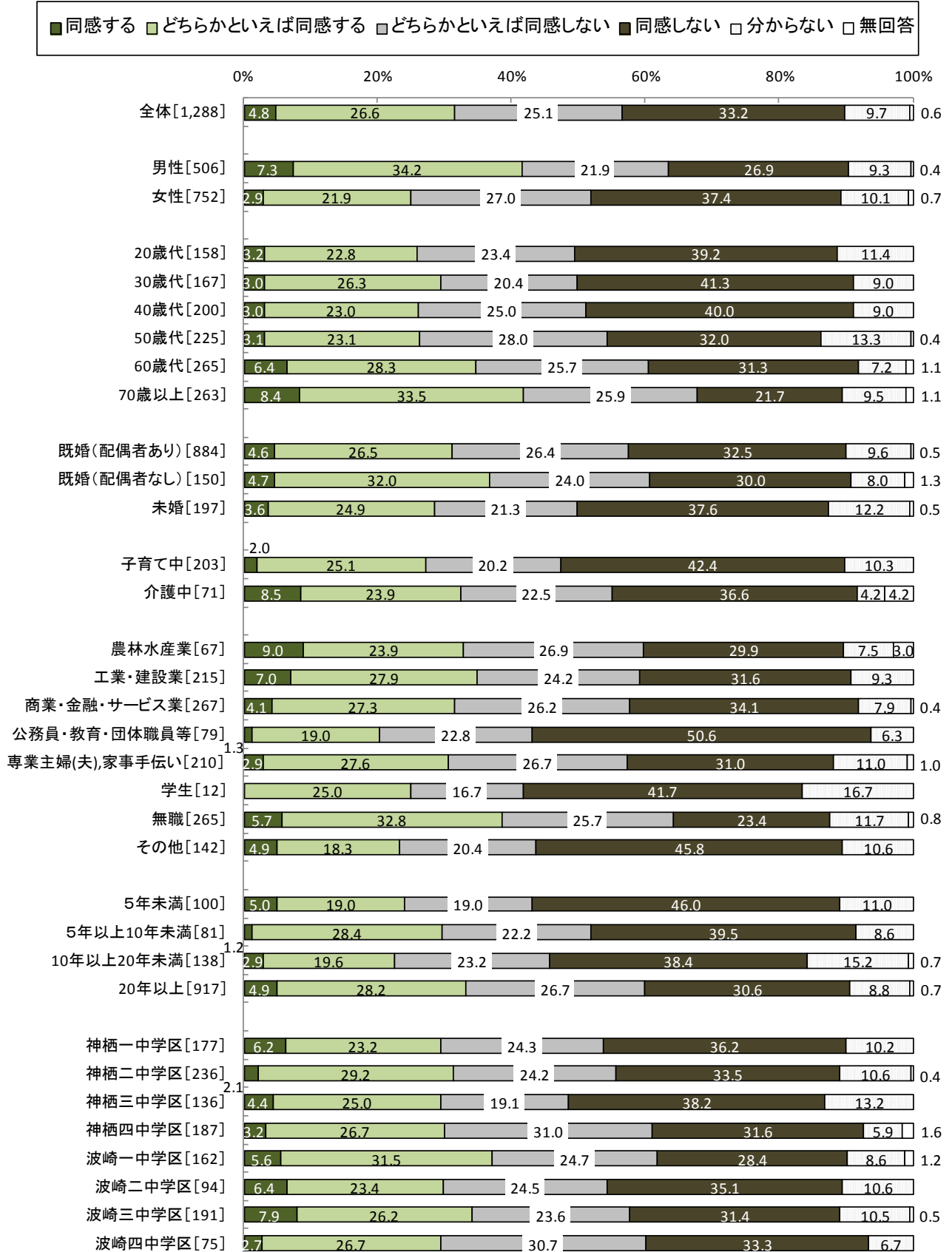
【問4】「男は仕事、女は家庭」という考え方について(前回、県、全国との比較)





- 性別でみると、男性は「どちらかといえば同感する」、女性は「同感しない」が、それぞれ最も高くなっています。
- 年齢別でみると、30歳代を除くと“肯定”の割合は、年齢が高まるほど高くなっています。一方、40歳代以下の年齢は「同感しない」が4割前後を占めています。

【問4】「男は仕事、女は家庭」という考え方について(属性別)

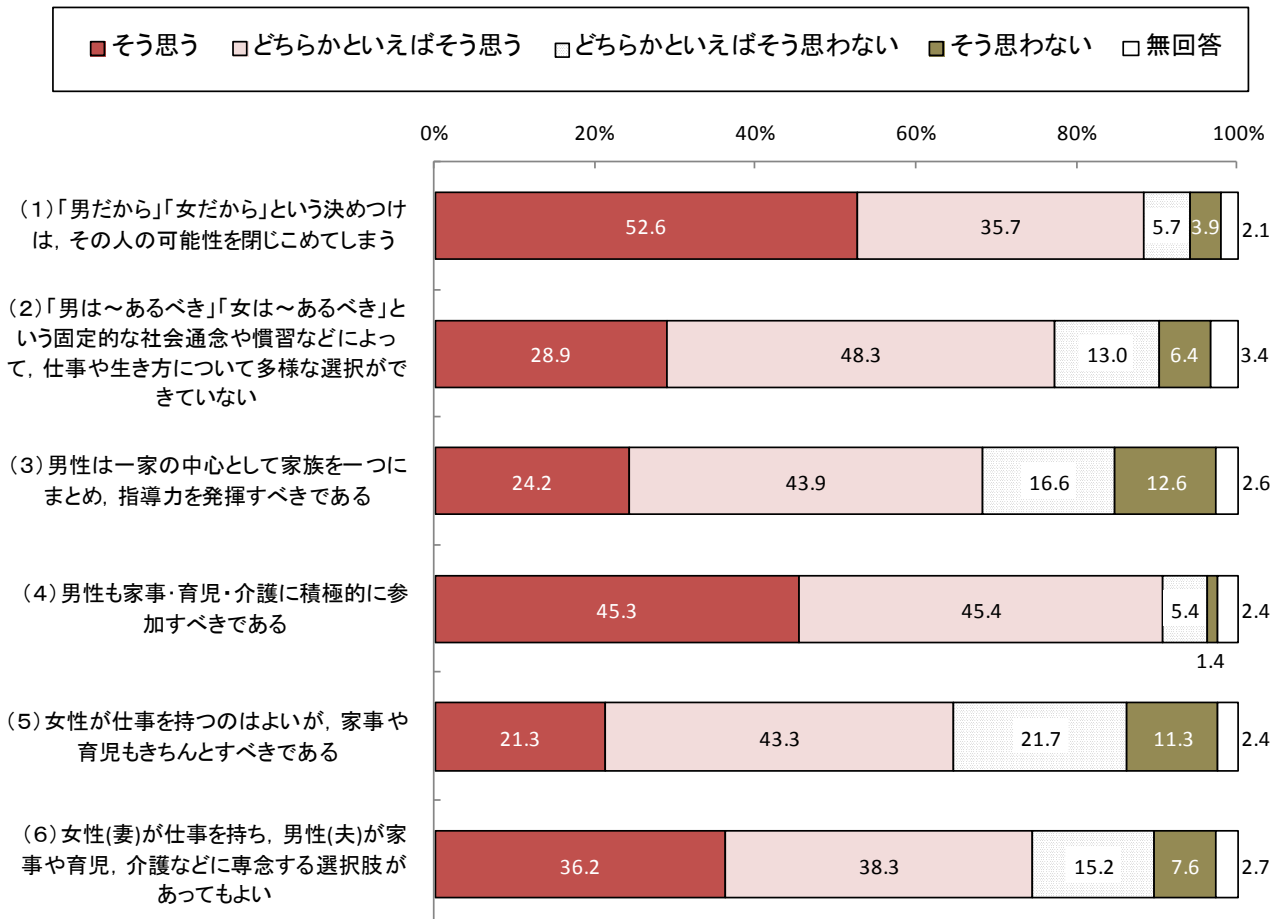


問5 男女の生き方や家庭生活などに関する考え方について

問5 次の考え方について、あなたはどうお考えですか。(それぞれ1つだけ選び、番号に○を)

- 「そう思う」が最も高いのは「(1)「男だから」「女だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう」で、過半数を占めています。次に高いのは、「(4)男性も家事・育児・介護に積極的に参加すべき」です。
- いずれの項目も、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」といった“肯定”の回答が6割以上を占めており、(1)や(4)は、“肯定”の回答が9割前後を占めています。
- 「(3)男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである」や「(5)女性が仕事を持つのはよいが、家事や育児もきちんとすべきである」は、肯定的な割合が高いものの、他の項目に比べると低く、「そう思わない」も約1割を占め、他の項目に比べて高くなっています。

【問5】男女の生き方や家庭生活などに関する考え方[1,288]

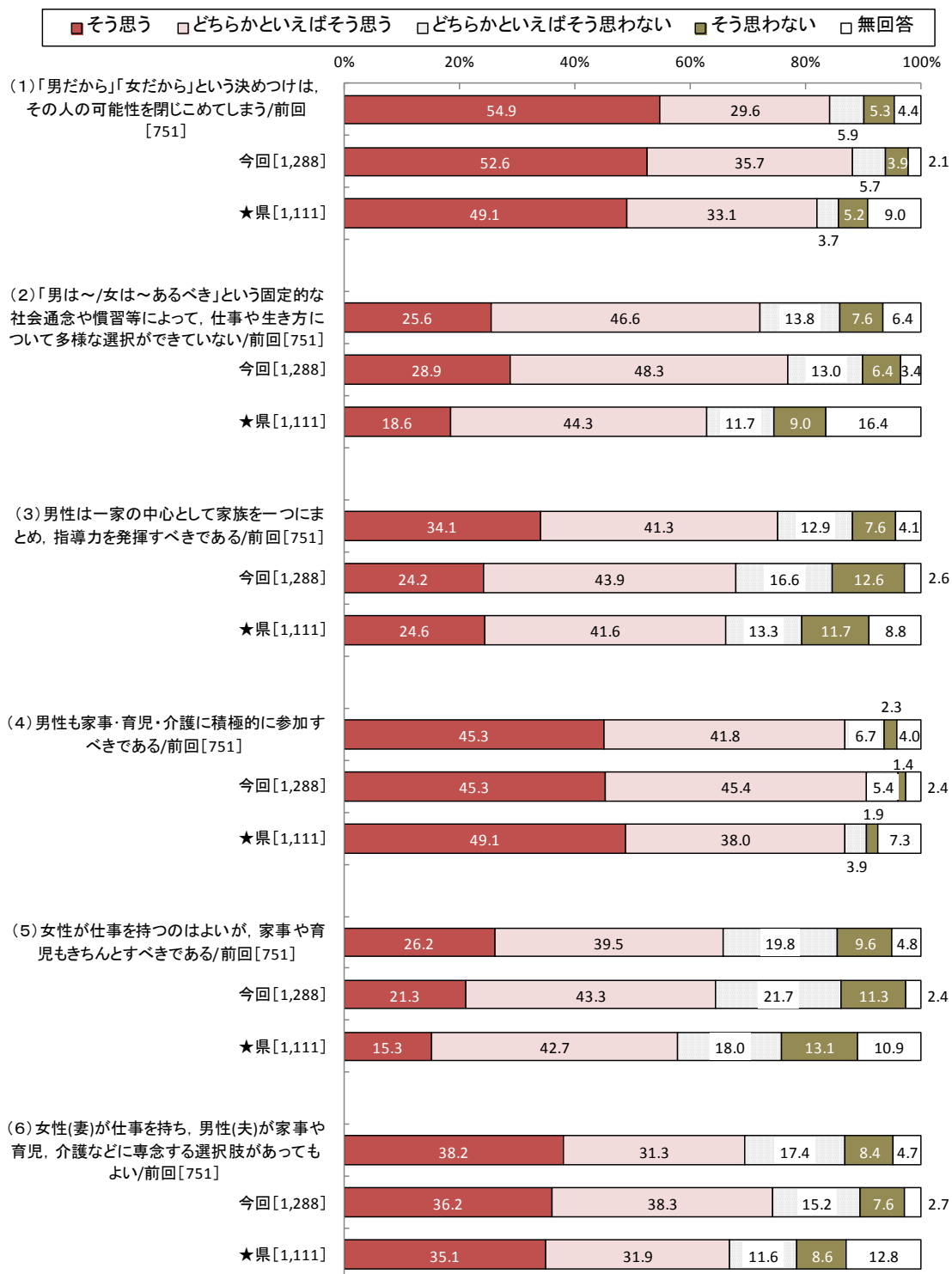


## 【前回、県との比較】

○前回と比較すると、(1)(2)(4)(6)は“肯定”の回答が高くなり、(3)は低くなっています。(5)は“否定”の回答がやや高くなっていますが、他の項目に比べると前回との差が少ないです。

○県と比較すると、県は「無回答(「わからない」も含む)」が高いこともありますが、すべての項目で“肯定”の回答が高くなっています。

【問5】男女の生き方や家庭生活などに関する考え方(前回、県との比較)

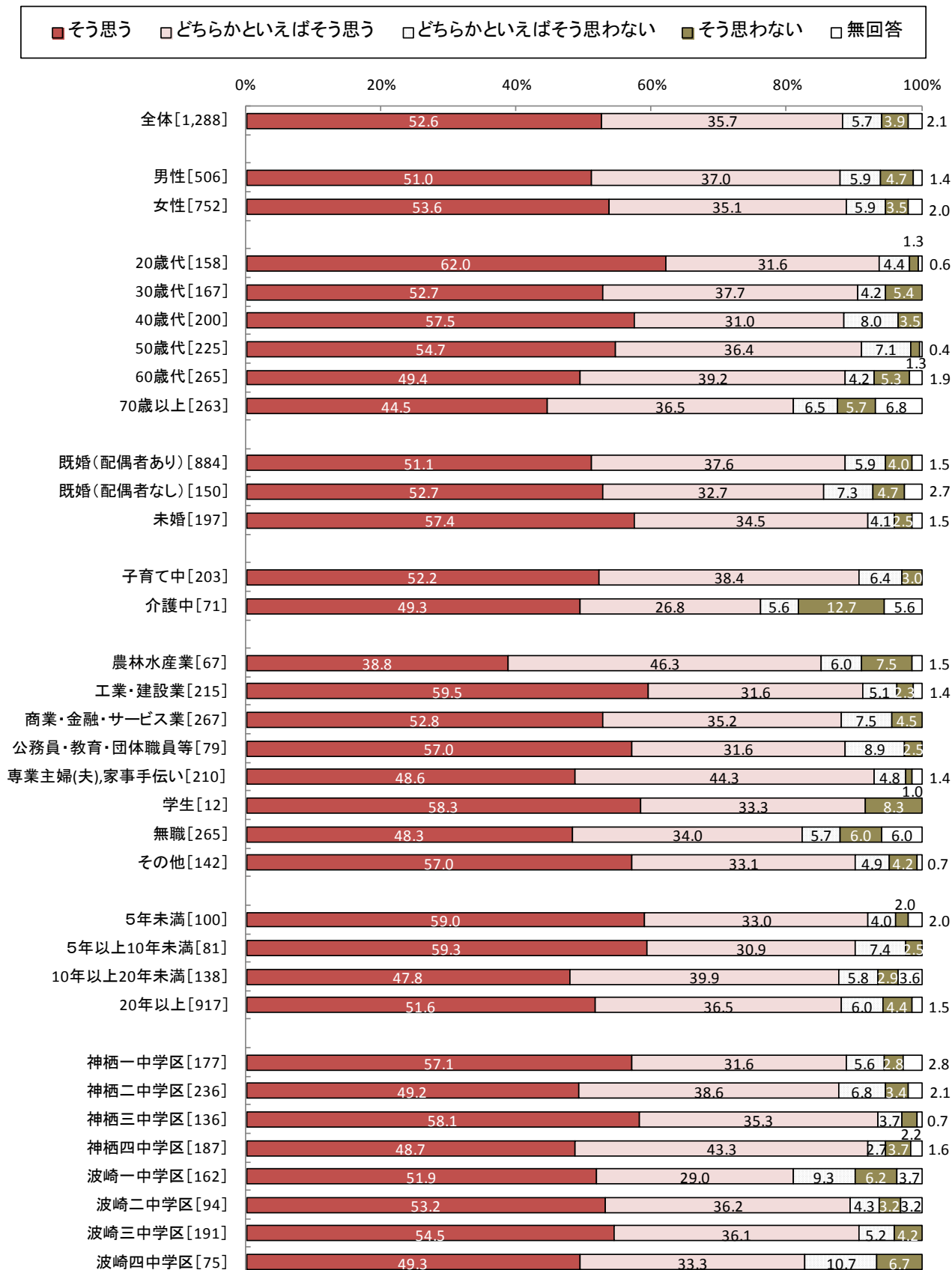


※県は「わからない」という選択肢があります。また、(2)は「社会の意識や制度・慣行によって男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない」という項目です。

(1) 「男だから」「女だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう

- 性別でみると、「そう思う」は女性の方がやや高くなっています。
- 年齢別でみると、30歳代を除くと、年齢が低いほど「そう思う」が高くなっています。

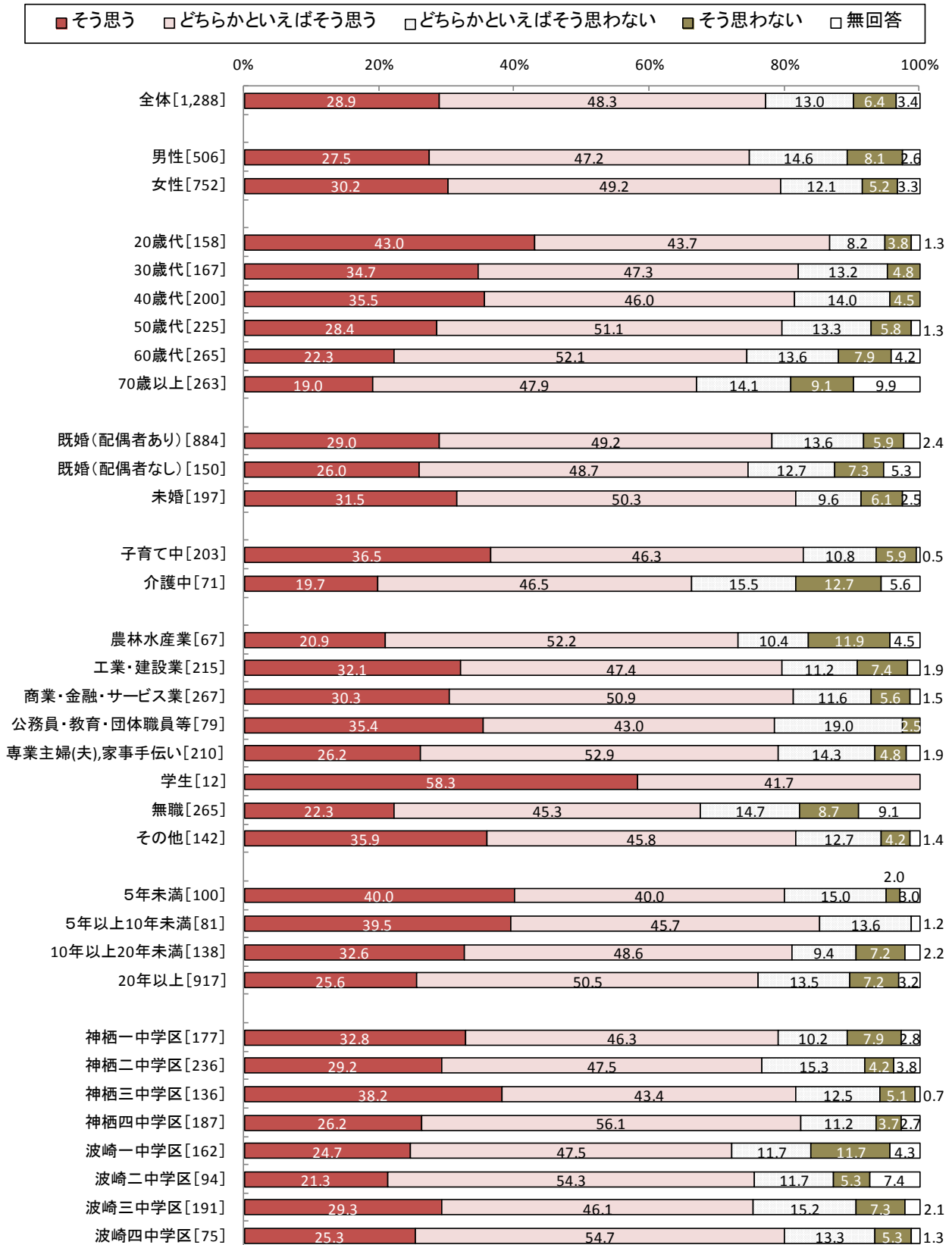
【問5】(1)「男だから」「女だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう(属性別)



(2) 「男は～あるべき」「女は～あるべき」という固定的な社会通念や慣習などによって、仕事や生き方について多様な選択ができていない

- 性別でみると、「そう思う」は女性の方がやや高くなっています。
- 年齢別でみると、年齢が低いほど「そう思う」が高まる傾向にあり、「どちらかといえばそう思う」と合計した“肯定”の回答は、年齢が低いほど高くなっています。

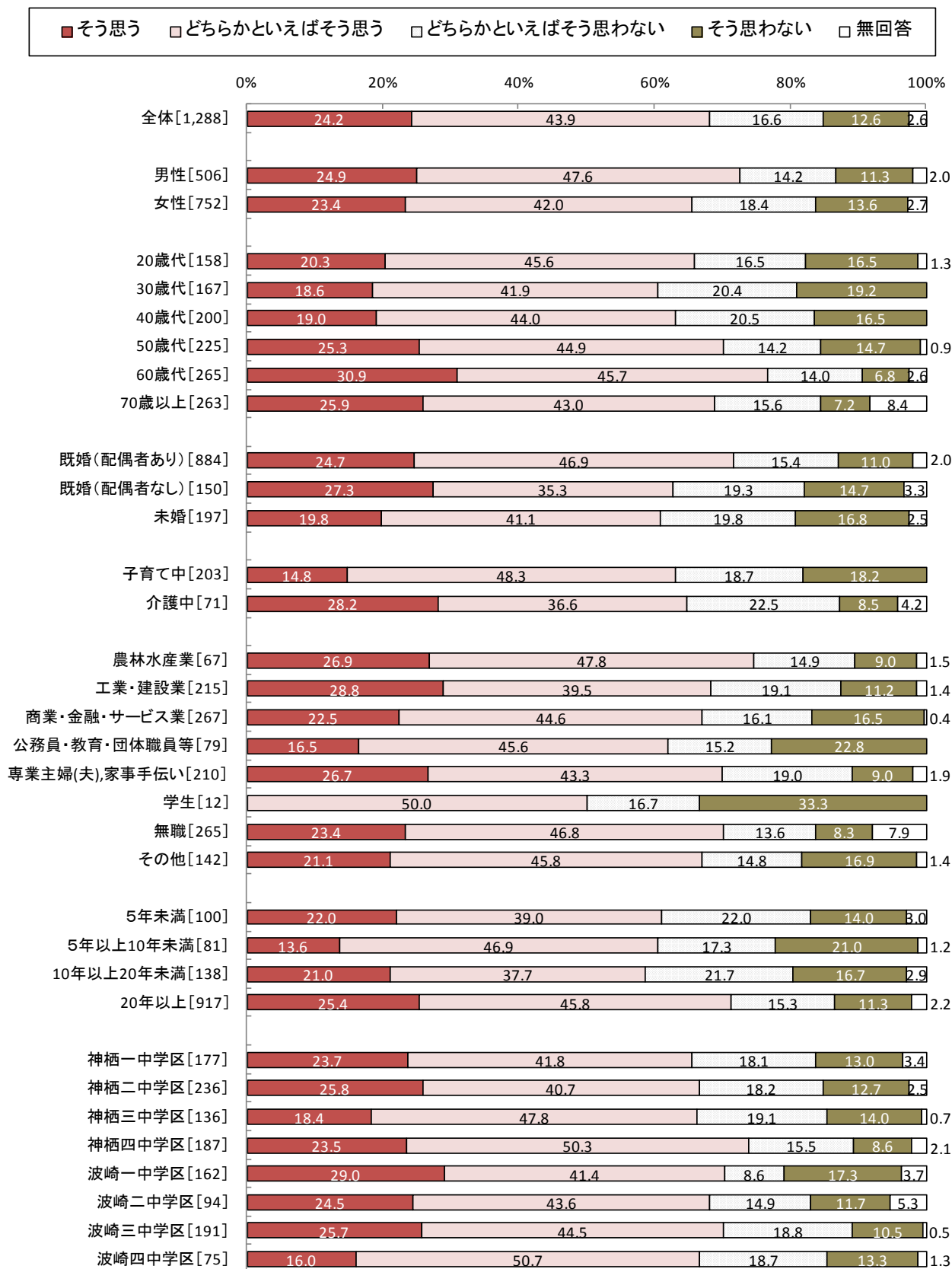
【問5】(2)「男は～あるべき」「女は～あるべき」という固定的な社会通念や慣習などによって、仕事や生き方について多様な選択ができていない(属性別)



(3) 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである

- 性別でみると、「どちらかといえばそう思う」は男性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、30～60歳代は、年齢が高くなるほど「そう思う」「どちらかといえばそう思う」とも高くなっています。その一方で、30～40歳代は「どちらかといえばそう思わない」が約2割を占めています。

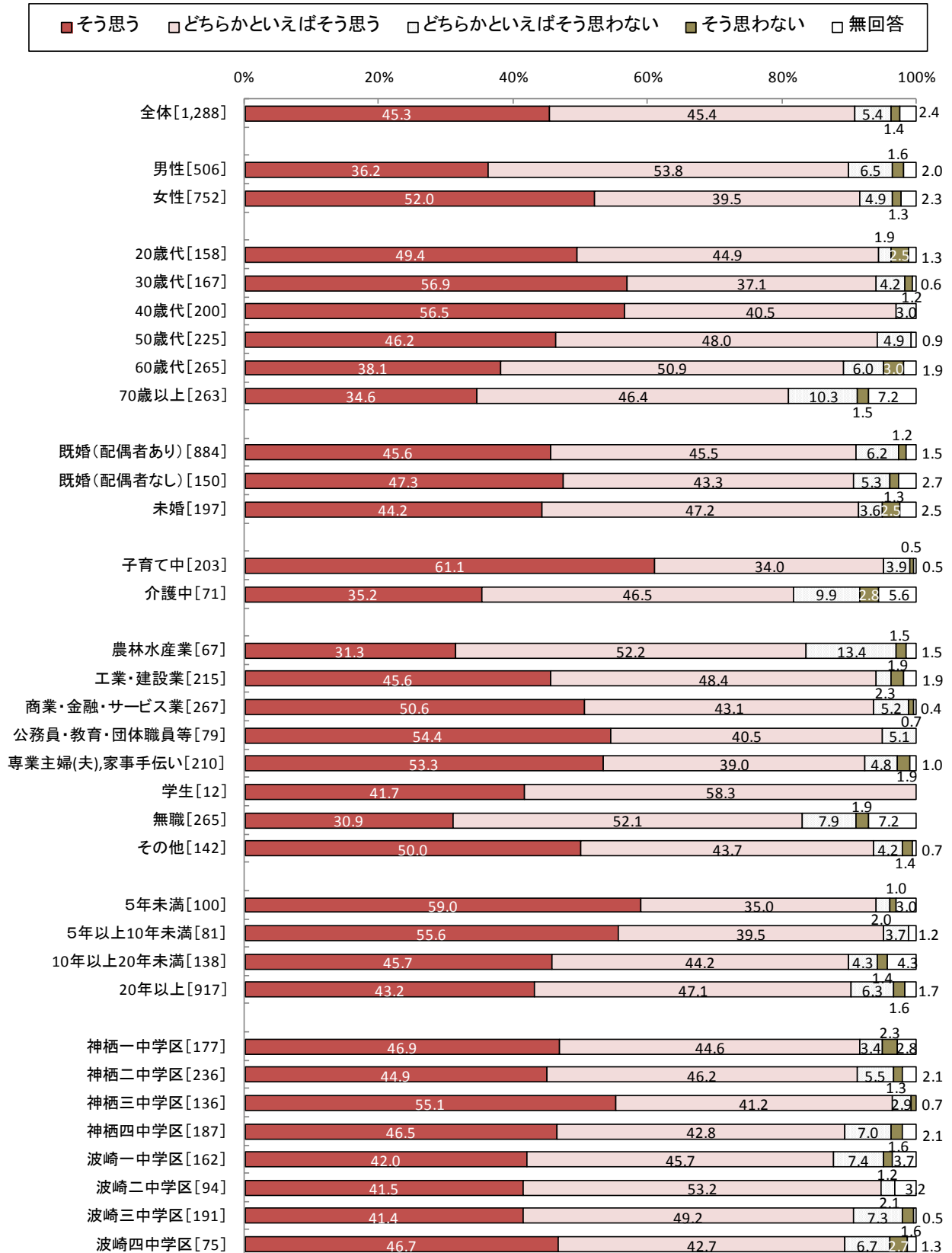
【問5】(3)男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである(属性別)



(4) 男性も家事・育児・介護に積極的に参加すべきである

- 性別でみると、男性は「どちらかといえばそう思う」、女性は「そう思う」が過半数を占め、“肯定”の回答は、ほぼ同じ程度です。
- 年齢別でみると、「そう思う」は30～40歳代で過半数を占めています。
- 子育て、介護の状況別でみると、子育て中の回答者は「そう思う」が約6割を占めています。

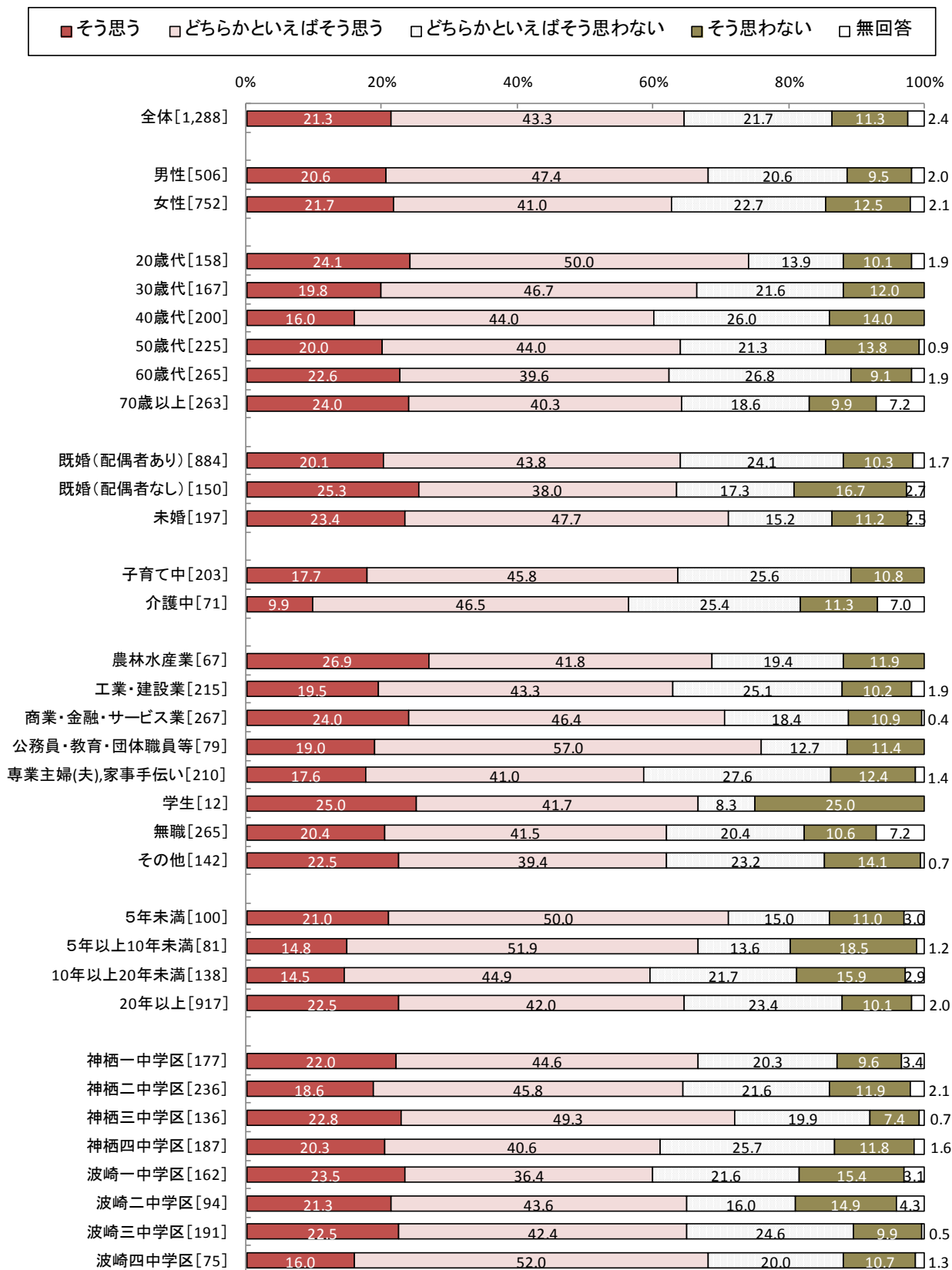
【問5】(4)男性も家事・育児・介護に積極的に参加すべきである(属性別)



(5) 女性が仕事を持つのはよいが、家事や育児もきちんとすべきである

- 性別でみると、「どちらかといえばそう思う」は男性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「どちらかといえばそう思う」は20歳代で高く、半数を占めています。一方、「肯定」の回答が最も低く、「否定」の回答が最も高いのは40歳代です。

【問5】(5)女性が仕事を持つのはよいが、家事や育児もきちんとすべきである(属性別)

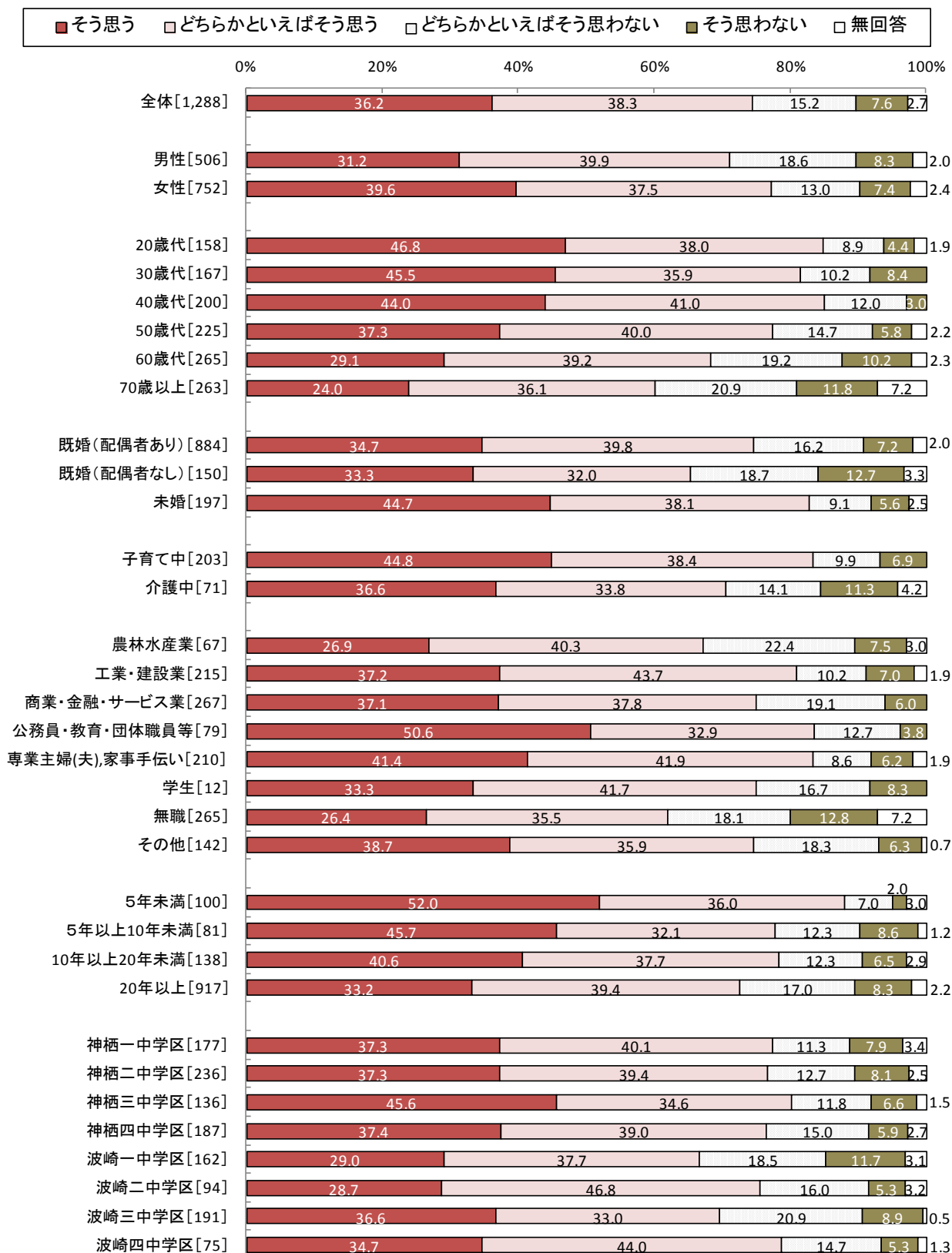




(6) 女性(妻)が仕事をもち、男性(夫)が家事や育児、介護等に専念する選択肢があってもよい

- 性別でみると、「そう思う」は女性の方が高く、「どちらかといえばそう思わない」は男性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「そう思う」は年齢が低いほど高くなっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」は、60歳代以上の年齢では2割前後を占めています。

【問5】(6)女性(妻)が仕事をもち、男性(夫)が家事や育児、介護などに専念する選択肢があってもよい(属性別)

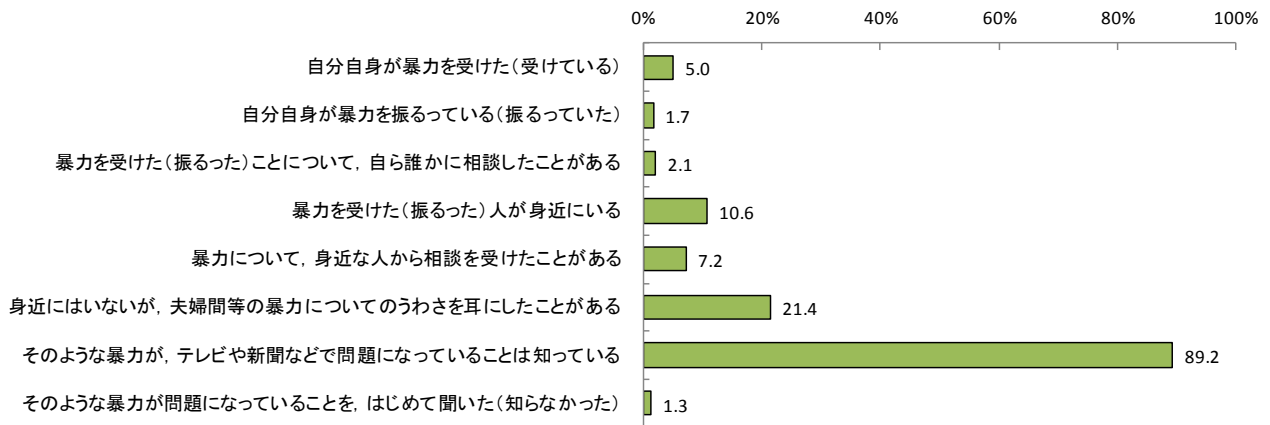


問6 「DV」の認知、経験について

問6 最近、「DV（配偶者や恋人等からの暴力）」が問題になっています。あなたはこれらの暴力について、ご存じでしたか。（あてはまるものすべてを選び、番号に○を）

○「そのような暴力が、テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が89.2%と最も高く、間をあけて、「身近にはいないが、夫婦間等の暴力についてのうわさを耳にしたことがある」(21.4%)が続きます。「自分自身が暴力を受けた（受けている）」は5.0%です。

【問6】「DV」の認知、経験について

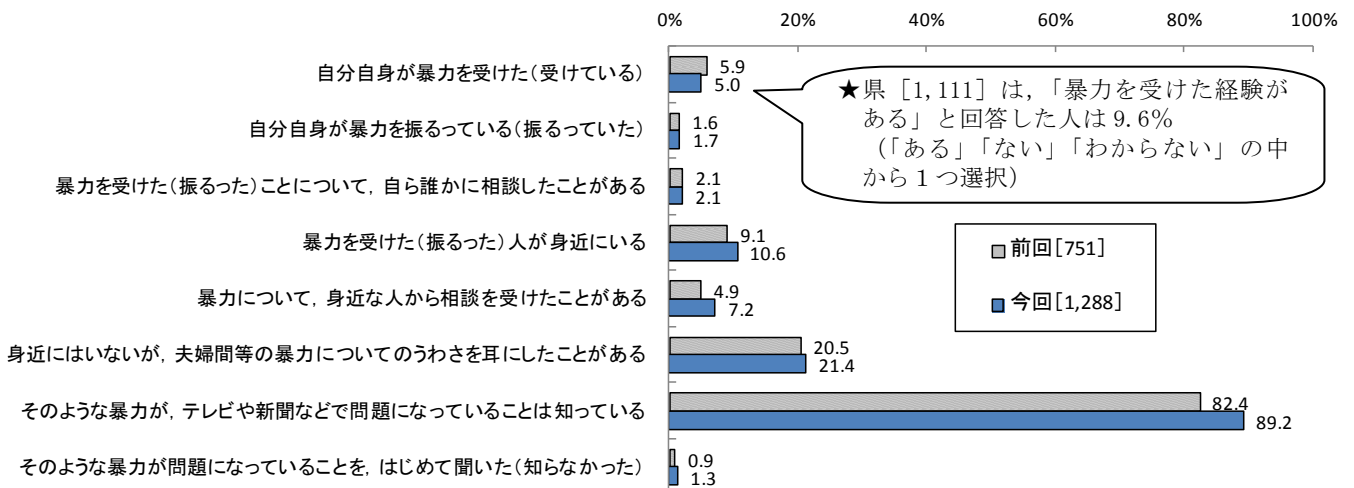


【前回、県との比較】

○前回と比較すると、「自分自身が暴力を受けた（受けている）」は前回よりも低くなっていますが、その他の項目は同じか、高くなっています。しかしながら、全体的に大きな差はなく、前回との差が最も大きいのは「そのような暴力が、テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」です。

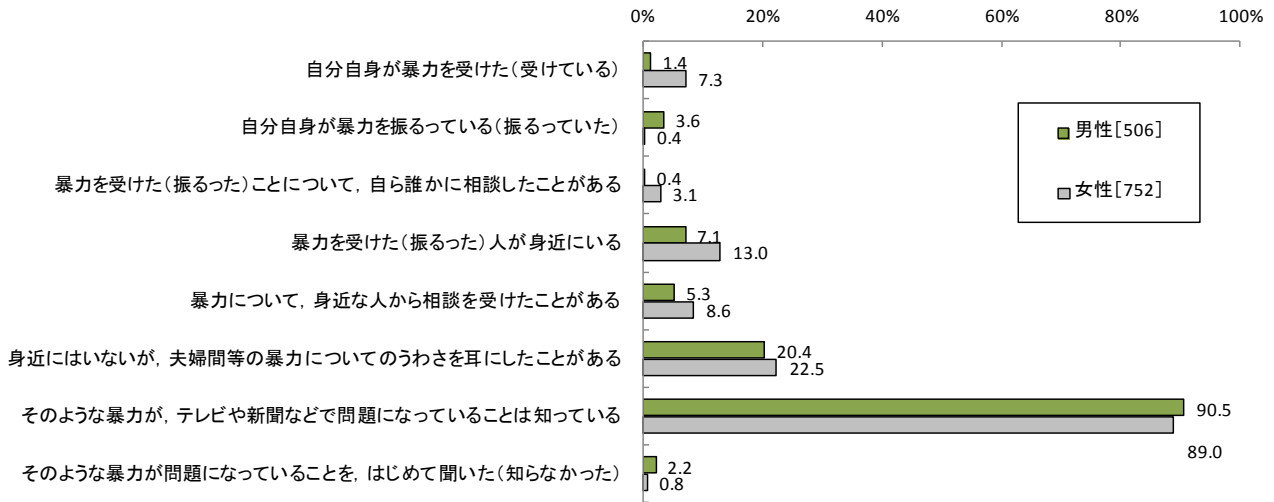
○県では、同じ選択肢での設問はありませんが、暴力を受けた経験があるかどうかを尋ねた設問で「受けた経験がある」と回答した割合は9.6%であり、県よりも低くなっています。

【問6】「DV」の認知、経験について(あてはまるものすべて選択/前回との比較)



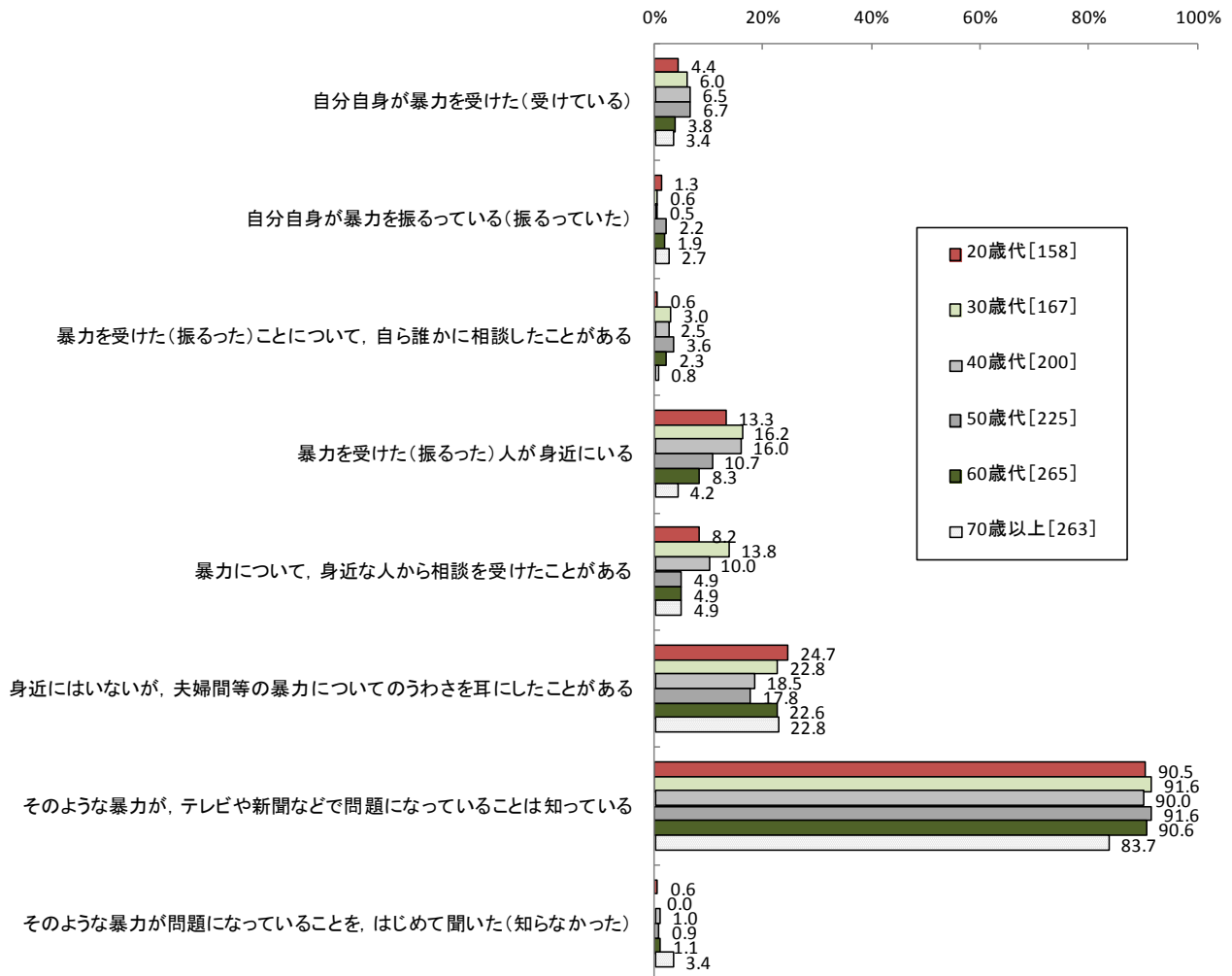
●性別でみると、「自分自身が暴力を受けた（受けている）」や「暴力を受けた（振るつた）人が身近にいる」は女性の方が高くなっています。

【問6】「DV」の認知、経験について(あてはまるものすべて選択/性別)



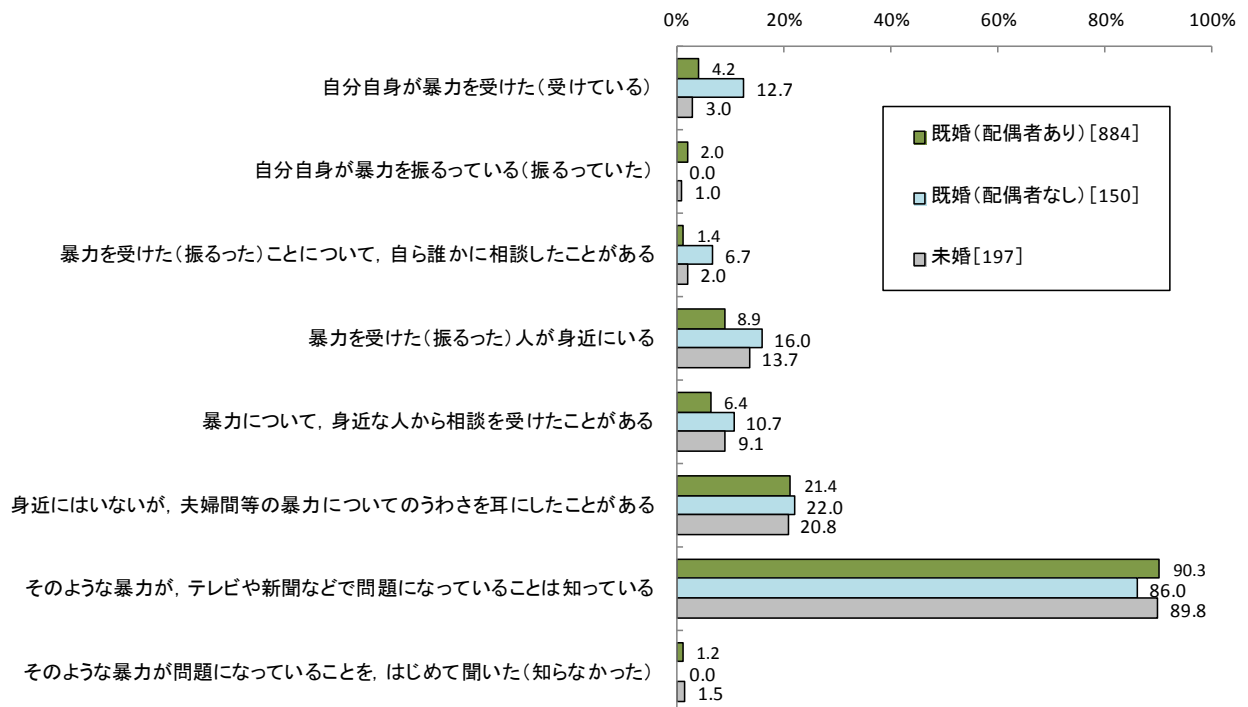
●年齢別でみると、「暴力を受けた（振るつた）人が身近にいる」は 20～50 歳代で、「暴力について、身近な人から相談を受けたことがある」は 30～40 歳代で 10%以上となっています。

【問6】「DV」の認知、経験について(あてはまるものすべて選択/年齢別)



- 未婚，既婚別でみると，「自分自身が暴力を受けた（受けている）」は既婚（配偶者なし），「暴力を受けた（振るった）人が身近にいる」は，既婚（配偶者なし）や未婚で高くなっています。

【問6】「DV」の認知、経験について(あてはまるものすべて選択/未婚、既婚別)

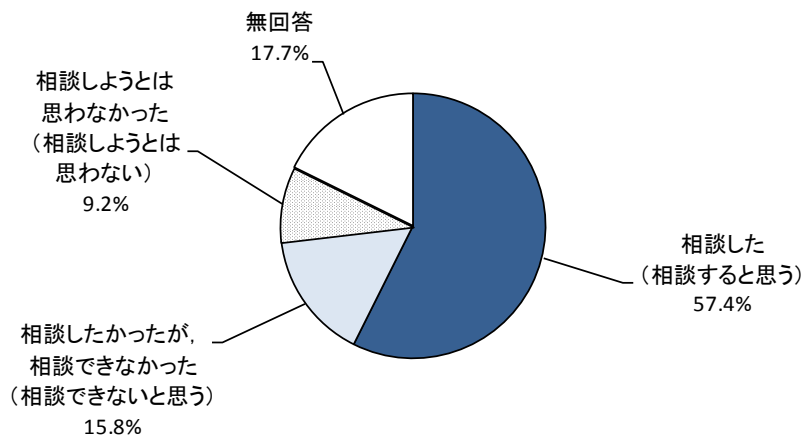


問7 暴力を受けたときの相談の有無

問7 あなたは暴力を受けたとき、誰かに相談しましたか。受けたことがない人は、受けたとき、どうすると思いますか。(1つだけ選び、番号に○を)

○「相談した(相談すると思う)」が57.4%と最も高く、過半数を占めています。次に割合が高いのは「無回答」(17.7%)ですが、「相談しなかったが、相談できなかった(相談できないと思う)」(15.8%)、「相談しようとは思わなかった(相談しようとは思わない)」(9.2%)と続きます。

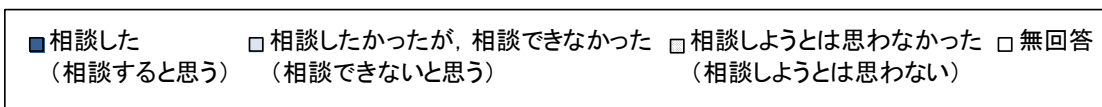
【問7】暴力を受けたとき、誰かに相談しましたか(すると思いますか) [1,288]



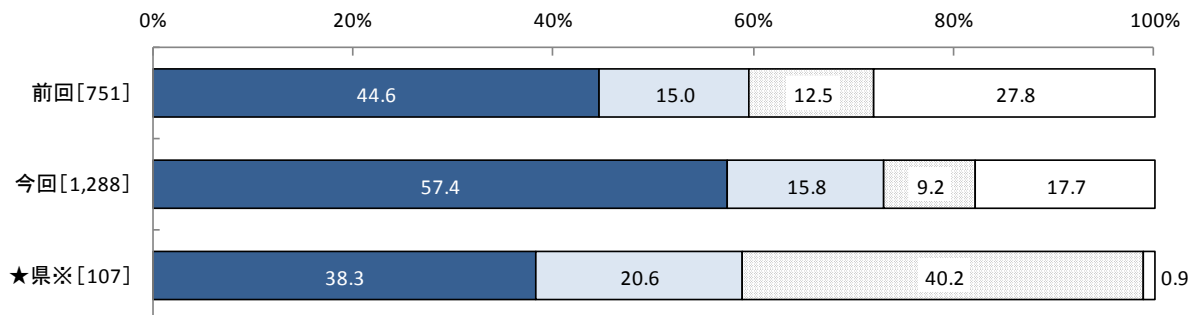
【前回、県との比較】

○前回と比較すると、「相談した(相談すると思う)」が高くなっています。  
 ○県と比較すると、県は、実際に暴力を受けた回答者のみの回答のため違いはありますが、「相談した(相談すると思う)」が高くなっています。

【問7】暴力を受けたとき、誰かに相談しましたか(すると思いますか) (前回、県との比較)

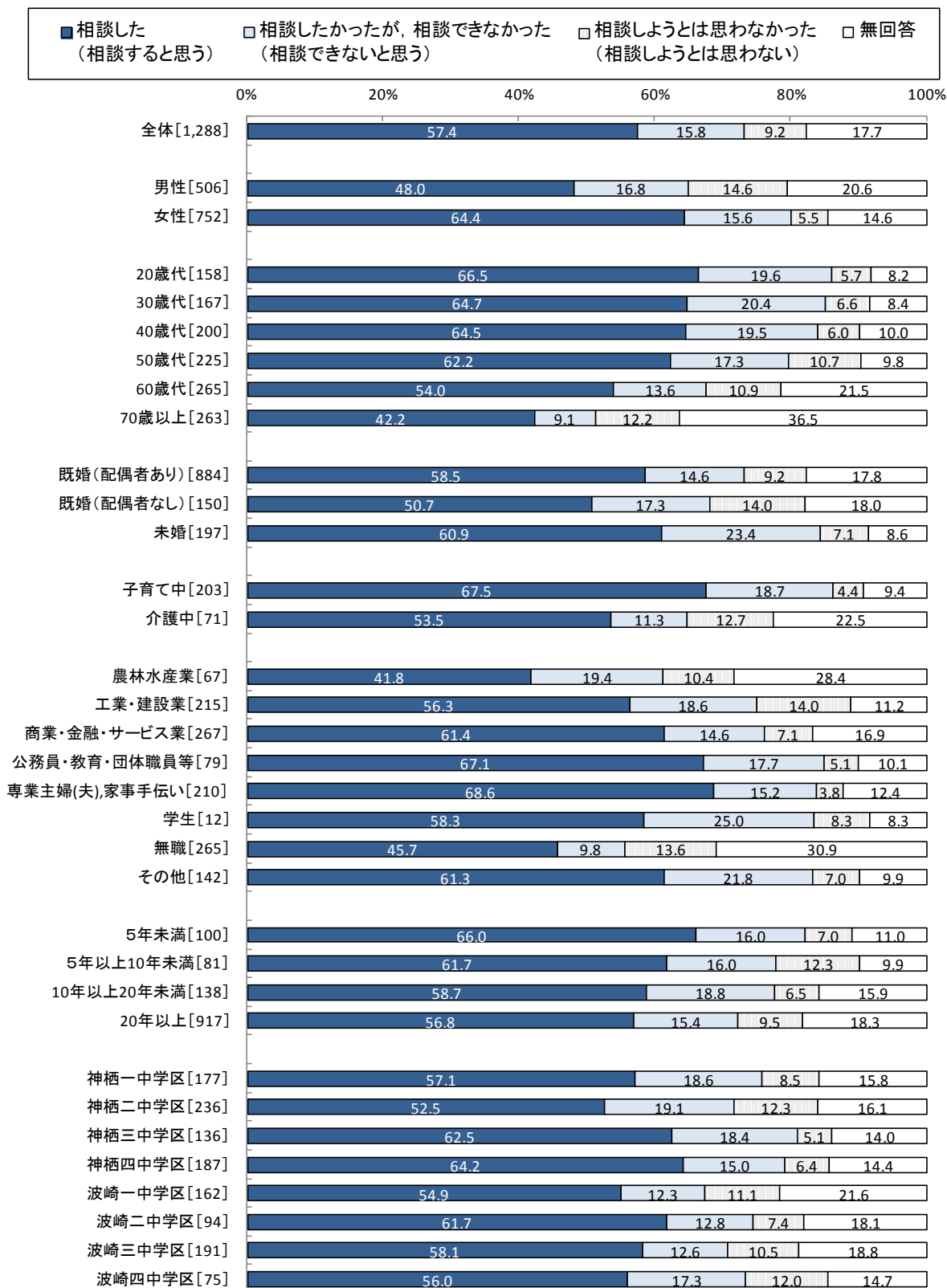


※県は、実際に暴力を受けた回答者のみ回答。



- 性別でみると、「相談した（相談すると思う）」は女性の方が高く、6割以上を占めています。一方、「相談しようとは思わなかった（相談しようとは思わない）」は男性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、「相談した（相談すると思う）」は年齢が低いほど高くなっています。一方、20～40歳代は「相談したかったが、相談できなかった（相談できないと思う）」が2割前後、50歳代以上は「相談しようとは思わなかった（相談しようとは思わない）」が1割前後を占め、それぞれ、他の年齢よりも高くなっています。

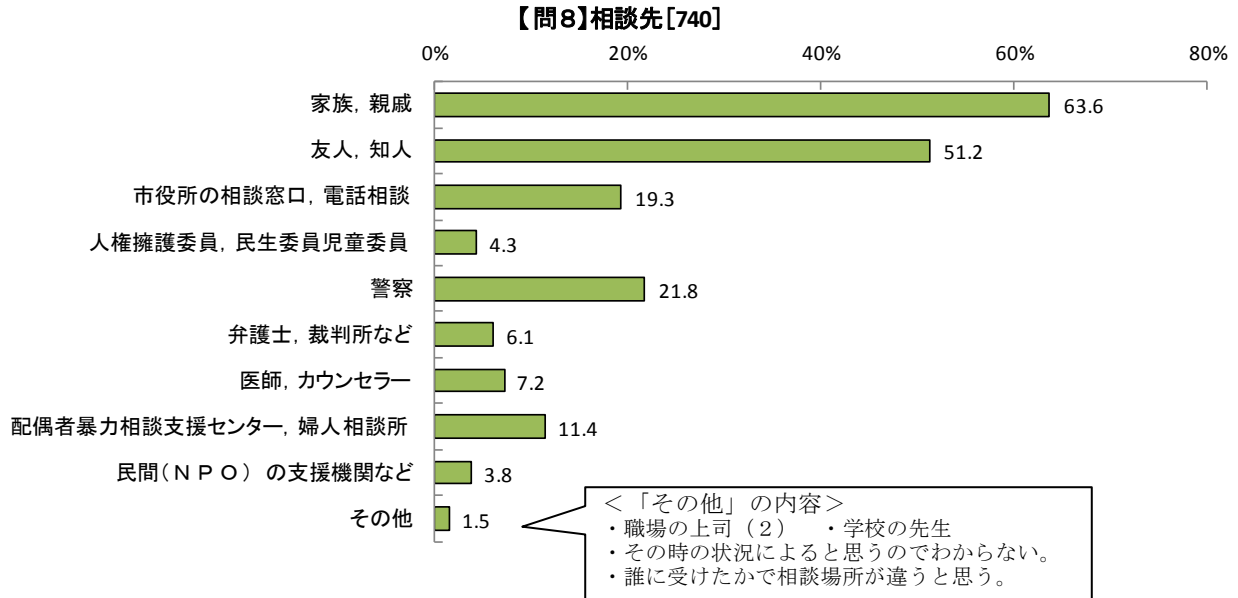
【問7】暴力を受けたとき、誰かに相談しましたか(すると思いますか)(属性別)



## 問8 相談先

問8 問7で「1 相談した(相談すると思う)」に○をつけた方におたずねします。そのとき相談した人(場所)を教えてください。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

○「家族、親戚」が63.6%と最も高く、「友人、知人」(51.2%)が続きます。

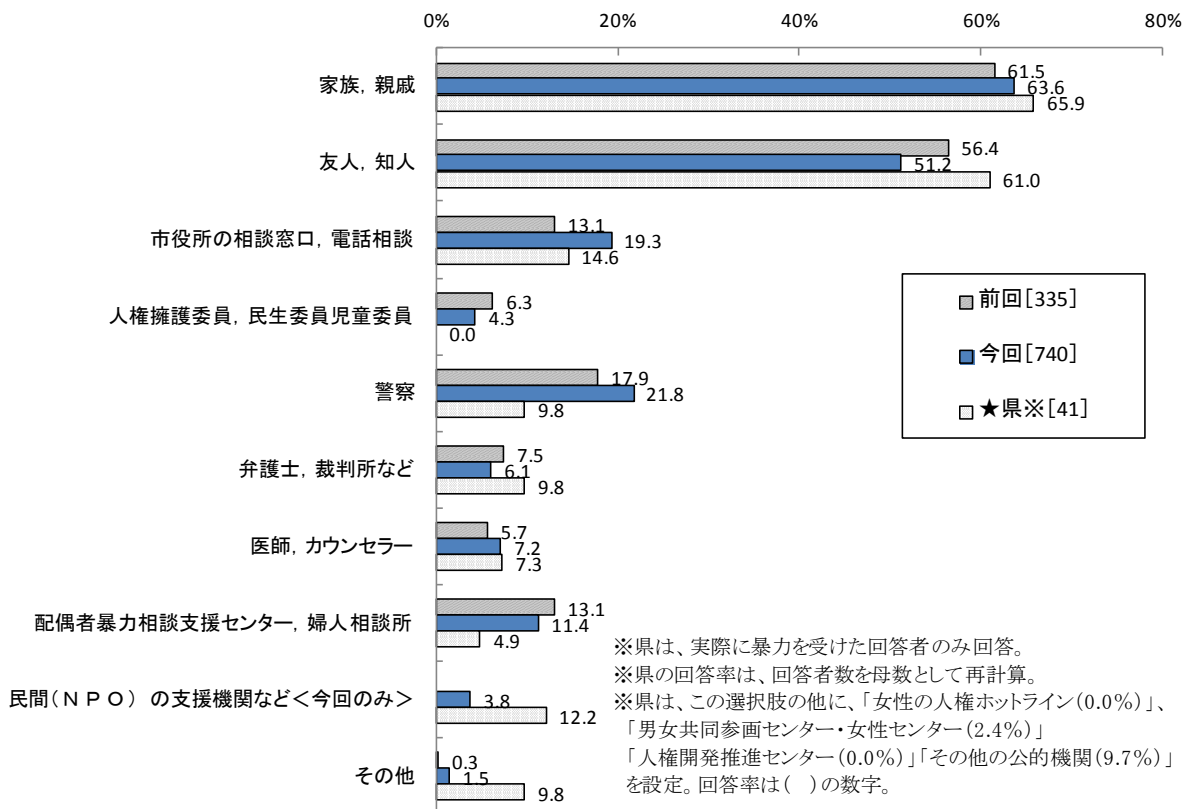


### 【前回、県との比較】

○前回と比較すると、上位2位は同じですが、「家族、親戚」が高く、「友人、知人」が低くなっています。また、「市役所の相談窓口、電話相談」や「警察」は前回に比べて高くなっています。

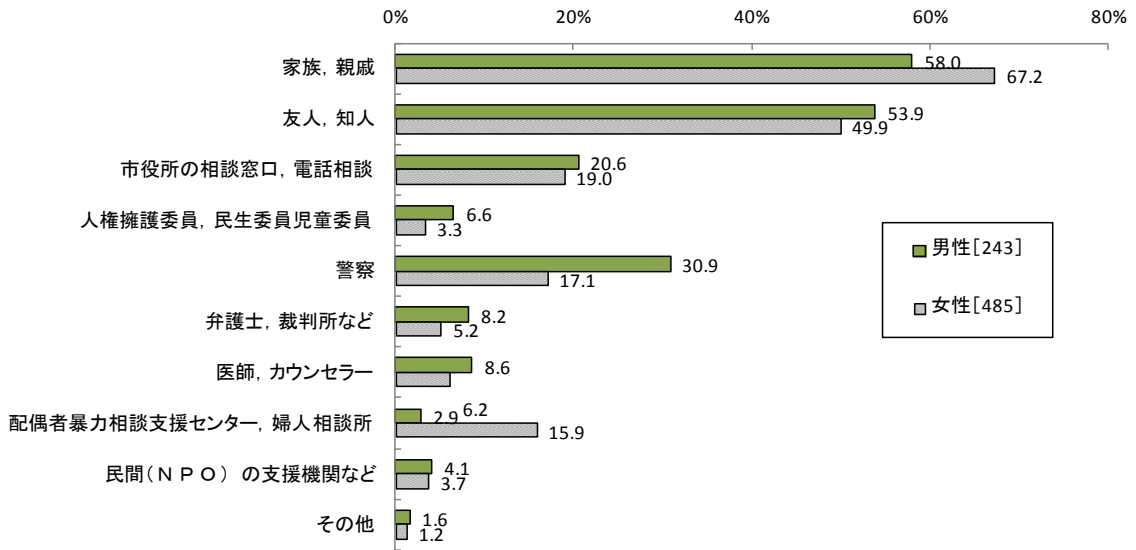
○県と比較すると、県は、実際に暴力を受けた回答者のみの回答で選択肢に違いがありますが、上位2位については県より低く、市役所や警察への相談は高くなっています。

【問8】相談先(あてはまるものすべて選択/前回、県との比較)



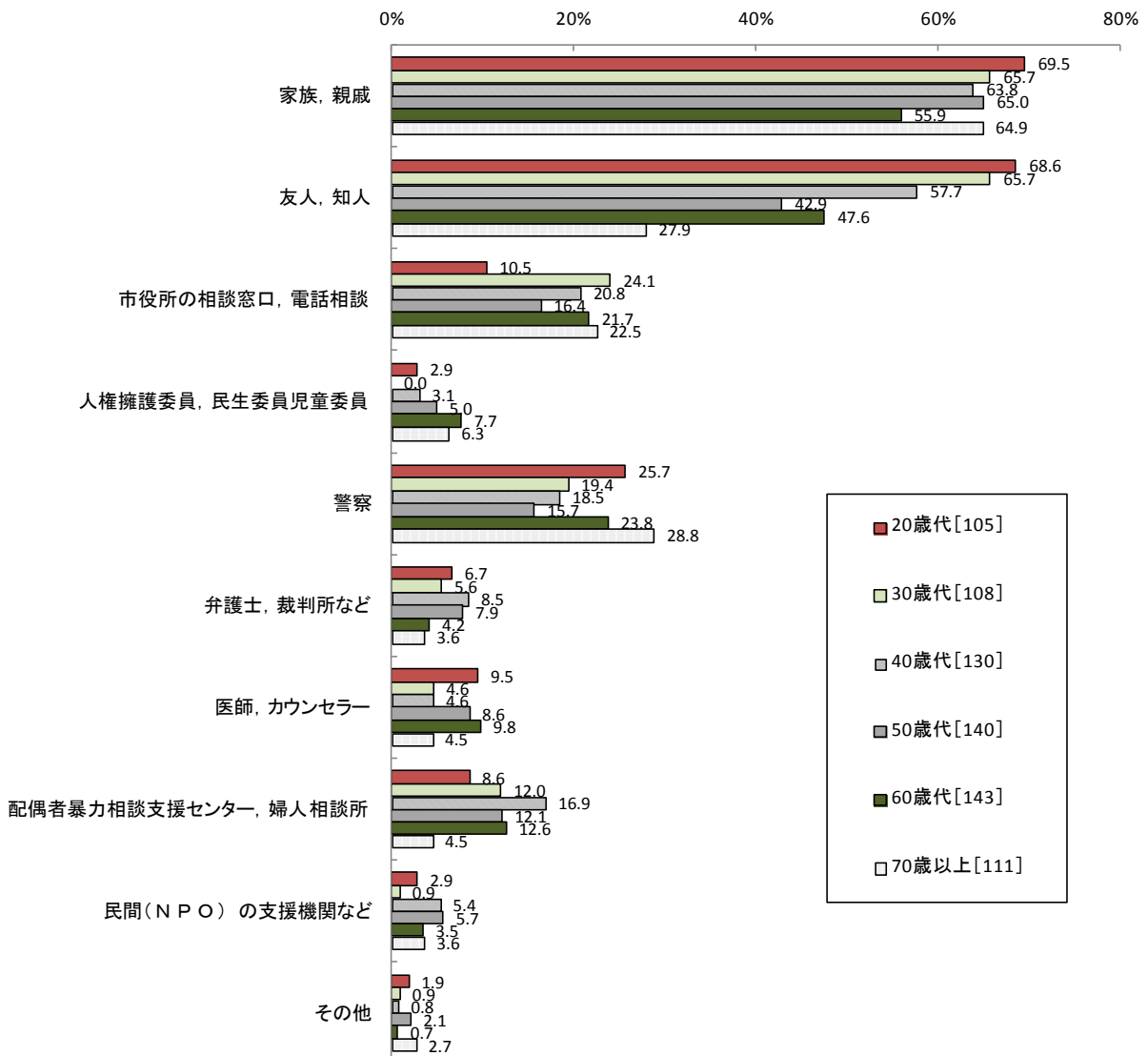
●性別でみると、「家族、親戚」や「配偶者暴力相談支援センター、婦人相談所」は女性、「警察」は男性の方が高く、男女の差が目立ちます。

【問8】相談先(あてはまるものすべて選択/性別)



●年齢別でみると、「友人、知人」は、50歳代を除くと年齢が低いほど高くなっています。

【問8】相談先(あてはまるものすべて選択/年齢別)



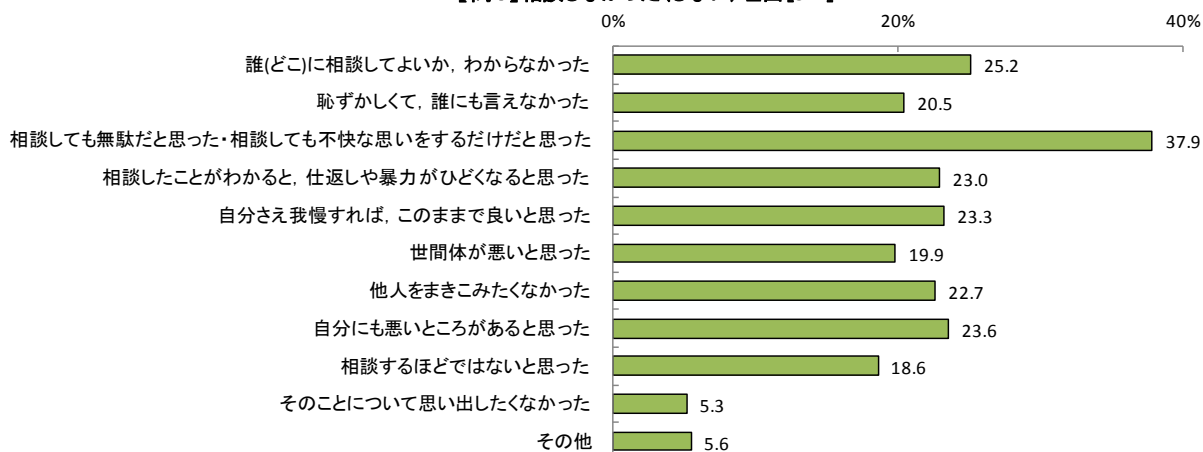


## 問9 相談しなかった(しない)理由

問9 問7で、「2 相談したかったが、相談できなかった(できないと思う)」「3 相談しようとは思わなかった(しようとは思わない)」に○をつけた方におたずねします。相談しなかった(しない)理由を教えてください。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 「相談しても無駄だと思った・相談しても不快な思いをするだけだと思った」(37.9%)が最も高く、やや間をあけて、「誰(どこ)に相談してよいか、わからなかった」(25.2%)、「自分にも悪いところがあると思った」(23.6%)などが僅差で続きます。

【問9】相談しなかった(しない)理由[322]

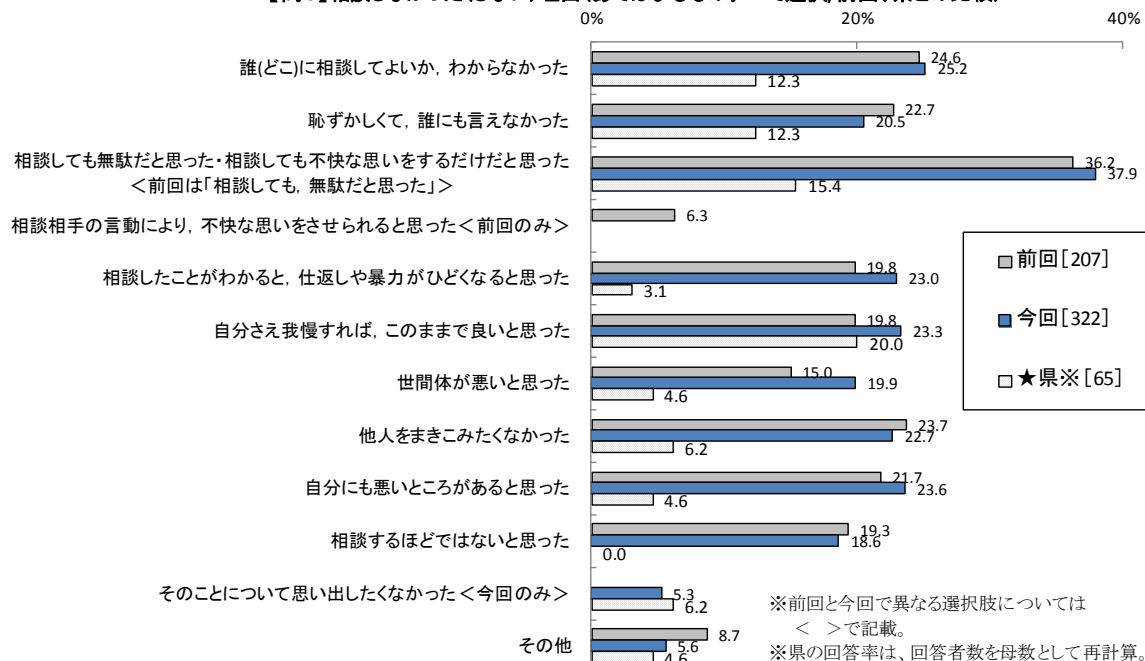


<「その他」の内容> ・相談せずに離婚する、別れる(2) ・1度きりだったので、 ・家族が不幸になると思ったから ・最初の対応が肝要だと思う。徹底的に話し合う。 ・自分の決めた男(女)だからとあきらめ。 ・自分で決着をつける。目には目を… ・すぐ逃げる、またはやり返すので自分で解決できると思う。 ・まずは家庭内で解決すべきかと思う。 ・相談する勇気がないと思う ・相談員が知人だったら嫌だと思う。会いたくない。

### 【前回、県との比較】

- 前回と比較すると、「相談したことがわかると、仕返しや暴力がひどくなると思った」「自分さえ我慢すれば、このままで良いと思った」「世間体が悪いと思った」などで高くなっています。
- 県と比較すると、県は、実際に暴力を受けた回答者のみの回答であり違いがありますが、「自分さえ我慢すれば、このままで良いと思った」が第1位で、市と異なります。

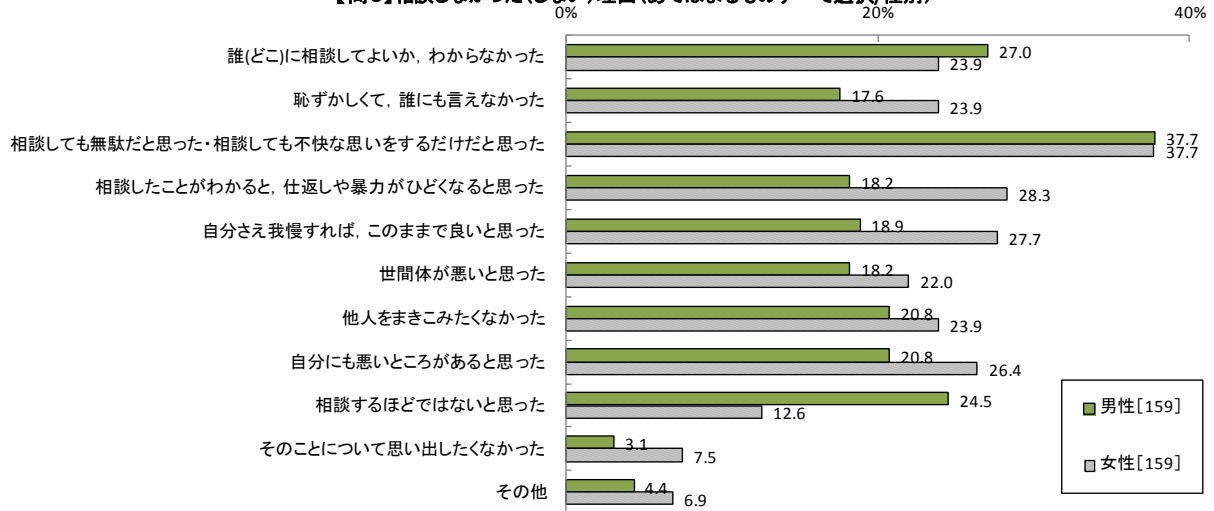
【問9】相談しなかった(しない)理由(あてはまるものすべて選択/前回、県との比較)



※県の選択肢は「誰(どこ)に相談してよいか分らなかったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」「相談したことがわかると仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」「自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思ったから」「世間体が悪いから」「他人を巻き込みたくないから」「思い出したくないから」「自分に悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」

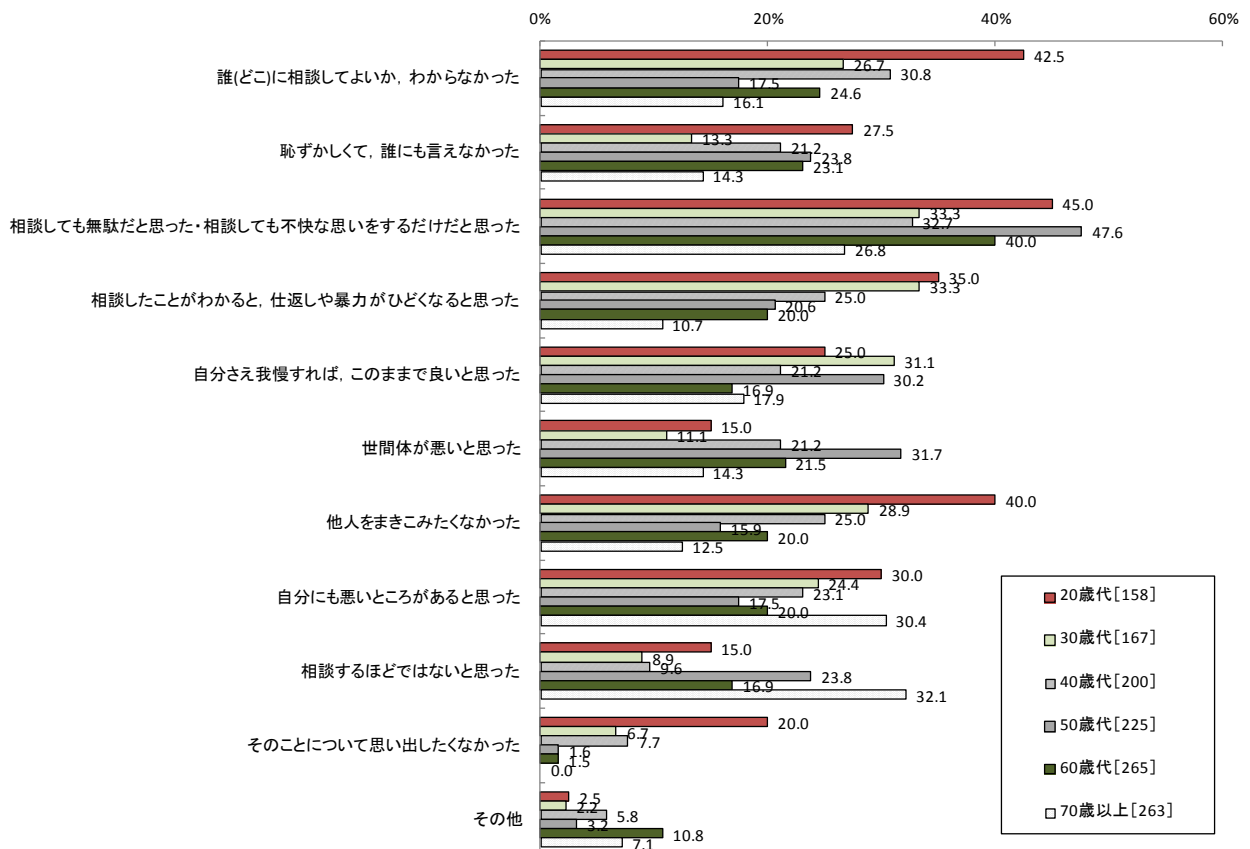
- 性別でみると、男女とも「相談しても無駄だと思った・相談しても不快な思いをするだけだと思った」が第1位です。
- 「相談するほどではないと思った」は男性、「恥ずかしくて、誰にも言えなかった」「相談したことがわかると、仕返しや暴力がひどくなると思った」「自分さえ我慢すれば、このままで良いと思った」は女性が高く、それぞれ、男女の差が目立ちます。

【問9】相談しなかった(しない)理由(あてはまるものすべて選択/性別)



- 年齢別でみると、60歳以下の年齢は「相談しても無駄だと思った・相談しても不快な思いをするだけだと思った」、70歳以上は「相談するほどではないと思った」が第1位です。30歳代は「相談したことがわかると、仕返しや暴力がひどくなると思った」も同率で第1位にあげています。
- 「誰(どこ)に相談してよいか、わからなかった」「他人をまきこみたくなかった」「そのことについて思い出したくなかった」は20歳代、「世間体が悪いと思った」は50歳代の回答率が高く、他の年齢との差が目立ちます。

【問9】相談しなかった(しない)理由(あてはまるものすべて選択/年齢別)



問 10 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況について

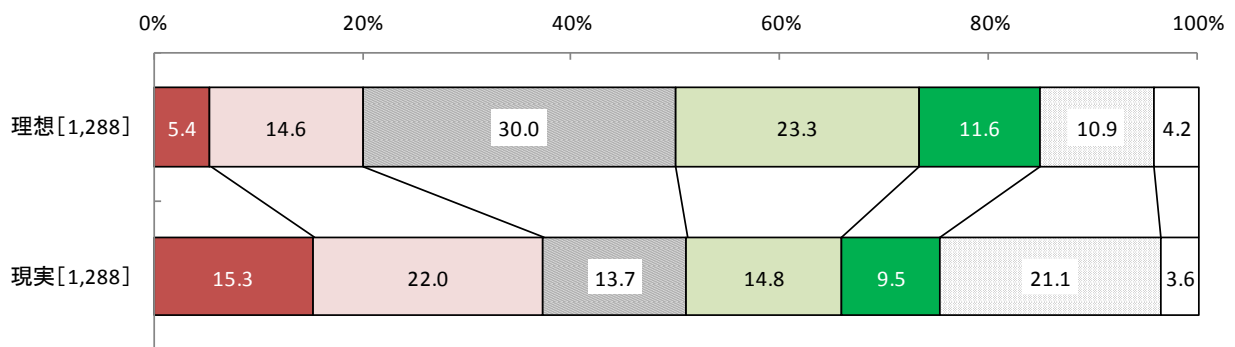
問 10 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況について、「理想」と「現実」はどうか。(それぞれ1つだけ選び、番号に○を)

- ・「仕事」…雇用者として勤務，自営業，家族従業など。契約や勤務形態は問いません。
- ・「家庭生活」…家での生活，家族との生活，家事，育児，介護・看護など。
- ・「地域・個人の生活」…地域活動（ボランティア活動，交際・つきあいなど），学習・研究（学業も含む），趣味・娯楽，スポーツなど。

○理想では、「家庭生活または地域・個人の生活と仕事を両立」が最も高くなっていますが、現実では、「家庭生活または地域・個人の生活にも携わりつつ、仕事を優先」が最も高く、「現在、仕事を行っていない」が僅差で続きます。

【問10】「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況

■「仕事」に専念	□「家庭生活」または「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先	□「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立	□「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域・個人の生活」を優先	■「家庭生活」または「地域・個人の生活」に専念	□よくわからない（現在、仕事を行っていない）※	□無回答
----------	-------------------------------------	------------------------------	-------------------------------------	-------------------------	-------------------------	------



※理想は「よくわからない」、現実は「現在、仕事を行っていない」という選択肢。

○それぞれの選択肢を、「理想」と「現実」で比較すると、次の表のとおりです。両立や家庭・地域・個人の生活を優先、専念は「理想」での割合が高いですが、仕事を優先、専念は「現実」での割合が高くなっています。

※数字は回答率（%）。「理想」と「現実」を比較して%が多い方に網掛け。

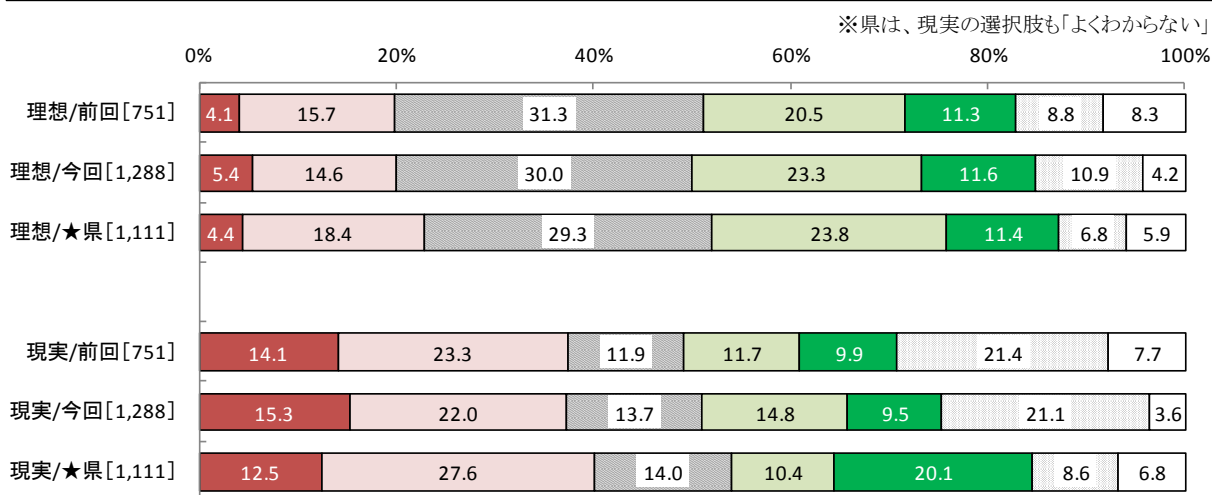
選 択 肢	理想	現実
「仕事」に専念	5.4	15.3
「家庭生活」または「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先	14.6	22.0
「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立	30.0	13.7
「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域・個人の生活」を優先	23.3	14.8
「家庭生活」または「地域・個人の生活」に専念	11.6	9.5
よくわからない（現在、仕事を行っていない）	10.9	21.1

【前回、県との比較】

- 前回と比較すると、理想・現実とも大きな差はみられません。
- 県と比較すると、現実では「よくわからない（現在、仕事を行っていない）」が、県よりも高くなっています。

【問10】「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況(前回、県との比較)

■「仕事」に専念	□「家庭生活」または「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先	□「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立	□「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域・個人の生活」を優先	■「家庭生活」または「地域・個人の生活」に専念	□よくわからない（現在、仕事を行っていない）※	□無回答
----------	-------------------------------------	------------------------------	-------------------------------------	-------------------------	-------------------------	------

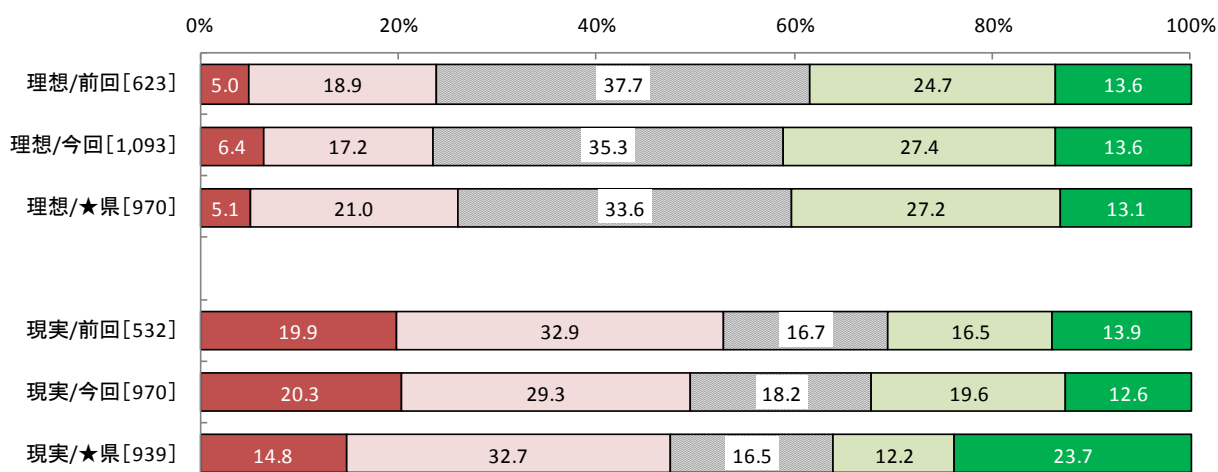


※「よくわからない（現在、仕事を行っていない）」と「無回答」を除いて再計算したグラフで比較を行いました。

- 前回と比較すると、前回も理想は「両立」、現実には「仕事を優先」が最多で、大きな差はみられません。
- 県と比較すると、理想は「両立」、現実には「仕事を優先」が最多という点は県と同じですが、現実で、県よりも「仕事に専念」や「家庭・地域・個人の生活を優先」が高くなっています。

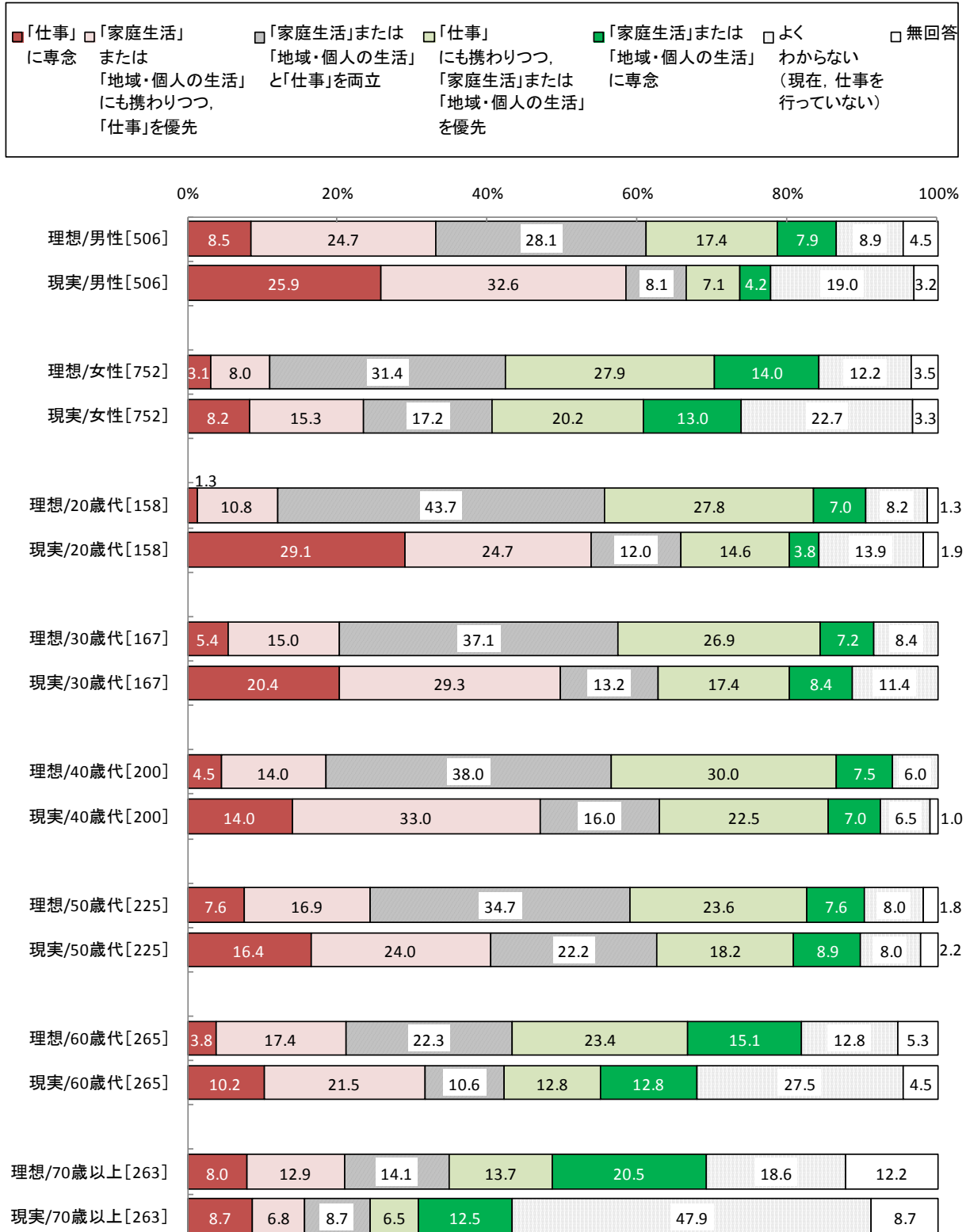
【問10】「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況(前回、県との比較)  
 <「よくわからない(現在仕事を行っていない)」と「無回答」を除いて比較>

■「仕事」に専念	□「家庭生活」または「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先	□「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立	□「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域・個人の生活」を優先	■「家庭生活」または「地域・個人の生活」に専念
----------	-------------------------------------	------------------------------	-------------------------------------	-------------------------

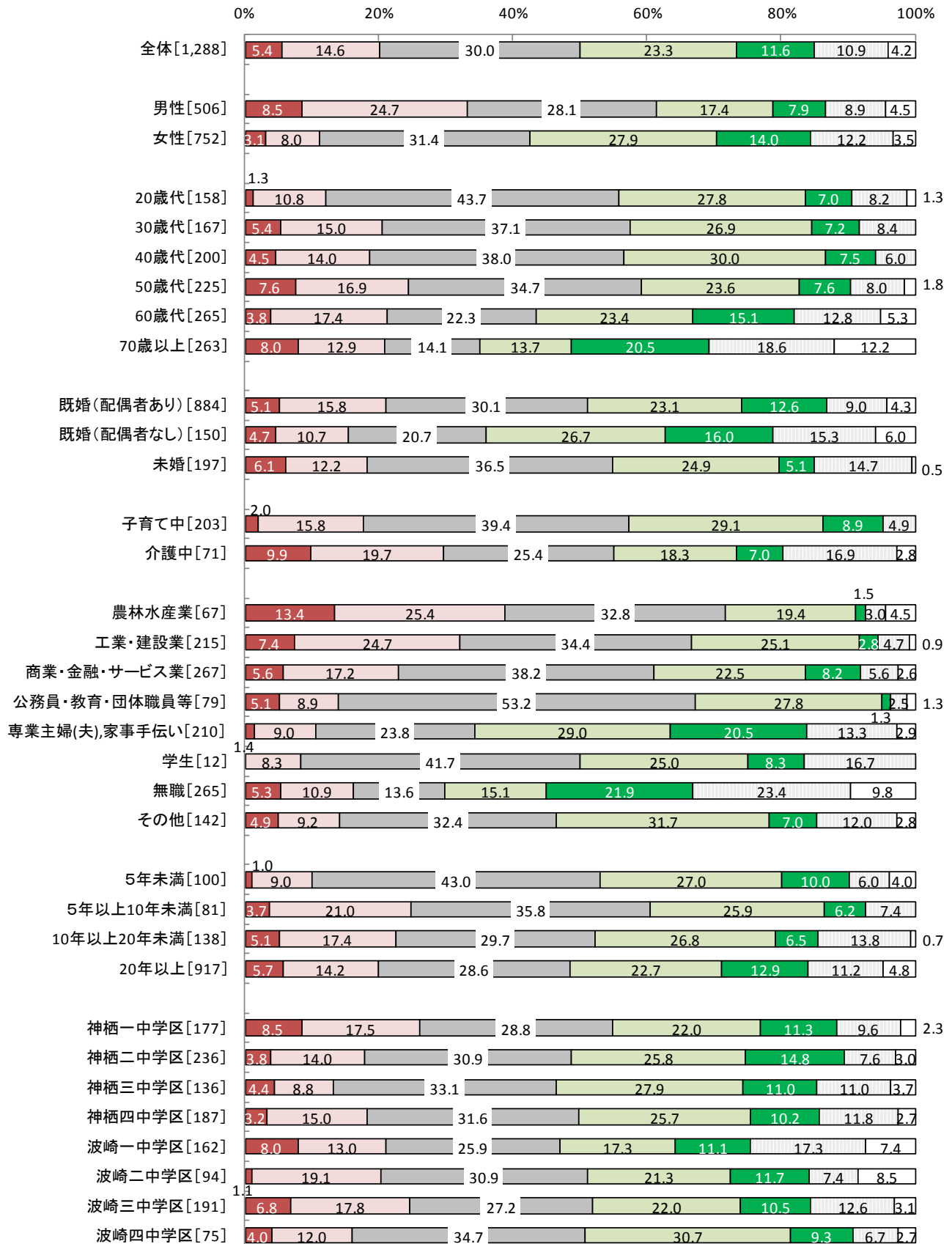
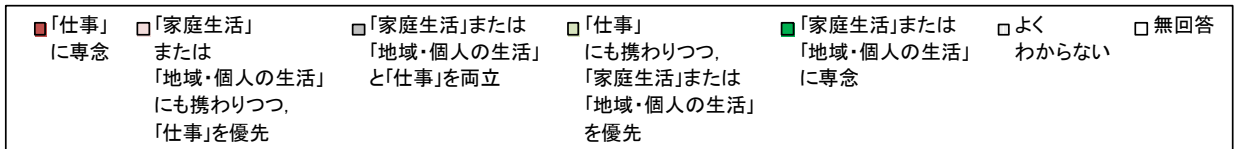


- 性別でみると、男女とも理想について「両立」が最も高くなっていますが、現実では、男性は「仕事を優先」、女性は「現在、仕事を行っていない」が最も高くなっています。
- 年齢別でみると、理想について、50歳代以下の年齢は「両立」、60歳代は「家庭・地域・個人の生活を優先」、70歳以上は「家庭・地域・個人の生活に専念」が最も高くなっていますが、現実では、20歳代は「仕事に専念」、30～50歳代は「仕事を優先」、60歳代以上は「現在、仕事を行っていない」が、それぞれ最も高くなっています。

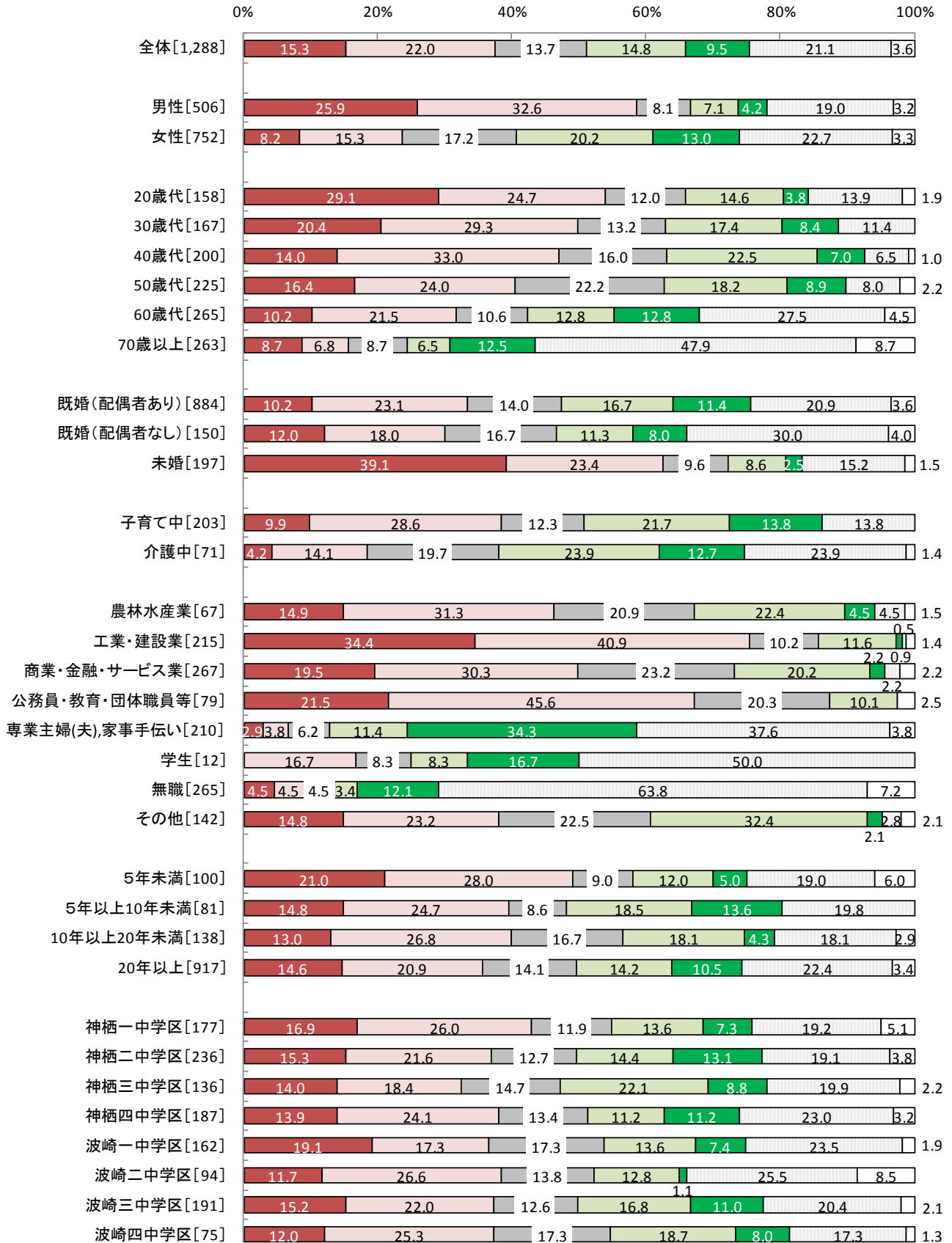
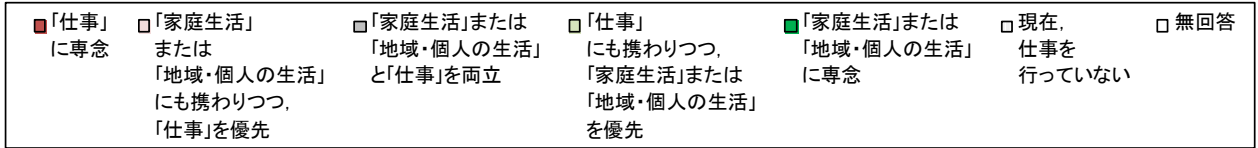
【問10】「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況(性別、年齢別)



【問10】「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況【理想】



【問10】「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況【現実】

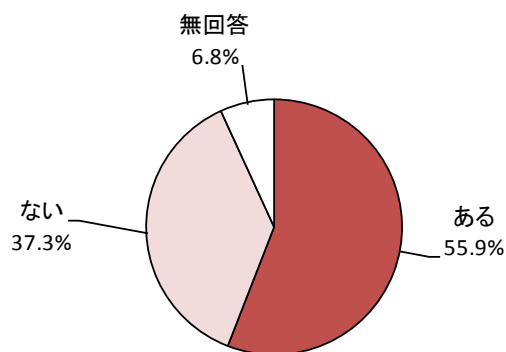


## 問 11 途中で仕事を辞めた経験

問 11 あなたは、途中で仕事を辞めた経験がありますか。  
(1つだけ選び、番号に○を)

○「ある」が55.9%と過半数を占め、「ない」(37.3%)よりも高くなっています。

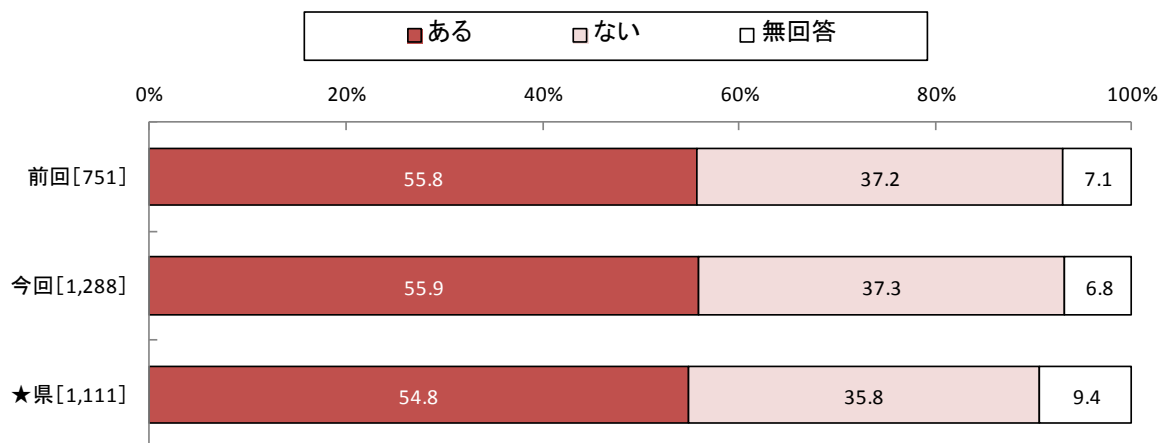
【問11】途中で仕事を辞めた経験[1,288]



### 【前回、県との比較】

○前回、および県と比較すると、大きな差はみられません。

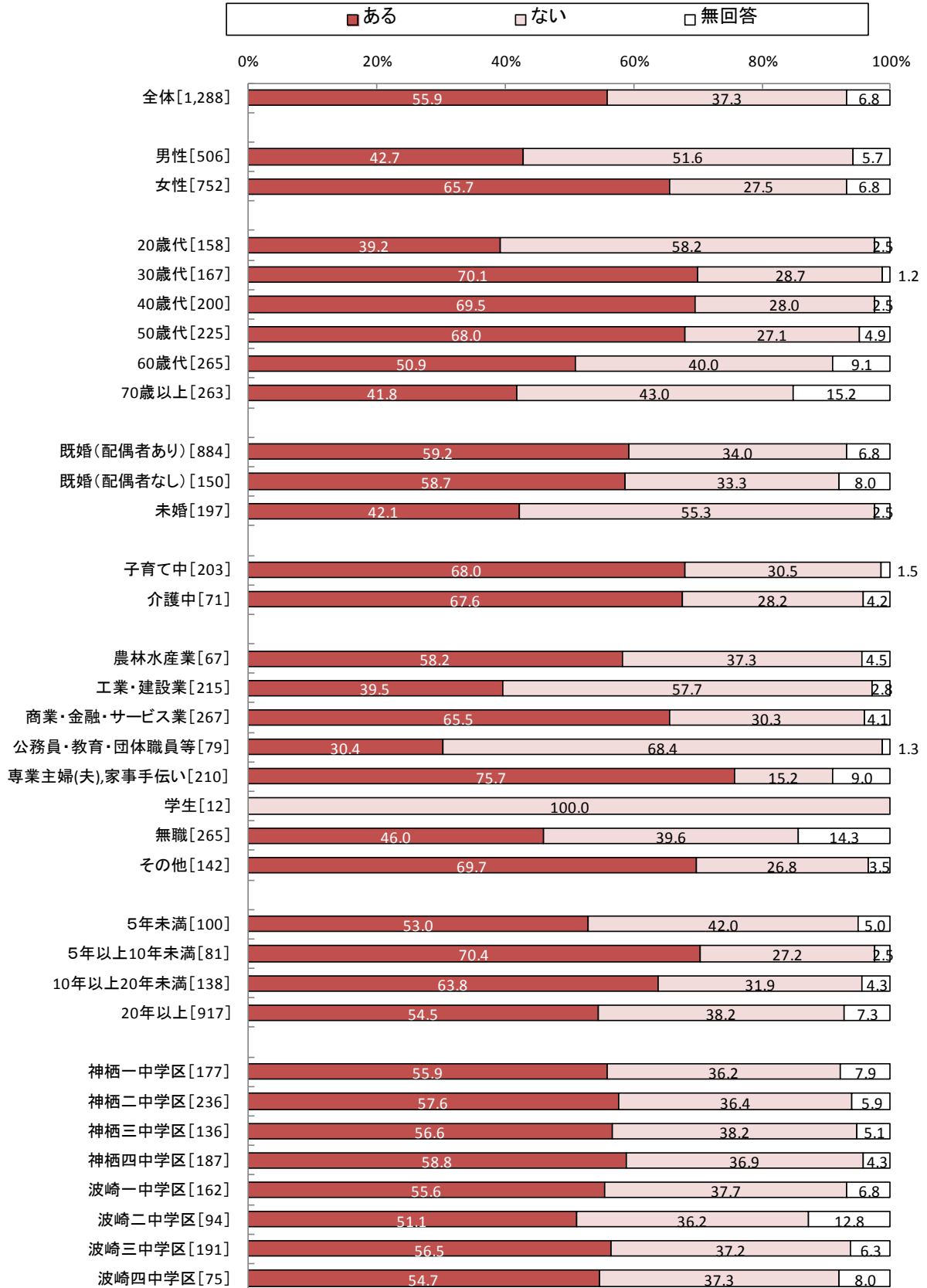
【問11】途中で仕事を辞めた経験(前回、県との比較)





- 性別でみると、男性は「ない」が過半数を占めているのに対して、女性は「ある」が6割以上を占めています。
- 年齢別でみると、20歳代は「ない」が過半数を占めています。30～60歳代は「ある」が過半数を占めています。70歳以上は「ある」と「ない」がほぼ同率です。

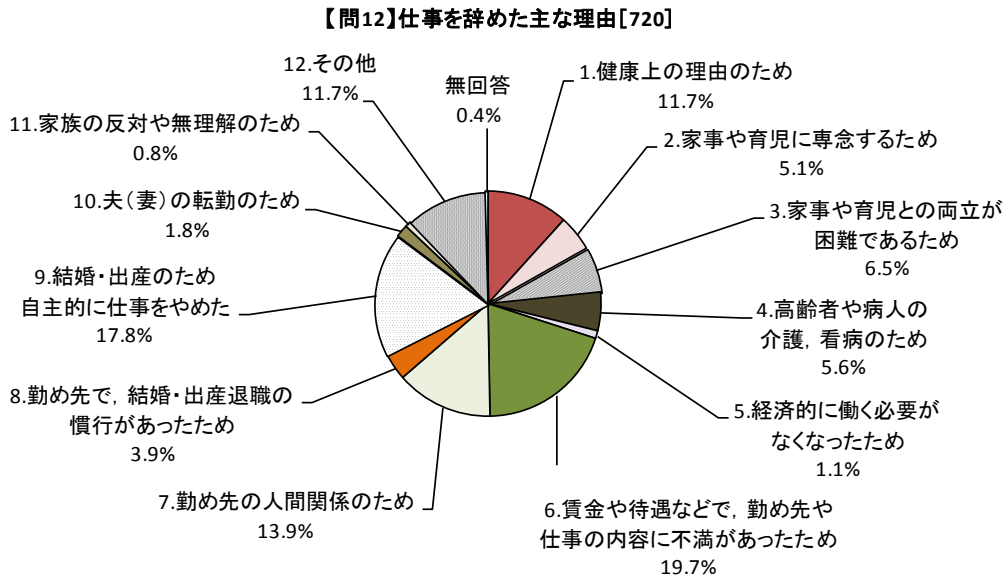
【問11】途中で仕事を辞めた経験(属性別)



## 問 12 仕事を辞めた主な理由について

問 12 問 11 で「ある」と回答した方におたずねします。最後に、仕事を辞めた主な理由は何ですか。(1つだけ選び、番号に○を)

- 「6. 賃金や待遇などで、勤め先や仕事の内容に不満があったため」(19.7%) が最も高く、「9. 結婚・出産のため自主的に仕事をやめた」(17.8%)、「7. 勤め先の人間関係のため」(13.9%) が続きます。



<「その他」の内容>

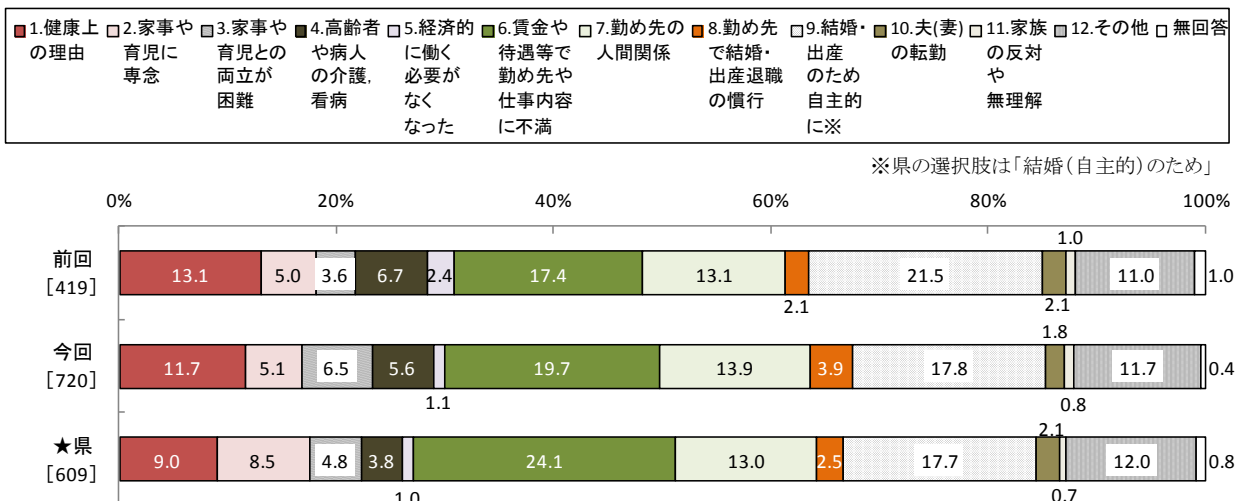
- ・転職(10) ・倒産、閉店(3) ・リストラ(2) ・派遣期間終了のため(2) ・ブラック企業だった為
- ・パワハラを受け続け廻りも無関心だったため ・家業をつぐため ・留学のため ・年齢的に無理と思うようになったから

### 【前回、県との比較】

○前回と比較すると、前回は「9. 結婚・出産のため自主的に仕事をやめた」が第1位、「6. 賃金や待遇などで、勤め先や仕事の内容に不満があったため」が第2位でしたが、今回は順位が入れ替わっています。

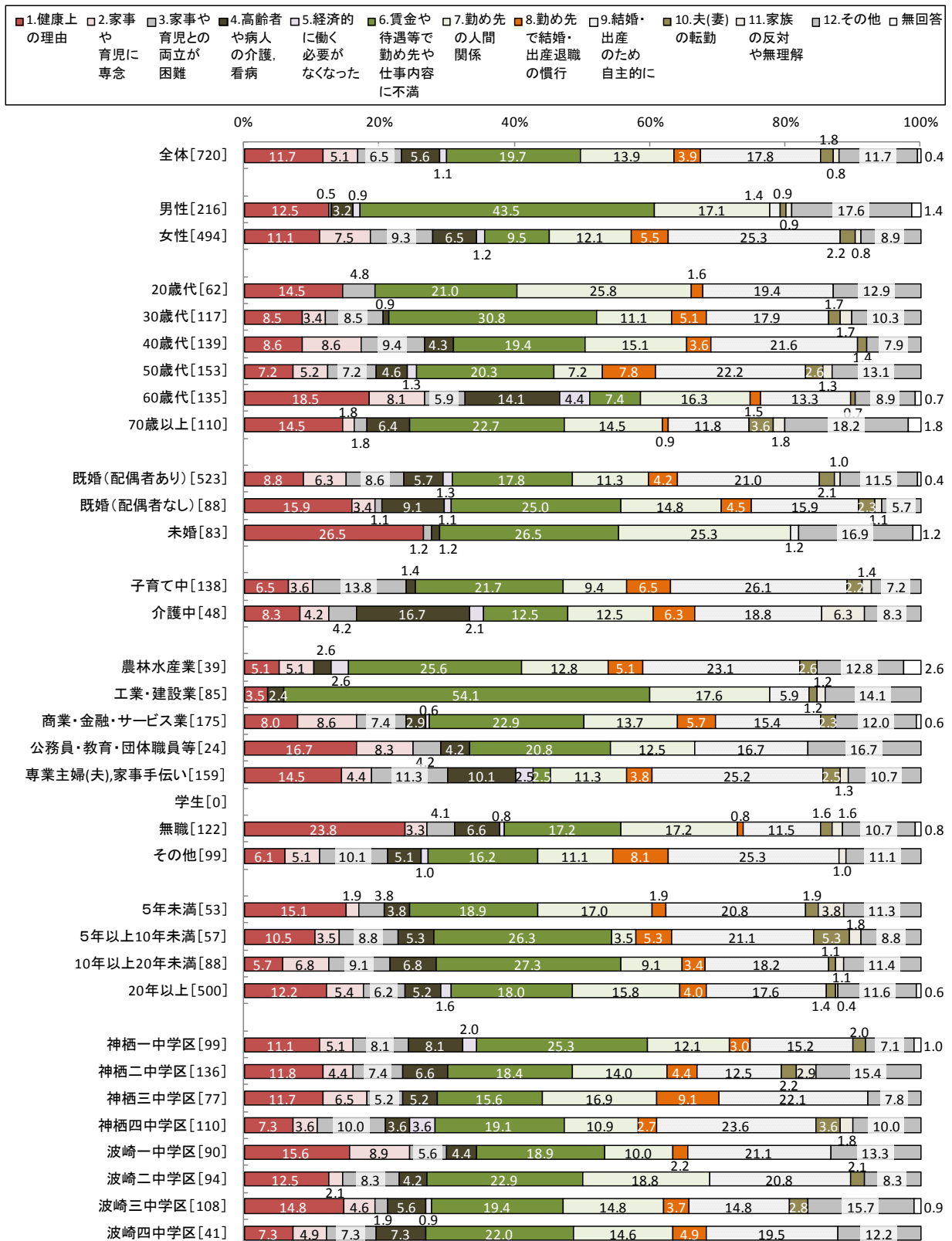
○県と比較すると、今回第1位であった「6. 賃金や待遇などで、勤め先や仕事の内容に不満があったため」は県に比べると低くなっています。一方、「1. 健康上の理由」や「3. 家事や育児との両立が困難」「4. 高齢者や病人の介護、看病」は、県に比べると高くなっています。

【問12】仕事を辞めた主な理由(前回、県との比較)



- 性別でみると、男性は「6. 賃金や待遇などで不満」、女性は「9. 結婚・出産のため自主的に」がそれぞれ最も高くなっています。
- 年齢別でみると、20歳代は「7. 人間関係」、30歳代と70歳以上は「6. 賃金や待遇などで不満」、40～50歳代は「9. 結婚・出産のため自主的に」、60歳代は「1. 健康上の理由」がそれぞれ最も高くなっています。
- 子育て、介護の状況別でみると、子育て中の回答者は「3. 家事や育児との両立が困難」や「9. 結婚・出産のため自主的に」、介護中の回答者は「4. 高齢者や病人の介護、看病」が高くなっています。

【問12】仕事を辞めた主な理由(属性別)

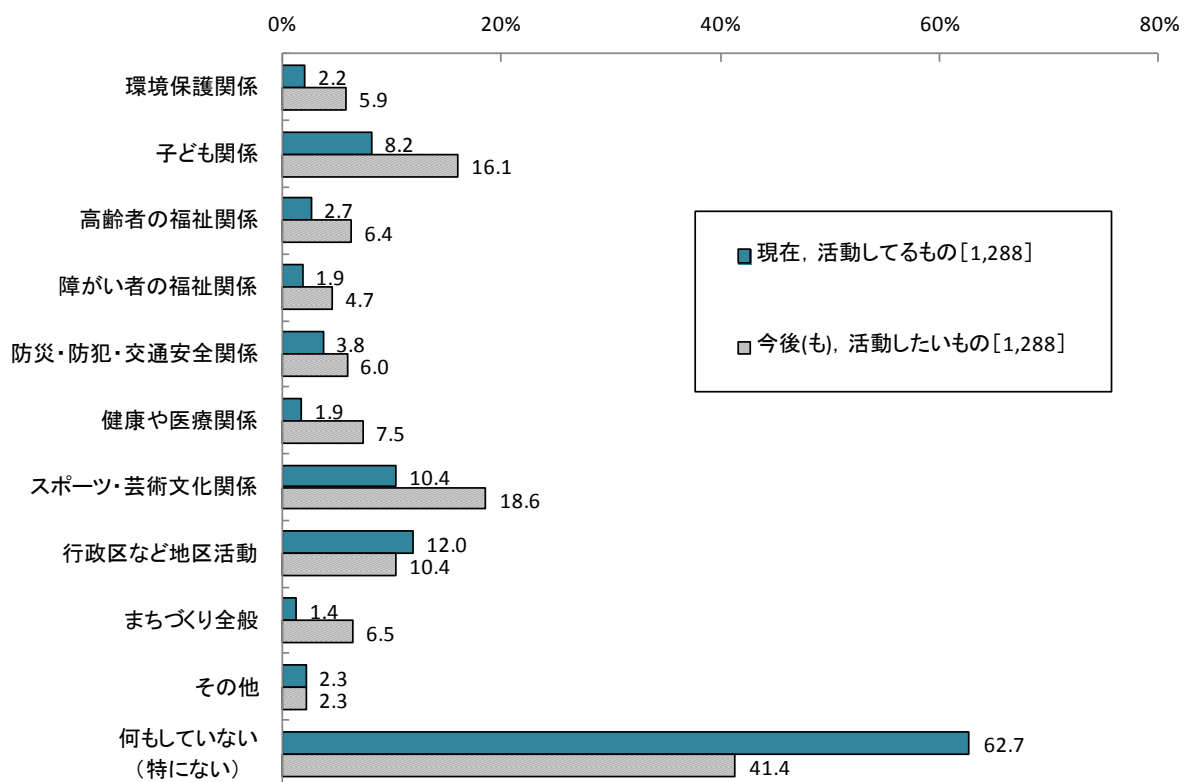


### 問 13 地区活動やボランティア活動，生涯学習活動について

問 13 あなたは，地区活動やボランティア活動，生涯学習活動などを行っていますか。  
また，今後したいと思いますか。（あてはまるものすべてを選び，番号に○を）

- 現在と今後を比較すると，いずれも第1位は「何もしていない（特にない）」です。第2位については，現在は「行政区など地区活動」，後は「スポーツ・芸術文化関係」です。
- 具体的な活動内容の中で，「行政区など地区活動」以外の項目は，現在よりも今後の方が高くなっており，特に「子ども関係」や「スポーツ・芸術文化関係」などで現在と今後の差が目立ちます。

【問13】地区活動やボランティア活動，生涯学習活動について【現在と今後】



#### < 「その他」の内容/現在 >

- ・地区老人会，老人会のボランティア（3） ・祭りの手伝い（2） ・ゴミ拾い（2） ・他市町村でほとんどの活動に参加
- ・あいさつ運動 ・犬の飼い方のマナー ・学生や若者支援 ・教会での子供支援 ・市の団体
- ・国際交流，行財政改革推進委員，英語原書読書会，英会話 ・人格の向上及び人材育成 ・ベルマークの回収，集計
- ・地区の公民館でやっているシニア体操に月2回参加して3年目 ・ロータリークラブ ・独自研究論文作成

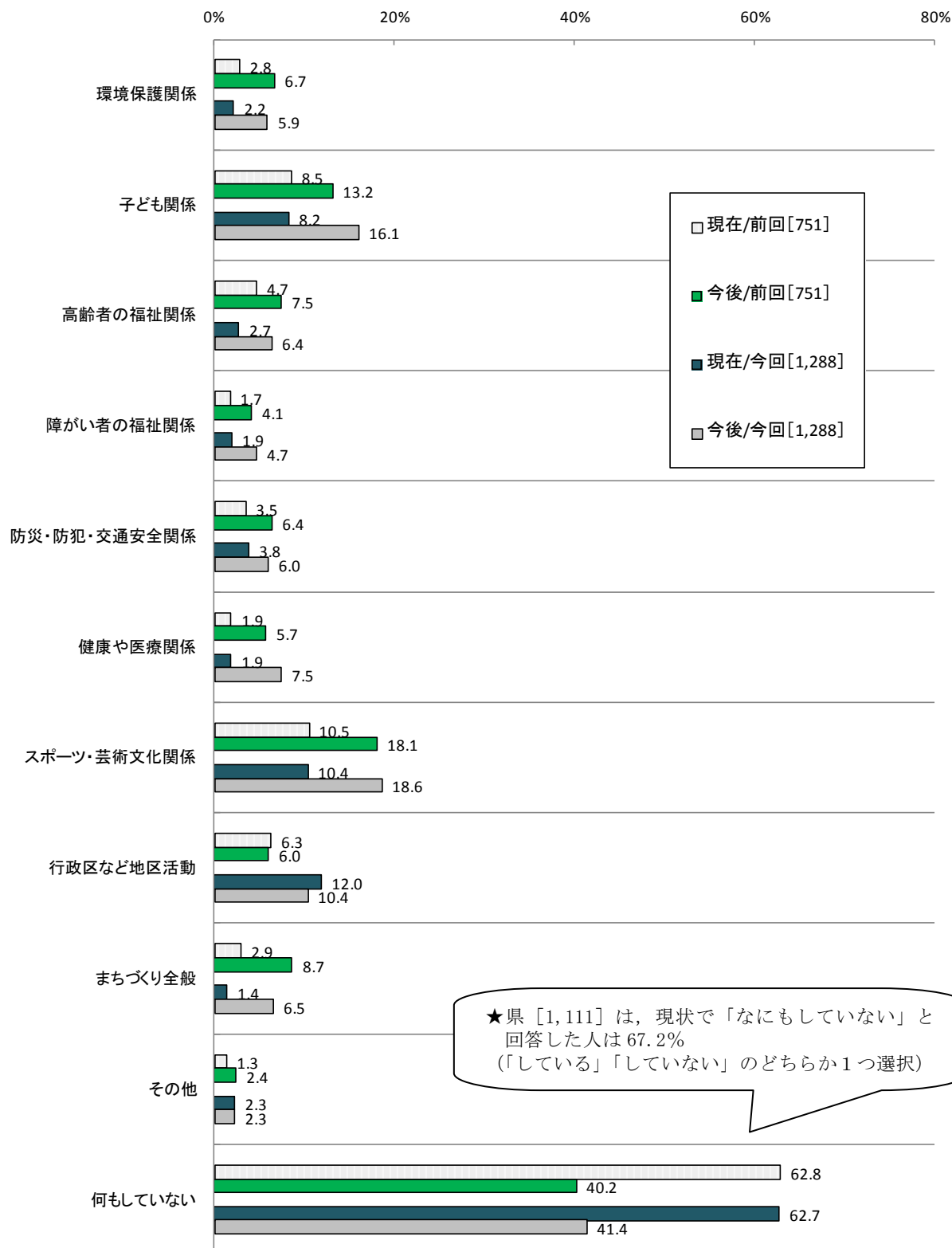
#### < 「その他」の内容/今後 >

- ・祭の手伝い（2） ・動物愛護，動物保護（2） ・美化活動（2） ・あいさつ運動 ・花壇の清掃 ・地区老人会
- ・人格の向上及び人材育成 ・独自研究論文作成 ・ベルマークの回収，収集 ・若者支援
- ・男女共同参画を視点にした啓発の活動。茨城県男女参画推進委員

## 【前回、県との比較】

- 前回と比較すると、「行政区など地区活動」は今回の方が、現在も今後も高くなっていますが、全体的には大きな差はみられません。
- 県では、同じ選択肢での設問はありませんが、参加の有無を尋ねた設問で「現在参加していない」と回答した割合は67.2%であり、ほぼ同率です。

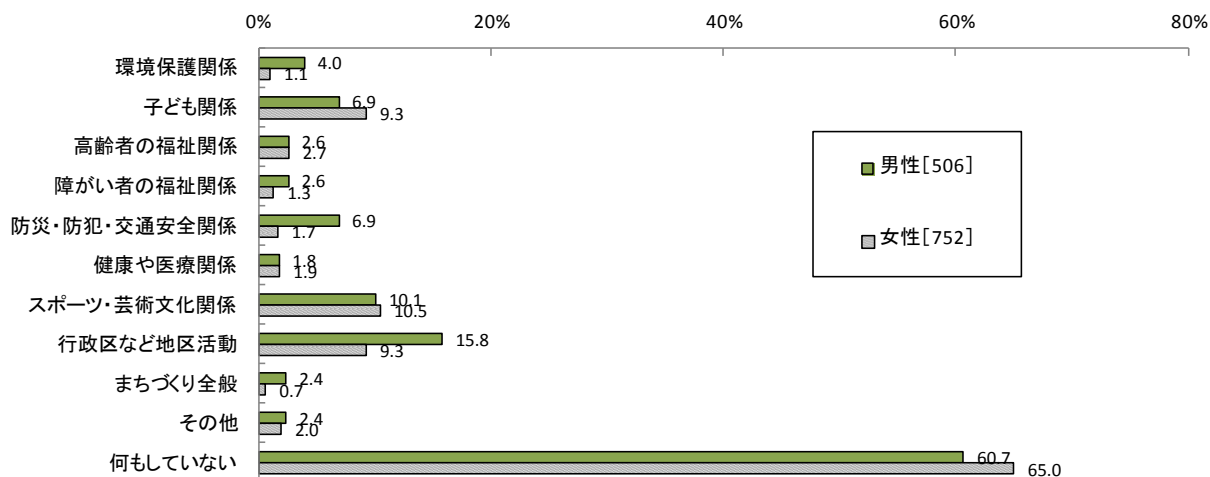
【問13】地区活動やボランティア活動、生涯学習活動について【現在と今後】(前回との比較)



### ①現在、活動しているもの

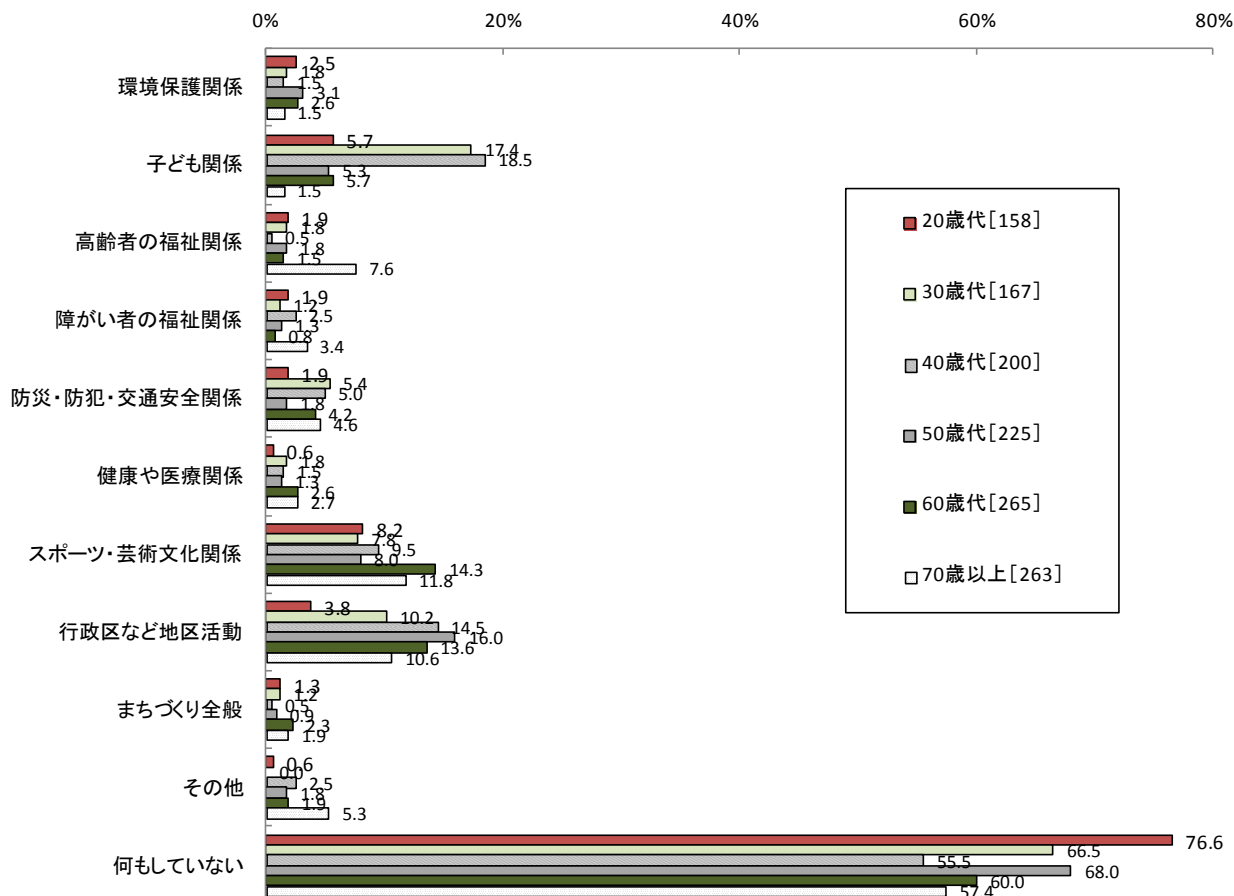
●性別でみると、「何もしていない」を除くと、男性は「行政区など地区活動」、女性は「スポーツ・芸術文化関係」がそれぞれ第1位です。「防災・防犯・交通安全活動」や「行政区など地区活動」は男性の方が高く、男女の差が目立ちます。

【問13】地区活動やボランティア活動、生涯学習活動について【現在、活動しているもの】(あてはまるものすべて選択/性別)



●年齢別でみると、「何もしていない」は30歳代で特に高くなっています。また、「何もしていない」を除くと、20歳代と60歳代以上は「スポーツ・芸術文化関係」、50歳代は「行政区など地区活動」がそれぞれ第1位です。30～40歳代は「子ども関係」が第1位で、他の年齢との差が目立ちます。

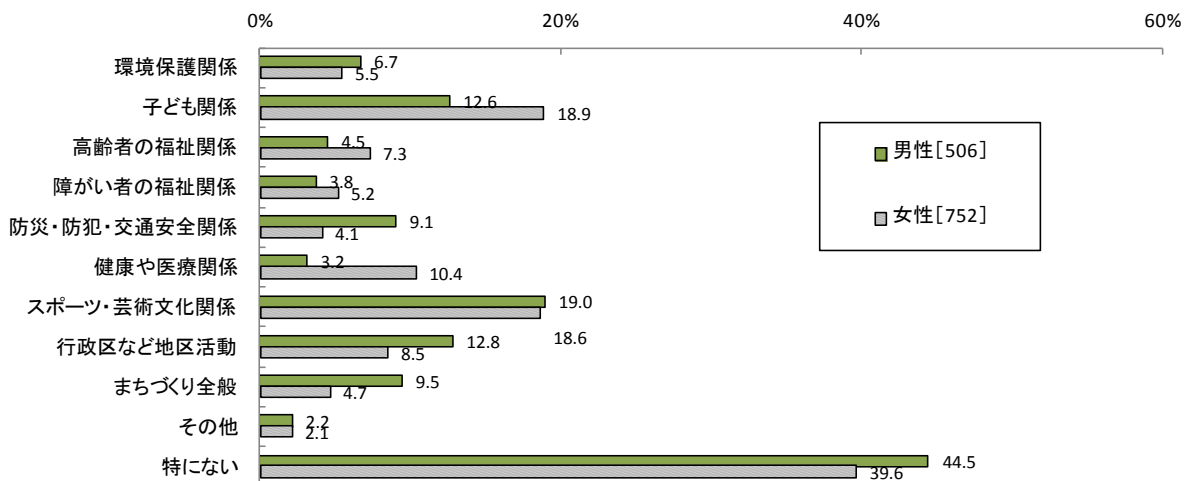
【問13】地区活動やボランティア活動、生涯学習活動について【現在、活動しているもの】(あてはまるものすべて選択/年齢別)



## ②今後(も)、活動したいもの

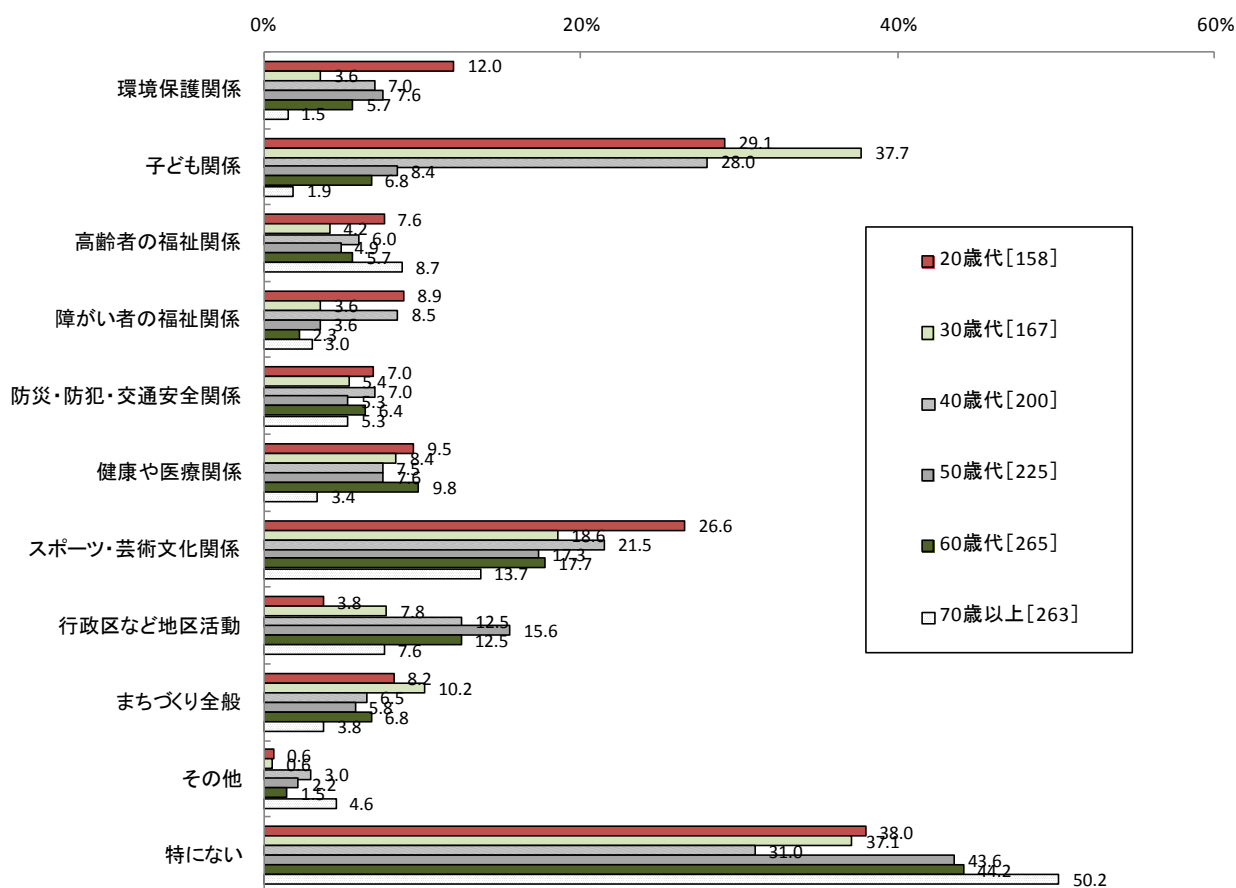
- 性別でみると、「特にない」を除くと、男性は「スポーツ・芸術文化関係」女性は「子ども関係」がそれぞれ第1位です。「子ども関係」や「健康や医療関係」は女性、「防災・防犯・交通安全活」「行政区など地区活動」「まちづくり全般」は男性の方が高く、男女の差が目立ちます。

【問13】地区活動やボランティア活動、生涯学習活動について【今後(も)、活動したいもの】(あてはまるものすべて選択/性別)



- 年齢別でみると、「特にない」を除くと、20～40歳代は「子ども関係」、50歳代以上は「スポーツ・芸術文化関係」がそれぞれ第1位です。
- 「スポーツ・芸術文化関係」は20～40歳代でも高く、年齢が低いほど、回答率が高くなる傾向にあります。

【問13】地区活動やボランティア活動、生涯学習活動について【今後(も)、活動したいもの】(あてはまるものすべて選択/年齢別)

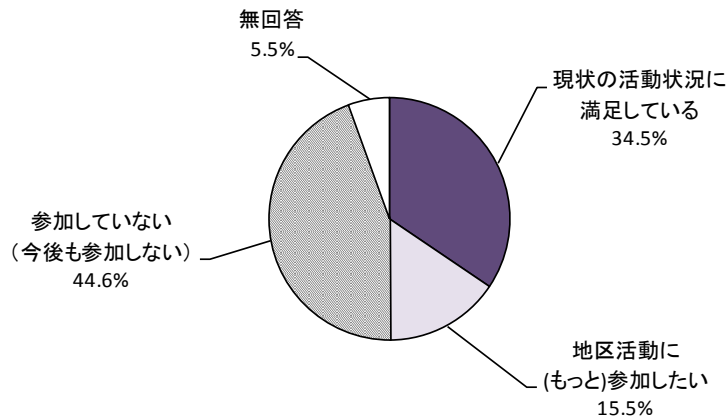


問 14 現在の地区活動の参加状況で感じること

問 14 あなたは、現在の地区活動の参加状況についてどのように感じていますか。  
 (地区活動とは、お祭り、清掃活動、防災活動、交通安全活動などです。)  
 (1つだけ選び、番号に○を)

○「参加していない(今後も参加しない)」が 44.6%と最も高く、「現状の活動状況に満足している」(34.5%)、「地域活動に(もっと)参加したい」(15.5%)と続きます。

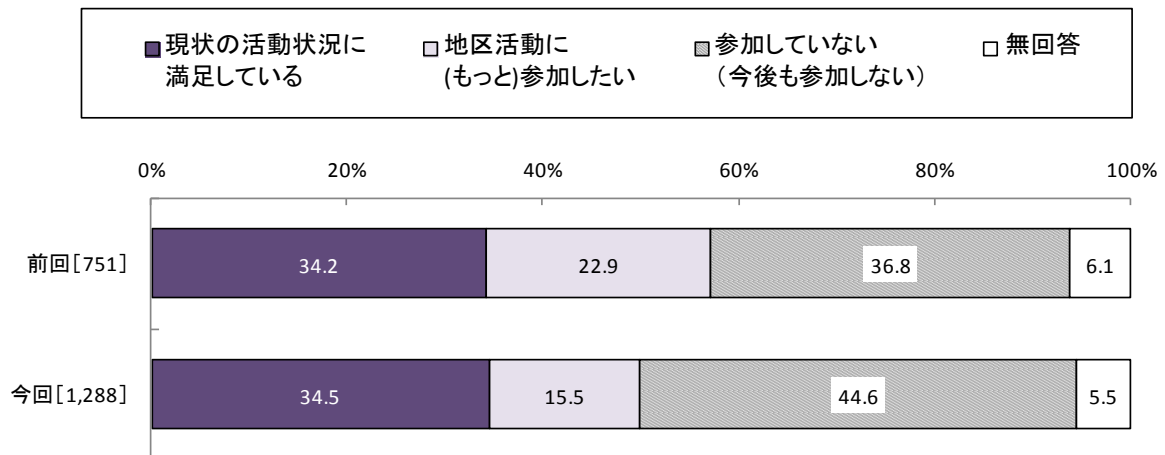
【問14】現在の地区活動の参加状況で感じること



【前回との比較】

○前回と比較すると、「現状の活動状況に満足している」はほぼ同率ですが、「地域活動に(もっと)参加したい」が低くなり、その分、「参加していない(今後も参加しない)」が高くなっています。

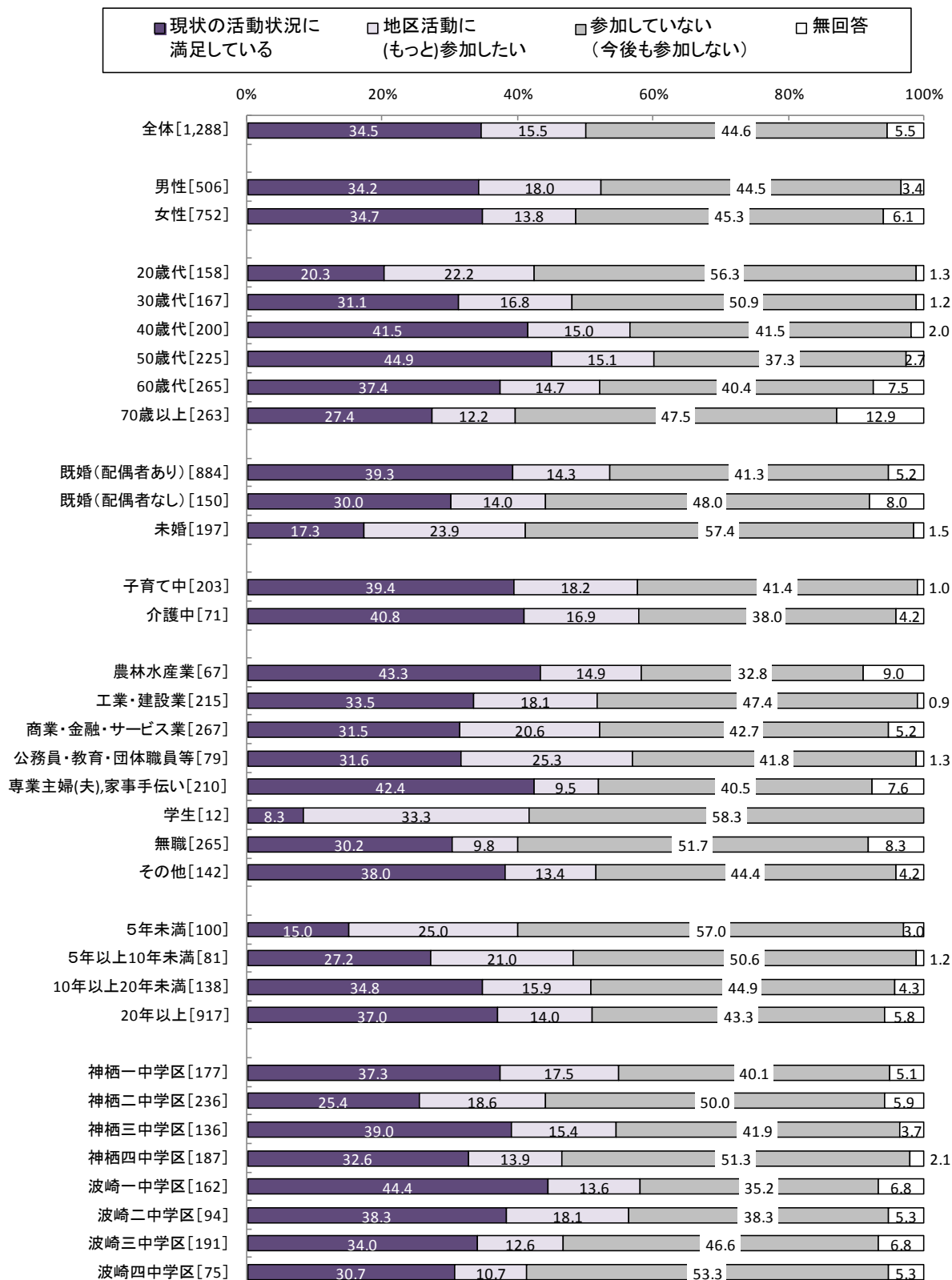
【問14】現在の地区活動の参加状況で感じること(前回との比較)





- 性別でみると、男女ともに「参加していない（今後も参加しない）」が最も高いですが、男性は「地域活動に（もっと）参加したい」が、女性より高くなっています。
- 年齢別でみると、20～30歳代、60歳代以上は「参加していない（今後も参加しない）」、40歳代は「現状の活動状況に満足している」と「参加していない（今後も参加しない）」（同率）、50歳代は「現状の活動状況に満足している」がそれぞれ、最も高くなっています。その一方で、20歳代は「地区活動に（もっと）参加したい」が2割以上を占め、他の年齢より高くなっています。

【問14】現在の地区活動の参加状況で感じること(属性別)

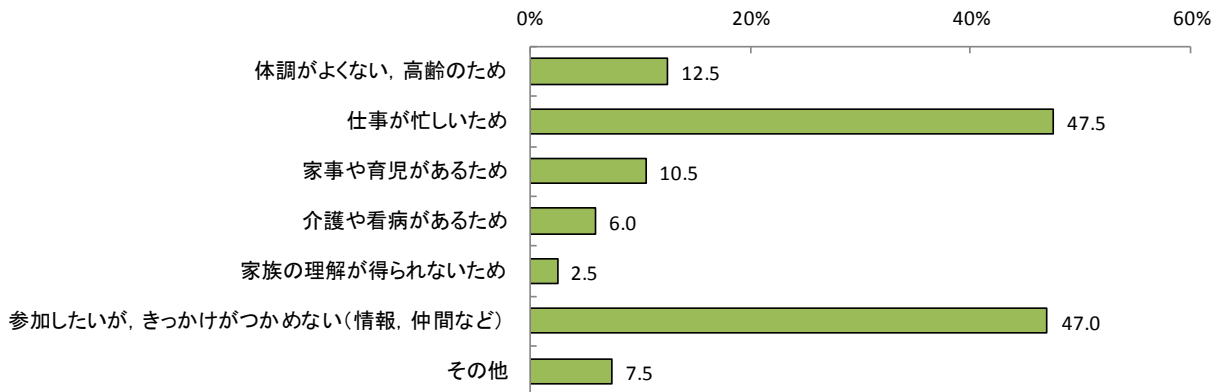


問 15 参加したいのに参加できない理由

問 15 問 14 で「2 地区活動に（もっと～参加したい）」に○をつけた方におたずねします。参加したいのに参加できない理由は何ですか。（あてはまるものすべてを選び、番号に○を）

○「仕事が忙しいため」(47.5%) が最多ですが、「参加したいが、きっかけがつかめない(情報、仲間など)」(47.0%) がほぼ同率で続きます。

【問15】参加したいのに参加できない理由 [200]



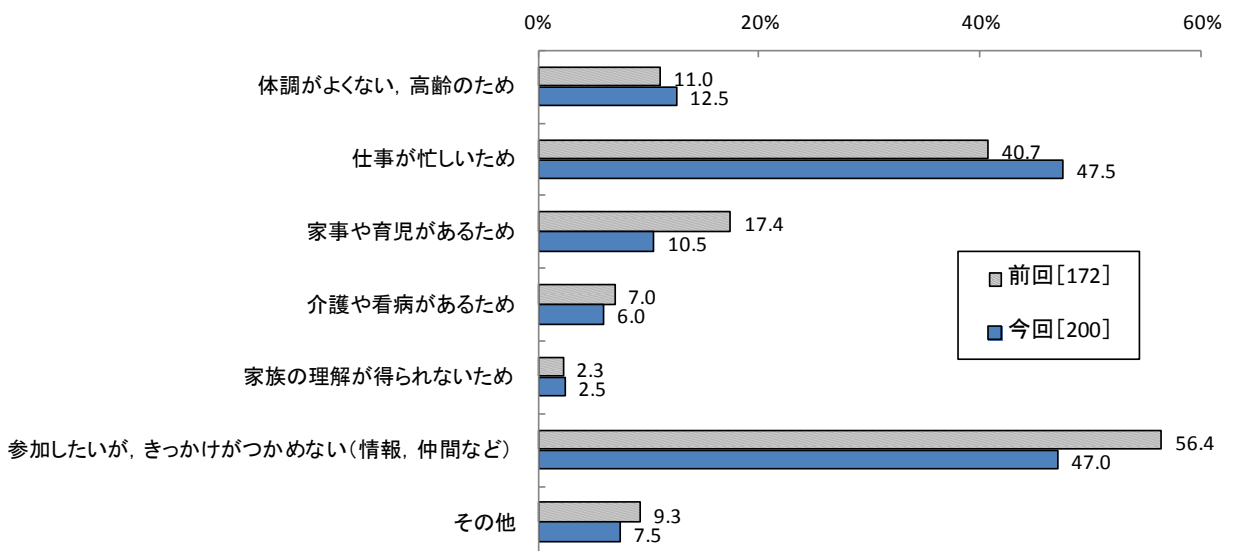
<「その他」の内容>

- ・引っ越して間もないため (2) ・参加できる日もあるけど、区長が嫌いなので。 ・他市町村で参加しているため。
- ・行政の年配者が強制的に言うので活動に気持ちよく参加できません。 ・昔からいる人がしきっている。
- ・参加したい思いはあるが、初めてで1人での参加は勇気がいる。 ・仕事をしている為近所とのかかわりが少ない。
- ・休みがあわず、土、日が多いため。 ・車の運転が出来ない。 ・人間不信 ・学校が忙しい。 ・公務員の為。

【前回との比較】

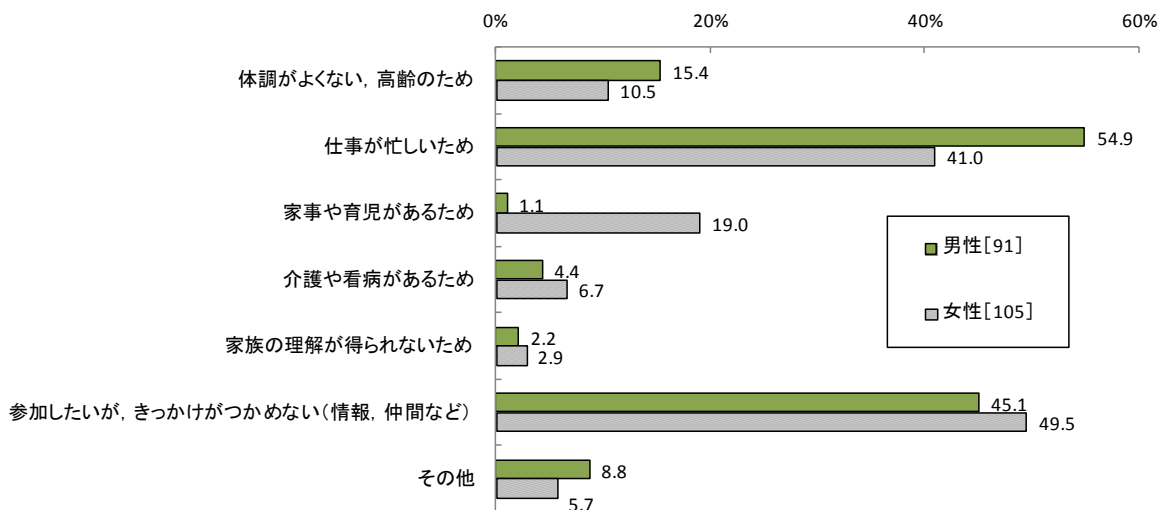
○前回と比較すると、「仕事が忙しいため」が高くなっています。一方、「家事や育児があるため」や「参加したいが、きっかけがつかめない(情報、仲間など)」は低くなっています。

【問15】参加したいのに参加できない理由(前回との比較)



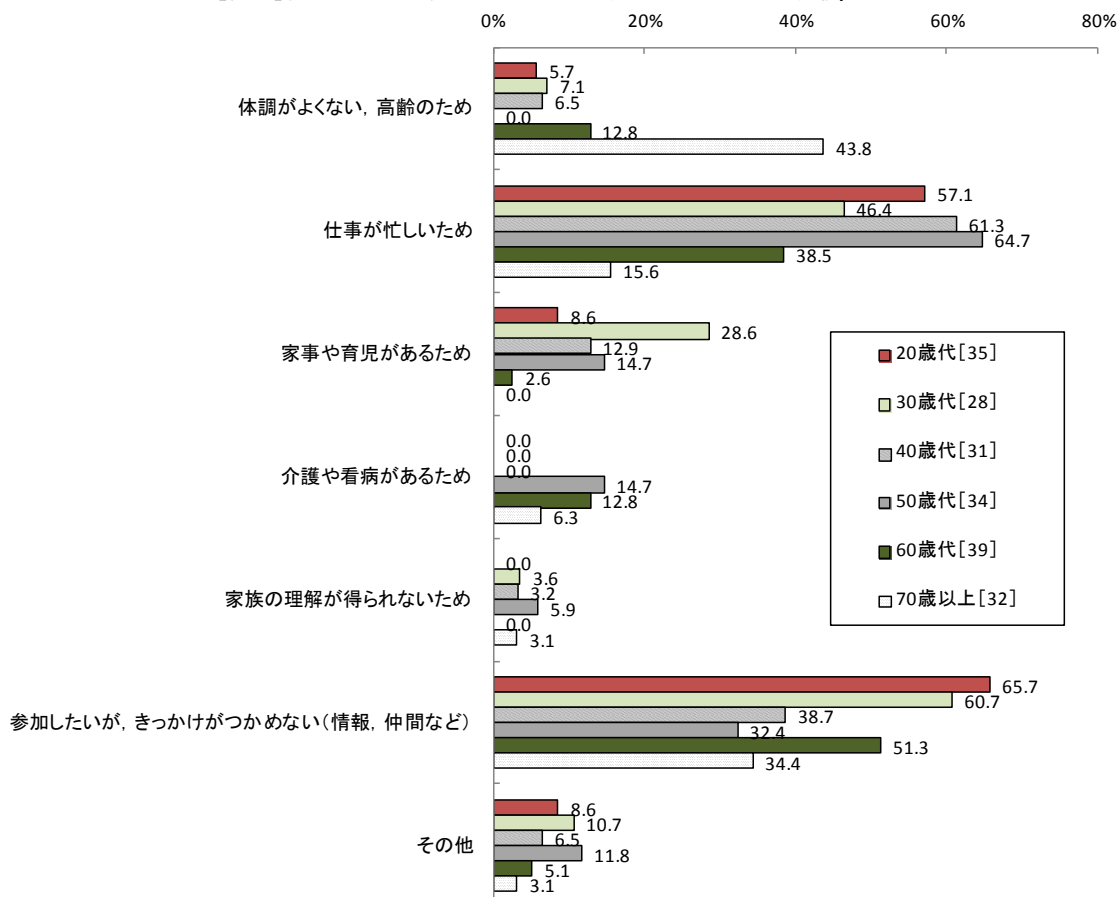
- 性別でみると、男性は「仕事が忙しいため」、女性は「参加したいが、きっかけがつかめない（情報、仲間など）」が第1位となっています。
- 「仕事が忙しいため」は男性、「家事や育児があるため」は女性の回答率がそれぞれ高く、男女の差が目立ちます。

【問15】参加したいのに参加できない理由(あてはまるものすべて選択/性別)



- 年齢別でみると、20～30歳代と60歳代は「参加したいが、きっかけがつかめない（情報、仲間など）」、40～50歳代は「仕事が忙しいため」、70歳以上は「体調がよくない、高齢のため」が第1位となっています。
- 「体調がよくない、高齢のため」は70歳以上、「家事や育児があるため」は30歳代の回答率がそれぞれ高く、他の年齢との差が目立ちます。

【問15】参加したいのに参加できない理由(あてはまるものすべて選択/年齢別)

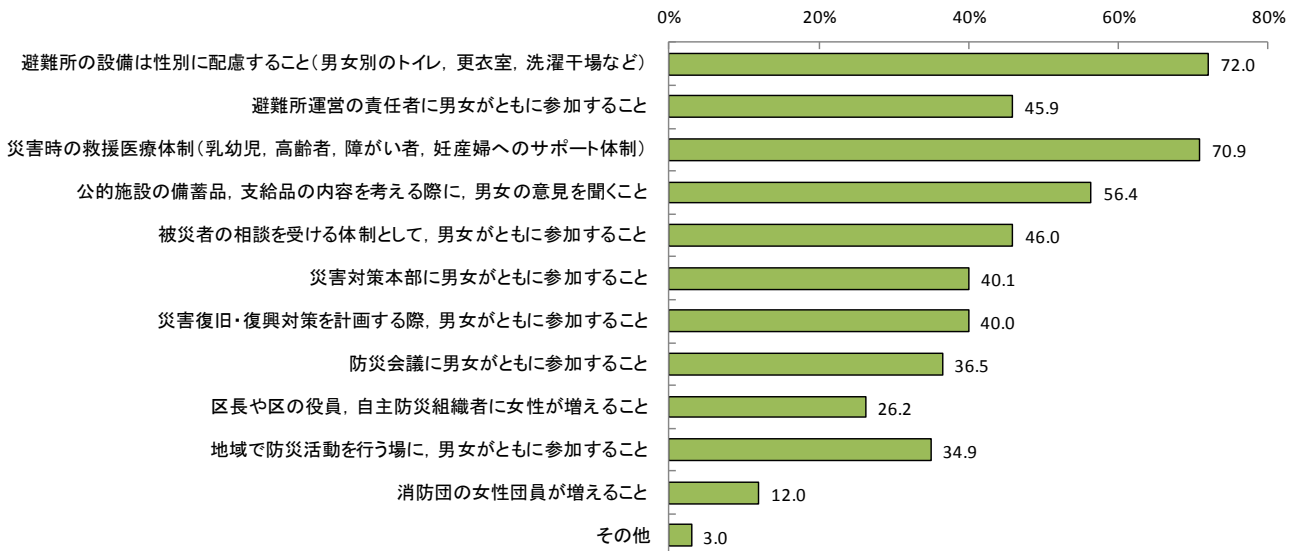


問 16 災害復興時あるいは日頃の防災の取り組みなどで必要なこと

問 16 災害復興時あるいは日頃の防災の取り組みなどでどのようなことが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

○「避難所の設備は性別に配慮すること（男女別のトイレ，更衣室，洗濯干場など）」  
(72.0%) が最も高く，「災害時の救援医療体制（乳幼児，高齢者，障がい者，妊産婦  
へのサポート体制）」(70.9%) が僅差で続きます。

【問16】災害復興時あるいは日頃の防災の取り組みなどで必要なこと[1,288]

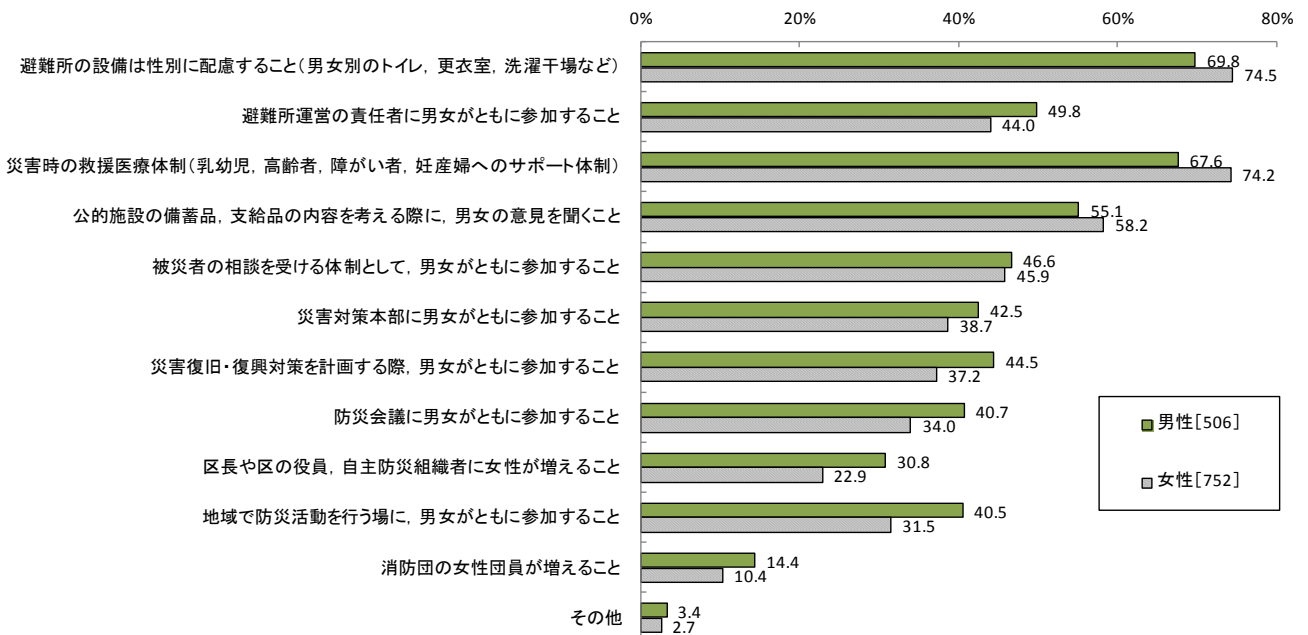


<「その他」の内容>

- ・女性の意見を聞ける男性を増やす
- ・全項目にあてはまるが女性の参加は必要！！
- ・町を全員でリレー式に守りぬく
- ・男女がともには当然で日常の中で誰にどんな役割があるか確認，実践出来る力が大事
- ・他人を思いやる心
- ・気持ちのケアが必要(2)
- ・ペットへの配慮(2)
- ・高い避難所をもっとつくる，避難出来る所を増やす(2)
- ・高校生の活用
- ・シニアクラブの充実
- ・地域に働ける若い人が少ない。
- ・避難所内でのプライバシーの工夫
- ・人命を1人でも多く助ける手段を常日頃から考えておく。
- ・防災のノウハウを熟知した人が地区にいて自主防災組織の指導にあたるまで教育する

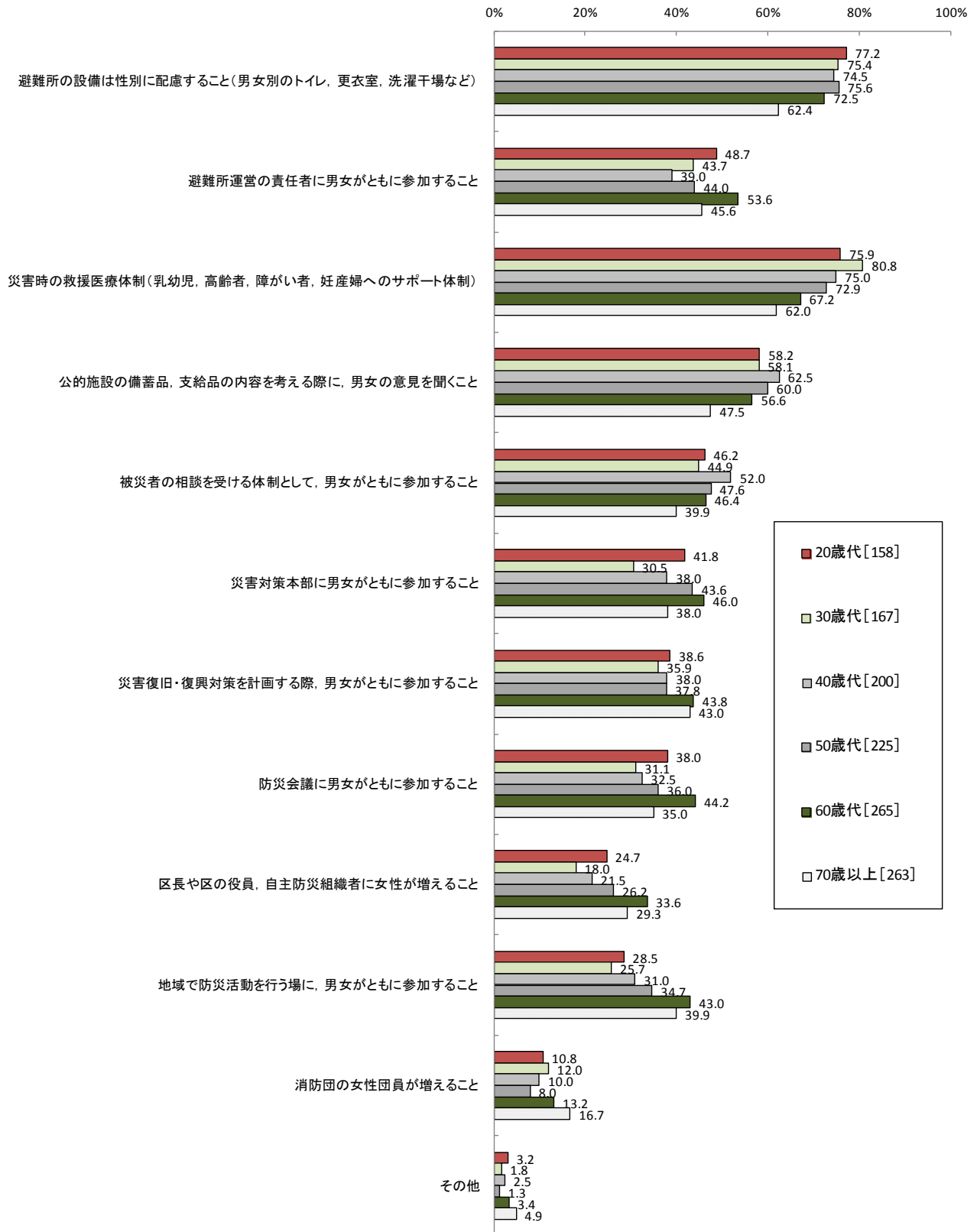
●性別でみると，上位2位は男女とも同じですが，いずれも女性の方が高くなっています。  
その他の項目では「公的施設の備蓄品，支給品の内容を考える際に，男女の意見を聞く  
こと」以外は男性の方が高くなっています。

【問16】災害復興時あるいは日頃の防災の取り組みなどで必要なこと(あてはまるものすべて選択/性別)



●年齢別でみると、20歳代と50歳代以上は「避難所の設備は性別に配慮すること」、30～40歳代は「災害時の救援医療体制」が第1位です。

【問16】災害復興時あるいは日頃の防災の取り組みなどで必要なこと(あてはまるものすべて選択/年齢別)

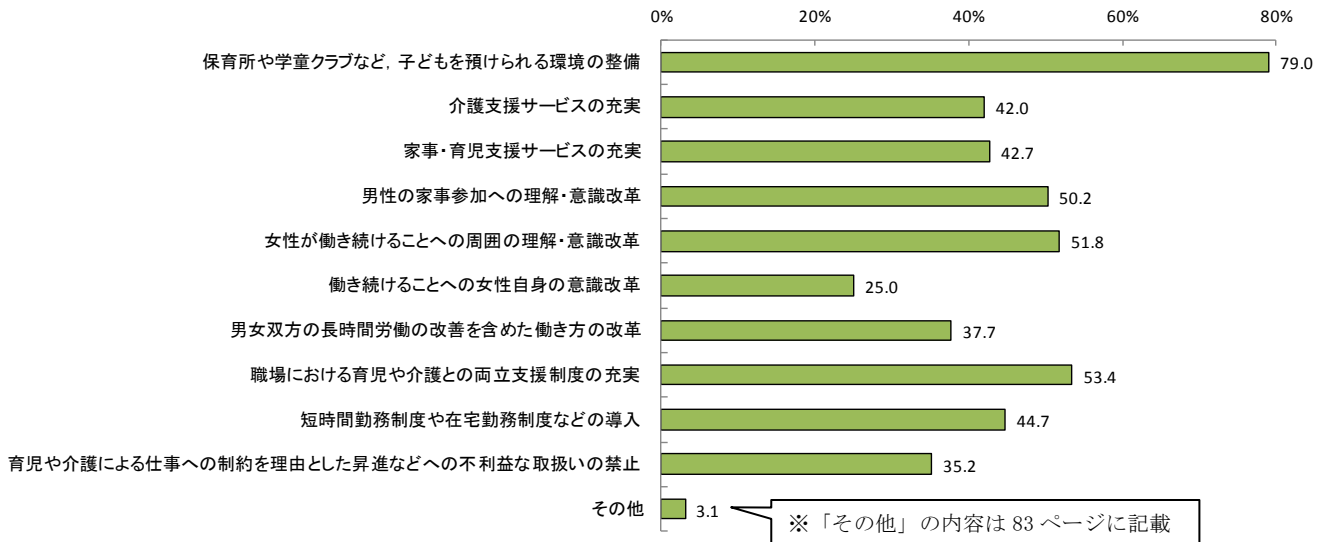


問 17 女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと

問 17 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(79.0%)が最も高く、やや間をあけて、「職場における育児や介護との両立支援制度の充実」(53.4%)、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(51.8%)、「男性の家事参加への理解・意識改革」(50.2%)が僅差で続きます。

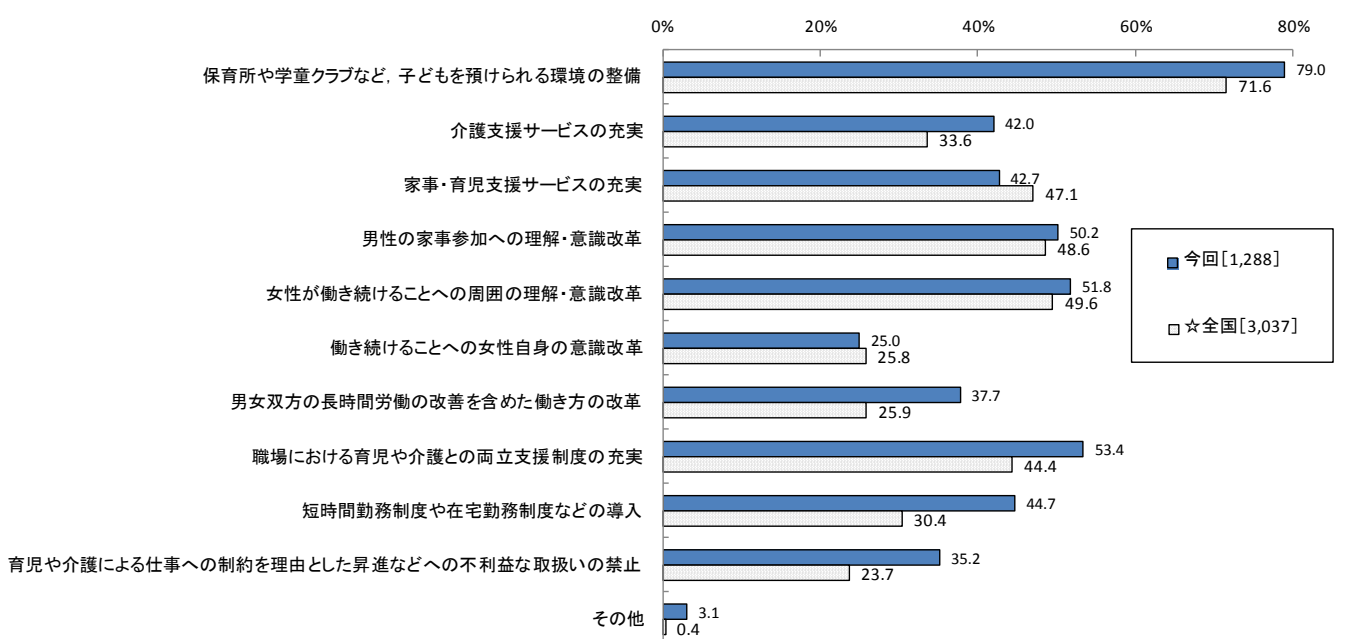
【問17】女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと



【全国との比較】

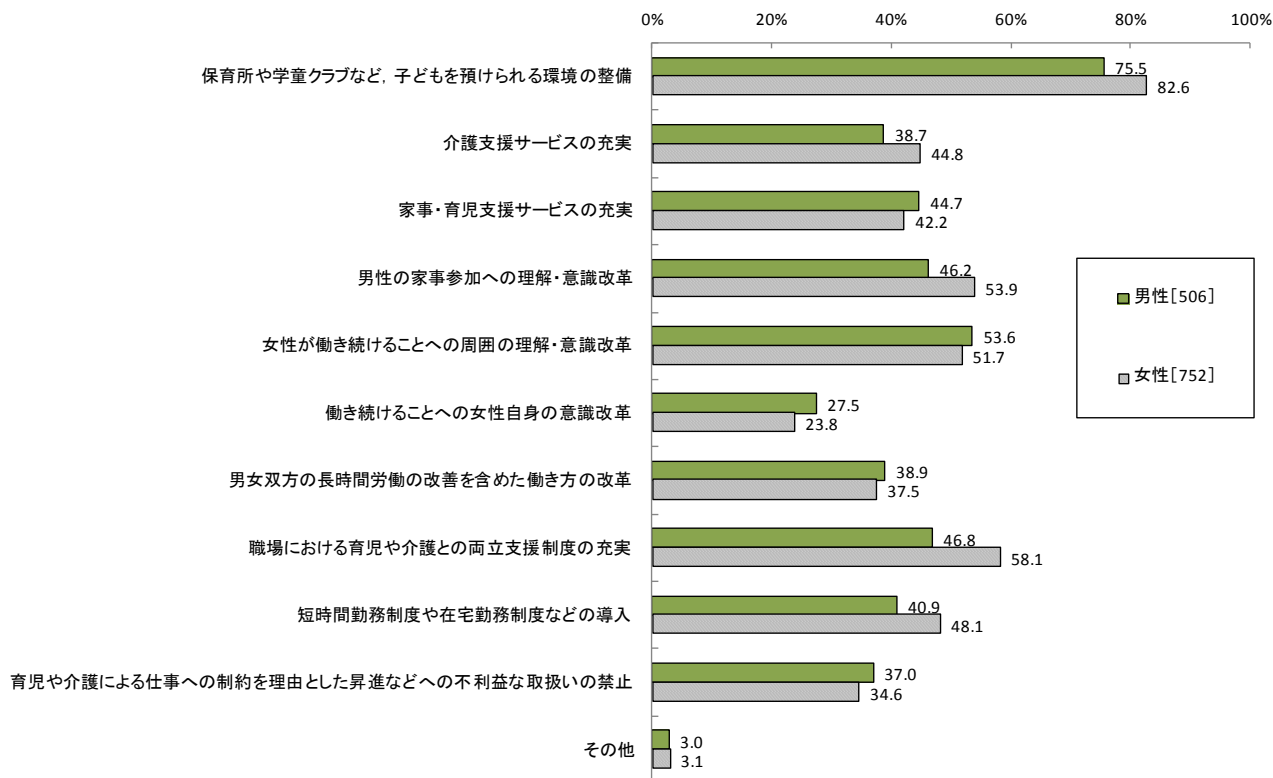
- 全国と比較すると、第1位は同じですが、全国より高くなっています。また、「介護支援サービスの充実」「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革」「職場における育児や介護との両立支援制度の充実」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」も全国より高く、差が目立ちます。

【問17】女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと(あてはまるものすべて選択/全国との比較)



- 性別でみると、男女とも「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が第1位です。第2位については、男性は「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」、女性は「職場における育児や介護との両立支援制度の充実」をあげています。
- 男性より女性の回答率が高いのは、第1位の「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」のほか、「介護支援サービスの充実」「男性の家事参加への理解・意識改革」「職場における育児や介護との両立支援制度の充実」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」です。

【問17】女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと(あてはまるものすべて選択/性別)

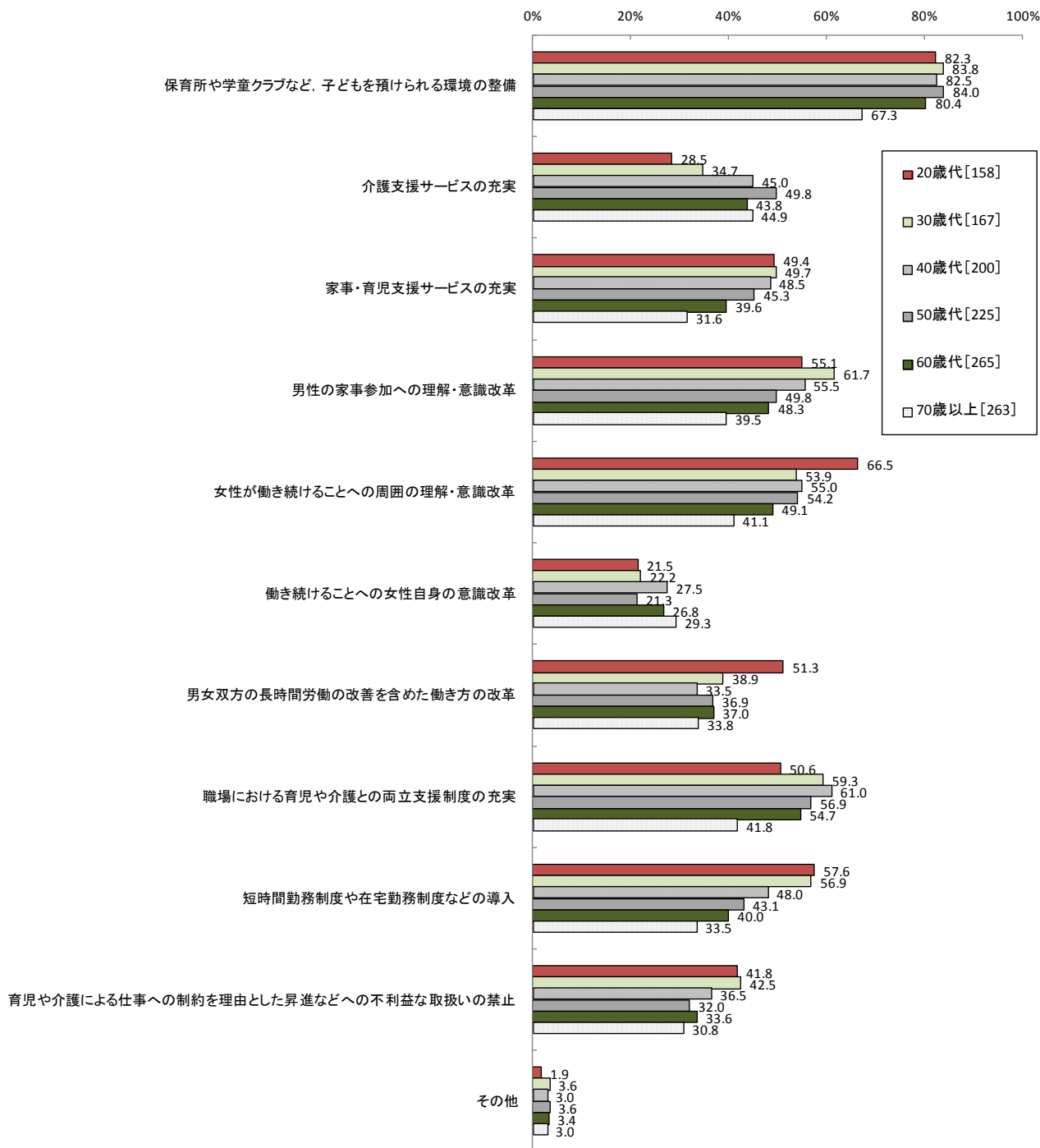


<「その他」の内容>

- ・相談する場所、相談相手 ・(夫)男性の賃金アップ(2) ・所得の見直し ・職場や勤め方の多様性
- ・3年間の育児休暇とその間の生活支援金 ・育児休暇の取得しやすさが必要 ・短時間勤務でも有給等
- ・戻って来やすい空気と人間関係を作る。 ・人間関係(上から目線と感情と一緒にしない) ・夫の協力、家族の協力(2)
- ・病児保育の充実(2)
- ・幼稚園の整備, 3才児から義務教育にするなど将来を見通した対策が必要と思われる。小学校に入学できない子供はいないが、保育所等に入れない児童は義務化することによりなくなる。
- ・職場に託児所を。 ・教育費の無償化 ・公民館などで、子供のいる親が順番で夕方見たりとか。
- ・子が小学生になると学童クラブの時間帯が不便。土、日、祝日預かってもらいたい。
- ・子供達への男女平等についての教育 ・子どもの保護者の親などの子そだての参加、及び意識改革
- ・長年の慣習によるものなので法整備しかない。(罰金等、強制力のあるもの。)
- ・日ごろから地域と家庭がつながりをもつこと。
- ・仕事を続ける必要はないと思います。辞職していただいて、また別を探せば良いと思います。
- ・子は自分で育てる。出来なければ産むな。0才や1才を他人に托して、子への教育はどうなる。

- 年齢別でみると、いずれの年齢も「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が第1位です。第2位については、20歳代は「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」、30歳代は「男性の家事参加への理解・意識改革」、40～60歳代は「職場における育児や介護との両立支援制度の充実」、70歳以上は「介護支援サービスの充実」を、それぞれあげています。
- 「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」や「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革」は20歳代の回答率が高く、他の年齢との差が目立ちます。

【問17】女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと(あてはまるものすべて選択/年齢別)



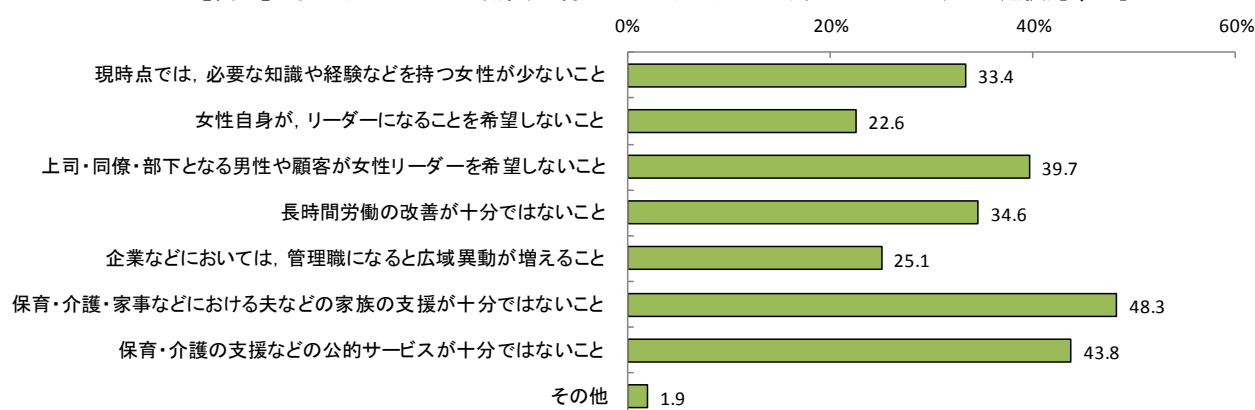


## 問 18 女性がリーダーとして活躍する際にさまたげとなるもの

問 18 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性がリーダーとして活躍する際に、さまたげとなるものは何だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(48.3%)が最も高く、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(43.8%)が続きます。

【問18】女性がリーダーとして活躍する際にさまたげとなるもの(あてはまるものすべて選択)[1,288]



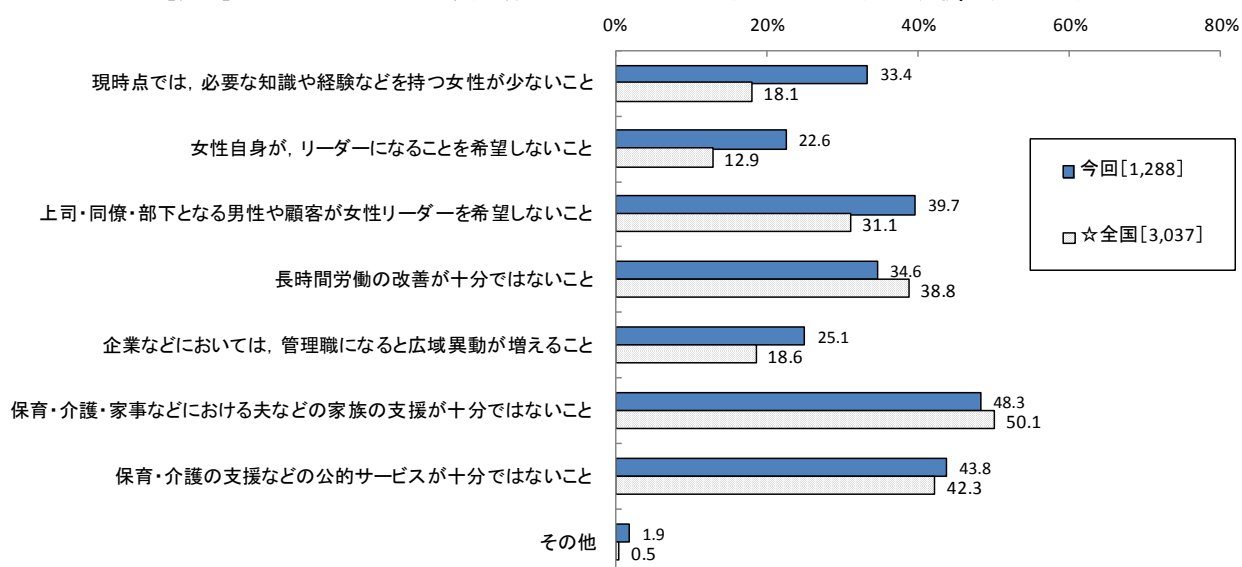
<「その他」の内容>

- ・社会全体に差別ではないが男性上位の意識がある。(女性の社会進出が少ない事もあるが) ・リーダーなどの立場になるのが女性ではだめだという考え方を持っている人が多い事。 ・女だから…という偏見がある。 ・社会的な理解不足。 ・セクラハラ発言など。 ・男性(女性)の一部に共同で何かをなしとげようとする気持ちが薄いと思われる。 ・すべてにおいて環境が整っていない。田舎なので、女性が活発には動けないのでは。いちいち口うるさい人も多い。 ・自身の気力、行動力、忍耐力、持続力が不可欠。 ・女性側にそのような意識があると思えない。 ・女性自身が男性と同じ労働をすることに嫌がっていること。 ・出産、妊娠。 ・女性特有の体の不調がある。 ・女性の敵は女性である。

## 【全国との比較】

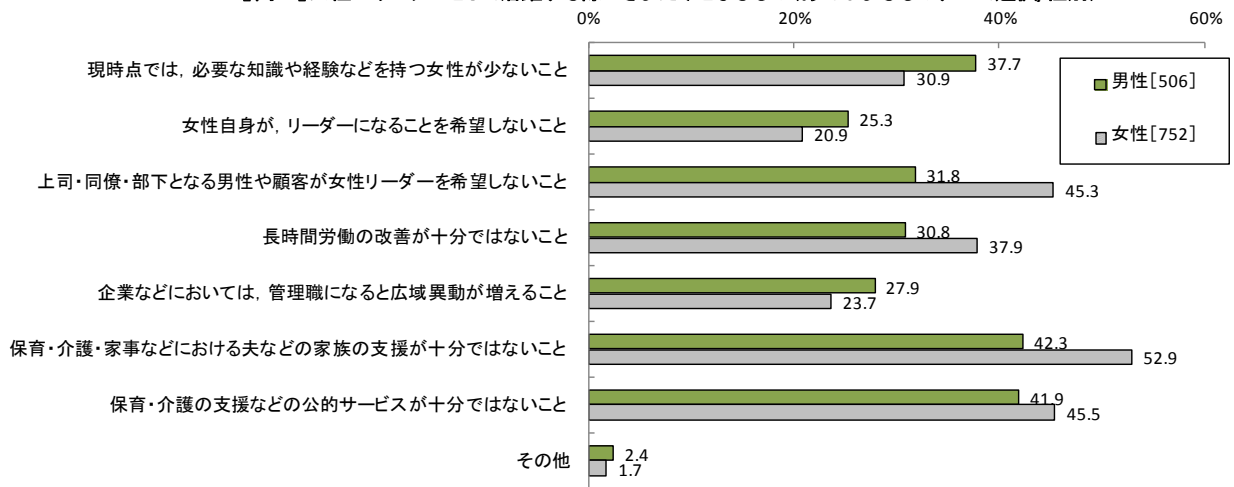
- 全国と比較すると、第1位は同じですが、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」「女性自身が、リーダーになることを希望しないこと」「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」「企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること」は全国より高くなっています。

【問18】女性がリーダーとして活躍する際にさまたげとなるもの(あてはまるものすべて選択/全国との比較)



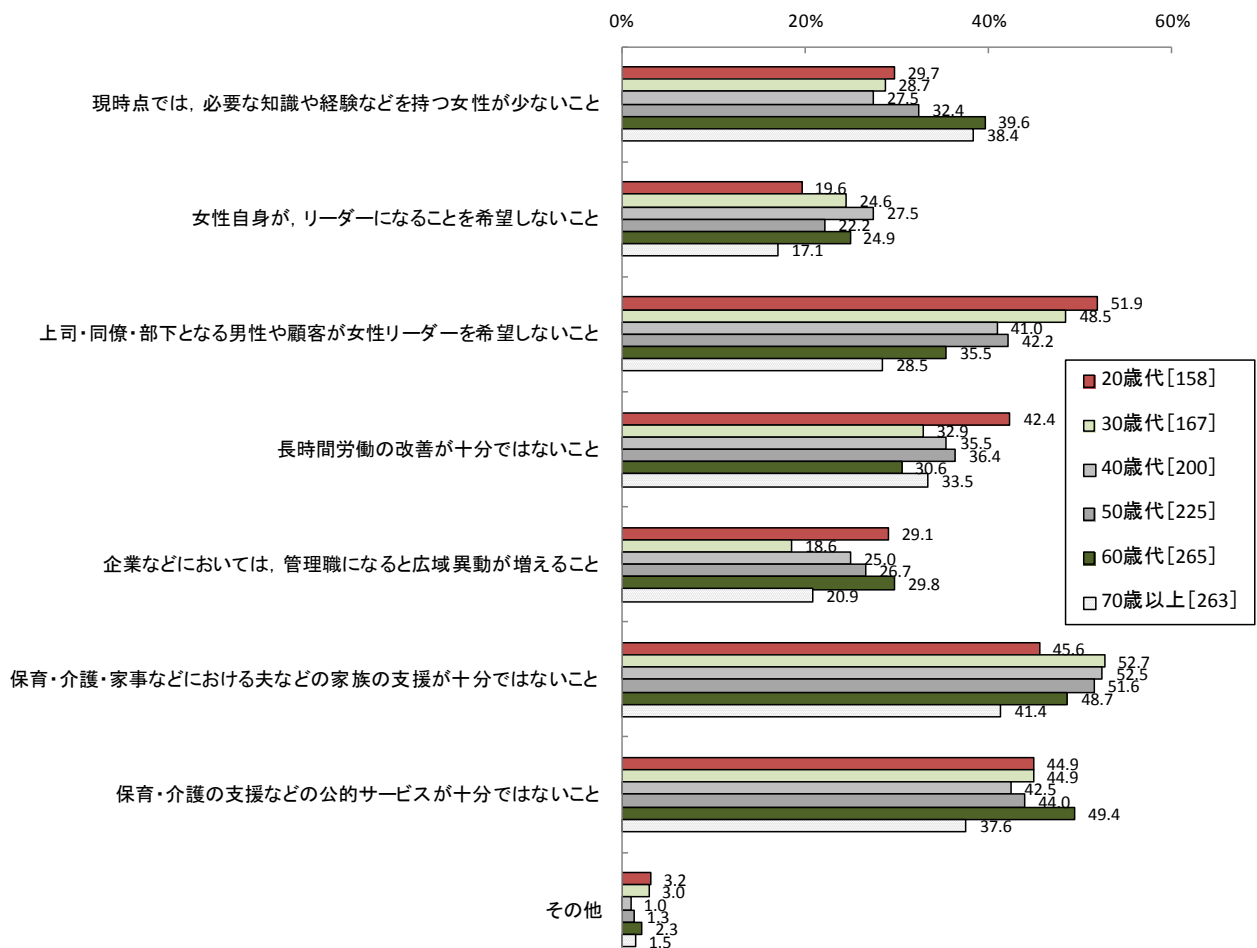
- 性別でみると、男女とも上位2位は同じですが、いずれも女性の方が高くなっています。
- 「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」は男性、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」「長時間労働の改善が十分ではないこと」は女性の回答率が高く、男女の差が目立ちます。

【問18】女性がリーダーとして活躍する際にさまたげとなるもの(あてはまるものすべて選択/性別)



- 年齢別でみると、20歳代は「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」、30～50歳代と70歳以上は「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、60歳代は「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が、それぞれ第1位です。
- 「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」は年齢が低いほど回答率が高くなる傾向にあります。

【問18】女性がリーダーとして活躍する際にさまたげとなるもの(あてはまるものすべて選択/年齢別)

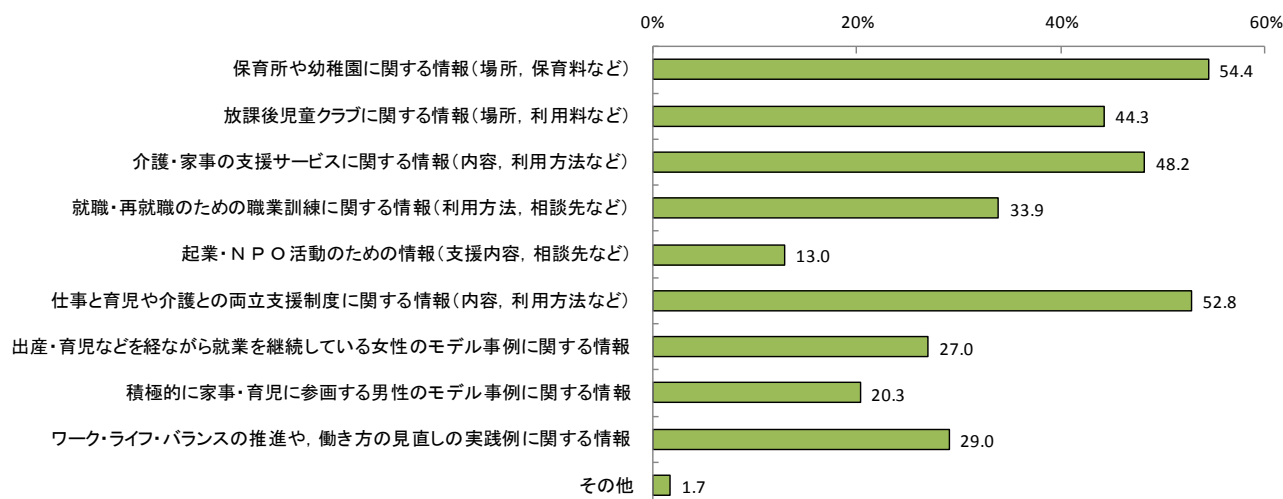


## 問 19 女性が活躍するために必要な情報

問 19 あなたは、女性が活躍するためには、どのような情報が特に必要だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 「保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）」(54.4%) が最も高く、「仕事と育児や介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」(52.8%) が僅差で続き、「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）」(48.2%)、「放課後児童クラブに関する情報（場所、利用料など）」(44.3%)、「就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先など）」(33.9%) と続きます。

【問19】女性が活躍するために必要な情報(あてはまるものすべて選択) [1,288]

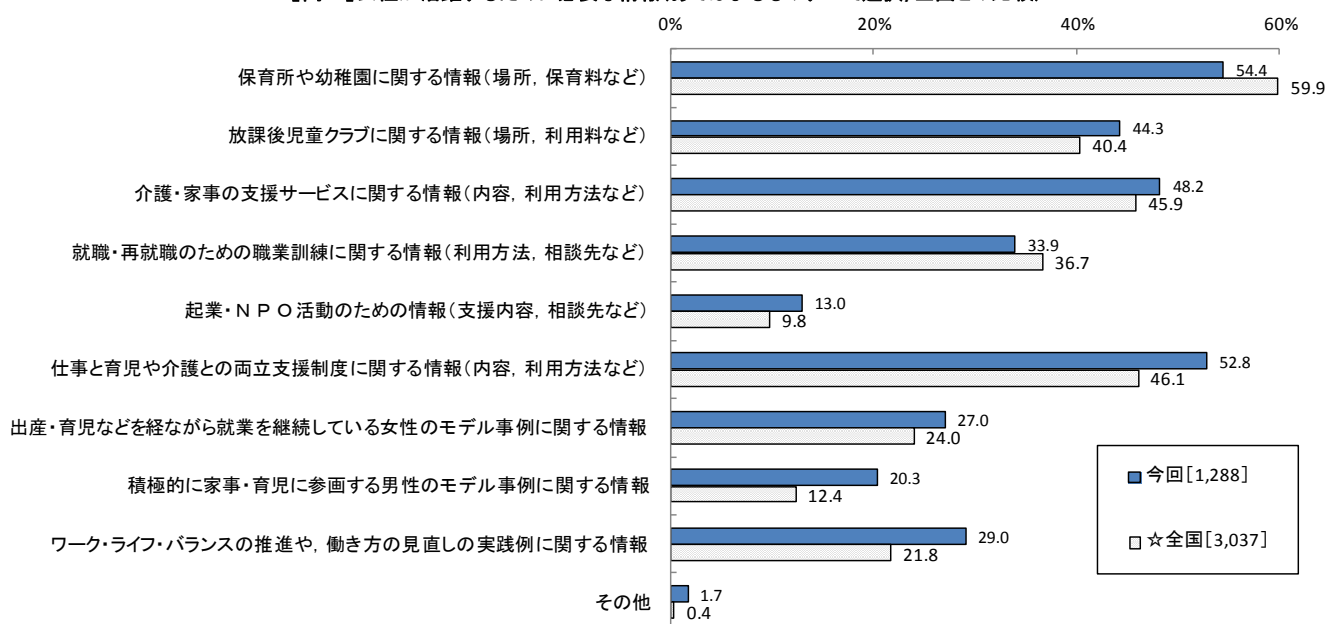


<「その他」の内容> ・在宅ワーク情報 病児保育について ・地域の情報 ・働くことによるメリット(年金など)

### 【全国との比較】

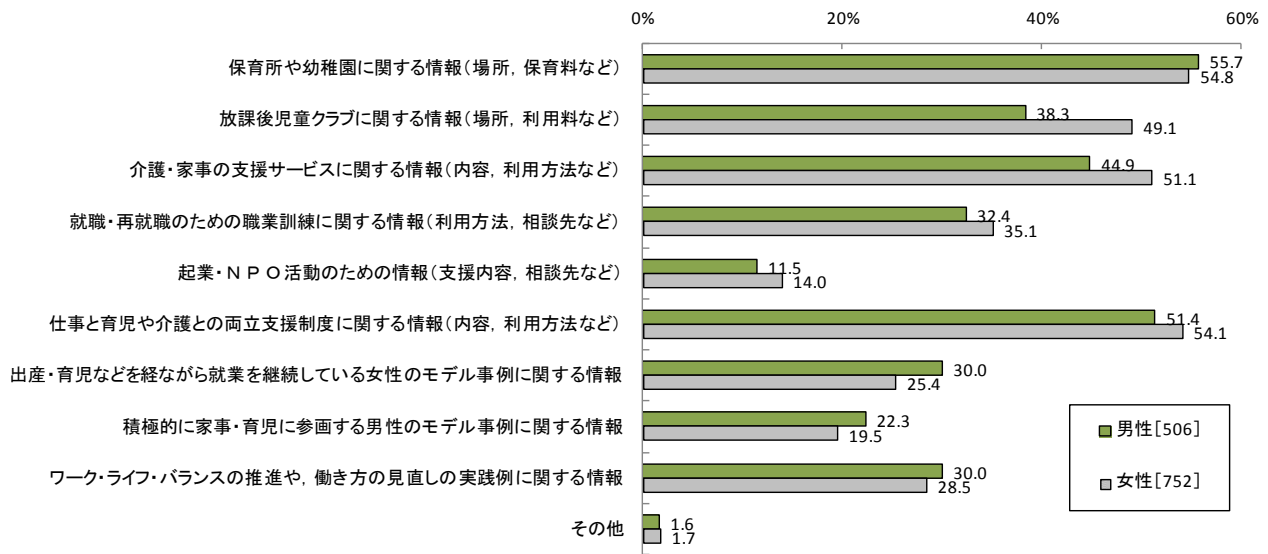
- 全国と比較すると、第1位は同じですが、「仕事と育児や介護との両立支援制度に関する情報」「積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報」「ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報」は全国より高く、差が目立ちます。

【問19】女性が活躍するために必要な情報(あてはまるものすべて選択/全国との比較)



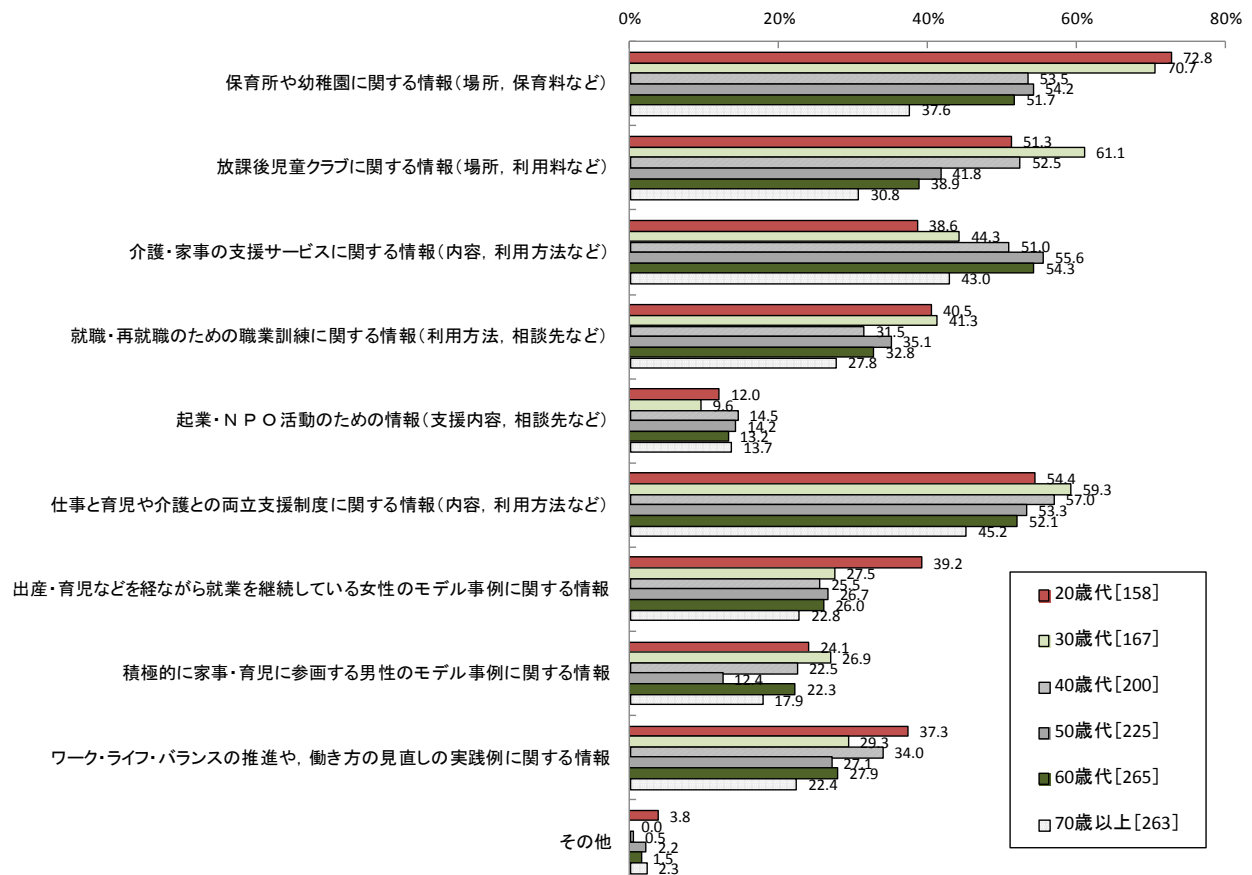
- 性別でみると、男女とも上位5項目は同じです。そのうち、「放課後児童クラブに関する情報」「介護・家事の支援サービスに関する情報」は女性の回答率が高く、男女の差が目立ちます。

【問19】女性が活躍するために必要な情報(あてはまるものすべて選択/性別)



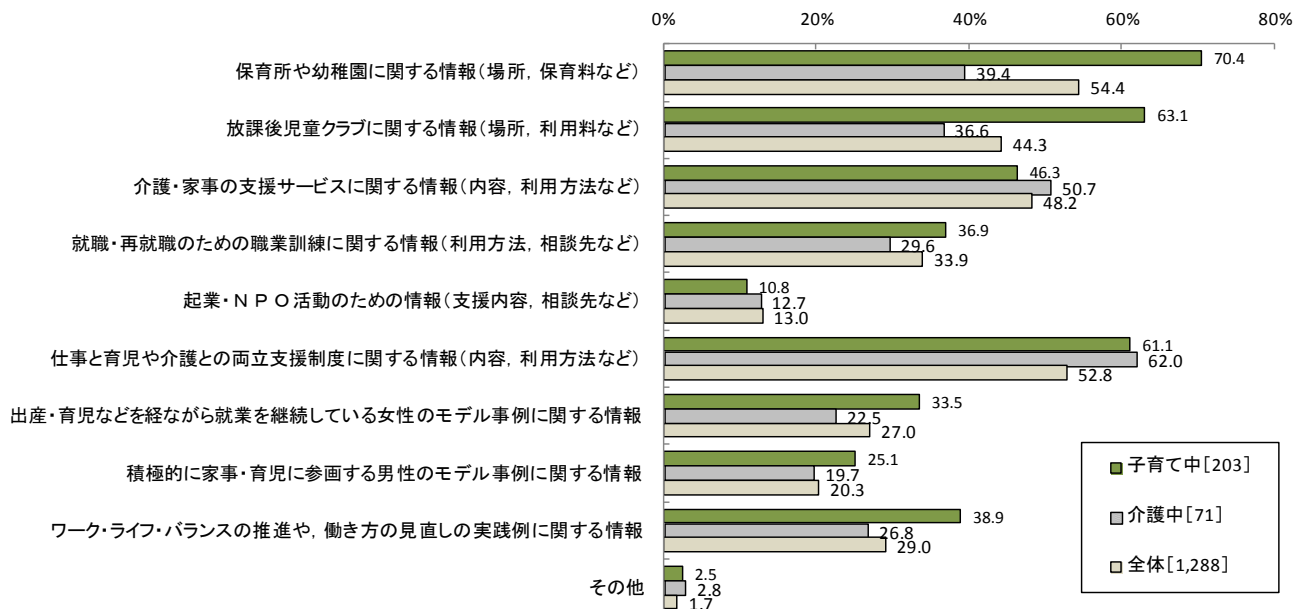
- 年齢別でみると、20～30歳代は「保育所や幼稚園に関する情報」、40歳代と70歳以上は「仕事と育児や介護との両立支援制度に関する情報」、50～60歳代は「介護・家事の支援サービスに関する情報」が第1位です。
- 「出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報」は20歳代で高く、他の年齢との差が目立ちます。また、「保育所や幼稚園に関する情報」「就職・再就職のための職業訓練に関する情報」「ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報」は、年齢が低いほど回答率が高くなる傾向にあります。

【問19】女性が活躍するために必要な情報(あてはまるものすべて選択/年齢別)



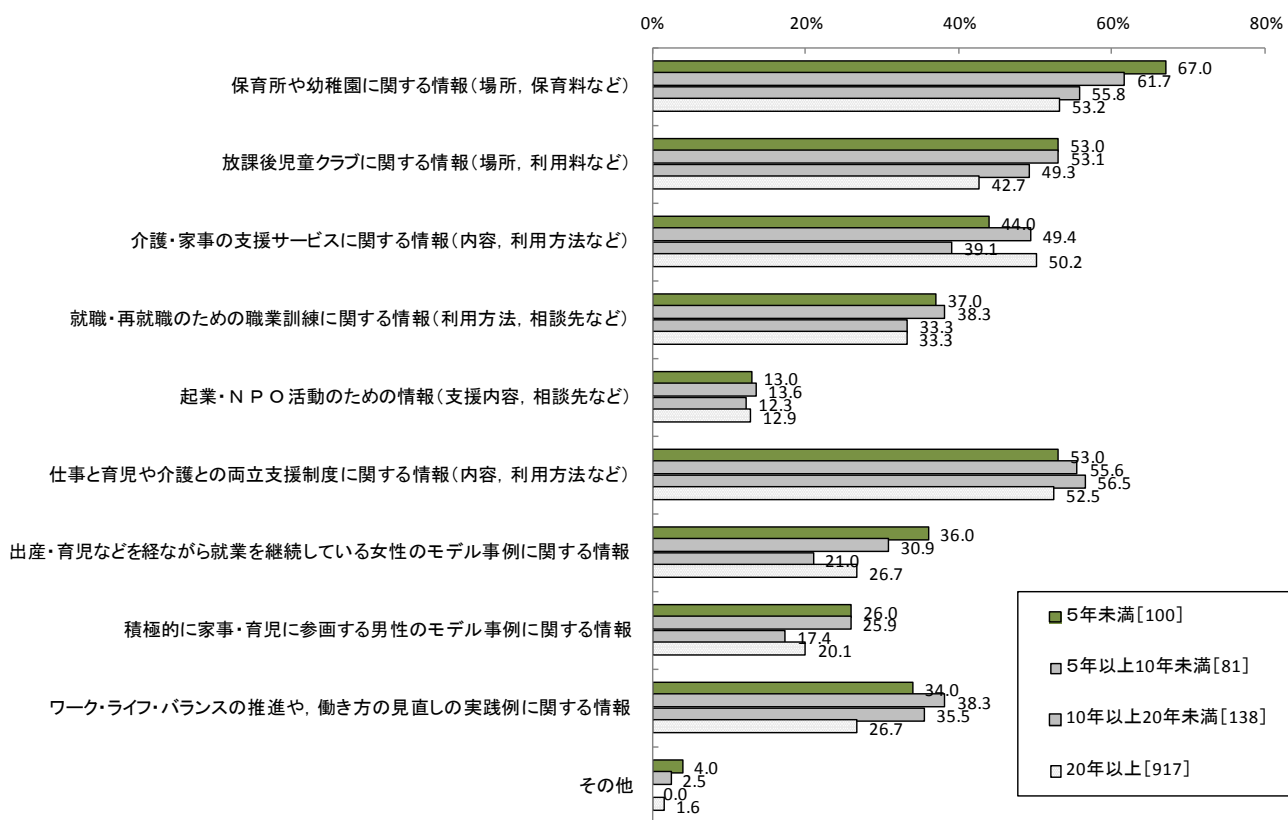
- 子育て、介護の状況別でみると、「保育所や幼稚園に関する情報」「放課後児童クラブに関する情報」「出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報」「ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報」は、子育て中の回答者の回答率が高くなっています。

【問19】女性が活躍するために必要な情報(あてはまるものすべて選択/子育て中、介護中の回答者)



- 居住年数別でみると、「保育所や幼稚園に関する情報」は、居住年数が短いほど回答率が高くなっています。

【問19】女性が活躍するために必要な情報(あてはまるものすべて選択/居住年数別)

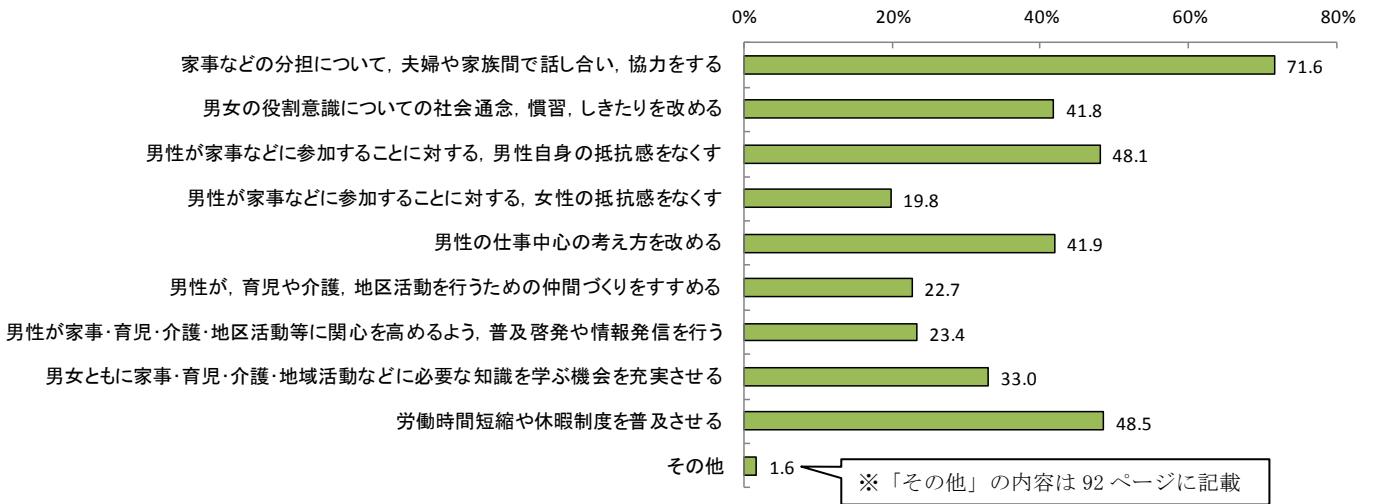


問 20 男性が女性とともに家事，育児，介護，地区活動に参加していくために必要なこと

問 20 あなたは，男性が，女性とともに家事，育児，介護，地区活動に積極的に参加していくためには，どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び，番号に○を)

○「家事などの分担について，夫婦や家族間で話し合い，協力をする」(71.6%)が最も高く，やや間をあけて，「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」(48.5%)「男性が家事などに参加することに対する，男性自身の抵抗感をなくす」(48.1%)が続きます。

【問20】男性が女性とともに家事，育児，介護，地区活動に参加していくために必要なこと(あてはまるものすべて選択)[1,288]

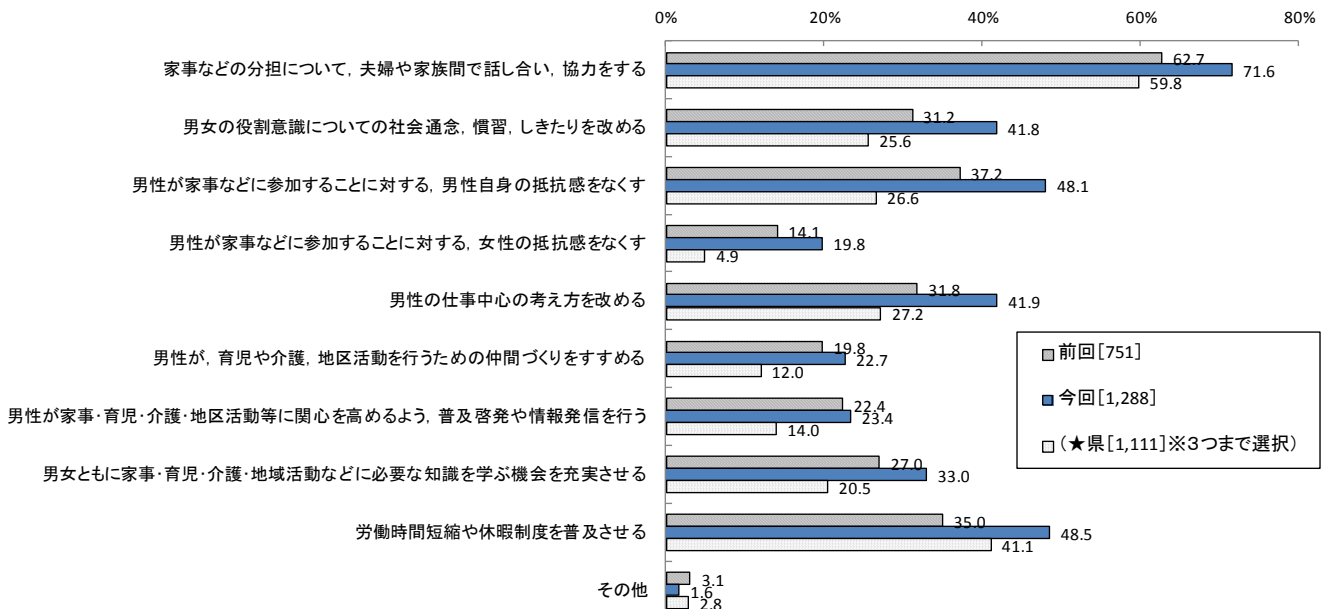


【前回，県との比較】

○前回と比較すると，その他以外のすべての項目で今回の方が高くなっています。特に「家事などの分担について，夫婦や家族間で話し合い，協力をする」「男女の役割意識についての社会通念，慣習，しきたりを改める」「男性が家事などに参加することに対する，男性自身の抵抗感をなくす」「男性の仕事中心の考え方を改める」「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」は前回との差が目立ちます。

○県と比較すると，県は選択肢が3つまでに限定されているので回答率での比較はできませんが，「家事などの分担について，夫婦や家族間で話し合い，協力をする」が第1位，「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」が第2位で，上位2位は同じです。

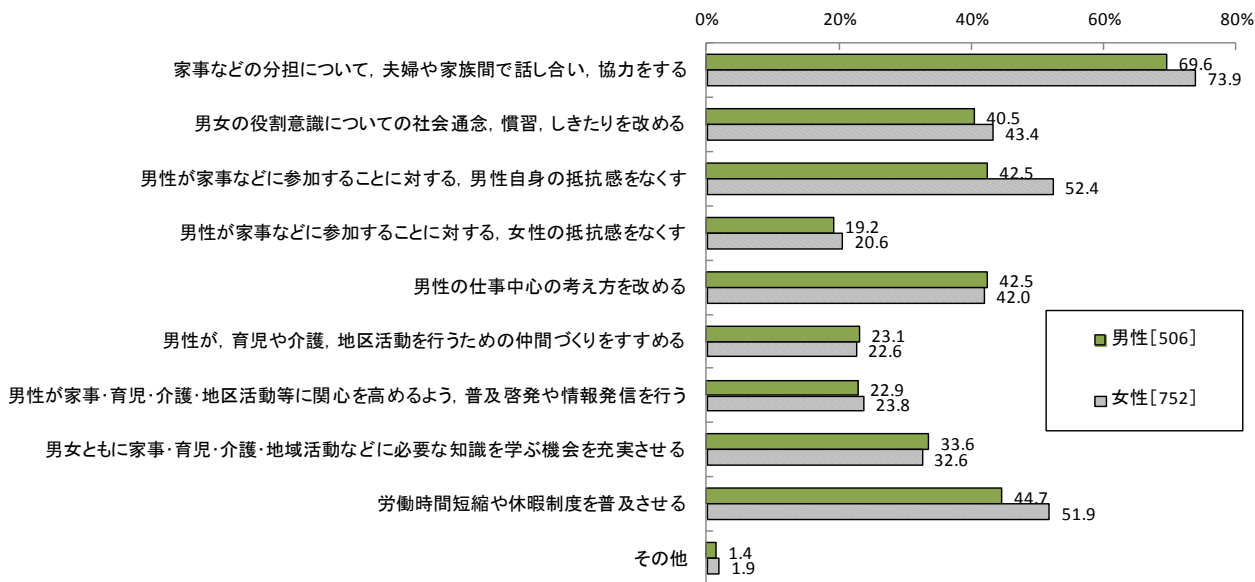
【問20】男性が女性とともに家事，育児，介護，地区活動に参加していくために必要なこと (あてはまるものすべて選択※/前回，県との比較)





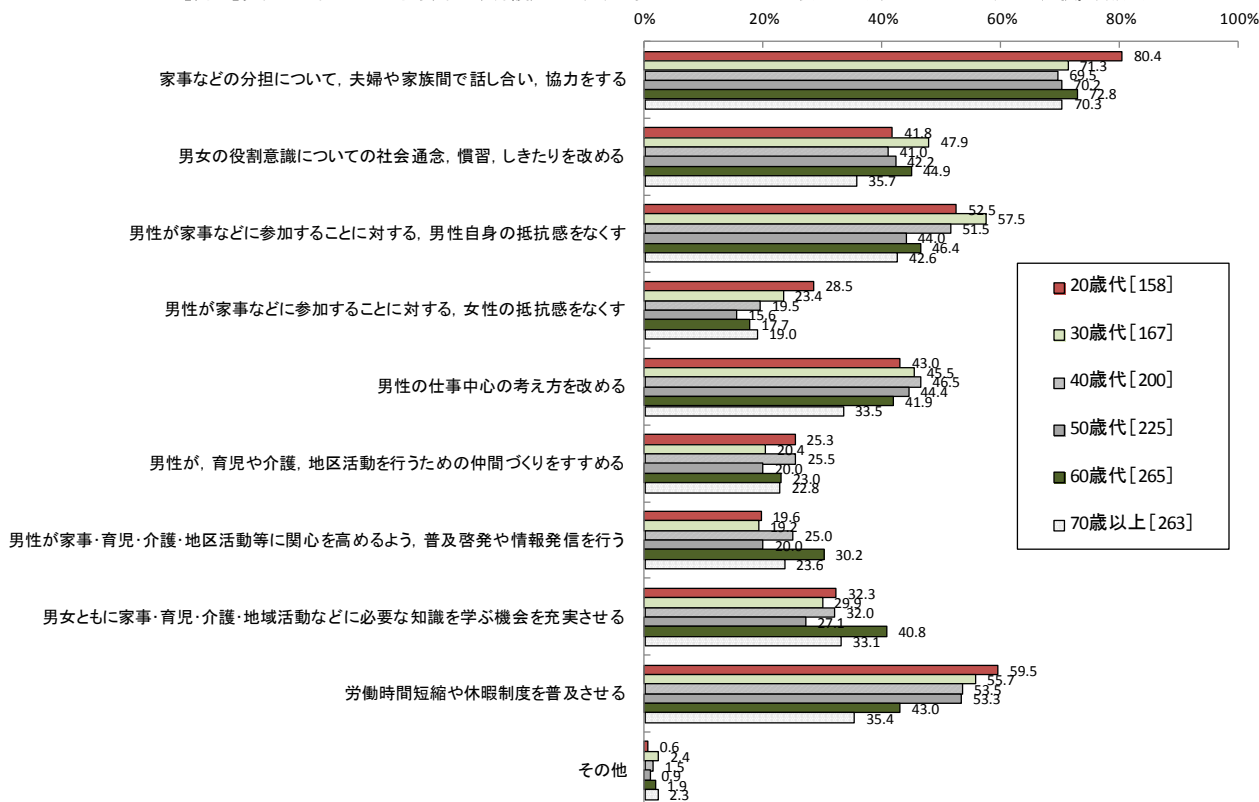
- 性別でみると，男女とも「家事などの分担について，夫婦や家族間で話し合い，協力をする」が第1位です。
- 第2位については，男性は「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」，女性は「男性が家事などに参加することに対する，男性自身の抵抗感をなくす」をあげています。この2項目はいずれも女性の回答率が高く，男女の差が目立ちます。

【問20】男性が女性とともに家事，育児，介護，地区活動に参加していくために必要なこと(あてはまるものすべて選択/性別)



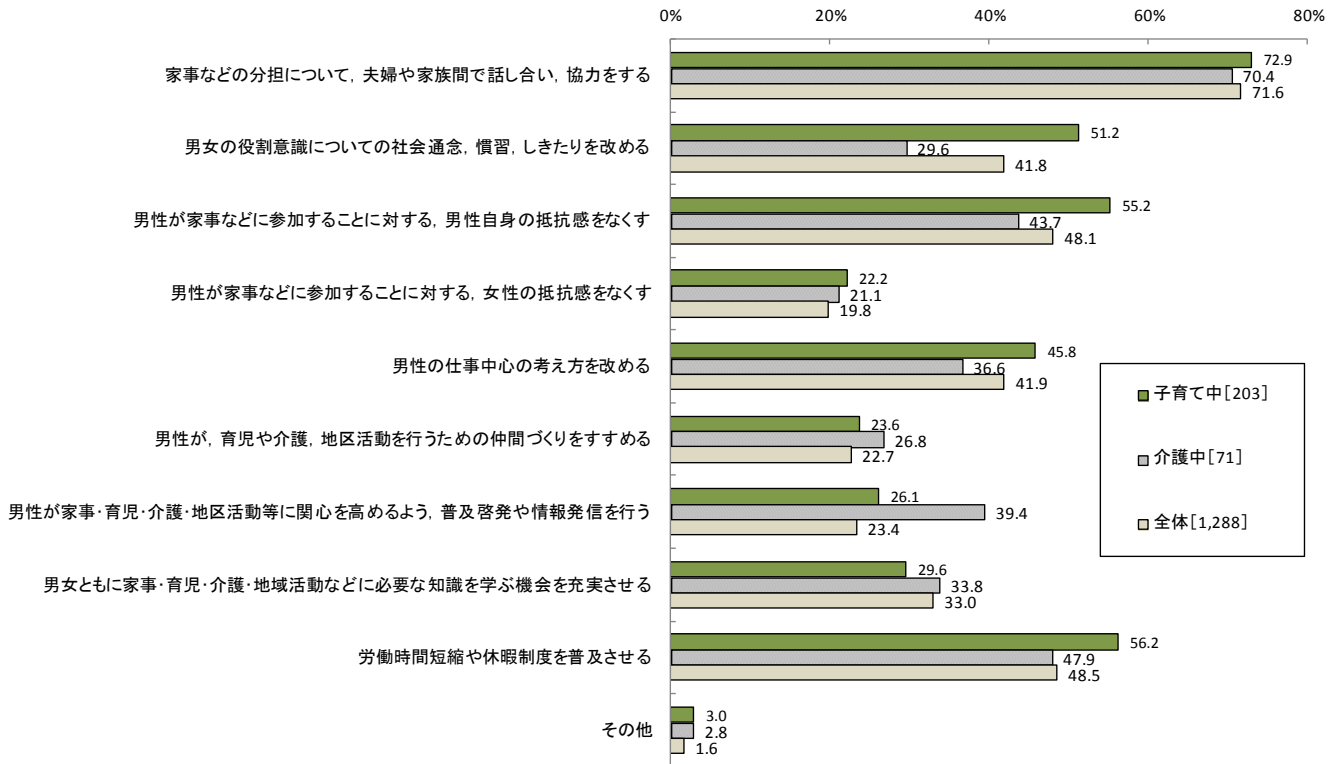
- 年齢別でみると，各年齢とも「家事などの分担について，夫婦や家族間で話し合い，協力をする」が第1位で，特に20歳代の回答率が高くなっています。第2位については，20歳代と40～50歳代は「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」，30歳代と60歳代以上は「男性が家事などに参加することに対する，男性自身の抵抗感をなくす」をあげています。
- 「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」は年齢が低いほど回答率が高くなっています。

【問20】男性が女性とともに家事，育児，介護，地区活動に参加していくために必要なこと(あてはまるものすべて選択/年齢別)



- 子育て、介護の状況別でみると、「男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める」「男性が家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくす」「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」は子育て中の回答者、「男性が家事・育児・介護・地区活動等に関心を高めるよう、普及啓発や情報発信を行う」は介護中の回答者の回答率がそれぞれ高くなっています。

【問20】男性が女性とともに家事、育児、介護、地区活動に参加していくために必要なこと  
(あてはまるものすべて選択/子育て中、介護中の回答者)



< 「その他」の内容 >

- ・勤務先の理解（3）
- ・男性が育児や介護等に関われるような職場での環境改善が必要だと思う
- ・仕事中心にならざるを得ない業務体質を見直す。体力、精神のゆとりから家事等への意識が向く。
- ・全ての時間、お金にゆとりがあれば心のゆとりができます、ゆとりがなければ他の人を見る事ができませんね
- ・一生懸命働いて好きな事のために時間を使う男女こそが同等だと思います。
- ・仕事をシェアしてくれる人材を会社が考えること。
- ・有給休暇の消化など。
- ・家族はお互いに協力し合って地区の人達とのコミュニケーションをもっととる。隣近所が大切。
- ・現状の社会ではかなり難しいと思うが社会全体で男性＝仕事を変えるべき。それには、すべてを考えなければ実現できない。
- ・女性自身の心得が必要と思われる。
- ・夫婦間で話し合うべき!!
- ・法を制備して、後から意識を改める。スピード感が必要。

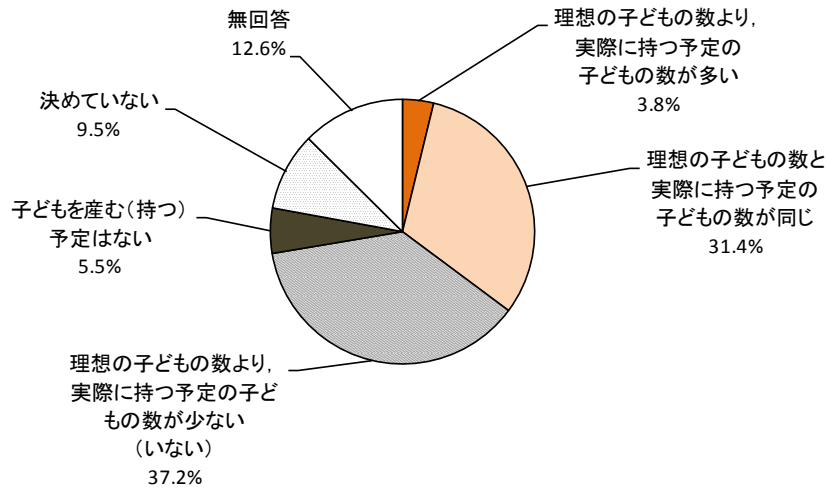


問 21 理想の子どもの数と実際に持つ予定の子どもの数について

問 21 理想の子どもの数と、実際に持つ予定の子どもの数について、現時点であなたはどのようにお考えですか。（1つだけ選び、番号に○を）

- 「理想の子どもの数より、実際の子どもの数が少ない（いない）」（37.2%）が最も高く、「理想の子どもの数と実際の子どもの数が同じ」（31.4%）が続きます。

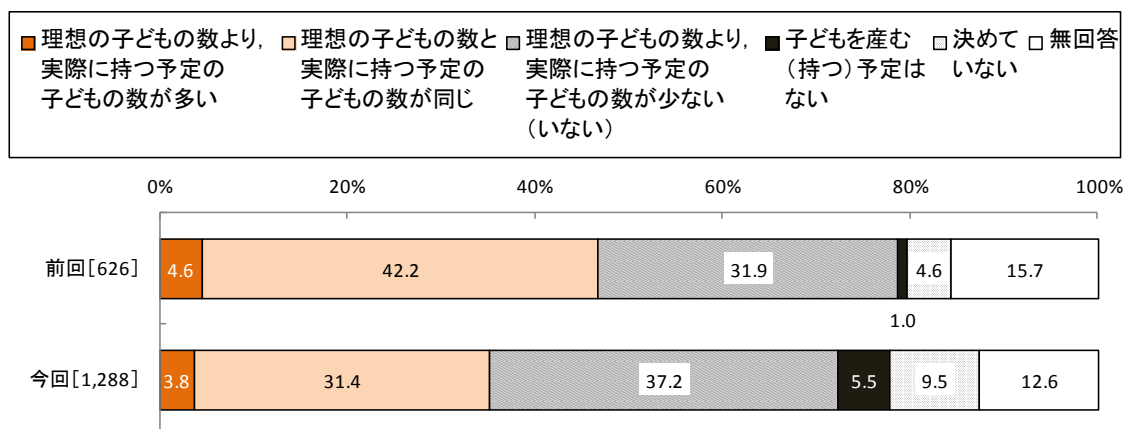
【問21】理想の子どもの数と実際に持つ予定の子どもの数について[1,288]



【前回との比較】

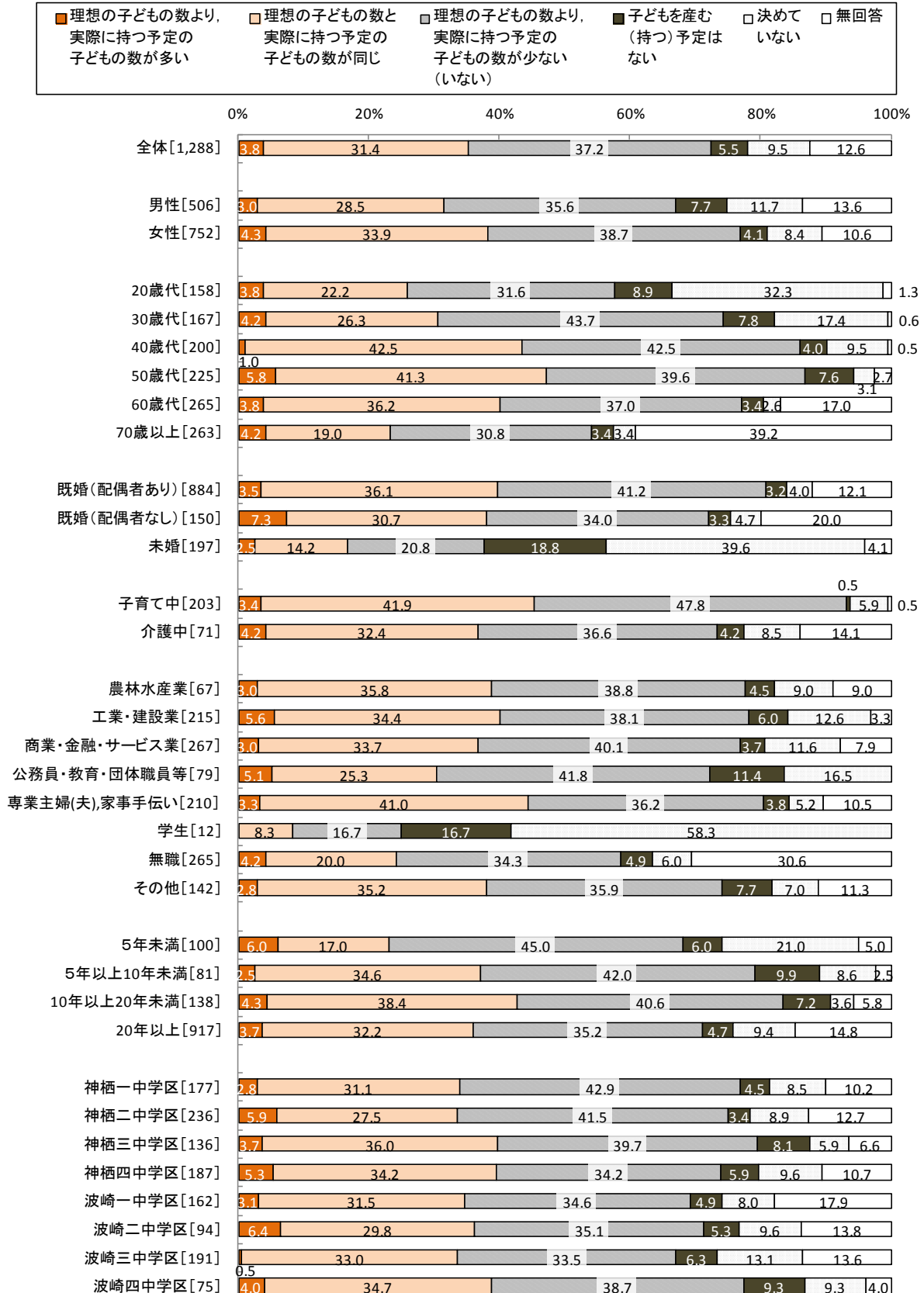
- 前回と比較すると、前は「理想の子どもの数と実際の子どもの数が同じ」が最も高かったのですが、今回は「理想の子どもの数より、実際の子どもの数が少ない（いない）」が最も高くなっています。

【問21】理想の子どもの数と実際に持つ予定の子どもの数について(前回との比較)



- 性別でみると、男女とも「理想の子どもの数より、実際の子どもの数が少ない（いない）」が最も高くなっています。「理想の子どもの数と実際の子どもの数が同じ」は女性の方が高くなっています。
- 年齢別でみると、20～30歳代と60歳代は「理想の子どもの数より、実際の子どもの数が少ない（いない）」、50歳代は「理想の子どもの数と実際の子どもの数が同じ」、70歳以上は「無回答」が最も高くなっています。40歳代は「同じ」と「少ない」が同率です。

【問21】理想の子どもの数と実際に持つ予定の子どもの数について(属性別)

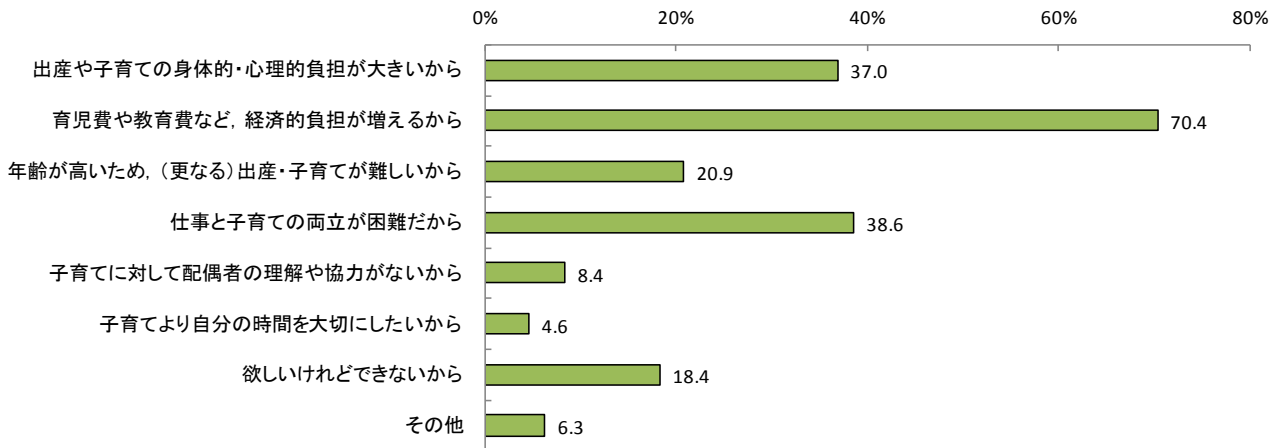


問 22 理想の子どもの数より少ない理由

問 22 問 21 で「3 理想の子どもの数より、実際に持つ予定の子どもの数が少ない(いない)」に○をつけた方におたずねします。その理由は何ですか。(3つまで選び、番号に○を)

- 「育児費や教育費など、経済的負担が増えるから」(70.4%) が最も高く、間をあけて、「仕事と子育ての両立が困難だから」(38.6%)、「出産や子育ての身体的・心理的負担が大きいから」(37.0%)、「年齢が高いため、(更なる) 出産・子育てが難しいから」(20.9%)、「欲しいけれどできないから」(18.4%) が続きます。

【問22】理想の子どもの数より少ない理由(3つまで選択)[479]



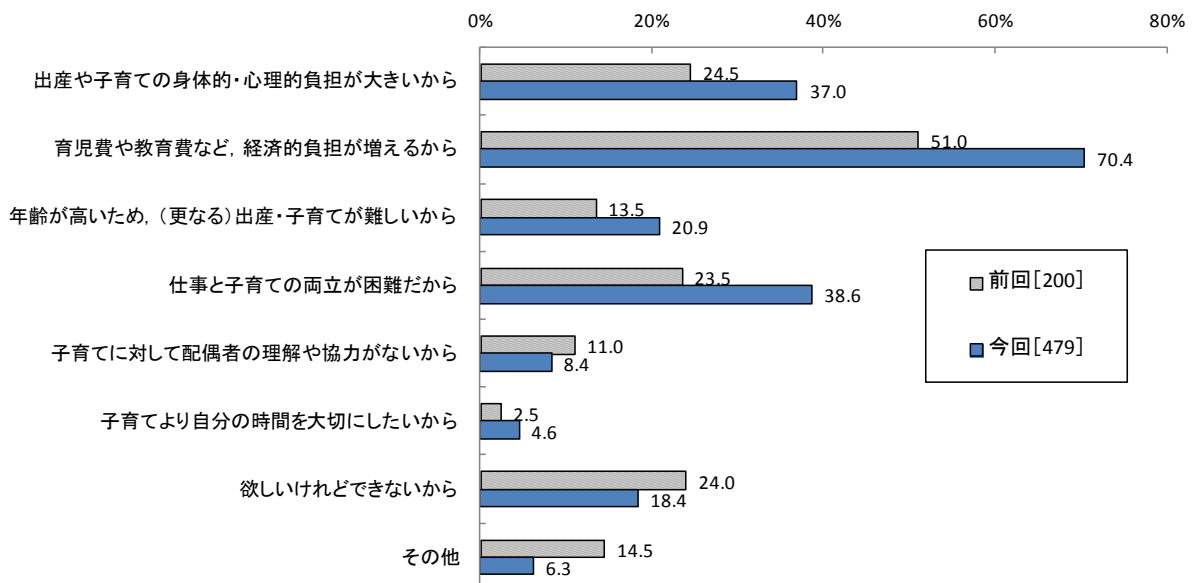
<「その他」の内容>

- ・職場の理解が不十分 (2)
- ・夫婦間で希望する子どもの数が異なる (2)
- ・育児ノイローゼ (産後うつ) になってしまったため。
- ・将来に希望がみえず産まれてきてもかわいそう (苦難) だから。
- ・下の子の心臓が悪いため。
- ・国や地域の支援が不足しているから。
- ・時間が足りない。もっと多くほしかった。
- ・仕事をしていることにより、自らが妊娠しづらかった。
- ・出産医療機関が近くにない。
- ・大学院などに行きもっと知識を深めようとするので結婚が遅くなると思うから。

【前回との比較】

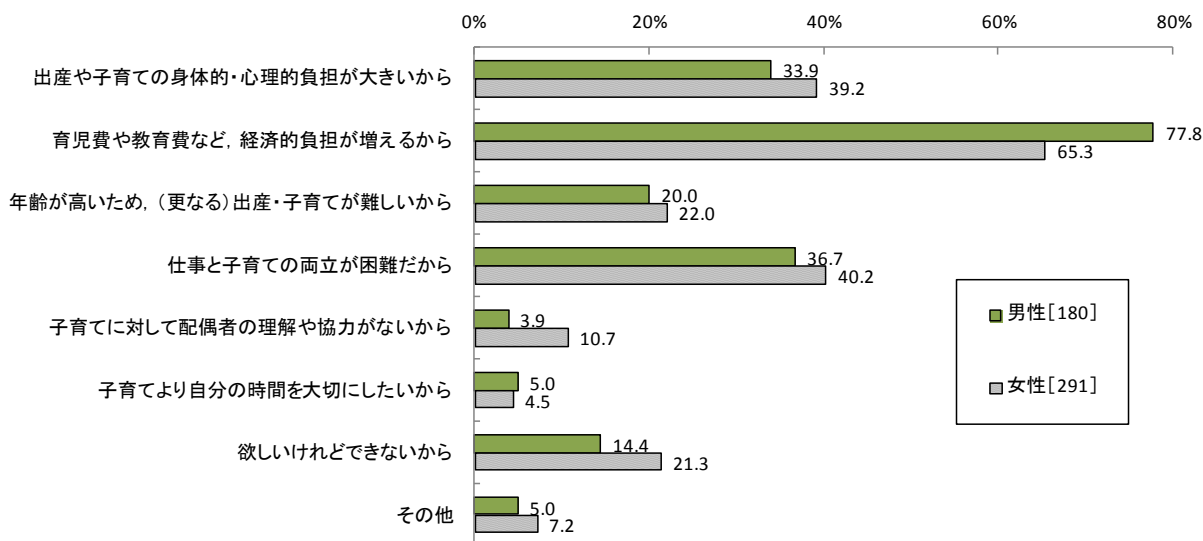
- 前回と比較すると、第1位は同じですが、「出産や子育ての身体的・心理的負担が大きいから」「育児費や教育費など、経済的負担が増えるから」「年齢が高いため、(更なる) 出産・子育てが難しいから」「仕事と子育ての両立が困難だから」は前回より高く、差も目立ちます。

【問22】理想の子どもの数より少ない理由(3つまで選択/前回との比較)



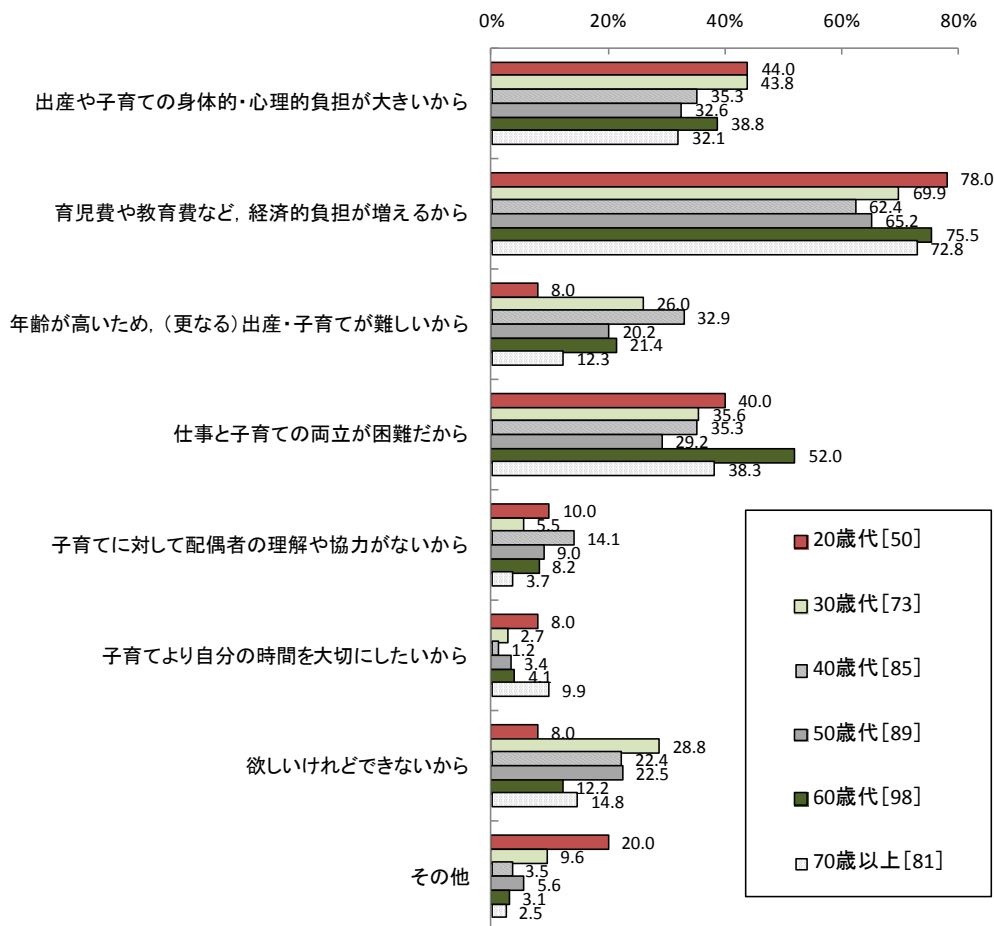
- 性別でみると，男女とも「育児費や教育費など，経済的負担が増えるから」が第1位ですが，男性の回答率が高く，男女の差が目立ちます。
- 「育児費や教育費など，経済的負担が増えるから」と「子育てより自分の時間を大切にしたいから」以外はすべて女性の回答率が高くなっています。

【問22】理想の子どもの数より少ない理由(3つまで選択/性別)



- 年齢別でみると，いずれの年齢も「育児費や教育費など，経済的負担が増えるから」が第1位です。「年齢が高いため，(更なる)出産・子育てが難しいから」は40歳代，「仕事と子育ての両立が困難だから」は60歳代，「欲しいけれどできないから」は30歳代で高く，他の年齢との差が目立ちます。

【問22】理想の子どもの数より少ない理由(3つまで選択/年齢別)

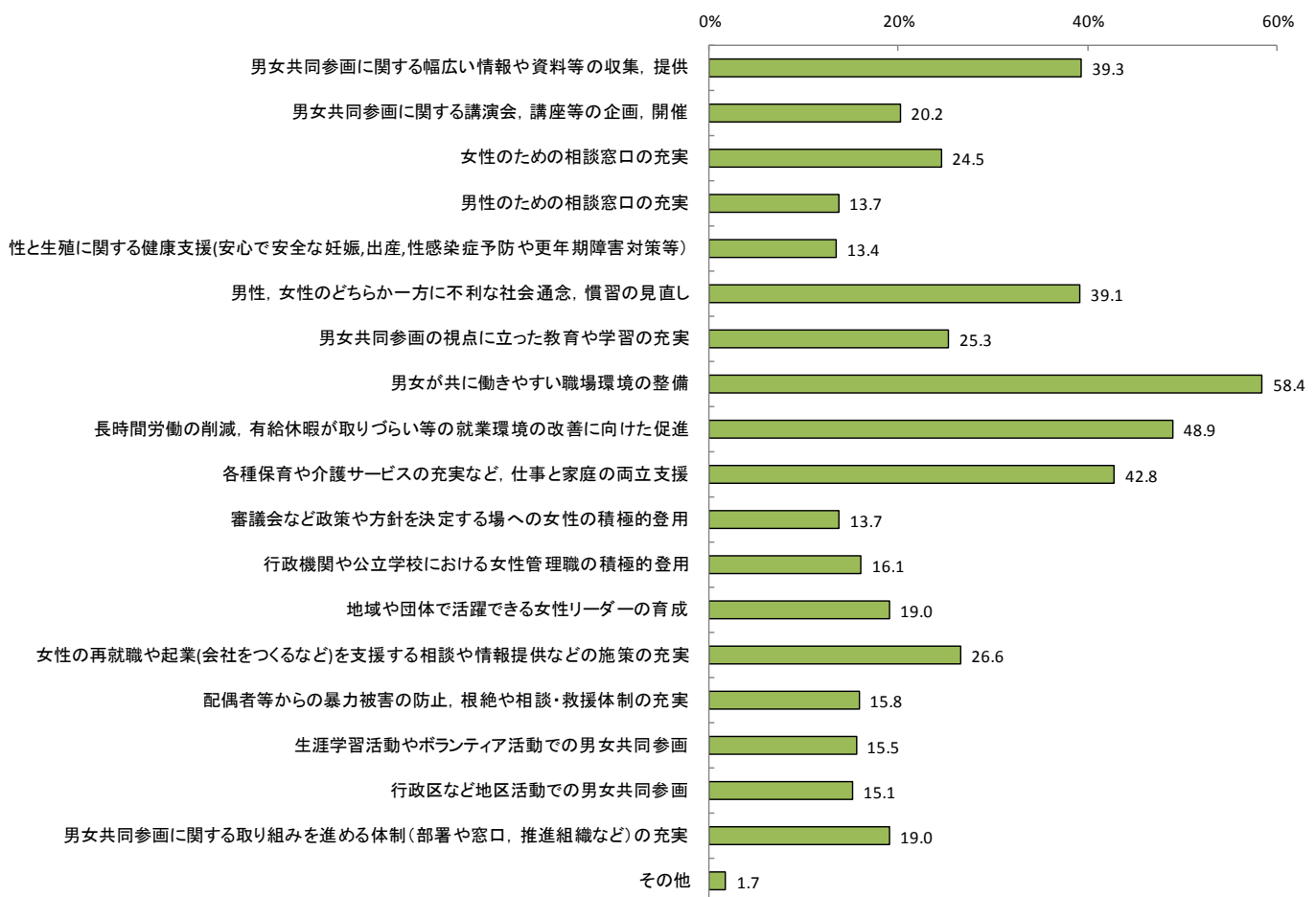


## 問 23 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと

問 23 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 「男女が共に働きやすい職場環境の整備」(58.4%)が最も高く、「長時間労働の削減、有給休暇が取りづらい等の就業環境の改善に向けた促進」(48.9%)、「各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭の両立支援」(42.8%)、「男女共同参画に関する幅広い情報や資料等の収集、提供」(39.3%)、「男性、女性のどちらか一方に不利な社会通念、慣習の見直し」(39.1%)が続きます。

【問23】男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと(あてはまるものすべて選択)[1,288]



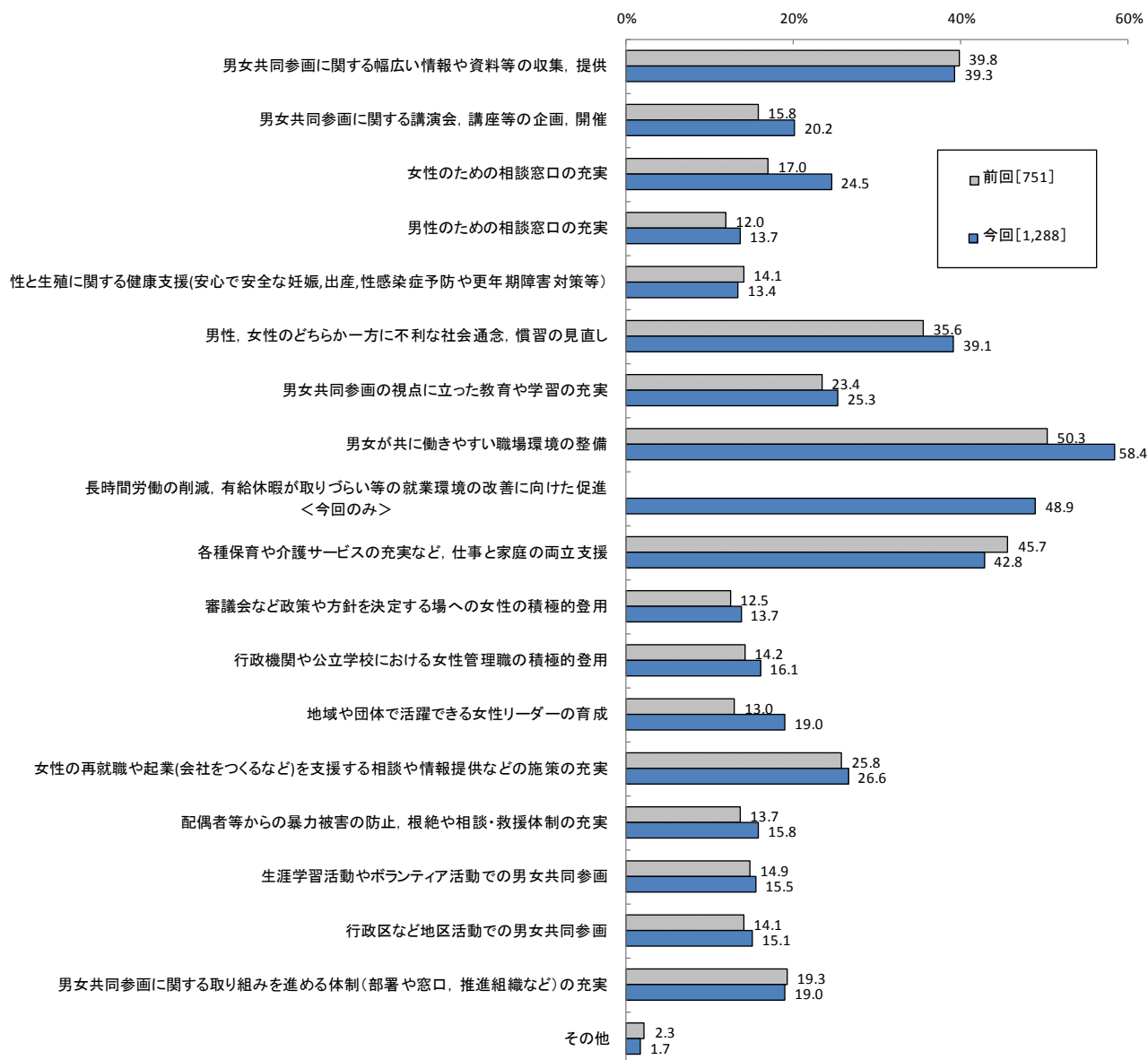
### <「その他」の内容>

- ・アンケートで意見を聞く、窓口をもうけるべき。
- ・学校で男女共同参画社会について分かりやすく授業に取り入れる。
- ・男女共同参画に関する企画を学校で行う。
- ・地域で男性だけを区長・民生委員・青少年相談員等にしない!女性もさせること!
- ・日本人としての在り方、見直し、再確認、どう生きるか、市民に問いかけていく事。
- ・まず市職員の意識改革が必要。
- ・もっと色々な手段を使って市民に情報を伝えるべき。SNS など。そもそも特に若い人は、市が男女共同参画社会を実現しようとしている事自体知らないと思う。

## 【前回との比較】

○前回と比較すると、前回と同様に「男女が共に働きやすい職場環境の整備」が第1位ですが、今回の方が高くなっています。そのほか、「男女共同参画に関する講演会、講座等の企画、開催」「女性のための相談窓口の充実」「地域や団体で活躍できる女性リーダーの育成」は今回の方が高く、前回との差が目立ちます。

【問23】男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと(あてはまるものすべて選択/前回との比較)



## 【県との比較】

○県の選択肢は一部異なるため、回答率での比較はできませんが、順位で比較すると、「男女が共に働きやすい職場環境の整備」はともに第1位であり、「各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭の両立支援」「女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実」「男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実」などは県と同様に上位にあげられています。

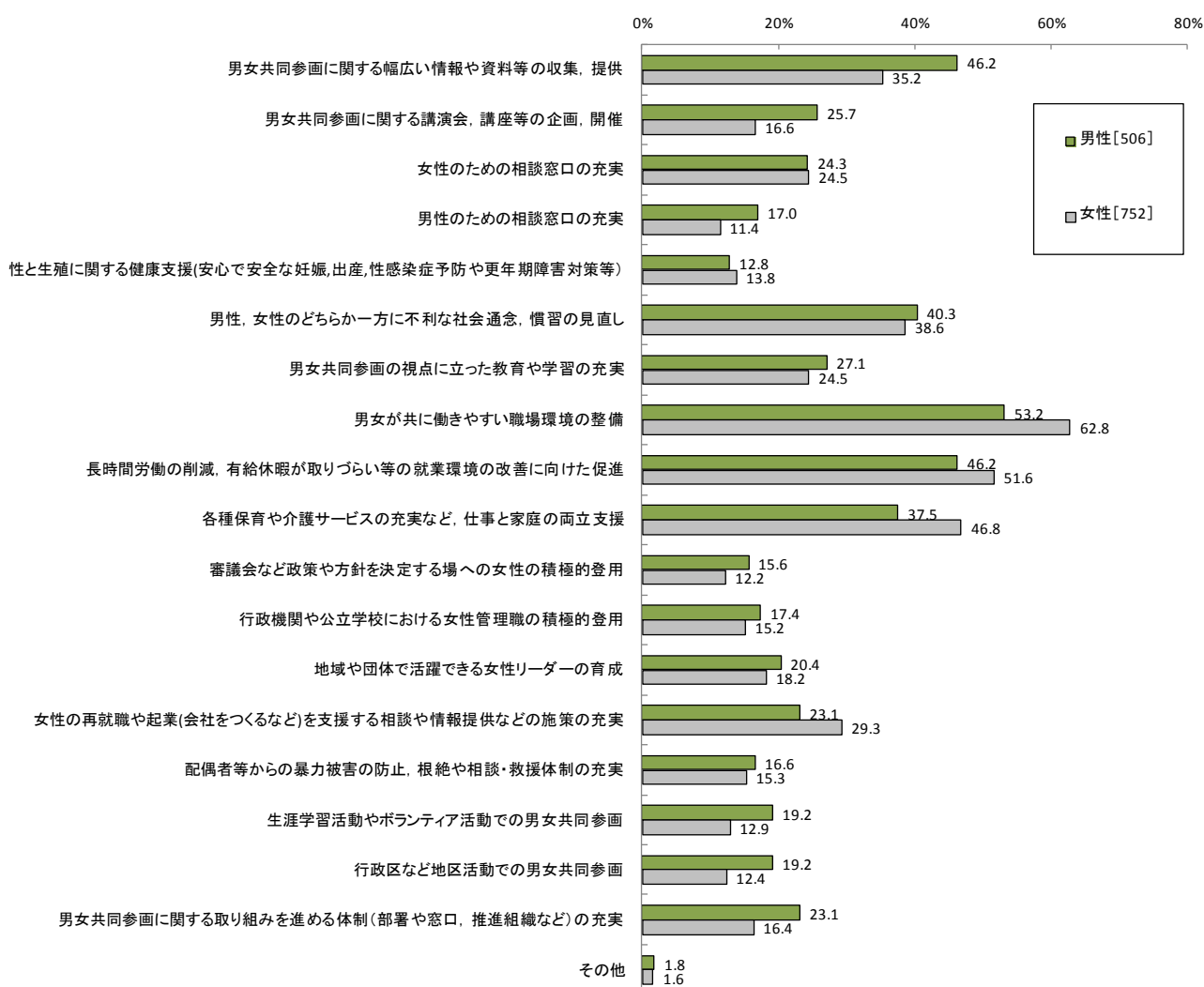
今回の調査と県の比較（回答率が高い順に記載。太字は比較可能な選択肢）

今回 [1,288]	%	★県 [1,111]	%
<b>男女が共に働きやすい職場環境の整備</b>	58.4	<b>男女が共に働きやすい就業環境の整備</b>	59.0
長時間労働の削減、有給休暇が取りづらい等の就業環境の改善に向けた促進	48.9	<b>各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援</b>	47.0
<b>各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭の両立支援</b>	42.8	子どものころからの男女共同参画教育	37.9
男女共同参画に関する幅広い情報や資料等の収集、提供	39.3	男性の意識改革	32.6
男性、女性のどちらか一方に不利な社会通念、慣習の見直し	39.1	女性に不利な慣習の見直し	32.5
<b>女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実</b>	26.6	経営者・企業のトップの意識啓発	29.4
<b>男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実</b>	25.3	男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実	28.0
女性のための相談窓口の充実	24.5	<b>女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実</b>	26.0
男女共同参画に関する講演会、講座等の企画、開催	20.2	<b>男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実</b>	25.8
<b>地域や団体に活躍できる女性リーダーの育成</b>	19.0	関係する制度の制定や見直し	22.4
男女共同参画に関する取り組みを進める体制（部署や窓口、推進組織など）の充実	19.0	<b>行政機関・教育機関・企業等における女性管理職の積極的起用</b>	18.0
<b>行政機関や公立学校における女性管理職の積極的登用</b>	16.1	<b>配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実</b>	14.3
<b>配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実</b>	15.8	<b>地域や団体に活躍できる女性リーダーの養成</b>	13.5
生涯学習活動やボランティア活動での男女共同参画	15.5	男女共同参画社会実現のための各種情報の提供や団体交流、調査研究などを実施する拠点機能の充実	12.8
行政区など地区活動での男女共同参画	15.1	<b>審議会など政策や方針決定過程への女性の積極的起用</b>	10.9
<b>審議会など政策や方針を決定する場への女性の積極的登用</b>	13.7	男性も対象とした各種講座や相談活動の充実	10.1
男性のための相談窓口の充実	13.7	農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上	9.9
性と生殖に関する健康支援(安心で安全な妊娠、出産、性感染症予防や更年期障害対策等)	13.4		



- 性別でみると、男女とも「男女が共に働きやすい職場環境の整備」が第1位ですが、女性の方が高くなっています。第2位も同じですが、男性は「男女共同参画に関する幅広い情報や資料等の収集、提供」も同率で第2位にあげています。
- 「男女共同参画に関する幅広い情報や資料等の収集、提供」「男女共同参画に関する講演会、講座等の企画、開催」「生涯学習活動やボランティア活動での男女共同参画」「行政区など地区活動での男女共同参画」「男女共同参画に関する取り組みを進める体制（部署や窓口、推進組織など）の充実」は男性、「各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭の両立支援」や「女性の再就職や起業(会社をつくるなど)を支援する相談や情報提供などの施策の充実」は女性の方が高く、それぞれ、男女の差が目立ちます。

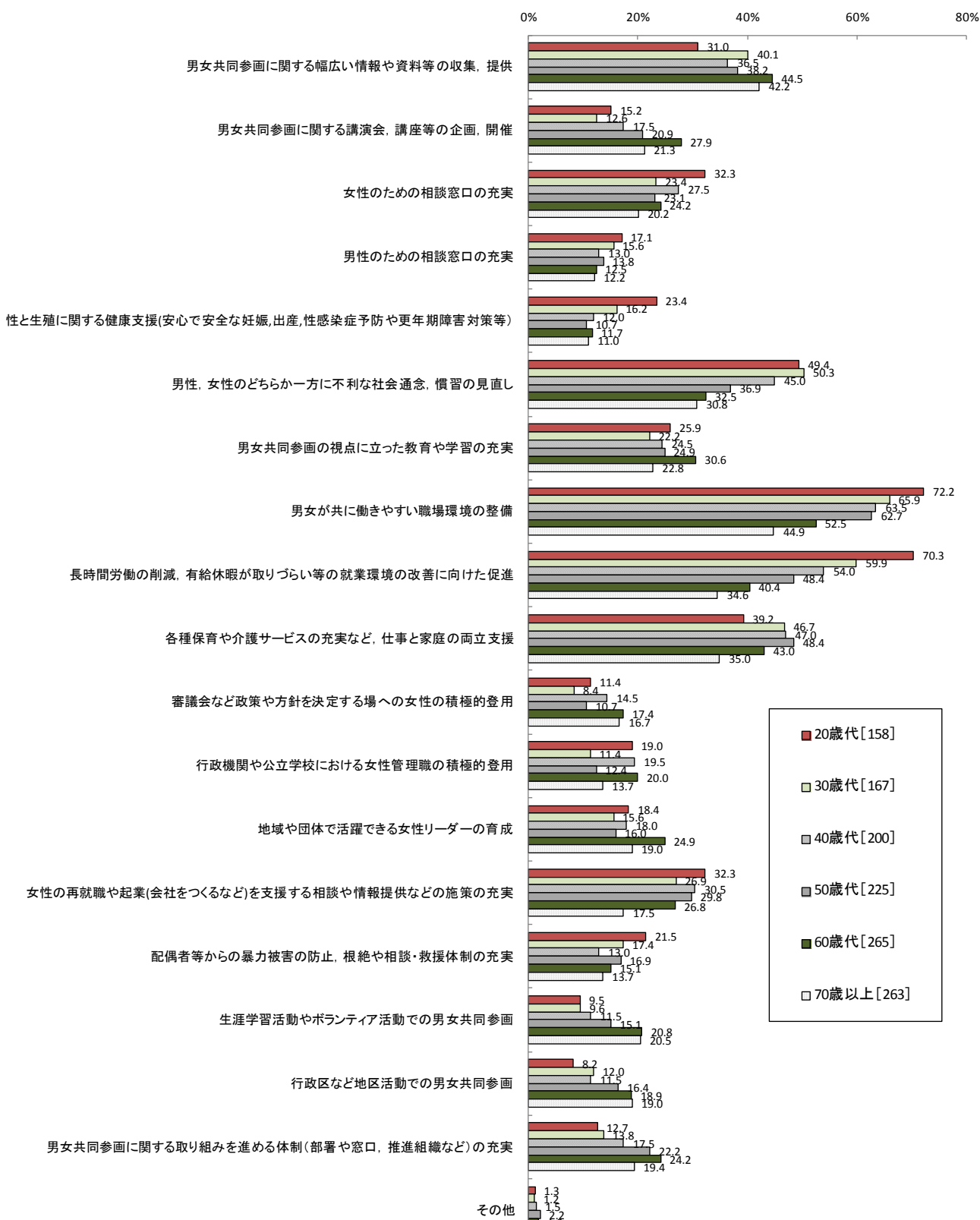
【問23】男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと(あてはまるものすべて選択/性別)





- 年齢別でみると、いずれの年齢も「男女が共に働きやすい職場環境の整備」が第1位です。第2位については、20～40歳代は「長時間労働の削減、有給休暇が取りづらい等の就業環境の改善に向けた促進」、50歳代は「長時間労働の削減、有給休暇が取りづらい等の就業環境の改善に向けた促進」と「各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭の両立支援」（同率）、60歳以上は「男女共同参画に関する幅広い情報や資料等の収集、提供」をあげています。
- 「男女が共に働きやすい職場環境の整備」「長時間労働の削減、有給休暇が取りづらい等の就業環境の改善に向けた促進」は、年齢が低いほど回答率が高くなっています。

【問23】男女共同参画社会を実現するために市が力を入れていくべきこと(あてはまるものすべて選択/年齢別)

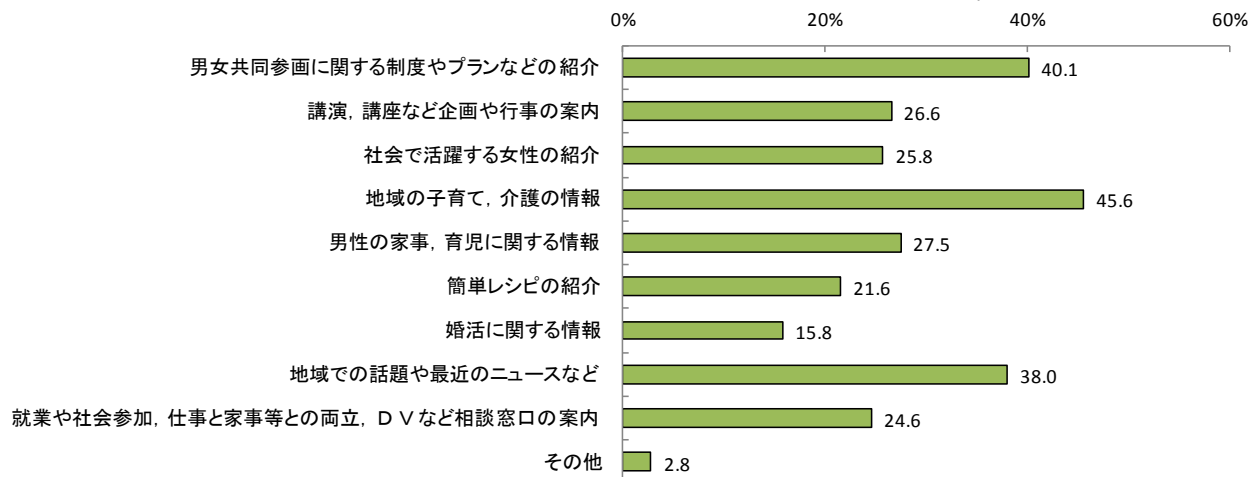


問 24 「ハートフルかみす」に希望する内容

問 24 市では市民スタッフの企画・編集により神栖市男女共同参画情報誌「ハートフルかみす」を年2回発行しています。あなたは、掲載する内容としてどのようなものをご希望されますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

○「地域の子育て、介護の情報」(45.6%)が最も高く、「男女共同参画に関する制度やプランなどの紹介」(40.1%)、「地域での話題や最近のニュースなど」(38.0%)が続きます。

【問24】「ハートフルかみす」に希望する内容(あてはまるものすべて選択)[1,288]

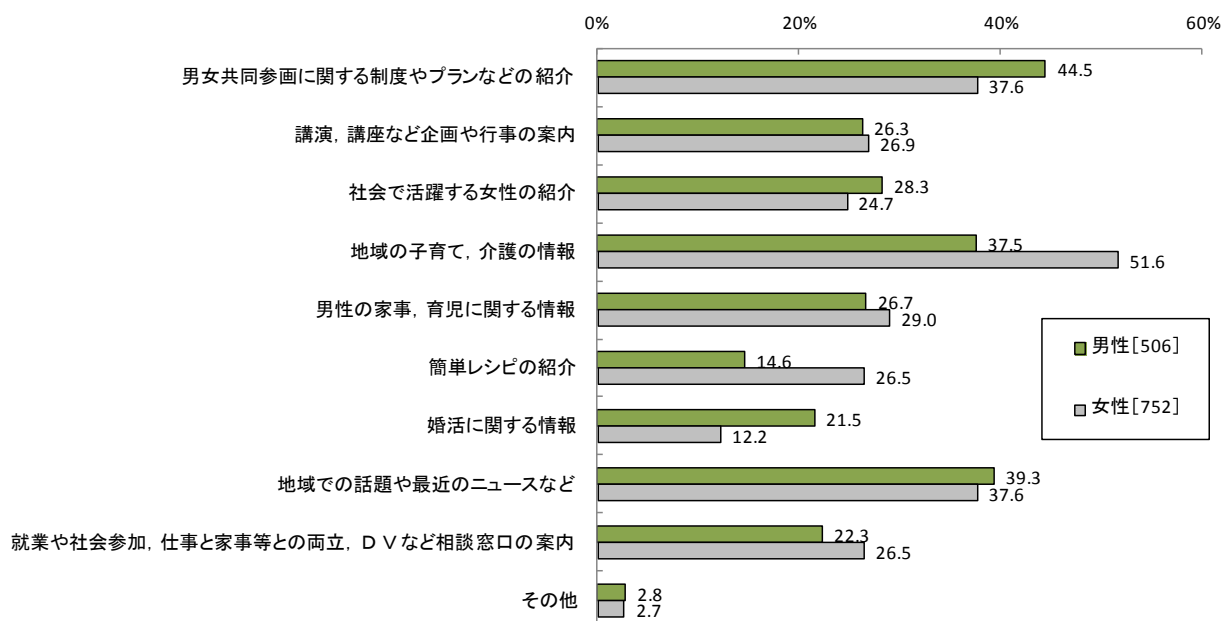


<「その他」の内容>

・市民の協力や努力で変わってきたこと(変ってきたのか)をのせる。 ・私達に直接参考になる様は実話みたいな内容を！ ・仲の良い夫婦の紹介。仕事、家事で助け合ってまーす！等々。 ・共同参画についての成功例、見て真似したいと思えるようなもの。 ・積極的に家事、育児に参画する仕事を持つ男性の紹介(匿名可)。 ・障がい者支援の情報(2) ・行政区の活動内容(2)。 ・地域の祭りや、小中高のボランティア活動。 ・学校での取り組み、職域での取り組み。 ・基本的な考え方の論文紹介等。 ・不妊外来の情報や病院の紹介(情報)。 ・保育所や児童クラブの利用方法や条件。 ・優良企業などの紹介(福利厚生が充実しているなどの)。 ・婚活は無料、プレゼント付き、ラブに若者が集まれる企画。 ・どの年齢層向けなのか区切ってやるべきでは？ ・広報に少し載せて頂ければ読む機会が増えそう。 ・要らない(2)

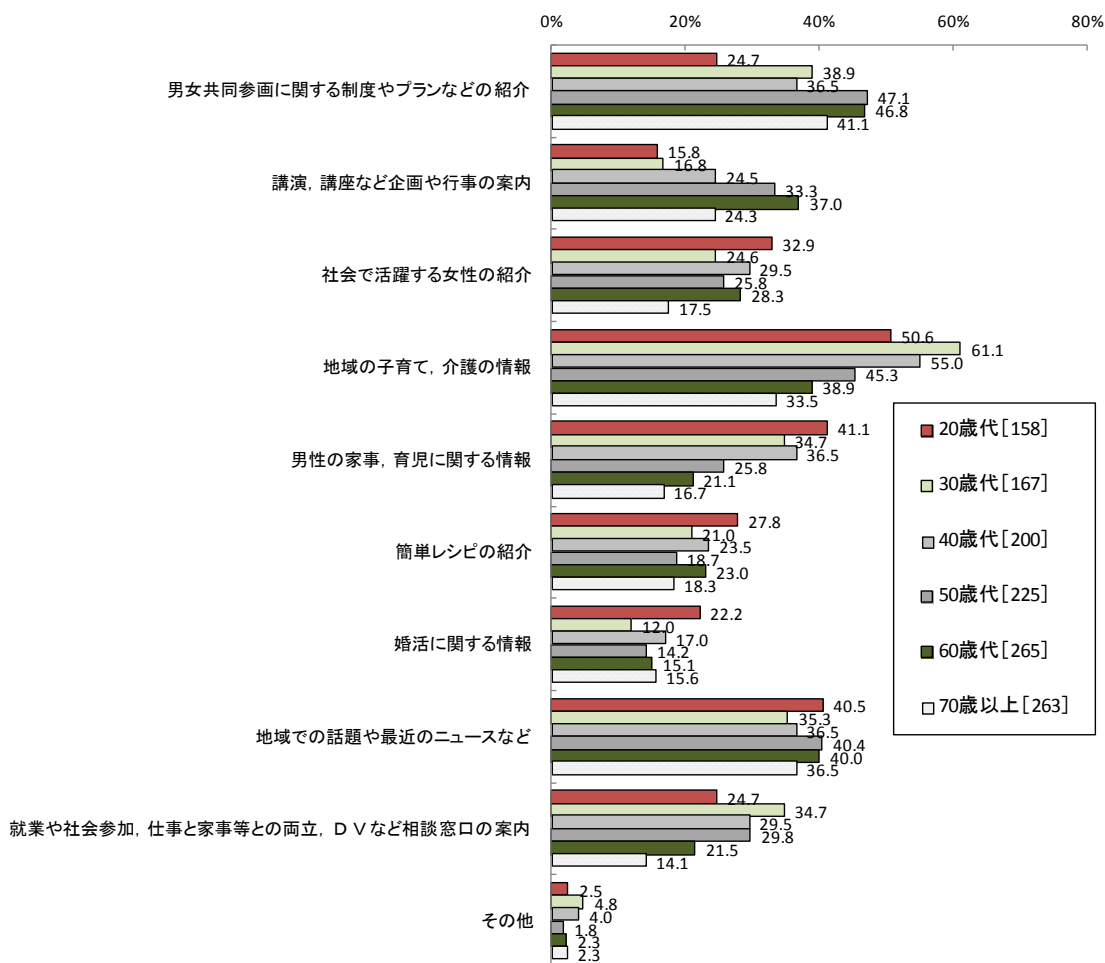
- 性別でみると、男性は「女共同参画に関する制度やプランなどの紹介」、女性は「地域の子育て、介護の情報」が第1位で、男女の差が目立ちます。
- 「簡単レシピの紹介」は女性、「婚活に関する情報」は男性の回答率が高く、それぞれ、男女の差が目立ちます。

【問24】「ハートフルかみす」に希望する内容(あてはまるものすべて選択/性別)



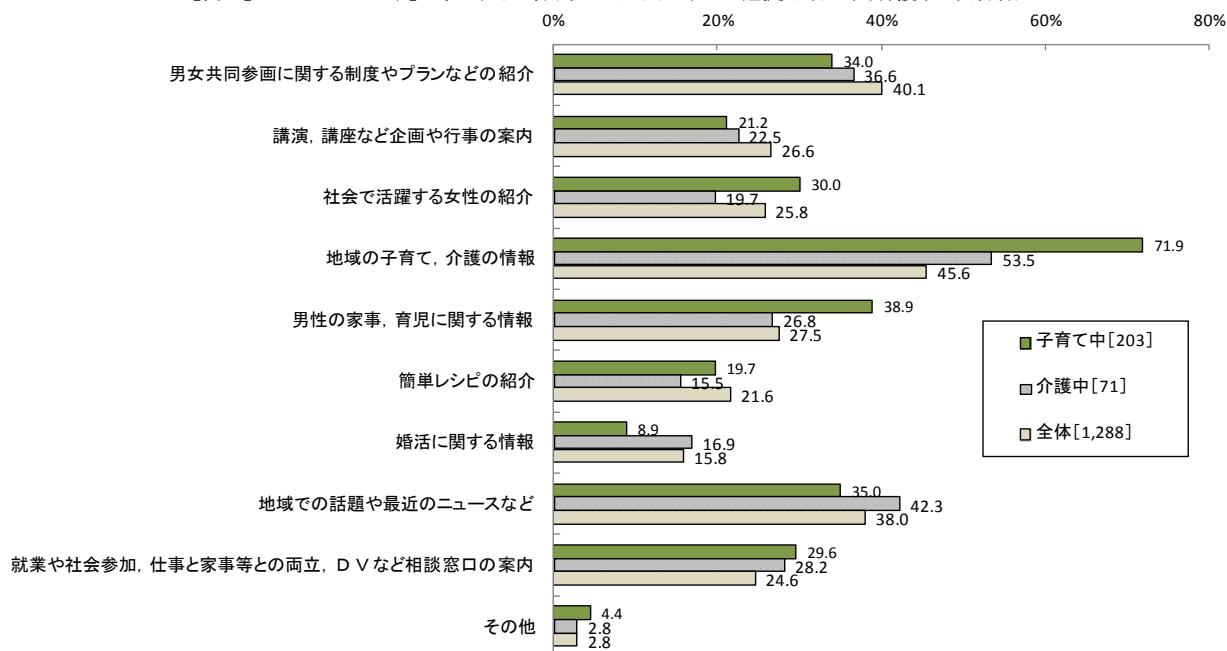
- 年齢別でみると、20～40歳代は「地域の子育て、介護の情報」、50歳代以上は「男女共同参画に関する制度やプランなどの紹介」が第1位です。
- 「男性の家事、育児に関する情報」は年齢が低いほど回答率が高くなる傾向にあります。

【問24】「ハートフルかみす」に希望する内容(あてはまるものすべて選択/年齢別)



- 子育て、介護の状況別でみると、「地域の子育て、介護の情報」や「男性の家事、育児に関する情報」は、子育て中の回答者が高くなっています。

【問24】「ハートフルかみす」に希望する内容(あてはまるものすべて選択/子育て中、介護中の回答者)



## 問 25 男女平等や男女共同参画(社会)に関する意見, 要望

問 25 男女平等や男女共同参画(社会)などについて, 普段感じていること, ご意見ご要望等がございましたら, 自由にお書きください。

### 1. 男女平等, 男女共同参画全般について

#### (平等になりつつある, 変わりつつある)

- 最近では, スーパー等でも袋を持って買い物をする男の方を目にします。また, 男の方も家庭では子育てや家事の協力, 以前は男性優先だった祭りでも, 今では女性の参加(人口減)が必須の状態。これらの事も違和感なく思える事が, 共同参画の成果かと思えます。世の中の意識も変わり, 人の考えも変わる, 共に協力する。共同参画の基本かと思えます。(女性・50歳代)
- 私が若かった頃の年代と比べると, 男女差別はだいぶ改善されてきたように思います。男性の方が看護師さん, 女性の方がトラックの運転手をされているのを見かけるとそう思います。老若男女が差別なく明るく朗らかに暮らしていけるように, より住みやすい神栖市となれることを期待しています。(女性・60歳代)
- 現在の日本社会において, 男女平等や男女共同参画は容易ではないと思います。現に, 子どもが生まれるのを男の方を望む親が多いように, 根底から現実として存在します。でも徐々にではありますが, 東京都知事のように, 日本も変化していると思われれます。あまり急がずに, 少しずつでも改善していければと考えます。(正に理想と現実を深く考えられますね。)市民協働課のスタッフ一同の活動を応援しています。(男性・60歳代)
- 長い歴史の中で, 戦争には主に男性が携わってきた。そのため, 権力は男性が持つことが多かったと思う。本来女性も男性に劣らない能力を持っていると思う。その点で, 今回の東京都知事が女性になって良かったと思う。今後とも女性の活躍を期待したいと思う。(女性・60歳代)
- 今回の都知事に女性が成った事で, 少しでも変革してほしいです。(男性・50歳代)
- 女性の社会進出が少しずつでも拡大していることを実感しています。更に飛躍することに期待します。(男性・70歳以上)

#### (平等ではない, 改善されていない)

- 男女平等と言っているが, 男女平等と感じたことがない。(女性・30歳代)
- まったく認識されてないと思う。(男性・20歳代)
- 男女共同参画が叫ばれていますが, 実生活は, 何にも反映されていない。(女性・60歳代)
- 男の方がすべて有利ではこまります。(男性・70歳以上)
- 男女平等の社会については, 既に昔から問題の一つとして挙げられていますが, いまだに改善している様には感じられません。今までの取組みだけではなく, もっと根本的な改善が必要なのではないでしょうか。(男性・40歳代)
- 男女平等, 男女共同参画とよく聞くと, 本当に平等なのかと疑問をもつことがある。まだまだ男性が先頭に立っているという社会の様な気がしてならない。(女性・30歳代)

#### (女性が望んでいるのか)

- 女性に優しい制度, 法律も大切であるが, 女性自身の就業や社会参画に対しての意識やモラルの向上が, 男女平等の為には必須。まだまだ, かなりの割合で, 「リーダーになる事を望まない」「結婚までの仕事」などの意識で仕事をしている女性が存在している事実は, 認知するべきだと考える。(元経営者より)(男性・50歳代)
- 女性が活躍しやすい社会でないのが現実。しかし, リーダーになる事を希望しない女性が多いのも事実。無理に男女平等にするのが良いのかも疑問。(女性・40歳代)
- 女性からの発信が少ない(小さい)のではないのか。行政だけまた政府だけが言っている感が強い。無作為に女性の声を集めることから始める必要がある。本当に女性が望んでいるのか。(男性・60歳代)

### (女性は優遇されている、女性に問題がある)

- 法律が女性を守りすぎ！（男性・40歳代）
- 女がいばっていてむかつきます。（男性・50歳代）
- 女性が権利、制度を主張しすぎて甘えない様にする。（男性・60歳代）
- 選挙に行かない奴の行政批判と同じように、何を言っているのかと言う感じ。男女平等と言いながら、女性優遇ばかり。女性のリーダーが少ないのは、「感情的」「ヒステリック」になる方が多いから。そうならない人はリーダーになっている。（男性・40歳代）
- 女性が活躍する事はとても良い事と思います。しかし、女性のリーダーを多く見る私からすると、女性リーダーは感情で人を扱う事が多く、女性が活躍する事と、女性リーダーを作る事は慎重に考えないと、大変な事となる可能性が高いと思います。（男性・40歳代）
- 女性は家に居て、子供が18才になるまでは仕事をせず、仕事は男性が頑張っ、女子が仕事をする事で、男子の（家の中の）仕事が今少ない。男子が働いて女子が子供を守る。長い日本において、良い日本の時はそうであった。男子より良く仕事出来る女子は1割ぐらい。子育てがいやで居る女子が多い。仕事や家事から逃げて居る今の若い女子。自分の大事な事を「みつめて」居ない。（男性・60歳代）

### (男性、女性ではなく個々の問題)

- 問4の「男は仕事、女は家庭」という考え方について。それぞれみんな男（女）だからということに関係なく、各自で好きなことを選ぶのが良いのではないかと、思い、解答に迷いました。（女性・20歳代）
- ただただ数合わせのように女性を引き上げるのでは、本人もまわりも納得しないでしょう。男女に関わりなく能力のある人を認め、切磋琢磨していく環境づくりが必要と思われます。何でもかんでも平等というのではなく、性別に関係ない能力や、それぞれの特性が生かされる形での共同参画を目指すべきだと思います。（女性・70歳以上）
- 権利に関しては平等であるべき。環境は整える必要はあるが、全てが同じ必要があるとは思えない。社会は広く、個は（個に応じた）ピンポイントで。（男性・40歳代）
- 社会生活や職場に於いて、女性の活躍やリーダーと叫ばれておりますが、同僚の中には、決して昇進を望んでいる女性ばかりではなく、能力があっても、サポート役で十分であるという考えを持った方もたくさんおられます。形式的な男女平等ではなく、個人個人の考え方が貴重であると私は感じています。（男性・40歳代）
- 男女平等による社会参加と言っても、それは社会や組織が協力体制を作るべきであるが、各自の意識の問題。過去にもその時代時代にはすばらしい女性もいた。（男性・70歳以上）
- “男性だから” “女性だから” といった考え方ではなく、人として能力のある人がリーダーになれるような環境や考え方が必要だと思う。（女性・20歳代）
- 共同参画だから何でも対等にするのではなく、すぐれている部分を十分に発揮できる場所の提供と活躍のチャンスを知らせる事。（男性・50歳代）
- 自分の人生を振り返りますと、今の家族の方々は父親のサポートが多くなった様に感じます。とても良い事だと思います。男だから、女だから、という時代も少しずつ変わりつつある様です。一人ひとりの能力を發揮して住みやすい神栖市となり、地域活動 etc を充実することを願っています。PS、スタッフの皆様御苦勞様です。（女性・60歳代）
- 男性、女性のそれぞれの能力や立場に応じて、柔軟に生活スタイルが選択できると良いと思う。女性の積極的登用などの概念そのものが、男女共同参画の妨げにつながると思う。（女性・30歳代）
- 男女の特性・相違はあっても、仕事や家庭において、各々の個性や能力が正当に評価・發揮され得る場（適材適所）を持つことが重要。（女性・60歳代）
- 男女共に、個々かもつ特性を充実、自覚することも必要な事では、ないか？（男性・70歳以上）
- 人間は男女の特性から、すべて男女が同じである事は難しいと思います。各々の役割、特性を受け入れ、受け持つことで、本当の意味での男女共同参画社会になるのではないのでしょうか。家庭のあり方、学校での教育、職場での役割と、それぞれがその立場で考え、見



直さなければいけないのではないのでしょうか。自分の立場で出来る事をやって参ります。  
(女性・50 歳代)

- 男・女関係なく、人として生活出来る環境であってほしい。男の人だからこそ出来る事、女の人だから出来る事、各々出来る事があるのだから、男女平等でなくて良いと思う。得意な事を出来る環境であれば望ましい。(女性・40 歳代)

#### (男性・女性の差異があるのは仕方がない)

- “男女共同参画”とあるけれど、男女でそれぞれ長所と短所があるのが当然だから、無理に男女平等にしなくても良いのではないか! ?と少し疑問に思いました。私(女性)は、男性の様に長時間労働や交替勤務は体力的にできません。(女性・20 歳代)
- 性差と性差別が混同している面があると思う。男性には授乳出来ないし、いわゆる母性本能、女性の持つ優しさ etc、男性としての力強さ、たくましさが必要と思う。(男性・60 歳代)
- 男女平等とは言え、体力的な面や、その他男は男、女は女という面もあるので、平等にできる事と、そうでないところもあると思います。(男性・60 歳代)
- 女性がリーダーになると、育児や介護などで席を空ける事が多くなる場合がある。とすると、部下は指示をあおぐ先が不在となり、仕事に支障がでる。結果として女性リーダーは望まれなくなる。女性と男性を全く同じ扱いにはできないことを正しく理解する必要がある。女性には子を産むという性役割があり、それを否定しては少子化を止めることはできない。生まれてくる子を減らさずに女性の権利を守ることだ。(男性・20 歳代)
- 男性と女性はそもそも別の生物であり、全てにおいて平等という事はありえない。(体格の差、妊娠する、しないなど。)それを理解した上で、互いに平等感を得られる折衷案を考えてゆくのが今後の課題であると思う。男性も女性も満足感を得られる社会であれば「不平等だ!」という意見は出ないはず。難しい課題だが、出来ないわけではないと思う。海外では出来ている所もあるから。(女性・30 歳代)
- 男女は絶対に平等にはなりえない。男性と女性とでは、体形がまったくちがう。すべて役割分担でしか有りえない。(女性・70 歳以上)

#### (男性・女性の特性をいかすべき)

- 男女各々の特色があるので、(男女各々の)特色を活かした社会が良いと思う。(男性・50 歳代)
- 男女平等や男女共同参画は当然あるべき姿だと思うが、残念ながら、まだまだ時間がかかるというのが現実かと思う。一方で、お互いの優れたところを生かして参画することも良いのではと思う。その為には、バランス感覚の優れたチームを作り上げるべく、リーダーシップの取れるトップそして参謀が必要不可欠では。(男性・50 歳代)

#### (女性への支援、活躍の場を)

- 男女(共同)参画とは、競い争うことではない。共に良い点、優れている点を認めあい、足りない所を共に補填することであると思う。女性をもっと社会に出やすい環境にしていけないと駄目である。行政は、もっと女性が働けるようにすべきである。(男性・60 歳代)
- 男女平等は、とてもこの地域では、むずかしい事だと思います。サポートできる地域活動、勉強をできる講演、講座、参加できる曜日や時間、家族での男の人の理解等。(女性・60 歳代)
- 女性が活躍できる場が増えれば良い事だと思います。それには男女共に周囲の理解が必要不可欠ですね。(女性・40 歳代)
- 男女平等の社会を希望してはいませんが、女性の意見も取り入れながら地域作りをしてほしいと思います。(女性・50 歳代)
- 世界経済フォーラムが発表した「男女格差指数」(2012 年 10 月)によると、日本の男女の平等度は、135ヶ国中 101 位で、残念なことに先進国と言われる中では、異例の低さだとの事。女性は生命をはぐくみ育てるのが本能であり、殺戮(さつりく)を好みません。男性にはできない使命が備わっていると思います。その女性が地域や社会で輝きをも

って行動できる社会を目指しましょう。(女性・70歳以上)

- 全体的に女性のリーダーが少ない。目立たなくても能力の有る人に管理職が気づき、登用していくのが大事だと思う。(女性・40歳代)
- 女性の活躍を期待しています。女性の賃金が上昇すれば発言力も増します。(男性・70歳以上)

#### (機会の平等を)

- 共同参画について、女性を社会制度的に優遇するのではなく、機会を統一すべきだと感じる。女性の優遇過多は、逆に男性の社会参加の意欲を遠ざけることになる。(男性・20歳代)
- 男女共に選択肢を広げる事が本当の平等では？(女性・40歳代)

#### (男女相互の理解、尊重を)

- 男女差別などと目くじらたてることなく、おたがいの良さを尊重し、おたがいの凹凸を埋めて、成熟した社会づくりを目指したいと思います。批判することは簡単で、みな、それをしがちですが、「認める」という視点で考えていくことができたなら、良い循環になるのではないのでしょうか。(女性・50歳代)
- 男女平等の社会の実現のためには、互いを思いやり助け合う心が重要であると思います。そのことがあれば、DVなんてありえないし、一人一人がよりよく生きていくことが出来ると思います。(女性・30歳代)
- 体力の差はやはり避けられず、その事が、DVなどに繋がっている。男女平等・男女共同参画のためには、まず、根本的に、男性、女性の各々の違いをよくお互いに理解する事が大切だと思う。意外と解ってない事が多いように思う。男女の脳の違いや、ホルモンなど…。(女性・50歳代)
- 男女平等、全てにおいて平等にしようとしている事がわかりません。が、男子は女子のありがたみ、女子は男子のありがたみを知る事がいいですね。あたりまえで過ごしている事に気付かない事が多いですね。互いの環境を知る事、話す事が大事です。やはり脳のつくりがそもそも違うんだから、男女の考えが違うのはあたり前です。男子(個人)が男子らしく、女子(個人)が女子らしくいたら、平等にとはうたいませぬね。私は平等という言葉を理解できません。ごめんなさいね。(女性・40歳代)
- 男女平等というのは思いやりだと思います。男性と女性では体が違い、平等にできないと思うから。そのためには、やはりライフ、ワーク、バランスが大切だと思います。疲れていては、思いやりは持てないから。(女性・50歳代)
- 「女性(男性)は～であるべき」という考え方に同感はできないが、「女性(男性)であるからこそ～である」という適材適所の部分は、完全には否定できないように思う。性別によるものではなく、上から目線のような一方的に考えを押しつけるのではなく、互いが尊重されている上での意見や言葉であってほしいと願っている。(女性・40歳代)

#### (女性の自立支援)

- 男は一人で生活していくのは簡単ですが、女性が一人で生活していくには、男と比べて不安が多いと思います。その不安と言うのが、女性が弱いとか経済力の問題だったりすると思う。女性が一人でも安心して生活できる事が大切だと思う。(男性・30歳代)
- 離婚したシングルマザーの方をよく見ます。女性が社会に進出しなくてはならない状況なのに、支援が全く無い。男性が女性に優しくなる社会になってほしいです。子供が居るだけで雇用してもらえなかったり、男女差別がまだまだ存在しています。男女共に頑張るより良い社会になっていく事を希望します。(女性・40歳代)
- 社会全体で、女性の自立を考え直す必要が有ると思う。スウェーデンを見習ってほしいです。(男性・50歳代)

#### (その他)

- 男性なのでこういう髪型はおかしい、などある種の差別的扱いだと思うし、そういうささ

いな事の積み重ねで大きい差別（生活に関わるようなもの）が生まれると思うので、民間企業と連携して、小さなところから改善されたら良いと思った。逆に女性差別について大声で主張する人間はとてもみにくく見える時があるし、性差別は女性だけが受けるものではないと思う。（男性・20歳代）

- 男女平等は昔から言われている言葉ですが、昔の意味と現在の意味は変化していると思います。時代が進んでも、男と女が同じになりきる事は100%無理な話です。私の中の平等とは、相手の立場に立って、平等に考えて見る、人間としていたわり合う、助け合う、協力する…。心の中の問題だと思います。現代の老人は格差があたりまえ、今の子供達は男と女が同じ教育、（時代が）違っていています。でも何が大事かは、みなさん心の中にあると思います。少しでも前進できれば良いですね！！（女性・60歳代）
- 男女平等と言っても、やっぱり男の人には、かなわないと思う。女性が役職についていてもまいち頼りがいがなく、大丈夫？と心配になる。特に女の方は逃げごしになり、相談しても頼りにならない。男の方もある程度の年齢の人でないとやっぱり頼りない。女の方も男の人と平等と思うなら、上に立つ人は、それなりの覚悟と責任をもってほしい。これからに期待する。住みよい神栖にしてください。（女性・50歳代）
- 人間性豊かな男女共同参画社会の実現へ、時間はかかっても、同じ方向に向って一人でも多くの方々と歩んで行けるよう、頑張ります。（女性・60歳代）
- 私は男女の差別が著しい時代と地域に生まれましたので、女性にとっては、家事に育児に今は良い時代だと感じています。それでも更に、仕事や社会的地位までも平等にしていける企画が国レベルで動いているとは本当にうらやましい限りです。でも、仕事や社会で認められる事が、独身でいる事の原因の一つにならない事を願っています。今の少子化に歯止めをかける為にも。（女性・50歳代）
- 男女共同参画（社会）に若干の疑問を感じている。女性は子供を生むという大きな仕事があって、共同参画では仕事、出生の両立で比重が大きくなるのでは？この様な問題をどうすべきか！（男性・70歳以上）
- 男女平等は、本当にむずかしい問題だと思います。やはり、女性は体力的に男性よりは劣っていますし、時間的な問題（家事等）や色々な事で男性社会になっていると思います。（女性・60歳代）
- DVを受けた事は全くない。一家の主人が働きざかりの時女性は支えにまわって一家をきりもりし、主人が年老いた時は妻が家の中心になる。声高に男女平等、男女共同参画とさわぎすぎ。国がそう言っているだけで、私のまわりの若いお母さん達は生き生きと働き、利用すべきは利用して、ご主人よりファッショナブルで子供の服装にも気を使い、サッソウと生きています。（女性・70歳以上）
- 私は終戦の年に生まれまして、物心ついてからの事を考えますと、ずっと男女平等に感じております。この頃（今）は、全体的に我慢が足りないのではと思う事がございます。的外れかな？失礼致しました。（女性・70歳以上）

## 2. 社会通念や地域の慣習、世代間ギャップについて

### （世代による意識の違い）

- 年代によっても、まだまだ男女平等という意識が低いように感じる。
- 私は30代ですが、親世代（60代～）との考え方の違いが大きい事が課題だと思います。男性だから、女性だからという事で、特に家庭内において、生きづらさを感じます。（働き方、家事の分担、教育、介護等）田舎の地域の慣習が根強く残っているこの地域では、若い世代だけではなく、生活を共にしている、団塊の世代の方々への理解や協力の働きかけが必要であると考えています。（女性・30歳代）
- 我々の年代は、男性は外で仕事、女性は家事に専念という概念が強く、結婚で仕事を辞め、出産後子供に手がかからなくなってやっとパートタイムで仕事という時代でした。今は随分変わったようではありますが、職場でも家庭でも、男性の意識の個人差が大きいように思えます。その意識の差を狭める方法を模索するのも重要ではないでしょうか。（女性・70歳以上）
- 世代によって考え方が違ってきますよね。若い世代はだいぶ男女が対等になってきていると思います。やはり、年齢が高い世代ですよね、女性の社会進出にいい顔しないのは。



「女のくせになまいきだ」は、いまだ根強くのこる感情のようです。(女性・40歳代)

- 60代以上の世代の方々が特に女性を下に見ていますが、最近の若者は男女平等に理解のある方が増えていると思います。(女性・20歳代)
- 男だから、女だから、という言葉をよく口にする人たちの年代は、管理職クラスの人たちの年代だと思う。若い人たちをどうするとか言うよりも、様々な年代の人たちの考えを、3,000人でなく、もっと多くの人々から聞くことが必要でないか考える。(女性・20歳代)
- 私の年齢では、男女共同社会に驚きを感じる事が有ります。息子達、娘達の生活をみていると自由で、私の生活では、親に気をつかい、主人は仕事、家の仕事は嫁の私。若い人達の生活と、自分の生活を比べてしまいます。その考え方を変えていかなければいけないと思いました。(女性・70歳以上)

#### (地域による意識の違い)

- 地域によって、意識の違いがある。(女性・50歳代)
- 神栖市は、特に「女性のくせに」と思う方がまだまだ多いと思います。若い方は、だんだんそういう考えは少なくなっていると思いますが、昔からの考えを変えるということは「この町」では難しいと思います。(女性・50歳代)
- 男性が優遇される社会風潮が根強い(ただし家庭では夫より妻の方が強くなる。)また、人を見下す傾向が強い。例えば、同じ男性でも小会社の人とか？(男性・60歳代)
- 男性が家事、育児、仕事(女性の)に対してもっと理解し、女性が社会へ出ていくことにもっと貫大である、そんな社会を望みますが、古い考えの人間も多く、難しいことであるということ、身をもって実感しています。そういった人間を黙らせるだけの実力を女性が身につけること、そういった高いモチベーションを持つことが、女性にも必要であると思います。古い考えの家に嫁いだため、離職せざるを得なかったくやしさを胸に、いつか社会に出ることができる時まで、人知れず力をたくわえようと思います。(女性・30歳代)
- 田舎(農家)は、男女平等どころか、いまでも男尊女卑が残っていて、住みにくいなぁと感じます。(女性・20歳代)

#### (社会通念を変える)

- 社会通念を少しずつ変える必要もあると考えます。(男性・50歳代)
- 男性の社会通念、慣習、しきたりを改めなければ、何をやっても無駄だと思います。女性の負担が多すぎます。(女性・40歳代)
- 周囲の同僚など会社側としては、理解しサポートしている会社が多いのですが、社会一般として、男性よりも女性が育児に強く関与すべきという風土の方が根強く残っていると感じます。この改善は、地道に長い期間をかけて少しずつ変化していくものと考えるので、市が積極的にアピールしてほしいです。(女性・40歳代)

### 3. 地域における男女共同参画について

#### (地域活動)

- 中年齢のボランティア参加で、受入窓口が狭くなっている。特に男性の場合の中老年層は、ボランティア活動に参加する機会(職務)が少ないのではないかと。(男性・60歳代)
- 超高齢化社会と少子化社会の到来により、これからは、地域社会でみな助け合っていないといけない時代だと思います。人として、男女の区別を取り払って、協力できるような社会にしていきたいと思います。(女性・50歳代)
- 神栖市はいろいろ行事がありますね。参加者も女性は多く、活発ですね。男性の参加が少なく、つい出づらくなります。年輩者も元気ですね。女性の活躍が素晴らしいですね。転勤で神栖市に来て良かった。(男性・70歳以上)
- 仕事以外の場で、男女が共に何か出来る場があれば良いなと感じます。例えば、共通の趣味などを通じて男女関係なく何かするなど…。初めのうちは、気軽に男女平等・男女共同参画という場に慣れる事じゃないかと思います。そこからその社会が広がっていけると、

なお良いなと思います。(女性・20 歳代)

- 男女共に平等な立場で、対等な意識を持ち社会活動に貢献する。(女性・30 歳代)

#### (自治会, コミュニティ)

- 自治会等に加入されない方が多いと感じます。お互いに声をかけ、困った時は助け合いながら生活できるような社会になると良いですが……。 (女性・50 歳代)
- 地元の人との交流が少ない(県外からの移住者)。近所つき合いが少ない。地域交流が少ない(行政区離れ)。班編成への離脱が多くなって来ている。(男性・60 歳代)
- 東日本大震災以降、地域とのつながりが重要と再確認しましたが、私の住んでいる地区(深芝南)では行政区に入っていない若い世帯が多いのです。共働きの人が多いのも一因かもしれませんが、行政区に入っても何も“メリット”がないという声を聞くと、やはり何か改善すべき点があるのでは??とと思ってしまいます。(女性・60 歳代)
- ご近所つき合いがしづらいと感じています。町内会などの人間関係のつながりがどこことなく寂しいと思うのですが。神栖市が、もっと住みやすい街になってほしいと思います。私もこのアンケートからヒントを得て、自分に出来る事を見つけ、いきいきと暮せる街を応援したいと思いました。(女性・50 歳代)
- プライバシーや個人情報と言った言葉が一人歩きをしてしまい、ご近所や地域社会に閉ざされてしまった家族、家庭が増えているように感じます。日ごろから声をかけあい、お互いさまの気持ちがあれば、子育てや、生活の不安を少し減らしてくれるのではないかと思います。結果として、男女共に「自分たちの社会」という意識が強まれば、より積極的、自主的に地域に関わろうとする人々が増えていくように思います。(男性・40 歳代)

#### 4. 家庭における男女共同参画について

##### (男女平等, 男女共同参画になっていない)

- 給料面で違いがあり過ぎるため、我が家では、男女平等と考えられない状況。(女性・50 歳代)
- 男性が、自覚しなくては何もはじまらない。仕事中心の男性が多すぎる世の中。(女性・40 歳代)
- 男女平等と言いつつも、子育て、介護等、まだまだ女性への負担が大きいように思います。(女性・70 歳以上)
- ちょっと観点がズレているかもしれませんが、障がいのある子どもを育てるにあたり、母親がみて当たり前という風潮が今でもあるように思います。全ての人が裕福とは限らず、母親も家計を助けないとローンが払えない等、諸々の問題があります。(女性・50 歳代)
- 女性は、男性より収入が少ないので、平等とはいかない感じがします。でも家のことは、少し手伝ってくれたら女性もやさしくいられるかも。(女性・40 歳代)
- やはり、男性がもっと家事や育児に参加すること。亭主関白は良くないと思う。(女性・60 歳代)
- 男性の家事、育児への参加がまだまだ低いと感じる。「家の事は女の人がやって当たり前、男が家事をするなんてはずかしいことだ。」という考え方が 20 代の男性にもまだあるのが現状。男の子を育てているお母さん、息子を甘やかさず家の事や自分の事をどんどんやらせて下さい!! 男女不平等は“お母さん達”が実は作り上げているような気がする…。男の子に対して過保護すぎる!! (論点がずれてしまい申し訳ありません…) (女性・30 歳代)
- 女性と同じ様に、男性にも育児休暇を取ってほしい。(女性・30 歳代)

##### (平等になりつつある)

- 今の若い夫婦を見ると、子育てにも、家事にも、男の人でも積極的に参加しており、時代の流れを感じます。(女性・60 歳代)
- 今は昔と違って、子育てや家事をとっても、男だから女だからと片寄った考えでなく、少しずつ男女平等になってきていると思います。(女性・60 歳代)

## (その他)

- なんだかんだで、男の人の家事スキルが低いのも女の人の負担となる。強制的にでも、男の人が家事や育児に参加できるような方法がないと、現状のままだと思う。(女性・40歳代)
- 最近の若い男性は、随分子育てや家事に協力的な方が増えていると感じます。ただ、未だに子育てや家事については、「女性の役目」だとの考え、無意識にそう思い込んでいる状況は変わっていないと思います。また、働き方の変化も求められると思います。長時間労働等を改善しなければ、家庭を顧みる余裕はもてないと思います。(女性・50歳代)
- 男女平等といっても、女性が出産するので平等とはいかないのかなというのがあるが、それぞれの家庭によって考えもあると思うので、家庭の中でよく話し合い、互いに協力できればいいのかなというのがあります。(女性・40歳代)
- 男女平等、むずかしい。食事の支度、掃除等、夫婦で話し合えばいいでしょうか。女性がやるものとの意識が強い。強いて、今は仕事もしていないため、自分のためと思い(いけないため)分担していない。(女性・70歳以上)
- 家庭内では、お互いに思いやりと感謝の気持ちで相手に接する事が出来れば、何事も上手くいくのではないのでしょうか。男女それぞれに役目があると思うので、平等にしなければいけないとは思いません。調査…お疲れ様です。(女性・50歳代)

## 5. 家庭と仕事の両立について

### (両立できていない、両立は難しい)

- 今は核家族で暮らしている場合が多いので、おばあちゃんやおじいちゃんに子供を預けてという事が出来にくい場合も多く、子供が病気になった時に預けられないので、働きたくても働けない。(男性・50歳代)
- 女性として、子育てと男性のように仕事をして両立することはなかなか難しく思います。身体的な違いもあります。女性の社会での活躍が、少子化にも関連している面もあると感じています。(女性・40歳代)
- (工場の)技術職は、現実女性は少なく、激務であるところが多い(トラブルもよくあり呼び出しもある)(交替勤務者もいる)。(女性が得意とする)事務職は、重要ではあるが皆そこまで残業しておらず、女性人口も実際に多い。企業の利益に直結し、トラブル対応も必要な技術職は仕事中心にならざるを得ない環境であるので、家事育児にも携わりたくても、時間はとれず、疲れた心では、やる気も出にくく悪循環である。(男性・20歳代)
- 子育ても一時期とはいえ、突然の熱とか具合の悪い時の対応。どこまで続くかわからない介護。やりたい仕事等があってもあきらめざるをえないのが女性です。結婚すると女性は負担が多くなるイメージが強く、私の廻りでも独身の人が多いです。家庭内での話し合いや協力が一番大切だとは思いますが、もう少し女性が働きやすい社会になれば、すべての問題の解決の糸口になるように思います。(女性・50歳代)
- まだまだ出産・育児で女性が会社を辞めざるをえない環境が改善されていないと感じます。復帰したとしても、育児の為に時短などを使い、十分に仕事に集中できていない方が多いです。(女性・40歳代)

### (両立できるようにしてほしい)

- 男女共に、家庭と仕事を両立し、安定した生活が出来るようになってほしい。(女性・30歳代)
- 介護のため進学、仕事をあきらめたり、子育てのためフルタイム働くことができない方(主にシングルマザー)が減ることを祈っています。(女性・30歳代)
- 神栖市は、両親との同居世帯も多いかと。少子化、高齢化に向けて、地域によっても考え方が違うと思います。男女関係なく育児、介護の参加、仕事との両立ができるよう願います。(女性・40歳代)
- 現在勤務している会社は、幸い家庭(子育て)に理解があり、有休や短時間労働、天候に



よる臨時休校等でも、帰宅や時間変更がし易い環境です。ですが、友人知人に話せば驚かれる程、他企業では難しい様です。夫は、家族の為と思いつつ、仕事優先の生活で、もう少し家庭での時間を持って生活出来たらいいなあと思います。せめて、有休を年何回、必ず取らなければいけない等、企業側の意識改革を望みます。(女性・30歳代)

- 労働基準監督署がもっと影響力を持ち、休日とかの確保につとめる。そうすれば夫婦が力を合わせて、家事育児に参加できる。(男性・20歳代)
- 二児の母です。平日 9:00~16:00 までパートをし、土日祝は子どもとの時間。夫は平日休みで土日祝は仕事です。平日は子どもと過ごす時間を少しでも多くとるために前日の夜に夕飯準備や家事をします。帰宅してから子どもが寝るまでは子どもとの時間、子ども達が寝てから毎日2時頃まで家事をし、朝は 5:40 に起床。土日祝も子ども達と一緒に一息つく暇もありません。でも子どもはかわいいし、小さいうちに注げるだけの愛情をあげたい。でもママにもリフレッシュしてほしいです。夫も帰宅は 22:30 頃で休みも少ないので頼れません。専業主婦は理想だけど私が仕事をやめると生活が厳しいです。給料をもっと上げてほしいし、パパの休みももっと取りやすくなるといい。特に土日。(女性・30歳代)

#### (その他)

- 私は女性で、会社に勤めていますが、本当のところは、会社をやめて、育児、家事に専念したいと思っています。でも、夫が契約社員で、それだけの収入では、やっていけないので、仕事を続けています。男女平等は大事だと思いますが、女性が働きに出ることで平等になるとは思えません。家事、育児も立派な仕事だと思います。(女性・40歳代)

### 6. 女性の就業について

#### (不平等である、理解が低い)

- 今働いている職場で、離婚後子供を扶養に入れたいと言ったら、「まだまだ日本は男が扶養して女は扶養しないのが普通だから」と言われ、元夫に入れてもらえとか実家の父親に入れろとか言われました。無理だと伝え、しびしび子供を私の扶養にしてくれました。仕事も男と女ほとんど作業内容は一緒ですが、賃金は同じ契約社員で1日2,000円も男が上です。これが現実です。(女性・30歳代)
- 男女平等だと言いながら、会社は転勤をしないと上へあがれないシステムな所が多い。地元で結婚や出産を考えている女性はバイトでいいのか？社員になる的な感じでイヤです。(男性・30歳代)
- 女性が出産後働くことに、まだまだ職場での理解と意識が低いように思われる。(男性・60歳代)
- 私が良く耳にするのは、「女性は55才位から仕事は出来るのに、年齢制限で雇ってもらえない」ということ。(女性・60歳代)
- 子育てに参加したいという男性は確実に増えています。しかし、職場での理解が不十分だったり、育児休暇をとることで出世に支障が出たりということがあってはいないかと思えます。第一、男性が育児休暇はおかしいという社会通念は、絶対あります。私のまわりの育児休暇をとった男性(長期)は、50才すぎてもヒラ社員です。(女性・50歳代)
- 私は医療関係で働いているので女性の職員が多く、専門職の管理職も女性が活躍しています。専門職以外になると「男性だから」といった理由で能力に応じず管理職となり、女性の部下(能力のある者)が困っている場面をよく見かけます。(女性・40歳代)
- 最近出産をし、2年働いた仕事は産休・育休を取り働き続ける事にしましたが、産休・育休取得にあたって、職場の環境が整っていない事にとて女性としてのむなしさを感じる事があった。職場での人事対応の悪さ(自分が抜けるポジションの穴埋めを迅速に行わない)や、マタハラの発言等があり、とても嫌な思いをした。産休・育休に入った今、そのような職場には戻りたくないとさえ感じる。女性の結婚や出産を迷惑だという考えがある社会は、まだまだ濃厚に残っているのだと実感した。(女性・20歳代)
- 全体的に有休がとりづらく、休みをとろうとすると変な雰囲気になる職場環境の改善が必要!!仕事場の休日が少ない。4W8休は少なくともほしい。(女性・30歳代)

- 東京から茨城に来て半年。仕事に追われ神栖市の事は良くわかりません。私は仕事、家事を行い、彼は家事を手伝うのみで働いてはいません。女性が社会に出て、男性が家の事を行う。私達は納得をしてそうしていますが、周りからの理解は得られていません。金銭的にも、精神的にも余裕はありません。自分達の考えが甘かったと、毎日考えてしまいます。もっと周りから理解され、女性が就職しやすい環境になってほしいです。(女性・20歳代)

#### (共同参画は難しい)

- 現実的に、男女で仕事の進め方、得意不得意が潜在的にある。製造業は特に、工場プラント内での力仕事は男性向きであるし、書類管理などは女性の方が得意とする所に思う。(男性・20歳代)
- 私は今回、「男女共同参画社会」について私の身の回りの現状を考え、アンケートを記入しました。その中で「男女が同じように働ける職場」について考えた時、この神栖市は工場が多くあり、働く男性の大半が工場での現場作業かと思われます。そう考えた時、女性の現場作業は力仕事であったり常に危険が伴う場となり、どうしても現場＝男性となり、女性の働く場が限定されていることが現状です。神栖市の職場での男女平等は、この点を重要視していただければ、女性の現場参戦が可能となり、平等社会が実現されると思います。(男性・20歳代)
- 企業などにおける、広域異動に制限がない(非管理職問わず)事が、配偶者の社会参加への阻害要因となっています。企業に対する一定の制限がなければ、異動による不利益は、単身赴任などで置いていかれる家族に集中します。男女共同社会の一番の障害と考えています。(男性・40歳代)
- 長時間労働が常となっている職場では、女性が活躍し続けることは難しい。(男性・20歳代)
- 仕事内容などさまざまで、(すべては)女性には出来ない。男性の方が収入が良い。平等といいながら、実現には難しい社会があります。(女性・30歳代)

#### (制度、環境の整備を)

- 私の職場では、産休、育休の制度がなく、女性が妊娠、出産した場合は、退職扱いとなります。そのため、幹部は、ほとんど男性で占められており、女性が昇進することは難しく、女性の離職率が高い状況になっております。女性が活躍していくために、産休、育休制度を整備し、働きやすい環境、仕事復帰しやすい環境を整えていくことが大切である、と感じています。(女性・20歳代)
- (保育など)子どものための環境を整えることも大切だが、会社側の勤務時間等の配慮を、子をもつ親のために考えてほしい。(保育士)(女性・50歳代)
- 元々、男社会と言われている会社では、まだまだ、女性を受け入れられない環境である。設備、人の改善が必要だと思います。また、女性の出世は、男性と同じ評価をしていただきたい。女性は、結婚、出産があるので、出世させられないという風潮を、社会から無くしてほしい。(男性・20歳代)
- まだまだ男性中心の世界の様に感じます。女性には女性として活かせる仕事もあると思うので、積極的に採用するなど、行政も働きかけを実施してほしいと思います。(女性・20歳代)
- 勤務中の事故での労災補償保険法による補償額に、性別差をなくしてほしい。(女性・30歳代)
- 就業先にも(男女共同参画に関する)相談窓口が出来るといい。(女性・50歳代)

#### (男性の意識改革が必要)

- 昔に比べ、結婚、出産後も女性が仕事を続ける時代になった今、実際に多くの女性が仕事を続けることを望んでいます。各企業、職場もそのような時代に合わせて、産前、産後休暇や育児休暇、時短勤務等の制度が整い、以前よりは働きやすい環境になってきていると思います。それでも、働くママは限られた時間の中で日々の仕事、家事、育児で精一杯な現状です。そのような点で少しでもゆとりのある生活ができるよう、職場での理解や男女平等という点で男性(夫)の協力が重要となってきます。(女性・20歳代)

- 今、私は専業主婦ですが、仕事をしたいと考えることが増えてきました。しかし、夫の考えでは、パートタイムはいいが、正社員はダメ。とにかく、扶養を外れることに対して反対をします。保険、住民税、所得税…働いても引かれる金額が多くなるのが反対の大きな理由です。そのあたりをもうすこし分りやすく、理解・納得できるように、社会として市として働きかけてもらえるといい。(女性・20歳代)

#### (女性の意識改革が必要)

- 男女平等な社会の実現は、推進すべき事だと感じていますが、女性自身が、男性中心となっている業界への理解がまだ足りていないと思っています。肉体労働や、3Kが伴う仕事には女性がほとんど参加していない現状ですが、それは女性本来が持つ仕事への価値観からくる“拒否”であると思います。男女平等と唱いながらも、“汚い、肉体的に厳しい仕事はやりたくない”、“こうゆう仕事は男性がやるものだ”と、わがままな価値観を言う事は、男女平等といっていることへの矛盾であり、男性へのれっきとした差別であると思います。今の時代、こうした考えを改めていくことが大事であると考えています。(男性・20歳代)
- 女性が活躍する社会作りには、女性の責任感の醸成が重要、つまり女性の仕事に対する意識向上につながるしくみや社会の助勢が必要。とかく、女性は仕事上でちょっとでも不満やつまずきがあると、仕事を放棄、逃げ出してしまう(仕事を退職する)、嫌だったらやめれば良いという感じや考えをもっている人が多い、このような考え方の改善や、改善させる様な周囲のしくみが必要。(男性・60歳代)

#### (企業(上司)の意識改革が必要)

- 私が今働いている職場は、上司の方はほとんど子供がいて(孫も)、私が、子供の具合が悪くなり急に休んだりしても「お大事にね」など優しい言葉をかけてくれる。しかし以前働いていた所は、若めの上司が多く、子供持ちも少ないせいか、子供持ちの人が「仕事休みます」というと「学校行かせろよ」「俺の時はそんな熱じゃ親だって休まなかったよ」など暴言をあげます。(文句を言いつつも休むことは了承します。)私の働いていた時の経験からすると、子供がいない、結婚していない人が多い職場は子育てに関して理解する人が少ないと感じます。(もちろん当てはまらない人もいました。)今後そのような人達に育児に対しての理解を深めてもらえるように、企業側に対しても何かしら対策(冊子の配布等)を行ってほしいと思います。(女性・20歳代)
- 産休後の職場復帰の事ですが、継続して同じ職場に勤められるかは上司によりけりです。私は、子どもがいて泊りもあり、仕事の時間帯もバラバラな職に就いていたので、仕事の内容の変更を相談したところ、事務所の管理者も少人数で仕事をしているのもあり、そこまでの相談にとりあってもらえず、復帰の10日前まで、どこに勤務できるのか、仕事の時間帯など教えてもらえませんでした。なので、住まいや子どもの保育園の場所も予想をしながら申し込み、80km先の1時間~1時間30分くらいかかる通勤地になることもあるなど、子どもがいてはムリな話しも持ちこまれました。そんな話を飲まなければ、職務の変更もむずかしいような圧力をかけられました。一方、いま受け入れてくれた営業所の上司は、子どもがいて継続できるように考慮してくれたので、今は安心して仕事ができる環境です。そんな一人の上司の考え方で一家の生活が左右されるなんて恐ろしいです。なので、産後どのように仕事をしていけるか、同じ職場で継続していけるかという相談ができる場があるといいなと思います。(女性・30歳代)
- 家庭内では育児を協力してもらえる体制でも、市内の会社では、まだまだ古い考えの人が多すぎると思う。出産したら、子どもがある程度大きくなるまでは育児でどうせ仕事できないだろう・・・と思っている人が多すぎて、結果、やる気やスキルがあっても全くダメというような感じがある。どんなに小さな個人企業でも、もっと理解していただきたい。働きたくても全く働けない状況すぎる。(女性・30歳代)
- 平等に働く事と、平等に賃金を得る事は違う。社会や会社、組織が、ある男女を平等と評価するなら、同等の賃金を得るべきである。男女の特性あるいは個人の能力をしっかりと評価するべきである。男女を等しく評価、扱おうとする事は、種々の問題を発生させる事は自明である。各々の個を尊重し、やる気や能力を評価すべきである。(男性・40歳代)



### (人数, 数値だけ設定してもだめ)

- 男女が協力し、平等な立場で、社会と関わっていくことについては賛成です。しかしながら最近、女性の管理職への登用などの数値目標などを達成するために、登用を促進しようとしているように思うことがある。数値目標ではなく、男でも女でも能力があり、皆のためになる人が登用されるべきと考える。それが男女平等であると思う。女性が1/2を占めるから平等という訳ではないだろう。数字に頼りすぎるのは、返って差別になるのでは？(女性・50歳代)
- 職場における女性比率、管理職比率の数字目標はかかげるが、目標への具体的アプローチがない。(男性・60歳代)

### (保育の充実を)

- 安くて安心して、もう少し長く預けられる公的な保育所、学童クラブ等があればよい。(男性・60歳代)
- 母親として生きる数年間、女性の生き方の中で一番キャリアダウンさせている。しかし、幼児期の母と子のかかわりは、子の性格を左右するほど大切なものである。人にあずけて保育してもらうのではなく、働きながら保育できる、仕事場で保育できる様な環境は、できないものではないでしょうか。(ヤクルトという会社では、そうしている。また、病院も、仕事場に保育場所を持っている。)(女性・50歳代)
- むすこ小学1年入学時に働こうと考え、1才のむすめを保育園に就職活動中という事で3ヶ月入所申し込みしました。が、1年生の息子も1月の募集時に学童保育に申し込もうと思いましたが、就職活動中では申込みせず、就職してからではないと、と言われました。しかも募集〆切あとに申込みすると、(現在申込みが多いので)学童保育は待機児童になると言われ、働くのを諦めました。学童保育も、就職活動中でも申込みできるようにしていただかないと働けません。すぐ変更をお願い致します。(女性・30歳代)
- 20数年前に出産して、仕事を持っていた為、保育所探しに大変苦労した事を記憶しています。「待機児童問題」をニュースで等で目にする度に、何一つ改善されていない事を残念に思っています。また、希望した保育園に入れず、居住区で決定されてしまいました。働く女性に寄り添った社会を次世代の為にも願っております。(女性・50歳代)
- 男女参画も大事ですが、女性が輝ける・仕事を続ける為には、子供が病気になって両親どちらかがみられない時の子供を預けられる保育園です。園に看護師を常駐させるなどしていけないものではないでしょうか？意外と仕事が休めなくて、私は途中でやめました。(女性・60歳代)
- 保育園に入れない。働き口に保育園の送迎で無理をお願いしている為、保育時間を考えてほしい。(女性・40歳代)
- 男女平等とはどこまでかということ、職場、収入、介護、子育て、地域への参画くらいかと思います。決定的に出産できるのは女性のみで、このことが、もっと優位に社会で活躍できるようにすべきかと思います。子供の世話は男性も手伝えますが、母乳は母親のみです。各家庭、夫婦、親子、の事情にもよりますが…。この負担の軽減が、能力ある女性にはプラスになると思います。保育所(0歳児)の拡充、費用の軽減。(女性・50歳代)
- 学童も地域によっては、児童館がない所の子供たちは遊べません!!安全で安心な場所がほしいです。(女性・30歳代)

### (働く女性の支援を)

- たくさん女性が仕事を持っている今、子供のいる女性のサポートの充実、小さな子供だけの留守番などが気がかりです。そういう所をサポートするよいアイデアがたくさんあったらよいなあと考えています。安心して充実して仕事ができる事、とても大切だと思います。子供も親も…。(女性・60歳代)
- 私、個人の考えでは、自分の子供は自分で育てたいという考えなので、預け先のことばかりいわれていますが、子供を自分で育てられる環境作りの方に力を入れてもらいたいというのがあります。そうなった時は、子供が大きくなった時の就職先など支援していただくと助かるのかなと思います。(女性・40歳代)
- 女の人が子どもを生んでも社会復帰できる様、サポートしていく事が、もっと必要だと思います

います。(女性・60歳代)

- 子どもは3人目以降から、医療費、教育費、公立高校の授業料を全額免除くらいしなければ、日本人の人口は増えていかない。国の将来を担う子どもを一家庭で増やすにも限度がある。それこそ国が支援すべきと思います。(女性・20歳代)
- 男女平等、男女共同参画、これは、女性は市の為(人口を増やす)、夫婦の為に子供を出産する大切な役目が有り、その時期に10年はかかると思います。ここが大事です。役場の協力は住宅、乳児院、保育、児童学習、両親の看護と施設に入所し易い環境がほしいです。そして、10年もしない時期に女性が社会に復帰出来ます。その時の企業さんや役場の受け入れの充実、これが最も大切です。私の事例…2人の娘に、(孫が)小学校に入る迄は私が応援するから3人は絶対に生んでほしい!!実現した。3人+3人=6人の孫が出来、今年の4月で全員、保育園4人と小学校2人が入学出来、実行出来ました。7年かかりました。私は73才に成り幸せです。今も、娘2人は仕事しています。(女性・70歳以上)

#### (その他)

- 建て前論では、男女共同参画、女性の活躍は大切なことだが、本音では、職場に若い独身女性が入った方が、若い男女の出会いの機会、結婚の機会が増えて、職場も活性化する。(男性・60歳代)
- 核家族が増えていることにも焦点を当て、また神栖市の地域性を含めた地域作りをしていくといいなと思った。共同参画といえど、やはり女性は育児のために仕事を一時休まなくてはならない。その際の周りへの配慮等は計りしれない。その後も、子どもの体調により仕事をぬけ出したり、けど年休が20日も十分あたえられてなかったりと、労働組合が弱かったり、しっかり認識している人が少なかったり。外から移ってきた者ですが、本当に“陸の孤島”だと実感した。外を知らなすぎる。高齢者よりも若い世帯への支援を主に施策を考えていかないといけないと思う。今後を支えていく世帯が少なくなりますよ。(女性・30歳代)
- 高齢者60才以上の仕事をしたい人がたくさんいる今、働く場がたくさんあるといいと思います。(女性・60歳代)
- 男女平等や男女共同参画の場としてイメージするのが、仕事です。ですが、仕事となると立場や責任などが先立ってしまい、なかなか取り組みにくいのが現実だと思います。(女性・20歳代)
- 男女間の格差は少しずつ改善されてきていても、収入の面では、今の社会は正直年金だけではやっていけない部分があり、働きたくても65歳で退職とする会社が大半で、仕事を探すのも容易ではありません。もっと高齢者もより元気に働ける社会となってほしいなと思います。(女性・60歳代)
- 働く女性のために…ということで保育園などの環境(保育時間・保育料など)を整えすぎている。働く母のために犠牲になっているのは子どもたち。国、県、市がやりすぎているので、母は育児をやらなくてよいという感覚になりつつあり、産んで預ければ子どもは育つ、と思っている父母が多い。将来、どんな子どもたちが育っていくのかが心配になる。(保育士)(女性・50歳代)
- 子供手当が安い!!! (女性・20歳代)
- 子供がほしいけど、なかなか授からない、ほしいけど経済的に、という話を聞きます。(女性・40歳代)
- アンケートに答えるには年齢が高すぎますが、若者の子育てを見ていると、自分の事に余裕が見られず、生き抜く為の辛さを感じ、いろいろな集会に参加する余裕は持てないと感じています。もっとゆったり生きられたら良いのにとおもいますが。(女性・60歳代)
- 子育て世帯(ひとり親世帯)は定職に付けなかったり、アルバイト、パートでしか働くことができない、小さな子供を持ち近くに親せきが居ないなどの理由で、安定した生活が送れずにいる家庭が少なくないことをご承知下さい。一方、離婚は戸籍上しているものの、実際は同居していて何ら変わらない生活をしながら、保育所へ子供をあずけてパチンコへ、というケースも何度か話を聞いたことがあります。このような不平等があります。(女性・40歳代)



## 7. 教育（学校）における男女共同参画について

- 学校役員等への男性参画が少ない。（男性・60歳代）
- 小中学校における活動は、女性の参加は多く見られるが、地域ではまだ積極的な参加は薄いと思われる。まずは身近な所から、女性が参加しやすい環境作りをしてほしい。（男性・70歳以上）
- 小中学校で、勉強会なども学びとして取り入れてほしい。（男性・70歳以上）
- 社会通念、慣習、しきたりは、すぐには解決できないので、中・長期的指導教育が大事になってくるのではないかと。一部の人の短絡的主張ばかり通ってはならないと思う。（男性・60歳代）
- 日本人の感覚を変えないまま欧米をまねるのは非効率的である。小、中での教育!!!（男性・20歳代）
- 共同参画の意識を持った者を数多く育てる。（男性・70歳以上）
- 社会だけでなく、教育現場やスポーツでも言える。出席を男→女の順でとるというのも平等でないと考える人がいたこともある。（女性・20歳代）
- 男女平等や男女共同参画社会を未来に向けて作っていくためには、若い世代の人々が違った立場の人への配慮をふまえて、作り上げなければ出来ないと。20年～30年先を考えると、子供の頃からの教育が一番重要だと考えます。小学校、中学校、高校での道徳、総合的な学習の中で、社会全体を考える時間を増やす事も必要だと思います。（学校での講演も良いと思います。）テレビで見る都議会や元国会議員の女性をバカにする物言いは、日本の現在の姿、そのものであり、女性は更に強く、賢く、柔軟に対応できる人間にならなければいけないと思います。（女性・50歳代）
- 平等の意味を平に等しく待遇されると、とらえがちだが、それぞれの資質の違いをそれぞれが互いに認め合う社会が男女共同、参画の意だと思います。皆が各々の価値を互いに認め合えば、自然と歩幅は違って同じリズムをきざめるのではと思います。より幼き頃からの教育が大きな差となる気がします。指導する、教育する側の根本的な意識改革が大事だと思います。（女性・60歳代）
- 男性は、子供のときから家のことや自分のことを母親にやってもらうのが当たり前で育った人が多い。そういった人々が、大人になって男女平等などと話したところで理解できるはずがない。市が男女平等についてできることは“教育”だと思います。先人たちも皆、教育の改革で平等になってきたのだから。女性も自由に仕事ができること、子育ても家事も介護も平等に行うべきことだということを、子供達にぜひ教育して頂きたい。人間23歳までならば、考え方を換えられるらしいですが、それ以降は換えられないそうなので。（女性・30歳代）
- 男性が家事、育児をすることは子供のころから教育しなければ、今からといっても絶対に無理だと思います。（女性・30歳代）
- 平等な意識を持つ大人がひとりでも増え、対等な子ども達を育て、教育してゆく社会が理想。（女性・60歳代）

## 8. 介護における男女共同参画について

- 自宅介護している方が、認知症の親や夫、妻に手をかけてしまうニュースを見ますが、介護者が身内を殺めるには、それ相当の事情があるのだと察します。ひとりで介護するのは精神的にも肉体的にも経済的にも負担が大きすぎると思います。そんな介護者をひとりでも多く救ってあげたいと思いますが、個人の力では……。 （女性・50歳代）
- お嫁さんは義父母の介護はしない。年寄りには自分の始末を自分で考えなければならない時代にきていると思う。（女性・70歳以上）
- 子育ての問題など課題はさまざま。今介護はしていませんが、もしそうなるとう仕事には出ることができません。（女性・30歳代）
- 私自身、介護の事で大変市の方や事業所の方、その他色々な方々に大変お世話になっている状態です。自分自身も勉強していかなければと思っております。色々な面で今後期待しております。（女性・60歳代）
- 神栖市（特に合併前の神栖町）には、老人看護施設（特養）が少ないと思います。年金で

入所出来る施設をもっと増やしてほしいです。今後、老人がもっともっと増えるので、看護によって女性が仕事をやめなければならないことがないようにお願いします。(女性・50歳代)

- 私は子育てが終わっていますので、これからは介護（親、自分を含む）の充実を願っています。今は出来ていませんが、医療関係の事で、何か自分で出来る事がありましたらお手伝いしたいと思います。(女性・40歳代)

## 9. DVについて

- テレビでよく見るDVの事件や児童虐待など、近所の人などがまわりの子供の様子などを見て、虐待やDVがありそうと思ったら、すぐ通報して警察もすぐ動いてほしい！（女性・50歳代）
- 子供への暴力や家庭内暴力で悩んでいて相談できないケースもあると思います。そのような方が気軽に相談できる窓口があると良いなと思います。(女性・40歳代)
- 小さい子を含めて、女性が被害に巻き込まれる事件が多発している。防ぐ手立てなど、身近な点から取り上げてほしい。個人、家庭はもちろん、社会、地域で取り組むことが必要だと思うので具体化を望む。(女性・60歳代)

## 10. 男女共同参画に関する取り組みについて

### (プランについて)

- タイトル（共同参画）だけが先行して、内容が伴っていない。暗中模索的な所が多いと思う。案の進行状況を市民に開示し、共感して参画しやすい様にする事も有効です。(男性・60歳代)
- 神栖市がどのような男女共同参画を計画しているのかまったくわかりません。(男性・50歳代)

### (「ハートフルかみす」について)

- 「ハートフルかみす」が、男女共同参画情報誌のイメージとネーミングがちょっと違うかな、と感じていました。(60歳代)
- 女性の活躍のひとつとして、子育ても楽しい、そこにも、充実した時間になれる様に何か、情報とか…。かた苦しいものではない心あたたまる小冊子に「ハートフルかみす」がなっていてはいかがでしょうか。(男性・50歳代)
- このアンケートに答えて思った事。情報誌がどこにおかれているのか？無料で見られるのか？それすら、わかりません。(女性・70歳以上)
- 「広報かみす」は、身近にあって読みかえす事はあったが、「ハートフルかみす」は、見たその時点で終わりになってしまう。もっと浸透するには、興味をもってみる為には、どうしたら良いのでしょうか。この情報紙に時間をさいて作ってくれるのに申し訳ないです。(女性・60歳代)
- 今回のアンケートが届き、「ハートフルかみす」と言う情報誌が発行されていることを知りました。たまたま vol.26 が折り込みで入ってきたので、初めて読みました。これから介護や娘の子育て（孫）に関わる年齢になります。自分の時間が削られて、負担が大きくなるのではないかと不安です。そういう時に利用できるような情報等掲載していただけたらと思います。(女性・40歳代)
- ハートフルかみすを年2回から、3ヶ月に1回に掲載（発行）回数を増やしたほうが良いかなと思います。(男性・50歳代)
- ハートフルかみすを読む様にします。(男性・50歳代)

### (情報提供、啓発について)

- いろいろな助成金の情報がもっとわかるようにしてほしいです。ネットとかでも見ることはできますが、申請のやり方がわかりにくいです。(女性・20歳代)

- もっと、どんな活動をされているのかを分かりやすく教えて頂けると良いと思います。(女性・20歳代)
- 休みの日の過ごし方として、社会で共働き夫婦の女性、男性の家事、育児に関する情報やプラン紹介など大きく取り上げるといい。(女性・50歳代)
- 男女共同参画について良くわからない、理解していないので、誰が見てもわかる様な「男女共同参画とは」を詳しく説明してほしい。むずかしい説明だと読む気をなくすので、マンガとか絵とかカミスココくんとか使ったのだと読む気になるかも。(女性・30歳代)
- 男女共同参画や女性活躍推進法の言葉を良く聞いたりしていますが、実際に内容を理解している方が少ないと感じる。やはり、情報が少なすぎる事と、メディアの取り組みも少ないと感じる。神栖市には、情報の共有化や、他の自治体で実際に行っている男女共同参画の取り組みで良い所を行っていただきたいと思います。(男性・30歳代)
- 行政が何かしてくれない、しなきゃいけないのではなく、まずは、男女が意識を高くもつ事が始まりで、その為の情報・資料(の提供)を行政が取り組み、進めていく。社会(行政)と会社(経営者、企業)環境の改善も必要ですよネ。(口だけでなく)(男性・50歳代)
- 市から発信される情報が、どうすればもっと良いタイミングで、幅広く取り入れる事ができるでしょうか？(女性・50歳代)
- いろいろな地域の事に参加してみたいが、けっこう情報が分からないコトが多いと思います。もっと分かりやすく市で(情報提供に)取り組んでいただけたらうれしいですネ。(女性・30歳代)
- 地区ごとにスタッフを育て、公民館を利用して気軽に集い、啓もうしてゆく。(男性・60歳代)
- 男女ともに、一番は意識改革だと思います。興味あるような講演等に積極的に参加して頂くことから…。市民フォーラム等の参加にも、男性の方も多く来てほしいと思います。(女性・60歳代)
- 今回の調査において、市民協働課でどの位実行及び実施決定が出来るのか、期待をしています。現況では、男女共同参画に関してどの位の人が協力できるのか、若い人から、定年後家でなにもなくなってしまった人と色々な人達が居ると思いますが、そういう人達を、少しでもこの様な意識ある行事に参画して、少しでも町を明るく団結して行けたら、市として益々良くなってゆくと思われるのではないのでしょうか。有意義な町づくりに発展する事を願っております。(男性・70歳以上)

#### (まずは市役所内での推進を)

- 市役所で平等に扱っていますか。主となる所が、職員を不平等扱いしている状況と思われる。この様な事から、平等に対する問題は無理と思われる。(男性・60歳代)
- 意識調査をする事も大事ですが、まず、市役所において、男性が優遇されているのではないのでしょうか。管理職の割合といい、とても平等とは思えません。(女性・60歳代)
- 男女共同参画社会の形成には、人の意識に関わる部分が多く、地道に、そして気長に進める必要があるように思います。最近では、女性の社会参加が多くなってきていますが、“参画”という部分で考えると、まだまだこれからです。まずは、行政が手本となり、見本を示してほしいと思います。民間企業も、大手は男女共同参画も進んでいるのですが、多くは、長時間労働などに対する問題などが山積しています。担当の方は大変でしょうけれど、高い意識を持って取組んでほしいと思います。(女性・20歳代)
- 当市に女性市長が誕生したら、少しは改善するかもしれません。官製、民製談合等のシガラミのない市に、まずは改めないと、この様な主旨の改善は難しいですね。(男性・40歳代)

#### (市での取り組みは不要)

- 市が普及活動を行ったからといって何か変わるとは思わない。各市町村が別々にそういう活動をするなら、県や国がまとめてやった方が経費削減にもなるし、各市町村が少しずつ大金を出し合えば、大きな広告活動が行えると思う。(男性・30歳代)

### (アンケートについて)

- このアンケートにも多くの公費が使われていると感じるが、もっと公費を有効に使ってほしい。少子化がこんなに進んでいるので、もっと子どもを産みやすく、育てやすいことが大切であり、こんなアンケートにお金を使うのは、ムダ以外の何ものでもない。(男性・30歳代)
- 私個人の意見ですが、税金を使ってこんなつまらないアンケートはよした方が良くと思います。市役所の方々がもう10%ずつ一生懸命にお仕事をされたら、市民の生活はいくらか良くなると思います。(男性・60歳代)
- このアンケートがどのように利用されるのか、よく判らない。(男性・60歳代)
- この企画は子育て中の人向けですか？よくわかりません。(女性・60歳代)
- 妻が「このアンケートが私に届かない時点で、男女の対応に差があるのでは？」というような内容の疑問を感じていました。(男性・30歳代)
- この調査は、高齢者には文面横文字等が理解出来ないものがある。75才以上の人にはアンケートは不要と思います。70才以下の人に求めたらどうですか。まちがっています。(男性・70歳以上)
- 質問が少し難しく、もう少しわかりやすい言葉など使っていただけたらいいなと思います。50代、60代以上の女性など、少しわかりづらいと思いました。(女性・50歳代)
- 封筒に記されているバーコードで、住所、氏名が判るのですか？(女性・70歳以上)
- 初めて調査に参加しました。有難うございました。(男性・60歳代)
- このアンケートが、全体的に難しかった。特に、問18は、一般的に(社会的に)そうであるか、もしくはこれまでの私の経験としてそうであるか、どちらで解答すれば良いのか迷いました。男女平等や男女共同参画について考え直す良い機会となりました。ありがとうございました！(女性・20歳代)

### (その他)

- (男女共同参画が、)もう少し優しく、わかりやすく、身近に感じられたら良いかなあと思いました。(女性・60歳代)
- みんなが気軽に参加できる内容づくりをお願いします。(女性・70歳以上)
- 市として、この手の事を成すことは無理なので、今までの様な又ルイ法律でなく、強制力のある法整備を希望します。(男性・40歳代)
- この街に住む人1人1人が真剣に考えなければいけない問題だが、人それぞれ職業も異なれば、育った環境も異なる。どうすれば理想の社会をつくりあげていけるのかは時間がかかると思いますが、事務局の方は是非頑張って下さい。このアンケートはさしずめ兵站(へいたん：後方からの支援)と思い、テーマへの叩き台になると思っていますので。(男性・60歳代)
- 老若男女問わずどのような形が良いかは、それぞれの人、家庭、地域によっていろんな形があっというと思う。時代の変化に対応する為の新しい方法、昔の慣例を大切に守る心、どちらも大事だし、いろんな考え方がよい方向に融合していけばいいと思う。この町(国、地元)でどう生きるかを問いかけていく事が、市(国)の重要な役目になっていくのではないかと思う。幅広く、偏りのない考えでつくり上げていく事を期待します。(男性・30歳代)
- たくさんの項目にマルを付けましたが、どれもすぐにできて社会が簡単に変わるとは思いませんが、一人一人が自分の事として、子育て、介護、男性の育児、家事への参加などたくさんの意見を出して、少しずつでも神栖が、よその地域に自慢できる市になってほしいと願っています。大きなかたまりでなく、小さなかたまりの場をたくさん作って、色々な人の意見を吸い上げるのも一つの方法かとも考えますが…。(70歳以上)
- 女性活用など世間ではさわがれているが、政治が勧めている事が絵空事。企業の事が全くわかっていない。何が必要なのかを再度0から考えていく必要がある。政策ありきでは何事も上手くいかない。あらゆる世代の市民が参加できる政策を一緒になって考えていく必要性を感じる。(男性・40歳代)
- 行政含め、社会全体が共同参画に関する環境づくりにつとめる。画餅(絵に描いた餅)にならないよう、行政が推進する。(男性・60歳代)



## 11. その他

### (よくわからない, 関心がない)

- 男女共同参画社会については、もっと勉強したいと思います。今まで意識が低く知らなかったの。 (女性・50 歳代)
- 特にありませんが、新しく増すことなく今まで通りで良いと思います。(老人が多くなる為) (男性・70 歳以上)
- 今、男女平等や男女共同参画について何に問題があるか、よく理解できない。(男性・60 歳代)
- “男女共同参画”って何?“男女が平等に社会生活を送る”って事?それだったら今のアンケートは、若い人向け?どこ迄の年齢対象?男女いろいろな年齢、かかわり方、特技、趣味など。かかわり方もいろいろあって、働き方もいろいろあります。(女性・60 歳代)
- どう活用してよいかわからない。(女性・40 歳代)
- よく分らないです。(女性・20 歳代)
- どうでもいい。自分の家庭がうまくいっているのので何の関心もない。(女性・50 歳代)

### (その他)

- 不妊治療の助成金に力を入れてもらいたいです(特に男性不妊)。女性活躍を推進するためには家庭が充実していることも大切です。実際のところ、うちもその一人ですが、不妊で悩む夫婦は多いと考えます。仕事をしながらの治療は想像を絶するほど辛いです。仕事を辞めることも考えるほどです。せめて金銭面で助成があると助かります。特に、神栖市は男性不妊への助成金がないので導入を検討していただきたいです。(女性・20 歳代)
- 現在、不妊治療中です。私は休みを取りやすい環境で仕事をさせてもらっていますが、主人の職場では思うように休みがとれなかったり…また、治療費もかさむので、もっと援助があればと思う。周囲の市町村に比べれば、神栖に住んでいて良かったと思います。(女性・30 歳代)
- 男女平等は大切なことですが、やはり子供を一番に考えてほしいと思います。(女性・30 歳代)
- 未就学児をつれていてだけで対応が悪い公共施設がある。スーパー、飲食店 etc 理解することができない。乳児なのに、泣いていると迷惑そうにする人(男女とも)がいる為、もう少し子どもに対する理解力をつけてほしい。泣きやまない時があるし、親だって必死なのです。(女性・30 歳代)
- とにかく、少子化と言うことを問題視しなくてはならないと思います。男女平等、男女共同参画、これも大切なことと思います。無理をしないことだと思います。(女性・60 歳代)
- 男女平等でも、免許ありの車がメインで、私には、むずかしい。歩いて行ける場所、迎えにきてくれるバスとかあればいいのに、年齢も制限があるため参加できず、ボランティアのためお金がもらえないことが、受け入れられない悲しさ。(女性・50 歳代)
- 我家は、子供2人(男、女)は結婚して実家から離れていますが、私の周りは、独身の方(男女)が多く、お母さんが嘆いています。(女性・60 歳代)
- 結婚していない人が非常に多いので、なんとか市が結婚、出会いを押ししていただけませんか。(男性・50 歳代)
- 不満や希望はあってもどうにもならない事。出来る範囲でしか出来ないのだと思っています。(女性・40 歳代)
- 社会にあまり活躍していません。(女性・50 歳代)
- 休日も行政サービスを利用できるようにしてほしい。都会からの移住者(転勤)がとても多いのに、そのあたりが全く充実していないことに不満を感じる。これも夕方と休日やらないのはおかしくないですか?相談を受ける姿勢を感じません。時間を短くしても、夜と休日に設定すべきと思います。(女性・20 歳代)
- 母子家庭は優遇されているけど父子家庭は?女性も男性も平等に相談を出来る様に。母子家庭と父子家庭、経済力の問題ですかね?(女性・60 歳代)

- 元祖「女」は太陽です、と女性の地位向上（教育、選挙権）のために努力されました先人の方々により男女共同参画の時代が来ました。地域や職場、家庭でもっともっと女性の力が必要とされています。種々の施策を執行し、より住みよい神栖市となることを望んでいます。（女性・70歳以上）
- 私もここ神栖に住んでから約40年になりますが、これからは、地域社会という言葉が大好きで、もう少しで仕事勤めも終わる予定ですので、これを機会に益々、市民の1人として発展させて戴きますようお願いして居りますし、自分自身も健康に気をつけて市民フォーラムについて勉強もしたいと思っています。その時は力を込めて頑張っ、市の為につくしたいと思っています。良い事につなげて行きたいなーと願いますのでどうぞ宜しくお願い致します。（女性・60歳代）
- 市民みなさまで考えましょう。（男性・40歳代）
- 神栖は幼稚園、保育園の待機児童はゼロですか？ここからでも不平等が始まっています。世の中、全て平等など有り得ないよ。北朝鮮、ロシアは？逆に老人も同じだろう、介護の老人ホームに申し込みをしても入れない！生から死まで人間社会は不平等なのよ。女性の輝きも結構ですが、化粧で女性のお顔がピカピカ光っていることと勘違いしているのかも。家庭、社会、会社において、それぞれの男女一人ひとりの能力と個性を發揮できるような取組みをどのように国民一人ひとりに教育、指導しているのか？国もあまりこの問題、法についてはそれほど重要には考えていない。選挙の時にマニフェストに組み込み、いかにもやっているぞと見せかけにすぎない。（女性・70歳以上）

#### （「男女共同参画」以外のことについて）

- 男女問わず、まだ弱者（低学歴、障害者、低収入等）は、就業や社会に対して肩身が狭く、それが妨げとなり、制度や情報や気持ちがあっても現状は厳しいと感じられる。男女平等という前に、全ての人にとり根本を無視できない。（女性・50歳代）
- 男女間の格差は少しずつ改善されてきていても、私達のような老人世代に対する格差や収入が少ない人達に対する格差はまだまだ激しいなとも感じております。耳が遠いのに早口で説明されたり、物覚えが悪いから同じ事を2回も3回も聞き返すと嫌な顔をされたり。社会だけでなく、個人での意識も少しずつ変わっていったら良いのになと思います。（女性・60歳代）
- 私達高齢者は、社会への参加を願いつつ、自分に合った物が何なのか自信がないので、つい家の中に居る方が多いように思います。生きていく上でもっと有意義に過せる方法はないのか捜している次第です。（女性・70歳以上）
- 経済格差の是正に努め、心にゆとり有る生活を取り戻すのが一番と考える。（男性・60歳代）
- 老人や障害者を社会に参入させるシステムを考えること。格差社会が生んだ若者の結婚逃避など政治が生んだ問題を、神栖としては経済力を利用してモデル教育をしてみたいかがですか。（男性・70歳以上）
- 税金を上げ、老後の負担を減らす。医療、福祉に関する費用の削減をもっと行い、ドイツの政策を見習ってほしい。女性として、今の日本に子どもを送り出したいとは思えません。（女性・20歳代）
- 次の時代を担う若い人達にも、雇用であったり進学であったりと自分のやりたい事、なりたい自分をあきらめなくてすむように支援を充実させてあげてほしいです。（女性・60歳代）
- 1人暮らしの老人の不自由さはとてつもない。もっと目を向けて助けてほしい。（女性・60歳代）
- 現在私は、毎日何もせず犬と一緒に家で過ごしています。昭和18年生まれの私には、想像を絶する困難をのりこえ今が有ると信じています。これからの残りの人生、マイペースで静かに生きて行こうと思っています。（男性・70歳以上）

- 広報は新聞折込で配布されており、新聞を取っていないので、一斉情報が入って来ない。そろそろ方法を考えるべき。(男性・70歳以上)
- 固定資産税が高い!!! 神栖は無駄な事にお金を使いすぎ!!! (女性・20歳代)
- 男女平等よりも、市県民税等の税金が高すぎる。(男性・40歳代)
- 波崎地区の大潮祭の子供会の参加について。子供の鳴り物の練習や子供会役員の打ち合わせ等、夜の保護者の役割が家族の負担になっている家庭も少なくないと思います。また、子供みこしの町内まわりも必要なのでしょうか？(女性・40歳代)
- このアンケートとは関係ないのですが、子供会は、子供が少ないところ、入会者の少ないところはなくすべきだと思う。人数が少ないからと強制的に入らなければならないところがあったり、子供会に入らないと登校班に入れないところもあるため。実際は、入りたくない、抜きたいという人もいる中で、人数が少ない為に1度入ったら抜けられないなどといわれ、役員だけやらなくてはいけないケースもある。実際の経験からだと、子供会を断ったら登校班も抜けたという不愉快な思いをし、納得していないため、どうかしてほしい。(女性・30歳代)
- 論点がズれているとは思いますが、鉄道が発達すれば人が住みやすいと思います。神栖市と東京を鉄道でつないでください!!ここはとても閉鎖的です!(女性・20歳代)
- 昔、神栖市役所に行った時、男性管理職が机をかこんで大きな声でおしゃべりしていました(コーヒー飲みながら)。順番を待っている間、不快だと感じていました。今は改善されているようですが、市民は見ています。色々大変かとは思いますが、より良い神栖市になるよう尽力お願い致します。(女性・40歳代)
- 答えはちがうかもわかりませんが、若い親達は子どもが悪い事をしてても注意しないですね。(女性・70歳以上)
- 外国人がもっと住みやすい環境が整うとよいと思います。男女共同参画と関係のない問題かもしれませんが…。バス一本で東京へ行けるよい地域だと思うので、英語で接客のできるお店等が増えるといいな。(女性・30歳代)
- 隣の嫁さんが、風が強い夜8時頃、庭でゴミを燃やしていました。火のついたゴミが家の壁にへばりついたのです。危ないので次の日に家のおばあさんに言ったら、隣の嫁さんが庭にいたので、昨日火がついたのがとんで来たのと、普通に怒った言い方をした訳でもなく言ったら、次の朝、隣の旦那が怒鳴って朝6時半に来ました。1回言っただけで、何年もいやがらせをされて、不眠症になり、入院2回しました。隣の旦那に殴られて、今でも日々、嫌な思いで過ごしています。その男は区長です。(50歳代)
- 私は76歳ですが、32歳で長男が生まれ、育児のため共稼ぎを止め、44歳になった長男をみて、良く成育したなと感じます。学校も週5日制となり時間的に余裕があるときや、(教師が)教委への報告が多くきびしい生活に迫られ、子供とのコミュニケーションが出来ない状況で、生徒の悩みごとなどに対応出来ているのか。嫁が昔、先生に日曜日に連れられて行ったことがある、良い先生であったとの思い出話を聞きました。最近イジメの話はなくなりましたが、その姿勢に対し感謝し、はずかしながら苦言を呈させていただきました。(男性・70歳以上)
- 本趣とは異なりますが、路上駐車(終日)が特に多い様感じています。対策のご検討願えればと、存じます(女性・70歳以上)
- 神栖市は介護については、とても楽しい生活をしています。神栖市の市役所の皆さん、とても良くあつかって下さいますので良いです。(女性・70歳以上)
- 今回のアンケートとは関係ありませんが、災害時用に備蓄されている品々に消費期限切れが近づいた場合、どのようにしているのか知りたいです。(女性・60歳代)
- 残業してもタダ働きが多い。皆生活があるのに…。(女性・30歳代)
- これまでの経験で、実際に大変いやな思いを何度も味わった。隣に住んでいないにもかかわらず、樹木の枝が、自分の土地に出ているという苦情やら、境界から何m手前から植えるのが常識とか、強く抵抗しないことをいいことに言われ続けている現状がある。「出るクイは…」の感はぬぐえない社会であると思う。(女性・40歳代)



## 男女共同参画に関する市民意識調査

### ご協力をお願い

皆さまにおかれましては、日頃から市政運営に対し、多大なご協力とご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、市では、平成20年3月に「神栖市男女共同参画計画（かみすハートフルプラン）」を作成し、男女がともにいきいきと個性や能力を発揮することができるまちづくりに向けた取り組みを進めてきました。来年、計画期間の最終年度を迎え、新たな計画を策定するにあたり、準備を進めているところです。

そのひとつとして、男女共同参画に関するご意見やお考えを市民から広く頂き、新たに計画を策定するうえでの基礎資料とさせていただきたいと考え、皆さまに本調査をご依頼することとなりました。

対象者は、市内にお住まいの満20歳以上の男女3,000人の方々を、年代ごとに無作為に選ばせていただきました。記入いただいた内容はすべて統計的に処理させていただき、個人を特定するような公表は一切行いません。

お忙しい中、大変恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成28年8月

神栖市長 保立 一男

**ご回答の期限は、9月5日（月曜日）までです。  
この裏に「ご記入にあたってのお願い」があります。  
ご一読ください。**







## 《 ご記入にあたってのお願い 》

### 1 ご記入は、あて名のご本人にお願いします。

あて名の方が長期間ご不在の場合、あるいは、ご記入が難しい場合などは、ご家族の方（神栖市にお住まいの20歳以上の方）に記入をお願いします。

その際は、記入された方の性別、年齢に○をつけてください。

### 2 回答は、原則として回答記入欄の中であてはまる番号を○で囲んでください。

「1つだけ」「3つまで」など、限られた数だけ○をつけていただく場合は、お考えに近いものから優先的に選んでください。

「その他」を選んだ場合は、具体的な内容を( )に簡潔にご記入ください。

### 3 調査票は記入後、名前を書かずに同封の返信用封筒に入れ、

9月5日（月曜日）までに、郵便ポストへ投函してください。

### 4 問い合わせや、ご不明の点がございましたら、下記までご連絡ください。

〈お問合せ先〉 神栖市 企画部 市民協働課 市民協働グループ

神栖市溝口 4991 番地 5 / 電話 : 0299-90-1171

## 男女共同参画について、みんなで話してみませんか

### ～サロン開催のお知らせ～

男性も女性も、みんなが生き生きと暮らせるまちづくりについて、みんなで意見やアイデアを出し合うサロンを開催します。

当日はお茶やお菓子をご用意しています。くつろいだ雰囲気の中で、男女共同参画について、一緒に話をしてみませんか。

サロンの開催は、この調査の結果がまとまった頃の、平成29年1月15日（日曜日）を予定しています。

詳細については、市のホームページまたは11月15日号の広報紙に掲載しますので、ご関心のある方は、是非ご参加ください。



■はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。(あてはまるものに○を)

(ア) 性別	<b>1</b> 男性	<b>2</b> 女性	
(イ) 年齢 [H28.4.1 現在]	<b>1</b> 20～29歳	<b>2</b> 30～39歳	<b>3</b> 40～49歳
	<b>4</b> 50～59歳	<b>5</b> 60～69歳	<b>6</b> 70歳以上
(ウ) 未婚, 既婚	<b>1</b> 既婚(配偶者あり)	<b>2</b> 既婚(現在,配偶者はいない)	<b>3</b> 未婚
(エ) 子育て, 介護の状況	※あてはまる方は、○をつけてください。		
	<b>1</b> 現在子育て中(小学生以下)	<b>2</b> 現在介護中	
(オ) 職業	※複数お持ちの方は、主な職業を1つお選びください。		
	<b>1</b> 農林水産業	<b>2</b> 工業・建設業	
	<b>3</b> 商業・金融・サービス業	<b>4</b> 公務員・教育・団体職員等	
	<b>5</b> 専業主婦(夫), 家事手伝い	<b>6</b> 学生	
	<b>7</b> 無職	<b>8</b> その他( )	
(カ) 市内居住 年数	※市内で引っ越しをされたり一時転出された場合は、合計年数でお答えください。		
	<b>1</b> 5年未満	<b>2</b> 5年以上10年未満	
	<b>3</b> 10年以上20年未満	<b>4</b> 20年以上	
(キ) お住まいの 学区  [1～8の該当する 学区の番号に○を]	<b>1</b> 神栖一中学区 (横瀬, 日川, 萩原, 芝崎, 石神, 高浜, 溝口, 奥野谷, 知手, 柳堀, 一貫野, 田畑)		
	<b>2</b> 神栖二中学区 (居切, 深芝, 平泉, 下幡木, 鰐川, 筒井, 賀, 立野, 神栖, 泉町)		
	<b>3</b> 神栖三中学区 (奥野谷浜, 知手浜, 日川浜, 知手浜東団地, 南浜, 知手中央仲町, 知手中央東町, 横瀬団地)		
	<b>4</b> 神栖四中学区 (息栖, 息栖原, 大野原, 浜松, 新港, 亀の甲団地, 木崎)		
	<b>5</b> 波崎一中学区 (東町, 仲町, 西町, 東仲島東, 東仲島西, 西仲島, 東明神町, 東明神前, 明神前, 浜新田, 本新町, 海老台, 本郷, 高野, 別所, 荒波, 石津, 仲舎利, 内出, 芝, 松本, 舎利浜)		
	<b>6</b> 波崎二中学区 (東海, 西前宿, 上中, 川尻, 仲新田, 清水, 土合東, 土合中央, 土合南, 土合西1・2丁目)		
	<b>7</b> 波崎三中学区 (東須田, 仲須田, 西須田, 須田浜, 日和山, 須田団地, 相生, 高砂, 二本松, 若ノ松, 柳川団地, 北若松, 東押揚, 西押揚, 東宝山, 西宝山, 太田新町)		
	<b>8</b> 波崎四中学区 (土合本町, 土合北, 土合西3・4丁目, 十町歩, 東松下, 西松下, 押植)		

■男女共同参画に関する認知度についておたずねします。

問1 あなたは、(1)~(11)について、知っていましたか。(それぞれ1つだけ選び、番号に○を)

	内容を知っていた 内容を見た・読んだ ことがある	内容は知らないが 言葉は知っていた 見たことはある	まったく知らなかった 初めて知った・聞いた
(1) 男女共同参画社会	1	2	3
(2) 育児・介護休業法	1	2	3
(3) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
(4) DV (ドメスティック・バイオレンス※ <sup>1</sup> )	1	2	3
(5) 神栖市男女共同参画推進条例	1	2	3
(6) 神栖市男女共同参画計画 「かみすハートフルプラン」	1	2	3
(7) 神栖市男女共同参画情報誌 「ハートフルかみす」	1	2	3
(8) かみす市民フォーラム	1	2	3
(9) ポジティブ・アクション※ <sup>2</sup>	1	2	3
(10) 次世代育成支援対策推進法	1	2	3
(11) 女性活躍推進法	1	2	3

※1：夫婦や恋人等の中で受ける身体的・心理的等の暴力

※2：現状で不利益を被っている者に一定の範囲で特別の機会を提供し、機会均等を実現するための暫定的な措置

■男女の地位の平等に関する意識についておたずねします。

問2 あなたは、(1)~(8)について、男女が対等になっていると思いますか。

(それぞれ1つだけ選び、番号に○を)

	男性の方が 優遇されて いる	どちらか といえば男性 の方が優遇 されている	対等・平等 である	どちらか といえば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されて いる
(1) 家庭生活(家事・育児・介護など)	1	2	3	4	5
(2) 職場(採用・処遇・労働環境など)	1	2	3	4	5
(3) 学校(児童・生徒への教育)	1	2	3	4	5
(4) 行政区などの地区活動の場	1	2	3	4	5
(5) 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
(6) 法律や制度	1	2	3	4	5
(7) 政治や行政(政策方針の決定)	1	2	3	4	5
(8) 社会全体	1	2	3	4	5

**問3** あなたは、男女が、あらゆる分野に参画しやすい社会にするには何が重要だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- |  |
|--|
| 1 法律や制度を見直し、女性差別（男性差別）につながるものを改める<br>2 「女性は(男性は)～であるべき」という固定的な社会通念、習慣・しきたりを改める<br>3 女性自身が、経済力をつけたり、知識・技能を習得する<br>4 女性の就業や社会参加を支援する<br>5 男性自身が、家事・育児・介護に関わるようにする<br>6 男性が、家事・育児・介護に参加しやすいように、企業(職場)に働きかける<br>7 育児・介護を男女がともに担いやすいように、支援サービスを充実させる<br>8 国・県・市や各種団体、企業などの重要な役職が男性(女性)に偏らないようにする<br>9 その他(具体的に： ) |
|--|

■男女の生き方や家庭生活などに関する考えについておたずねします。

**問4** 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(1つだけ選び、番号に○を)

- |   |
|---|
| 1 同感する<br>2 どちらかといえば同感する<br>3 どちらかといえば同感しない<br>4 同感しない<br>5 分からない |
|---|

**問5** 次の考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(それぞれ1つだけ選び、番号に○を)

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない
(1) 「男だから」「女だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう	1	2	3	4
(2) 「男は～あるべき」「女は～あるべき」という固定的な社会通念や慣習などによって、仕事や生き方について多様な選択ができていない	1	2	3	4
(3) 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである	1	2	3	4
(4) 男性も家事・育児・介護に積極的に参加すべきである	1	2	3	4
(5) 女性が仕事を持つのはよいが、家事や育児もきちんとすべきである	1	2	3	4
(6) 女性(妻)が仕事を持ち、男性(夫)が家事や育児、介護などに専念する選択肢があってもよい	1	2	3	4

■男女の人権についておたずねします。

問6 最近、「DV（配偶者や恋人等からの暴力）」が問題になっています。あなたはこれらの暴力について、ご存じでしたか。（あてはまるものすべてを選び、番号に○を）

- 1 自分自身が暴力を受けた（受けている）
- 2 自分自身が暴力を振るっている（振るっていた）
- 3 暴力を受けた（振るった）ことについて、自ら誰かに相談したことがある
- 4 暴力を受けた（振るった）人が身近にいる
- 5 暴力について、身近な人から相談を受けたことがある
- 6 身近にはいないが、夫婦間等の暴力についてのうわさを耳にしたことがある
- 7 そのような暴力が、テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 8 そのような暴力が問題になっていることを、はじめて聞いた（知らなかった）

問7 あなたは暴力を受けたとき、誰かに相談しましたか。受けたことがない人は、受けたとき、どうすると思いますか。（1つだけ選び、番号に○を）

- 1 相談した（相談すると思う） → **問8へ**
- 2 相談しなかったが、相談できなかった（相談できないと思う）
- 3 相談しようとは思わなかった（相談しようとは思わない） } **問9へ**

問8 問7で「1」に○をつけた方におたずねします。そのとき相談した人(場所)を教えてください。（あてはまるものすべてを選び、番号に○を）

- |                   |                       |                 |
|-------------------|-----------------------|-----------------|
| 1 家族、親戚           | 2 友人、知人               | 3 市役所の相談窓口、電話相談 |
| 4 人権擁護委員、民生委員児童委員 | 5 警察                  | 6 弁護士、裁判所など     |
| 7 医師、カウンセラー       | 8 配偶者暴力相談支援センター、婦人相談所 |                 |
| 9 民間（NPO）の支援機関など  | 10 その他（ ）             |                 |

問9 問7で、「2」または「3」に、○をつけた方におたずねします。相談しなかった（しない）理由を教えてください。（あてはまるものすべてを選び、番号に○を）

- 1 誰(どこ)に相談してよいか、わからなかった
- 2 恥ずかしくて、誰にも言えなかった
- 3 相談しても無駄だと思った・相談しても不快な思いをするだけだと思った
- 4 相談したことがわかると、仕返しや暴力がひどくなると思った
- 5 自分さえ我慢すれば、このままで良いと思った
- 6 世間体が悪いと思った
- 7 他人をまきこみたくなかった
- 8 自分にも悪いところがあると思った
- 9 相談するほどではないと思った
- 10 そのことについて思い出したくなかった
- 11 その他（ ）

■仕事、家庭生活、地域・個人の生活の状況についておたずねします。

問10 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況について、「理想」と「現実」はど  
うですか。(それぞれ1つだけ選び、番号に○を)

- ・「仕事」…雇用者として勤務、自営業、家族従業など。契約や勤務形態は問いません。
- ・「家庭生活」…家での生活、家族との生活、家事、育児、介護・看護など。
- ・「地域・個人の生活」…地域活動(ボランティア活動、交際・つきあいなど)、  
学習・研究(学業も含む)、趣味・娯楽、スポーツなど。

問10-①【理想】

- 1 「仕事」に専念したい
- 2 「家庭生活」または「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先したい
- 3 「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立したい
- 4 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域・個人の生活」を優先したい
- 5 「家庭生活」または「地域・個人の生活」に専念したい
- 6 よくわからない

問10-②【現実】

- 1 「仕事」に専念している
- 2 「家庭生活」または「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している
- 3 「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している
- 4 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域・個人の生活」を優先している
- 5 「家庭生活」、または「地域・個人の生活」に専念している
- 6 現在、仕事を行っていない

問11 あなたは、途中で仕事を辞めた経験がありますか。(1つだけ選び、番号に○を)

- 1 ある      2 ない

問12 問11で「ある」と回答した方におたずねします。最後に、仕事を辞めた主な理由は何ですか。(1つだけ選び、番号に○を)

- 1 健康上の理由のため
- 2 家事や育児に専念するため
- 3 家事や育児との両立が困難であるため
- 4 高齢者や病人の介護、看病のため
- 5 経済的に働く必要がなくなったため
- 6 賃金や待遇などで、勤め先や仕事の内容に不満があったため
- 7 勤め先の人間関係のため
- 8 勤め先で、結婚・出産退職の慣行があったため
- 9 結婚・出産のため自主的に仕事をやめた
- 10 夫(妻)の転勤のため
- 11 家族の反対や無理解のため
- 12 その他(具体的に: )

■地区活動やまちづくりについておたずねします。

問 1 3 あなたは、地区活動やボランティア活動、生涯学習活動などを行っていますか。また、今後したいと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

問 1 3- ①【現在、活動しているもの】

1 環境保護関係	2 子ども関係	3 高齢者の福祉関係
4 障がい者の福祉関係	5 防災・防犯・交通安全関係	6 健康や医療関係
7 スポーツ・芸術文化関係	8 行政区など地区活動	9 まちづくり全般
10 その他(具体的に: )		11 何もしていない

問 1 3- ②【今後(も)、活動したいもの】

1 環境保護関係	2 子ども関係	3 高齢者の福祉関係
4 障がい者の福祉関係	5 防災・防犯・交通安全関係	6 健康や医療関係
7 スポーツ・芸術文化関係	8 行政区など地区活動	9 まちづくり全般
10 その他(具体的に: )		11 特にない

問 1 4 あなたは、現在の地区活動の参加状況についてどのように感じていますか。  
【“地区活動”とは、お祭り、清掃活動、防災活動、交通安全活動などです。】  
(1つだけ選び、番号に○を)

1 現状の活動状況に満足している
2 <u>地区活動に(もっと)参加したい</u>
3 参加していない(今後も参加しない)

問 1 5 問 1 4 で「2」○をつけた方におたずねします。参加したいのに参加できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

1 体調がよくない、高齢のため
2 仕事が忙しいため
3 家事や育児があるため
4 介護や看病があるため
5 家族の理解が得られないため
6 参加したいが、きっかけがつかめない(情報、仲間など)
7 その他(具体的に: )

■災害時の配慮や防災の取り組みについておたずねします。

問 16 災害復興時あるいは日頃の防災の取り組みなどでどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 1 避難所の設備は性別に配慮すること(男女別のトイレ, 更衣室, 洗濯干場など)
- 2 避難所運営の責任者に男女がともに参加すること
- 3 災害時の救援医療体制(乳幼児, 高齢者, 障がい者, 妊産婦へのサポート体制)
- 4 公的施設の備蓄品, 支給品の内容を考える際に, 男女の意見を聞くこと
- 5 被災者の相談を受ける体制として, 男女がともに参加すること
- 6 災害対策本部に男女がともに参加すること
- 7 災害復旧・復興対策を計画する際, 男女がともに参加すること
- 8 防災会議に男女がともに参加すること
- 9 区長や区の役員, 自主防災組織者に女性が増えること
- 10 地域で防災活動を行う場に, 男女がともに参加すること
- 11 消防団の女性団員が増えること
- 12 その他(具体的に: )

■女性の活躍推進についておたずねします。

問 17 あなたは, 女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために, 家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 1 保育所や学童クラブなど, 子どもを預けられる環境の整備
- 2 介護支援サービスの充実
- 3 家事・育児支援サービスの充実
- 4 男性の家事参加への理解・意識改革
- 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
- 6 働き続けることへの女性自身の意識改革
- 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革
- 8 職場における育児や介護との両立支援制度の充実
- 9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
- 11 その他(具体的に: )

あと少し,  
ご協力ください





問18 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性がリーダーとして活躍する際に、さまたげとなるものは何だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身が、リーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分ではないこと
- 5 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
- 6 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 7 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 8 その他(具体的に： )

問19 あなたは、女性が活躍するためには、どのような情報が特に必要だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 1 保育所や幼稚園に関する情報(場所、保育料など)
- 2 放課後児童クラブに関する情報(場所、利用料など)
- 3 介護・家事の支援サービスに関する情報(内容、利用方法など)
- 4 就職・再就職のための職業訓練に関する情報(利用方法、相談先など)
- 5 起業・NPO活動のための情報(支援内容、相談先など)
- 6 仕事と育児や介護との両立支援制度に関する情報(内容、利用方法など)
- 7 出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報
- 8 積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報
- 9 ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報
- 10 その他(具体的に： )

■男性の育児、介護への参加についておたずねします。

問20 あなたは、男性が、女性とともに家事、育児、介護、地区活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 1 家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること
- 2 男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
- 3 男性が家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと
- 4 男性が家事などに参加することに対する、女性の抵抗感をなくすこと
- 5 男性の仕事中心の考え方を改めること
- 6 男性が、育児や介護、地区活動を行うための仲間づくりをすすめること
- 7 男性が家事・育児・介護・地区活動などに関心を高めるよう、普及啓発や情報発信を行うこと
- 8 男女ともに家事・育児・介護・地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること
- 9 労働時間短縮や休暇制度を普及させること
- 10 その他(具体的に： )

■子どもの数についておたずねします。

問 2 1 理想の子どもの数と、実際に持つ予定の子どもの数について、現時点であなたはどのようにお考えですか。(1つだけ選び、番号に○を)

- 1 理想の子どもの数より、実際に持つ予定の子どもの数が多い
- 2 理想の子どもの数と実際に持つ予定の子どもの数が同じ
- 3 理想の子どもの数より、実際に持つ予定の子どもの数が少ない(いない) →問 2 2 へ
- 4 子どもを産む(持つ)予定はない
- 5 決めていない

問 2 2 問 2 1 で「3」に○をつけた方におたずねします。その理由は何ですか。

(3つまで選び、番号に○を)

- 1 出産や子育ての身体的・心理的負担が大きいから
- 2 育児費や教育費など、経済的負担が増えるから
- 3 年齢が高いため、(更なる)出産・子育てが難しいから
- 4 仕事と子育ての両立が困難だから
- 5 子育てに対して配偶者の理解や協力が無いから
- 6 子育てより自分の時間を大切にしたいから
- 7 欲しいけれどできないから
- 8 その他(具体的に: )

■男女共同参画社会への取り組みについておたずねします。

問 2 3 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- 1 男女共同参画に関する幅広い情報や資料等の収集、提供
- 2 男女共同参画に関する講演会、講座等の企画、開催
- 3 女性のための相談窓口の充実
- 4 男性のための相談窓口の充実
- 5 性と生殖に関する健康支援(安心して安全な妊娠、出産、性感染症予防や更年期障害対策など)
- 6 男性、女性のどちらか一方に不利な社会通念、慣習の見直し
- 7 男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実
- 8 男女が共に働きやすい職場環境の整備
- 9 長時間労働の削減、有給休暇が取りづらい等の就業環境の改善に向けた促進
- 10 各種保育や介護サービスの充実など、仕事と家庭の両立支援
- 11 審議会など政策や方針を決定する場への女性の積極的登用
- 12 行政機関や公立学校における女性管理職の積極的登用
- 13 地域や団体で活躍できる女性リーダーの育成
- 14 女性の再就職や起業(会社をつくるなど)を支援する相談や情報提供などの施策の充実
- 15 配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実
- 16 生涯学習活動やボランティア活動での男女共同参画
- 17 行政区など地区活動での男女共同参画
- 18 男女共同参画に関する取り組みを進める体制(部署や窓口、推進組織など)の充実
- 19 その他(具体的に )

問 2 4 市では市民スタッフの企画・編集により神栖市男女共同参画情報誌「ハートフルかみす」を年2回発行しています。あなたは、掲載する内容としてどのようなものをご希望されますか。(あてはまるものすべてを選び、番号に○を)

- |                                  |                  |
|----------------------------------|------------------|
| 1 男女共同参画に関する制度やプランなどの紹介          | 3 社会で活躍する女性の紹介   |
| 2 講演、講座など企画や行事の案内                | 5 男性の家事、育児に関する情報 |
| 4 地域の子育て、介護の情報                   | 7 婚活に関する情報       |
| 6 簡単レシピの紹介                       |                  |
| 8 地域での話題や最近のニュースなど               |                  |
| 9 就業や社会参加、仕事と家事等との両立、DVなど相談窓口の案内 |                  |
| 10 その他(具体的に: )                   |                  |

問 2 5 男女平等や男女共同参画(社会)などについて、普段感じていること、ご意見ご要望等がございましたら、自由にお書きください。


以上で終わりです。お忙しいところ長時間ご協力をいただきまして、ありがとうございました。返信用封筒に入れ、9月5日(月曜日)までにご返送ください。

### 《 神栖市女性総合相談のご案内 》

神栖市では、女性を対象とした相談事業を実施しています。

家庭や職場、地域などで女性が直面するさまざまな問題について、専門の相談員が解決に向けてともに考えます。(例：夫婦、恋人、DV、家族、子育て、近所、職場、性に関することなど)

◆面接相談 … 毎週火曜日 13:00～16:00 (電話で予約してください。)

電話：市民協働課 0299-90-1171 (8:30～17:15, 土日、祝日、年末年始を除く)

会場：予約電話の際、お問い合わせください。

◆電話相談 … 第1,3,4,5火曜日 13:00～16:00 (予約は不要です。)

専用電話：0299-91-1236

※相談は無料です。1人1時間程度、秘密は厳守します。(匿名でも相談できます。)



茨城県 神栖市

〒314-0192 茨城県神栖市溝口 4991-5

電 話 0299-90-1111 (代表)



